

研 究 編

第 1 章 研究抄録関係

第 2 章 研究発表関係

第1章 研究抄録関係

1. 重点プロジェクト研究

1 がんゲノム予防医療プロジェクト

<研究課題1-(1)>

大規模病院疫学研究をベースとした環境要因・遺伝要因を用いた散発性がんの個別化予防を志向したエビデンスの創出研究

A project constructing of evidences for individualized cancer prevention of sporadic cancers using environmental and genetic information based on a large-scale hospitable-based epidemiological research at Aichi Cancer Center.

<研究者氏名>

所属部 がん予防研究分野

研究者氏名 松尾恵太郎

共同研究者 伊藤秀美、井本逸勢、尾瀬 功、小柳友理子、岩下雄二、春日井由美子

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

(目的)

遺伝性腫瘍を除く散発性のがんの予防には、がん罹患リスクを下げるための1次予防、がん死亡リスクを下げるための2次予防(検診)、がん再発・副作用等の予防を目指す3次予防がある。統合的ながん予防を実践するためには、この三種類の予防を意識した統合的な研究を実施する必要がある。

本邦におけるがん予防エビデンスは、環境情報あるいは遺伝子情報の一方のみに基づく研究が殆どで、両者を組み合わせた形の予防エビデンスの構築には程遠い。国際的には、両者を組み合わせた予防への試みが為されている。我々は、愛知県がんセンター病院初診患者を対象に、網羅的に実施した疫学調査(HERPACC)を基に、飲酒という特定の環境要因に注目し、その遺伝的背景との組合せによる予防効果を1~3次予防の観点から頭頸部・食道・胃・大腸・膵臓・乳腺の診療科との連携により追及してきた実績がある(Matsuo et al. Carcinogenesis 2001,2006,2013等)。飲酒以外のリスク要因にも同様のアプローチを個別に実施している。ただし、網羅的遺伝情報と環境要因との組み合わせた検討は、まだ端緒に手を付けたのみである(Sueta A et al. Breast Cancer Res Treat 2012, Abe M et al. J Cancer Res Clin Oncol 2017, Koyagani et al. Eur J Cancer Prev 2017)。本プロジェクトでは、HERPACCの疫学調査資料、試料を元に大規模な分子疫学的な検討を行い、各種散発性のがんに対する個別化予防につながるエビデンスの構築を目的とする。

(方法)

2001年~2013年に実施されたHERPACC研究に基づき、遺伝子解析、検査情報を含む臨床情報とのリンケージに関する同意をし、且つ詳細な疫学情報の得られた25,407名の参加者

から選択する。うち、非がん者13,814名、胃がん1,480名、大腸がん1,144名、食道がん659名、膵臓がん386名、頭頸部がん877名(265)、乳がん1,217名(200)、肺がん1,418名が主たる研究の対象である。また、2017年11月より検体収集が開始されたがんセンターバイオバンク愛知の参加者(2018年7月より疫学情報も収集、年4~5000名収集見込み)も検証用の対象者として含める予定である。バイオバンク対象者も遺伝子解析に関する同意を取得済である。非がん対照者に関しては、各がん症例と性・年齢等をマッチングした4,500名程度をランダムサンプリングする。これらのデータを用い、症例対照研究を実施し、エビデンスの構築を図る。

(進捗状況)

ゲノムスキャンの進捗に関しては、非がん者13,814名、胃がん1,660名、大腸がん1,144名、食道がん659名、膵臓がん472名、頭頸部がん877名、乳がん1,376名、肺がん1,610名がスキャンを終えた。これらを元に、各々のがん発がんリスクに関する多遺伝子スコア(polygenic risk score)の算定等を行い、罹患リスクなどの検討を行っている。

さらには、HERPACCの全対象者に対して遺伝性腫瘍関連遺伝子の生殖細胞系の変異情報の構築も行い、バイオバンクジャパン(東大・理化学研究所)との共同研究として検討した。BRCA1, BRCA2, ATM, PALB2, APC, CDH1, CHEK2, MLH1, MSH2, MSH6, MUTYH, PTEN, TP53遺伝子変異の結果が全ての対象者に関して測定終了した。胃がんリスクに対する相同組換え修復遺伝子の変異とピロリ菌感染の間に強力な遺伝子環境要因交互作用が存在することを報告した(Usui et al. N Engl J Med 2023)。乳がん、膵臓がん、その他消化器がんに対して関連する診療科と連携し、詳細な検討を行っている。

(考察)

PRS、生殖系細胞の遺伝子異常、生活習慣情報などを含めたに関しては、胃がんに関して新たな個別化予防のエビデンスを見出すに至っている。HERPACCの情報を元に、更に国内外の研究チームと連携することで所期の目的を達成する事ができると考えられる。

2 がん超精密医療プロジェクト

<研究課題2-(1)>

分子標的治療薬に対する耐性機序解明に関わる基盤形成
Molecular and cellular biology tissue culture core project
to interrogate the mechanism of resistance to molecular
targeted therapy

<研究者氏名>

所属部 がん標的治療トランスレーショナルリサーチ
分野
研究者氏名 衣斐寛倫
共同研究者 室 圭、藤原 豊、松下博和、青木正博

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

分子標的治療は、主にドライバー遺伝子異常に対する治療薬であり、がん薬物療法において頻用されている。また、近年次世代シーケンサー（NGS）解析の臨床応用に伴い、固形腫瘍において頻度の低いドライバー遺伝子異常が発見され、発見された異常に対する標的薬が奏効することが明らかとなってきた。さらに、頻度の低い遺伝子異常を網羅的に検討するため、がん遺伝子パネル検査が開発され、実地臨床でも使用されている。本課題では、生検・手術検体よりオルガノイドライブラリーを作成する。オルガノイド作成の対象となるのは、大腸がん手術症例、分子標的薬耐性症例（主に肺がん）、治験薬耐性例、遺伝子パネル検査で特徴的な異常を示した後に治療上の理由で生検が行われる症例である。大腸がんについては、手術検体の全エクソームシーケンス解析結果に基づき、患者特異的かつクロールナルな16の体細胞変異を選定しctDNA解析を行い、術後再発モニタリングを行う臨床試験（CIRCULATE-JAPAN）に登録された症例を対象とする。大規模試験に登録され臨床情報などが豊富な症例、および特徴的な遺伝子異常・臨床経過を示す症例のオルガノイドから、細胞株・ゼノグラフトを作成し解析することで新規治療開発につなげる。当院は、令和4年度末までにCIRCULATE-JAPAN試験へ124例登録し、これらに対しRNA-seq解析を行うとともに、エクソーム解析結果とctDNA解析結果を統合した。オルガノイドについては、44例の作成に成功し、凍結保存した。また、当センターより登録された症例と、試験全体の症例について統合解析を行い、本来検出されるべき術前ctDNAが陰性の症例について、細胞内で活性化するシグナルと、腫瘍微小環境において特徴的にみられる免疫細胞の特定を行った。今後、作成したオルガノイドライブラリーを用い、術前ctDNA陰性の原因、術後補助療法感受性・抵抗性因子の解明を行い、腫瘍の状態をより正確に評価する手法の開発につなげる予定である。

<研究課題2-(2)>

難治癌 PDX モデルのライブラリー整備とその多層オミクス解析による統合データ基盤構築
Establishment of multi-omics database for PDX models of refractory cancer

<研究者氏名>

所属部 分子診断トランスレーショナルリサーチ分野
研究者氏名 田口 歩
共同研究者 原 和生、清水泰博、田近正洋、伊藤誠二、小森康司、坂倉範昭、藤原 豊、筑紫 聡、安部哲也、夏目誠治、細田和貴、松下博和、衣斐寛倫、小根山千歳、山口 類

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

肺癌、膵癌、胆道癌などに代表される難治癌は、早期診断が困難であり、診断された時には現行の治療法では治癒しがたいほどに進行していることが多い。次世代シーケンシングなどの解析手法の進歩によって、難治癌の分子生物学的な知見は集積しつつあるものの、有効な診断・治療法の開発には至っておらず、革新的なアプローチによって、難治癌の克服に取り組む必要がある。

本プロジェクトでは、難治癌 PDX 腫瘍の多層オミクス解析によって、ゲノム解析だけでは得られない、新規の情報に基づく革新的な難治癌の診断・治療法の開発を目指すとともに、多層分子プロファイルと膨大な臨床データ、さらにそれらのパイオインフォマティクス解析まで統合した、難治癌オミクスデータベースの構築を目指す。

令和6年度までに、300例に迫る PDX モデル（膵、大腸、胃、食道、肺、肉腫、肝）作成と約70例の PDX 由来がん細胞株の樹立に成功し、特に、サーフェスオーム解析による新規抗体医薬の開発（膵、大腸）、HLA リガンドーム解析による個別化がんワクチン療法の開発（肺、胃）、リン酸化プロテオーム解析による新規分子標的治療開発（膵、大腸）など、既存研究では俯瞰しえなかった革新的分子診断・治療標的群の大規模な開拓を進めている。また、我々が構築した難治がん PDX モデルライブラリーは、詳細な臨床情報と、ゲノム、トランスクリプトーム、空間プロテオームを含む高深度多層オミクスデータが付帯している点で、他に類を見ない、極めてユニークなライブラリーであるとともに、特に膵がんにおいては、国内外の膵がん PDX ライブラリーと比較してもトップクラスの作成症例数を達成している。

今後は、引き続き PDX モデルの作成を行うと共に、PDX ライブラリーの品質管理や PDX モデルを用いた前臨床試験における SOP の整備を進めて、データベースの構築と合わせて革新的創薬プラットフォームとしての導出を目指す。

3 がん免疫ゲノムプロジェクト

<研究課題3-(1)>

がん免疫ゲノムデータを基盤とした革新的な抗原特異的免疫治療法の開発
Development of innovative antigen-specific immunotherapies based on cancer immunogenomics

<研究者氏名>

所属部 腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

研究者氏名 松下博和
共同研究者 坂倉範昭、藤原 豊、堀尾芳嗣、山口 類、
衣斐寛倫、田口 歩、岡村文子、村岡大輔、
花井信広、大野真佐輔、籠谷勇紀、細田和貴、
関戸好孝、井本逸勢

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) の開発により、がん治療のパラダイムシフトが起きたが、奏効率は未だ 20% 程度に過ぎない。腫瘍浸潤リンパ球 (TIL) の中で、ICI で再活性化される T 細胞は一部の前駆疲弊 T 細胞であり、多くの T 細胞は、持続的な抗原刺激により不可逆的な疲弊状態になっていると考えられる (Oliveira et al, Nature 2021)。そこで、治療効果を高めるためには、この疲弊 T 細胞を若返らせる方法を開発するか、あるいは、抗原特異的 T 細胞を新たに補充する必要がある (Blass et al, Nature Rev Clin Oncology 2021)。後者には、がんワクチンにより生体内に抗原特異的 T 細胞を誘導する方法と、抗原特異的な T 細胞受容体 (TCR) 遺伝子を導入した T 細胞を生体外で作製し生体に戻す方法等がある。

重点プロジェクト研究では、これらの免疫療法を目指した基盤研究を進めている。まず、上記の免疫療法の適応症例の選択が重要になるが、その選択のためには腫瘍内免疫微小環境の理解が非常に重要である。これまで肺癌症例の次世代シーケンス (NGS) データを網羅的に解析し、腫瘍免疫微小環境 (TIME) スコアの開発を行った (Shinohara et al, J Immunother Cancer 2022)。さらに、その TIME スコアで、免疫スコアの高い肺癌検体を活用し、腫瘍特異的 T 細胞とそのコグネイト抗原をペアで同定する TCR-抗原ペア同定システムを日本電気株式会社 AI 創薬統括部と共同で構築した (Komuro et al, J Immunother Cancer 2023; Sugita et al, OncoImmunology 2024)。

今後は、TCR-抗原ペア同定システムをさらに高精度化することで、各症例からの TCR と抗原のペア同定の効率を上げ、得られた情報を TIME の評価に統合し、ワクチンの選択基準や治療効果予測プログラムの構築に応用する。また、TCR-抗原ペア同定システムの確立により、TCR の情報が取得可能になったことから、TCR 遺伝子導入 T (TCR-T) 細胞治療に向けた基礎研究を開始している。さらに、TCR 改変技術と機械学習を融合させ、治療応用可能な高親和性 TCR の取得を目指し、将来の固形がんに対する TCR-T 細胞治療の基盤データを構築する。肺癌をロールモデルに、他のがん種、特に頭頸部癌、悪性脳腫瘍、悪性中皮腫等に対象を拡大する。

<研究課題 3 - (2) >

次世代免疫細胞療法開発に向けた基盤技術構築

Establishment of fundamental technologies of the development of next-generation immune cell therapy for cancer

<研究者氏名>

所属部 腫瘍免疫応答研究分野
研究者氏名 鍋倉 宰
共同研究者 楠本 茂、松下博和

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

がん患者の T 細胞にがん特異的キメラ抗原受容体 (CAR) を導入し、輸注する CAR T 細胞療法は、難治性 B 細胞性腫瘍に対して高い治療効果を示す (N Engl J Med 2017)。しかし時に致死的な副作用を生じる (Nature 2023)。また、CAR T 細胞は患者末梢血 T 細胞から調整する必要があり、調整失敗や治療機会を逸失する危険性がある (N Engl J Med 2018)。これらの課題を克服する為、ナチュラルキラー (NK) 細胞が注目されている。NK 細胞は、T 細胞が排除できないがん細胞を傷害できる為、次世代のがん免疫療法の開発に有望であるが、NK 細胞がん免疫を増強する方策は確立されていない。近年、他家 CAR NK 細胞療法が開発され、B 細胞性腫瘍に対する有効性と安全性が確認された (Nat Med 2024)。CAR NK 細胞は大量調整と保存が可能であり、off-the-shelf 製剤としての利用可能性も高い (Blood Adv 2020)。しかしながら、現行の CAR NK 細胞は生存能や増殖能が乏しく、難治性 B 細胞性腫瘍に対する有効性が低いという課題がある (Cancer Discov 2021)。

重点プロジェクト研究では、現行の CAR NK 細胞の治療効果を改善する目的で、CAR NK 細胞の生存能・増殖能・細胞傷害活性やサイトカイン産生能を亢進する基盤技術の確立を試みた。未感作 NK 細胞は短寿命で増殖しない一方で、至適条件で活性化 NK 受容体シグナルを受けた NK 細胞は、長期生存能・増殖能・強い細胞傷害活性を備える記憶 NK 細胞に分化する (Nature 2009)。我々は記憶 NK 細胞が強力な抗がん活性を持つ事を示し (Immunity 2016, 2014)、記憶 NK 細胞の分化と機能を抑制するシグナル伝達場タンパク質 Themis2 を同定した (Nat Commun 2023)。更に、Themis2 は様々な活性化 NK 受容体シグナル伝達の抑制を介し、NK 細胞がん免疫を抑制する事を示した (J Immunol 2024)。以上から、CAR NK 細胞における Themis2 の機能阻害と人為的記憶 NK 細胞に分化により、長期生存能・増殖能・CAR シグナル伝達亢進による高い細胞傷害活性を備えた改良型 CAR NK 細胞の調整が期待できる。

これまでに我々は、ヒト THEMIS2 遺伝子を破壊するゲノム編集技術を確立し、初代培養ヒト末梢血由来 NK 細胞において THEMIS2 の遺伝子発現とタンパク質発現が減少する事を確認した。また、これら THEMIS2 ノックダウン NK 細胞が、白血病細胞株に対して強い細胞傷害活性とインターフェロン γ 産生能を示す事を明らかにした (J Immunol 2024)。CAR NK 細胞の調整に関し、複数種類のサイトカインとフィーダー細胞を用い、初代培養ヒト NK 細胞を増殖させる長期培養法を樹立した。また、初代培養 NK 細胞に高効率で遺伝子導入できるレトロウイルスベクターエンベロープタンパク質を探索・同定し、安定的に高力価レトロウイルスベクターを産生するパッケージ細胞株を樹立した。更に、レトロウイルスベクターの高倍率濃縮法を確立した。同時に、活性化 NK 受容体リガンドを高発現する事で NK 細胞刺激能が高いフィーダー細胞を樹立した。また、記憶 NK 細胞に高効率で分化する NK 細胞サブセットを選択的に刺激するフィーダー細胞を複数種類樹立した。現在、B 細胞性腫瘍に対する抗 CD19 CAR、頭頸部扁平上皮癌や肺癌に対する抗 EGFR CAR、広範の固形腫瘍に

対する抗 PD-L1 CAR をコードする安定的高力価レトロウイルスベクターパッケージング細胞株の樹立を進めている。加え、CAR NK 細胞を選択的に活性化し、増殖させるがん抗原過剰発現フィーダー細胞の樹立を進めている。

今後、上記で樹立した基盤技術と材料を組み合わせ、CAR NK 細胞の人為的記憶 NK 細胞分化と選択的な活性化・増殖を試み、改良型 CAR NK 細胞の調整法を確立する。長期細胞培養と免疫不全マウスへの細胞移入により、これら改良型 CAR NK 細胞の長期生存能・増殖能・細胞傷害活性やサイトカイン産生能・分化段階等の変化をフローサイトメトリーや RNA-seq によって評価する。また、改良型 CAR NK 細胞とヒト腫瘍細胞株との共培養により、抗がん活性の増強を確認する。更に、ヒト腫瘍細胞株、並びに患者由来腫瘍組織を移植した免疫不全マウスに対する改良型 CAR NK 細胞の移入により、がん治療効果の亢進を検証する。その後、改良型 CAR NK 細胞の細胞機能増強とがん治療効果亢進の分子機構の解析の為、上記腫瘍移植免疫不全マウスに対する治療モデルにおいて、腫瘍内に浸潤した改良型 CAR NK 細胞を単離し、単一細胞 RNA-seq 解析を実施する。同解析において、改良型 CAR NK 細胞治療群に特徴的な亜細胞集団の変動遺伝子群を特定し、遺伝子オントロジー解析や遺伝子セットエンリッチメント解析等によってこれら遺伝子群が関与する生物学的経路を特定する。得られた分子機構から、更なる CAR NK 細胞療法の安全性と治療効果の向上に繋がる治療標的分子の探索と検証を実施する。

4 がん情報革命プロジェクト

< 研究課題 4 - (1) >

愛知県のがん医療の評価と向上のための、院内がん登録を中心としたデータベースの構築と住民ベースがん登録情報の活用

Building a Hospital-based Cancer Registry Database and Utilizing Population-based Cancer Registry Data to Evaluate and Improve Cancer Care in Aichi Prefecture

< 研究者氏名 >

所 属 部 がん情報・対策研究分野

研究者氏名 伊藤秀美、川浦正規、柘植博之¹⁾

共同研究者 田近正洋、山本一仁、佐藤洋造、山口 類

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

愛知県がんセンターは、都道府県がん診療連携拠点病院として主催する協議会を通じ、厚生労働省が指定する地域がん診療連携拠点病院および愛知県が指定するがん診療拠点病院（以下、拠点病院）に協力を依頼し、すべての拠点病院から参画を得てプロジェクトを推進している。令和3年度の開始当初から、院内がん登録情報と DPC 情報を連結した匿名化データセットとして収集しており、2008 年から 2023 年までに診断された症例の情報を蓄積した。また、2015 年までに診断された症例については予後情報を追加収集し、生存率集計の基盤を整備している。

これまでに、2019 年診断症例の「院内がん登録でみる愛知県のがん診療（施設別集計）」を令和4年度に、2020～2022 年診断症例の同報告書を令和5年度に発行した。さらに、予後情報を活用し、各拠点病院別のがん種ごとの生存率を算出し、医療水準の現状を可視化した。令和6年度には、2023 年診断症例の報告書を新たに発行するとともに、2011～2015 年診断症例を対象とした5年生存率集計を報告書として取りまとめた。これらの報告書は拠点病院に共有され、各医療機関が自施設の診療実績をベンチマークする際に活用されたほか、愛知県がんセンターのホームページ上でも一般公開し、広く県民や関係者が参照できるようにした。

さらに、研究的利用として、COVID-19 流行ががん医療へのアクセスに及ぼした影響を評価した。愛知県内 27 拠点病院の院内がん登録データ（2019～2022 年診断症例）を対象に、緊急事態宣言の有無による患者数や受診動向を分割時系列解析で検討した。その結果、2020 年4月の最初の緊急事態宣言に伴い、全がんおよび大腸がんの新規診断患者数が即時的に減少した一方、子宮頸がんでは受診動向が増加に転じる傾向が認められた。また、子宮頸がん患者の移動距離は減少傾向を示した。これらの知見は、感染症流行時におけるがん診療体制の課題を明らかにするものである。

加えて、共同研究として、統合失調症患者におけるがん診療・予後格差に関する研究を進めており、令和6年度には解析に向けたデータセットの抽出を開始した。

今後は、本連結データベースを活用した医療評価の研究利用を拡充し、例えば、診断から治療開始までの待機期間、ステージ別の治療選択やガイドライン準拠、周術期・薬物療法の実施状況、施設間差および社会経済的要因に伴う格差といった指標の整備・検討を進める。得られた知見は参加病院へのフィードバックを通じて院内改善の基礎資料とし、県内のがん診療の均てん化に寄与することを目指す。さらに、がんの種類によっては均てん化のみならず、専門性の高い医療を提供するための集約化も求められており、本プロジェクトの成果はその方向性を検討する上でも基礎資料となる。

¹⁾ リサーチレジデント

< 研究課題 4 - (2) >

人工知能・機械学習技術を用いたバイオメディカルデータ解析基盤の開発と活用

Development and utilization of a biomedical data analysis platform based on artificial intelligence and machine learning technologies.

< 研究者氏名 >

所 属 部 システム解析学分野

研究者氏名 山口 類

共同研究者 原 和生、衣斐寛倫、稲葉吉隆

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

本研究の目的は、臨床および基礎研究の現場で産生・蓄積さ

れる膨大かつ多種多様なバイオメディカルデータを、統合的かつ自在に解析するために、スーパーコンピュータによる計算能力と人工知能 (AI)/ 機械学習 (ML) 技術による数理的手法群を備えた解析プラットフォームを開発し、他の重点プロジェクト研究と有機的に連携しプロジェクト全体を活性化させることで研究成果の社会還元を促進し、情報解析の面から近未来の医療へ貢献することである。

近年の技術革新により、DNA や RNA の各種オミクスデータおよび医療画像データ等、多種多様なバイオメディカルデータが、国内外の臨床および基礎研究において取得可能になっている。DNA については、ゲノム配列データを高速かつ安価に取得できるようになり、がんゲノム医療をはじめ臨床現場での活用が進みつつある。また long read シークエンサーも開発され、大規模な構造変異の検出などに威力を見せている。RNA については一細胞 RNA 計測技術 (scRNA-seq) の発展が目覚ましく、がんの微小環境等の情報を詳細に得ることができるようになっている。さらには細胞微小集団の空間情報を保持したまま遺伝子発現情報を得ること (spatial RNA-seq) も可能になりつつある。画像情報については、多様なモダリティ (MRI/放射線/超音波/蛍光等) と対象に対する、静止画、動画また三次元情報の取得が高い解像度で可能となっている。またこれらのデータは、インターネット上のアーカイブ (Genomic Data Commons 等) に蓄積されるようになっている。

一方、これらのデジタル計測データの巨大性と複雑性が増大するにつれて、データを解析し有用情報を抽出するための困難性も増大している。その結果、利用および取得可能なデータと、研究を推進する医師・研究者がそこから知り得たい情報の間に大きなギャップが生じている。そのため、目的で述べたようなデータ解析基盤を開発し、そのギャップを埋める有用性は高い。

最終年度となる本年度は、これまで進めてきた三つの研究項目の研究を並行して進めた。

研究項目①：オミクスデータ解析パイプラインの開発については、RNA 解析パイプラインの拡充を進め、通常の遺伝子発現だけではなく、RNA-seq データの配列読み取りデータ (リード) 中から、細菌およびウイルス等の配列を抽出するコンポーネントの実装を進めた。実際に大腸がん患者から得られた大規模 RNA-seq データに対して適用することにより、医学・生物学的に興味深い候補細菌群の検出に繋げている。

研究項目②：画像・配列 AI/ML コンポーネントの開発については、前年度に引き続き内視鏡超音波画像からの膀胱がん病変検出アルゴリズムの拡充を進めた。配列 AI としては、アミノ酸配列からタンパク質立体構造予測を行う AI モデルとして、AlphaFold2 および AlphaFold3 の整備を進めた。さらにタンパク質言語モデルである ESM2 から抽出したアミノ酸配列特徴量と、タンパク質の立体構造抽出したトポロジカル特徴量を、機械学習モデルを用いて統合しタンパク質間の結合能を予測する手法の開発を進めた。

研究項目③：情報管理システムの開発については、研究課題 2(2) で構築されつつある、多層オミクスデータベース中の膨大なデータを、生命科学系の研究者が自らの手で自在に解析して活用するために、Web インターフェースを備えたデータ解析シ

ステム (i-Mirai) の開発、改良を進めた。本年度は、GUI の改良を進め、これまでの発現差解析、相関解析に加えて、DNA の変異を可視化するコンポーネント (Oncoplot, Lollipop plot) の拡充を進めた。

2. 研究所における研究

がん情報・対策研究分野

< 研究課題 > 1

(主題) がん登録情報を用いた記述疫学的手法によるがん対策・医療の評価

(副題) 日本における男性乳がんと女性乳がんの純生存率の比較解析：住民ベース研究

< 研究者氏名 >

尾瀬 功、Daisy Sibale Mojoo¹⁾、柘植博之¹⁾、谷山祐香里²⁾、小柳友理子、山本清花、伊藤ゆり³⁾、松田智大⁴⁾、松尾恵太郎、伊藤秀美

【目的・概要・進捗状況】

乳がんは世界的に女性で最も一般的な悪性腫瘍の一つである一方、男性乳がんは稀であるが、その罹患率は世界的に徐々に増加している。米国のSEERプログラムでは、1975年の人口10万人あたり0.85例から2015年には1.19例へと上昇が報告されている。日本においては、男性乳がんは全乳がんの0.6%を占めるにすぎず、新規症例数は顕著な増減を示さず比較的安定しており、2016～2019年には合計2,815例が登録されている。その稀少性ゆえに認知度は限られており、患者の予後についても不確実性が残されてきた。

これまでの研究では、男性乳がんと女性乳がんの予後差について一貫した結果は得られていない。大阪での研究では男性の予後不良が報告される一方、福岡の研究では病期やホルモン受容体を調整すると差は認められなかった。欧米や中国などでは不良例も報告されているが、韓国やイタリアなどでは差がないとされており、地域によって結果が異なる。本研究はこうした背景を踏まえ、日本における大規模住民ベース研究として実施された。

対象は1993～2011年に診断された乳がん181,540例（男性1,058例、女性180,482例）であり、12府県がん登録データを用いて解析した。5年および10年純生存率（net survival, NS）を推定し、年齢・診断時期・病期・組織型を調整した過剰ハザード比（excess hazard ratio, EHR）を算出した。その結果、男性乳がん患者の5年NSは90.7%、10年NSは83.7%であり、女性乳がん患者（88.3%、79.1%）との差は有意ではなかった。EHRも5年0.88、10年0.86と男女差は認められず、日本における男性乳がんの予後は女性と同等であることが示された。

この成果は、乳がんという異質性の高い疾患において、性別よりも腫瘍特性や病期に基づいた治療方針が妥当であることを支持するものである。また、解析期間を通じて両群の生存率改善も認められ、分子標的薬や内分泌療法、化学療法の最適化といった治療戦略の進歩が寄与している可能性が示唆された。

【今後の方向】

本研究は、男性乳がんという希少がんに対して、12の地域がん登録を用いた大規模住民ベース研究として実施され、診療

ガイドラインを男性にも適用できる妥当性を支持する重要なエビデンスを提供した。一方で、日本の住民ベースのがん登録データの性質上、腫瘍グレードやホルモン受容体、HER2発現、治療内容といった詳細情報を得ることは困難であり、解析には一定の限界がある。

今後は、住民ベースのがん登録情報と臨床データや分子生物学的情報を有するデータベースとのリンケージを可能とする仕組みの構築が求められる。現行の法制度の下では実現が難しいが、このような基盤整備が進めば、より精緻な解析や希少がん研究の発展が可能となる。さらに、国際共同研究の推進により症例数を補完し、男性乳がんのみならず希少がん全般における研究基盤の充実につなげていくことが重要である。

¹⁾ リサーチレジデント、²⁾ 国立健康危機管理研究機構臨床研究センター、³⁾ 大阪医科薬科大学、³⁾ 国立がん研究センター

< 研究課題 > 2

(主題) 記述疫学研究に基づくがん情報の整備と発信

(副題) 愛知県内の公的情報を活用した地理的連結データベースならびに院内がん登録情報とDPC情報の連結データベース構築

< 研究者氏名 >

川浦正規、柘植博之¹⁾、山田裕士²⁾、小柳友理子、尾瀬 功、松尾恵太郎、伊藤秀美

【目的・概要・進捗状況】

本研究は、がんの罹患や死亡における地域格差と、それに影響する社会経済的要因や生活習慣要因を明らかにすることを目的としている。全国がん登録や人口動態統計、国勢調査といった公的データを活用し、地域ごとのがん罹患率・死亡率を算出するとともに、貧困度や生活習慣との関連を多面的に検討してきた。

解析にあたっては、地域剥奪指標（Areal Deprivation Index, ADI）などの社会経済的指標を用い、喫煙や飲酒、がん検診受診状況といったリスク要因の分布とがん罹患・死亡との関連を評価した。さらに、空間統計解析を活用してがんの高リスク地域や低リスク地域を可視化し、がん医療の地域格差の実態を明らかにした。

令和6年度は、これらに加えて新たな展開として、COVID-19流行期におけるがん医療アクセスへの影響を評価する研究を行い、成果を報告書としてまとめた。また、共同研究として統合失調症患者のがん診療・予後における格差を明らかにすることを目的に、データ抽出や整理を開始した。

さらに、成果の可視化と社会的発信にも力を入れ、2023年診断症例を対象とした「院内がん登録でみる愛知県のがん診療（施設別集計）」の報告書を作成した。また、2011～2015年診断症例を対象とした5年生存率の集計を行い、報告書として発

行した。これらの成果は拠点病院間で共有され、各医療機関がベンチマークとして活用できるとともに、愛知県がんセンターのホームページ上で公開することで、県民に対してもがん医療の現状を提示した。

【今後の方向】

公的情報を用いた空間疫学研究については、より高度な解析手法を取り入れ、地域ごとのがん罹患・死亡における社会経済的格差を精緻に評価する。特に、生活習慣要因と貧困との関連を都市度別に分析し、その結果ががん罹患・死亡というアウトカムにどのように影響するかを評価する予定である。さらに、媒介分析といった新しい手法を導入し、がんの社会経済的格差解消に向けた具体的な介入点を見出すことを目指す。

加えて、医療提供体制の均てん化とがん種ごとの集約化の両面を考慮し、がん診療の質と公平性のバランスを検討する。また、研究成果を行政施策や地域での普及啓発に応用できるよう、行政担当者との連携を一層強化する。

さらに、収集している病院レベルで院内がん登録情報と各施設のDPCデータを個別に連結し匿名化した情報を活用して、医療レベルの格差要因を探索する。あわせて、拠点病院間で成果を共有できる仕組みとしてウェブベースのインタラクティブツールの開発を進めるとともに、情報提供病院間でのデータシェアリングの仕組み整備に向けて課題の洗い出しを行っている。

¹⁾ リサーチレジデント、²⁾ 研修生

がん予防研究分野

<研究課題> 1-1

(主 題) 各種がんに対する分析疫学的解析による、がんリスクと繋がる遺伝的・環境的要因、並びにその組合せ効果の解明

(副 題) 肥満と胆道がんの致死率・発症リスクに関するアジアにおける大規模コホート解析

<研究者氏名>

尾瀬 功、伊藤秀美、小柳友理子、松尾恵太郎

【目的・概要・進捗状況】

胆道がん (BTC) は欧米に比してアジアで罹患率が高いがん種であり、そのリスクとして肥満が疑われてきた。本研究は、アジア地域における大規模な前向きコホートを用いて、体格指数 (BMI) と BTC のリスクとの関連を検討したものである。胆石症は BTC の確立した危険因子であり、また肥満は胆石症を引き起こす要因とされているが、胆石症を介した影響を含めて BMI と BTC との関係性を詳細に検討した研究は限られてきた。本研究では、アジア・コホート連合に参加する 21 のコホートから計 90 万 5,530 名を対象に解析を行い、BMI を低体重 (<18.5 kg/m²)、普通体重 (18.5-22.9)、過体重 (23-24.9)、肥満 (≥25) に区分し、BTC の発症および死亡率に与える影響

を検討した。解析は共通 frailty を組み込んだコックス比例ハザードモデルを用い、さらに媒介分析により胆石症を介した間接的効果と直接効果を評価した。

その結果、正常体重群と比較して高い BMI を持つ者では BTC 死亡率が上昇する傾向が認められ、男性でハザード比 1.19 (95% 信頼区間 1.02-1.38)、女性で 1.30 (1.14-1.49) と有意な関連が示された。また胆石症との相互作用が確認され、BMI と BTC リスクの関連には胆石症の有無が重要な修飾因子であることが明らかとなった。女性では、BMI は胆石症を介して BTC リスクを高める間接効果を有すると同時に、胆石症とは独立した直接的効果も認められた。一方で男性における明確な関連は認められなかった。さらに、胆石症を有する場合には BMI と BTC 死亡との関連は観察されず、BMI の影響は胆石症のない女性において特に強く表れることが示された。

以上より、アジアにおける成人集団において BMI の上昇は BTC 死亡リスクの増加と関連し、その効果は特に胆石症を有しない女性で顕著であることが示唆された。肥満対策は胆石症の予防とともに、胆石症を伴わない女性における胆道がんリスクの低減に寄与する可能性がある。

【今後の方向】

胆道がんがなぜアジア地域で罹患が高いかに関する研究を継続して行う。またアジア特有の罹患パターン、曝露パターンに注目した研究を展開していく。

がん病態生理学分野

<研究課題> 1-1

(主 題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明

(副 題) 腸管腫瘍形成における MyD88 経路の役割の解析

<研究者氏名>

梶野リエ、藤下晃章、武藤 誠¹⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

がん抑制遺伝子である *Apc* 遺伝子に変異を持つ遺伝子改変マウス (以下 *Apc* 変異マウス) では、APC の機能欠損の結果 Wnt 経路が恒常的に活性化し、腸管に腺腫性ポリープを発症する。我々は、*Apc* 変異マウスの腸管ポリープの成長に関わる因子を探索、同定し、その役割を解明することにより、大腸がんの治療標的候補を得ることを目的として研究を進めてきた。

これまでに、我々は、IL-1 β シグナル伝達経路の主要なアダプター因子である MyD88 の機能欠損が、*Apc* に変異を持つ細胞のみを死滅させる、いわゆる合成致死を誘導することを見出し、論文発表した (Kajino-Sakamoto R, et al: *Oncogene* 40, 408-420, 2021)。続いて、トランスクリプトーム解析等を行い、この合成致死誘導の分子機序に関与する因子を探索して得られた候補因子について検討を進めた。まず、マウスの腸管ポリープ組織試料または腸管ポリープ由来オルガノイド試

料において、トランスクリプトーム解析結果の再現性、つまり、MyD88 の機能欠損（発現低下）に伴う RNA 発現の減少がみられる因子を選択した。また、公共データベースを利用して、ヒト大腸がんにおいて MyD88 と正の発現相関がみられる因子を選択した。これらの結果選択された候補因子について、MyD88 の機能欠損に伴いタンパクレベルでの減少がみられるか検討した。マウスの腸管ポリープ組織試料または腸管ポリープ由来オルガノイド試料に加え、本年度は大腸がん患者由来オルガノイド試料でも検討し、MyD88 阻害剤処理によりタンパクレベルでの減少がみられる因子が4つ同定された。これまでに、複数の MyD88 阻害剤を用いて、MyD88 の機能を阻害すると大腸がん患者由来オルガノイドの生育が抑制されることを確認しており、同定された4つの因子がヒト大腸がんの増殖・生存に関与することが期待される。

【今後の方向】

合成致死誘導に関与する可能性がある候補因子についてさらに解析を進めて役割を解明する。

¹⁾ 京大・先端医療研究開発機構

<研究課題> 1-2

(主題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明

(副題) 腸管腫瘍の悪性化における mTORC1 経路の役割の解析

<研究者氏名>

藤下晃章、三城恵美¹⁾、劉 宇文、梶野リエ、新聞秀一²⁾、曾我朋義³⁾、武藤 誠⁴⁾、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

家族性大腸腺腫症のマウスモデルである Apc 変異マウスは良性の腺腫性ポリープを発症し、さらに Smad4 遺伝子のヘテロ接合変異を併せ持つ cis-Apc/Smad4 マウスは、局所浸潤性の腸がんを発症する。cis-Apc/Smad4 マウスの腺がんの浸潤は mTORC1 阻害薬 everolimus および mTOR キナーゼ阻害薬 AZD8055 に対して抵抗性である。これまでに、トランスクリプトーム解析、メタボローム解析、プロテオーム解析を実施し、mTOR 阻害薬抵抗性腺がん組織においてヒスタミンの蓄積・マクロファージの集積を認めた。また臨床大腸がん組織中のマクロファージは浸潤部に集積し、ヒスタミン濃度が高い症例で多く検出される傾向を認めた。mTOR 阻害薬とヒスタミン H1 および H2 受容体拮抗薬の併用投与により mTOR 阻害薬抵抗性腺がん浸潤が抑制されることを見出した。

腫瘍組織におけるヒスタミン産生細胞について各種細胞表面マーカーを用いて解析したところ、粘膜筋板側に存在する肥満細胞が腺がんの浸潤とともに増加した。mTOR 阻害薬抵抗性腺がん組織において、対照腺がん組織よりも肥満細胞が増加する傾向が認められた。肥満細胞はヒスタミンを合成する細胞であることから、この細胞の浸潤部での集積がヒスタミンの増

加と関係している可能性が示唆された。

本年度は、腫瘍組織におけるヒスタミン産生細胞を同定するため、ヒスタミン合成の律速酵素であるヒスチジン脱炭酸酵素 (Histidine decarboxylase, HDC) の発現を検証した。各社の抗体を用いた免疫染色では十分な検出精度・感度が得られなかったことから、RNA probe (RNAscope) を用いた in situ ハイブリダイゼーションにより検出を行った。その結果、HDC 陽性細胞は腫瘍浸潤部の間質組織に点在しており、昨年度に検出した肥満細胞の分布と類似していた。このことから、腫瘍組織におけるヒスタミンの主要なリソースは肥満細胞である可能性が強く示唆された。

【今後の方向】

腫瘍組織中のヒスタミン量の増加が、浸潤性腺がんに与える影響を調査する。オルガノイド培養したマウスの大腸がんや線維芽細胞やマクロファージなどを用いて in vitro でヒスタミンおよび阻害薬処置下での細胞の増殖や移動を評価する。

¹⁾ 名古屋大・トランスフォーマティブ生命分子研究所

²⁾ 大阪大・工学研究科

³⁾ 慶應義塾大・先端生命科学研究所

⁴⁾ 京大病院・先端医療研究開発機構

<研究課題> 1-3

(主題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明

(副題) デスモイド腫瘍の形成における TGF- β 経路の役割の解析

<研究者氏名>

李 宇、藤下晃章、西田佳弘¹⁾、榎本 篤¹⁾、武藤 誠²⁾、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

デスモイド腫瘍は、デスモイド型線維腫症としても知られる、間葉系細胞由来の軟部組織腫瘍で、強い局所浸潤性を有する。本邦で新規に診断される患者数は年間 100 ~ 200 名という希少疾患で、家族性大腸腺腫症に伴うものと散発性の2つの発症パターンがある。散発性症例の約 95%には β -catenin をコードする CTNNB1 遺伝子の変異が見られる。

本研究では、デスモイド腫瘍の病態解明と治療標的の同定を目的として、新規デスモイド腫瘍マウスモデルの作出と病態生理の解析を試みた。Pdgfra-Cre^{ERT2}/Ctnnb1^{lox(ex3)} マウスの皮下にタモキシフェンを局所投与したところ、デスモイド腫瘍患者の腫瘍に組織学的に類似した線維性腫瘍が発生し、desmin、vimentin などデスモイド腫瘍のマーカーとされるタンパクが発現していた。また、これらの腫瘍では TGF- β 経路が強く活性化されており、Smad4 のノックアウトを導入することにより腫瘍の成長が低下した。さらに、比較プロテオーム解析により、Smad4 のノックアウトによってデスモイド腫瘍における Cysteine-and-Glycine-Rich Protein 2 (CSRP2) のレベルが低下

することが示された。マウスデスモイド腫瘍由来の細胞株を作製し、TGF- β 受容体阻害剤で処理したところ CSRP2 の発現が低下し、同細胞株で CSRP2 をノックアウトするとその増殖が有意に低下したことから、TGF- β 経路の下流で CSRP2 が治療標的となる可能性が示された。これらの内容について論文発表した (Li et al., *Cancer Sci* 115, 401-411, 2024)。

本年度は計画の効率化を図るため、移植モデル樹立に向けた研究環境の整備を行った。Cttnb1 活性化変異単独では移植が困難であることから、Kras や Trp53 変異の組み合わせによる細胞作製を見据えて必要なマウス系統の整備を実施しており、順調に交配を進めている。

【今後の方向】

樹立したマウスからデスモイド腫瘍を誘導し、組織学的形態を評価して Cttnb1 変異単独マウスとの相違を検討する。

¹⁾ 名古屋大・医学系研究科

²⁾ 京大病院・先端医療研究開発機構

<研究課題> 2-1

(主 題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索

(副 題) 大腸がん自然発症・転移モデルを用いた転移メカニズムの解明と治療標的の同定

<研究者氏名>

藤下晃章、三城恵美¹⁾、梶野リエ、小島康、山口 類、
武藤 誠²⁾、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

転移を伴う大腸がんの予後は悪く、新機軸の転移予防・治療法の開発が求められている。各国で網羅的なゲノム変異解析・発現解析などが行われているが、転移の分子機序解明には至っていない。我々は、腸管に浸潤性腺がんを 100% の頻度で発症し、約 20% のマウスで肝臓への転移が認められる、大腸がんの自然発症・自然転移モデルの作出に成功した。このマウスモデル (CKPS マウス) では、安定型 β -catenin (Wnt 経路活性化) と活性型 Kras の発現、そして p53 と Smad4 の欠失が腸管上皮細胞特異的に誘導される。CKPS マウスの肝転移巣では、原発巣と酷似した腺管構造と間質反応を伴う浸潤の様子が保たれており、大腸がん臨床検体ともよく似た組織像を示す。CKPS マウスおよび CKPS マウスから樹立した大腸がん細胞株 (CKPS 細胞) を用いて、各種オミクス解析や分子生物学的手法を用いた解析を行ったところ、大腸がんの肝転移巣では原発組織と比べ大腸がん幹細胞マーカーである ALCAM (CD166) や PROM1 (CD133) の発現増加が認められた。さらに CRISPR-Cas9 により ALCAM、PROM1 をノックアウトした CKPS 細胞はスフェロイド形成能および脾注肝転移モデルによる肝転移巣形成能が低下したことから、大腸がん幹細胞マーカーが転移能にも寄与することが示された。これら大腸がん幹細胞マーカーの発現には TGF- β /SMAD4 経路が負に制御すること、

cAMP/PKA/CREB 経路が正に制御していることを報告している (Fujishita et al., *Cancer Res* 82, 4179-4190, 2022)。さらに上記の経路以外に大腸がんのがん幹細胞性維持に関わる分子・シグナル経路について、プロテオーム解析や RNA-seq、薬剤スクリーニングにより探索し、Rho ファミリーが候補として上がった。前年度までの解析において、RhoC をノックアウトした細胞株は通常培養条件下では増殖に影響しないが、脾注肝転移モデルによる肝転移巣形成能が低下したことから、RhoC を介したシグナル経路が大腸がんの転移に関与している可能性が示唆された。

本年度は、RhoA および RhoB に着目し、大腸がん幹細胞性の制御機構を調査した。RhoA/B を siRNA で同時ノックダウンすると、がん幹細胞マーカーである ALCAM および PROM1 の発現が有意に増加した。オミクス解析の結果、RhoA/B ノックダウンは Wnt 経路の活性化を誘導し、さらに Sox ファミリー遺伝子の発現上昇を介して PROM1 発現を制御していることを見出した。

【今後の方向】

RhoA/B がどのように Wnt 経路を調節し、ALCAM や PROM1 の発現増加をもたらすのか、その分子機構を明らかにし、大腸がん幹細胞性維持への関与を検証していきたい。

¹⁾ 名古屋大・トランスフォーマティブ生命分子研究所

²⁾ 京大病院・先端医療研究開発機構

<研究課題> 2-2

(主 題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索

(副 題) トランスポゾンを用いた大腸がん転移制御因子の同定

<研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、小島 康、山口 類、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

大腸がんの治療成績は、検出技術の発達や外科的切除・化学療法の進歩により顕著に向上しているものの、転移を伴う大腸がんについては依然として治療が困難なことが多い。我々は最近、自然発生した大腸がんが 20% の頻度であるが肝臓へ転移する自然転移モデルマウス (CKPS マウス) の開発に成功した (前項)。この CKPS マウスは 100% の頻度で腸管に浸潤性の腺がんを発症する。同腹仔でも転移する個体とそうでない個体が認められたことから、転移には遺伝子変異以外に更なる要因が必要である可能性が示唆される。本研究では、大腸がんの転移を制御する遺伝子を個体レベルで探索するために、PiggyBac トランスポゾンを用いた機能的スクリーニングを実施した。この PiggyBac トランスポゾンには近傍の遺伝子を活性化または機能喪失させる配列が組み込まれており、大腸がんの発生に伴いトランスポゾンが移動する。トランスポゾン非導入 CKPS マウスと比較して、トランスポゾンを導入した CKPS マウス

では肝転移の頻度がおよそ2倍(約40%)に上昇することを見出した。トランスポゾンの挿入部位には転移を調節する遺伝子が存在している可能性が高いことから、この挿入部位を同定する手法として Semiquantitative transposon insertion site sequencing (Qiseq) を実施したところ、既に転移への関与が報告されている *Ddr1* 遺伝子が同定されたほか、タンパクは翻訳制御に関わる遺伝子 E も同定された。*Ddr1* 遺伝子を CRISPR-Cas9 でノックアウトした CKPS 細胞は脾臓への移植による肝転移形成数がコントロール細胞よりも低下した。また翻訳制御遺伝子 E を過剰発現させた CKPS 細胞は肝転移形成数がコントロール細胞より増加した。本年度は翻訳制御遺伝子 E の機能を解明するため、各種オミクス解析を実施した。遺伝子 E によって翻訳制御を受ける分子群には抗アポトーシス関連のものが含まれていたほか、転写レベルで制御を受けているも遺伝子には核酸の修飾に関わるものが含まれていることを見出した。

本年度は、*Ddr1* ノックアウト細胞の解析を実施した。*Ddr1* の下流で制御されるタンパクを検証するためリン酸化プロテオーム解析を実施した。*Ddr1* KO 細胞で有意に減少しているリン酸化ペプチドをおよそ数百ほど見出した。これらのリン酸化ペプチドのうち機能が明確なものはタンパク合成や代謝に関わるものであったため、このタンパクの詳細を検証している。

【今後の方向】

Ddr1 遺伝子の CKPS 細胞における働き、シグナル関連等を調査し転移との関りを解明していきたい。

<研究課題> 3

- (主題) がん悪液質の病態生理理解明と治療戦略の基盤構築
(副題) マウスモデルを用いた網羅的解析

<研究者氏名>

小島 康、三城恵美¹⁾、藤下晃章、梶野リエ、曾我朋義²⁾、武藤 誠³⁾、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

がん悪液質は、腫瘍の病期とは必ずしも関係なく発症し、筋肉萎縮を伴う進行性の体重減少を主徴とする。筋肉萎縮は、がん患者の Performance Status(PS)、Quality of Life (QOL) を著しく低下させ、抗がん治療の障害になる。がん悪液質の病態解明は遅れており、治療法も殆ど進歩していない。

我々は、悪液質の病態解明と治療法の基盤構築を目指して、悪液質マウスモデルおよび臨床検体のマルチオミクス解析に取り組んでいる。これまでに、主に2種類の悪液質モデルマウスを用いてきた。1つは、*cis-Apc/Smad4* 変異マウスで、14週齢から悪液質様病態を呈して衰弱し、数日で瀕死の状態に至る。衰弱個体の肉眼解剖所見では、骨格筋の萎縮、白色脂肪組織の萎縮、脾腫が特徴的である。もう1つは、ヒトメラノーマ SEKI 細胞をヌードマウスに移植する悪液質モデルで、移植後2~3週間で著大な骨格筋萎縮、脂肪組織萎縮を伴う高度な

悪液質を発症する。我々は、上記の2種類の悪液質モデルマウスの肝臓および骨格筋に対してメタボローム解析およびプロテオーム解析を実施して、その成果をすでに報告している(Kojima et al., *Nat Commun* 14, 6264, 2023)。本年度は、肝臓に関してはオミクス解析を追加して、より詳細な分子機構とがん悪液質治療薬の創薬標的の探索を実施した。さらにはがん悪液質病態における腎臓の役割について予備的検討を実施し、腎臓で特徴的な病的変化を確認した。

【今後の方向】

がん悪液質における肝臓に関しては創薬標的の検証に着手し、腎臓などの変化についても体系的な解析を開始する。

- 1) 名古屋大・トランスフォーマティブ生命分子研究所
- 2) 慶應義塾大・先端生命科学研究所
- 3) 京大病院・先端医療研究開発機構

分子腫瘍学分野

<研究課題> 1

- (主題) 悪性中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究
(副題) 免疫チェックポイント分子 VISTA の中皮腫細胞における機能

<研究者氏名>

井田梨沙¹⁾、佐藤龍洋、向井智美、関戸好孝

【目的・概要・進捗状況】

中皮腫は、アスベスト曝露を主因とする極めて予後不良の悪性腫瘍であり、既存の治療薬が奏功しないため、新規の治療法開発が急務とされている。近年、免疫チェックポイント阻害剤が治療に用いられているが、効果は限定的である。組織別に見た場合、免疫チェックポイント阻害剤である抗 PD-1 抗体ニボルマブは、特に予後が悪いとされる肉腫様中皮腫で顕著な効果を示すことがある。これは、肉腫様中皮腫が免疫原性が高く、PD-L1 の発現量が比較的多いことが一因と考えられている。一方、患者数が6割以上にのぼる上皮様中皮腫においても免疫チェックポイント阻害剤の併用療法による有効性は観察されるものの依然として効果は限定的であり、中皮腫の難治性は大きな課題である。

本研究では、PD-L1 と同じ B7 ファミリーに属する免疫チェックポイント分子である VISTA (V-domain Ig suppressor of T-cell activation) に着目した。VISTA が中皮腫細胞で高発現していることは、複数の研究グループにより報告されている。VISTA は、主に骨髄系由来の細胞、特にマクロファージや樹状細胞といった腫瘍微小環境の免疫抑制性細胞に高頻度に発現することが知られているため、多くの固形がんでは、間質領域に浸潤した免疫細胞において VISTA 発現が観察される。一方、中皮腫では、VISTA が腫瘍細胞自体に高発現しているという特徴がある。このことは、中皮腫における VISTA の役割

が、単なる免疫抑制機能にとどまらず、腫瘍細胞自身の重要な機能に参与している可能性を示唆している。

私たちは、TCGA データベースを用いて中皮腫患者検体における VISTA の発現レベルを解析し、VISTA が B7 ファミリーメンバーの中で最も高発現していることを見出した。特に、上皮様中皮腫および PD-L1 低発現腫瘍で VISTA 高発現が認められた。そこで、VISTA を高発現する中皮腫細胞株にレンチウイルスを用いて VISTA shRNA またはコントロールの shRNA を発現させ、細胞増殖への関与について IncuCyte により解析した結果、VISTA ノックダウン細胞において増殖抑制効果が認められた。また、N 末に GFP タグを付加した VISTA を発現させた中皮腫細胞株では、増殖が促進されていた。そこでさらに、ドキシサイクリン誘導性の Tet-On システムを用いて VISTA shRNA を発現する中皮腫細胞株を作製し、マウス皮下に移植したところ、VISTA shRNA は腫瘍サイズを有意に縮小させ、抗腫瘍効果を示した。

また、VISTA ノックダウン細胞およびタグ付 VISTA 発現細胞と、それぞれのコントロール細胞を用いた RNA-seq 解析を行った。KEGG パスウェイ解析および Hallmark gene set enrichment analysis (GSEA) を実施したところ、「DNA 複製」や「細胞周期」といった細胞増殖に関連するシグナル経路が上位に検出された。ウエスタンブロット法においても、VISTA の発現による AKT シグナルの活性化、および VISTA ノックダウンによる AKT シグナルの抑制が認められた。これらの結果から、VISTA が AKT シグナルを介して中皮腫細胞の生存・増殖を促進している可能性が示唆された。

【今後の方向】

今後は、VISTA による細胞増殖の制御についてのメカニズムを解き明かすことを目指し、VISTA と結合するタンパク質の同定を進める予定である。細胞膜タンパク質である VISTA が、どのように AKT シグナルを含む増殖シグナルを活性化するのか、他の細胞表面受容体などとの複合体形成について検討する。VISTA の特異的な結合パートナーを明らかにすることで、VISTA を標的とした治療戦略につなげることが可能になると考えている。VISTA を標的とすることで、既存の免疫チェックポイント阻害剤とは異なる作用機序による併用療法や代替療法として中皮腫治療の可能性を広げることが期待し、今後の研究を進めていきたい。

¹⁾ リサーチレジデント

<研究課題> 2

(主題) 細胞特性に基づくがんの新規診断法・治療法の開発研究

(副題) O-GlcNAc 修飾が駆動する中皮腫の核輸送異常と Cyclin B1 を標的とした治療戦略の可能性

<研究者氏名>

向井智美、佐藤龍洋、亀井保博¹⁾、加藤 輝¹⁾、三城恵美²⁾、井田梨沙³⁾、藪田紀一⁴⁾、廣島健三⁵⁾、関戸好孝

【目的・概要・進捗状況】

近年、種々のがんにおいて、翻訳後修飾のひとつである O-GlcNAc (O 結合型 β-N-アセチルグルコサミン) 修飾が亢進することが報告されており、診断マーカーや治療標的としての可能性が注目されている。しかし、がんの進展と関連した O-GlcNAc 修飾意義については不明な点が多く、治療薬の開発に向けて明らかにすべき課題が多い。最近我々は、Hippo 経路が破綻した中皮腫においても O-GlcNAc 修飾が顕著に亢進していることを見出し、その主たる標的タンパク質として、複数の核膜孔複合体構成因子 (ヌクレオポリン) を同定した。そこで、中皮腫におけるヌクレオポリンの過剰な O-GlcNAc 修飾という特性に着目して新規治療薬の開発に取り組んでいる。我々は、ヌクレオポリンの過剰な O-GlcNAc 修飾が核輸送に与える影響について検討した。核輸送の解析を行うにあたり、光操作技術を利用して、中皮腫細胞における核輸送動態の可視化と輸送速度の定量化を可能とする実験系を構築した。この実験系を用いて物質の核輸送動態を解析した結果、O-GlcNAc 修飾の亢進によって核輸送が活発になることが明らかとなった。さらに、この亢進した核輸送を標的とする治療の可能性を検証するため、核外輸送受容体 XPO1 の選択的経口阻害剤である KPT-330 を中皮腫細胞に添加した。その結果、濃度依存的に核輸送速度が減少するとともに、細胞増殖能が顕著に抑制された。また、中皮腫細胞を移植した担癌マウスに対する経口投与実験においても抗腫瘍効果が認められた(論文投稿中)。そこで、さらなる治療標的の同定のため、XPO1 阻害による細胞増殖抑制メカニズムの解明に取り組んだ。その結果、KPT-330 を処理した細胞では、細胞分裂期 (M 期) に移行する細胞が有意に減ることが明らかとなった。さらに解析を進めたところ、M 期への移行に必須なタンパク質である Cyclin B1 が核内に蓄積していることが明らかとなった。Cyclin B1 は、通常 G2 期後期に核内に局在し機能するが、恒常的な核局在は細胞周期停止を誘導すると考えられる。現在、核局在型 Cyclin B1 が果たす細胞周期抑制および抗腫瘍効果について詳細に検討している。

【今後の方向】

核外輸送の重要な役割のひとつとして、偶発的に核内に侵入したタンパク質を核外に排出することが報告されている。中皮腫細胞におけるヌクレオポリンの O-GlcNAc 修飾の亢進は、単に物質の出入りを増やすだけでなく、細胞内に生じる核輸送の「エラー」を効率的に修正することで、がん細胞の増殖に必要な恒常性を維持していると考えられる。本研究の成果を基盤として、今後はこの「核輸送の活発化」というがん細胞の特性を標的とした、次世代の治療戦略を構築することを目指す。具体的には、Cyclin B1 のような重要な機能分子の核外輸送シグナルを標的とすることで、その核内蓄積を特異的に誘導するような、画期的な新規薬剤の探索研究を進めていく。

¹⁾ 基礎生物学研究所 バイオイメージング解析室

²⁾ 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所

³⁾ リサーチレジデント

⁴⁾ 微生物病研究所 分子免疫制御分野

⁵⁾ 千葉大学大学院医学研究院 遺伝子生化学

システム解析学分野

<研究課題> 1

- (主 題) 統計的モデリングおよび深層学習を活用したがんゲノムデータ解析法の開発研究
- (副 題) 機械学習によるタンパク質間結合能予測モデルの開発

<研究者氏名>

郭 中梁、松下博和、山口 類

【目的・概要・進捗状況】

近年の AI / 機械学習技術の進展により、AlphaFold (AF) 等、アミノ酸の一次元配列からタンパク質の三次元構造を推定することができる AI モデルが開発されており、コストや技術的困難から実験による測定ができなかった多くのタンパク質について構造に関する情報を得ることができるようになり、医学・生物学の領域に大きなインパクトを与えている。2024 年のノーベル化学賞を AF の開発者らが受賞したことは記憶に新しい。このような技術は現在進行形で発展しており、薬剤開発等に役立てられることが期待されている。またタンパク質は、多くの生理現象・機能において複数のタンパク質が結合して機能を果たすことが知られている。AF の改良版においても、タンパク質複合体の構造の予測ができるようになって来ているが、タンパク質間の結合親和性について高精度に情報を得ることは難しい。そのためタンパク質間の結合親和性を高精度に予測できれば、薬剤開発や生体機能の解明について貢献することが期待される。ゆえに我々はタンパク質間の結合能を高精度に予測する機械学習モデルの開発に取り組んでいる。特に抗原タンパクと抗体間の結合能予測や、T 細胞受容体 (TCR) とペプチド HLA 複合体 (pHLA) の結合を高精度に予測することで、抗体や TCR の配列の最適化への応用を目指して開発を進めている。これまで我々は、アミノ酸の配列特徴量を ESM2 というタンパク質言語モデルから抽出し、タンパク質の立体構造の特徴量を、PDB データベースから得たタンパク質立体構造の実測データから、抽出した。具体的には、立体構造の特徴量は、タンパク質結合面にある分子群の立体的な配置の情報をトポロジカルデータ解析の手法に基づき、パーシステント図として表現することで抽出している。その後 Gradient Boosting Tree (GBT) モデルを用いて、上記の二つの特徴量を統合するマルチモーダル機械学習モデルの開発を行い、既存の手法よりも高い精度で結合能予測を行うことに成功した (Guo et al, GIW, 2023)。ここで、今年度は、上記のモデルの改良に取り組んだ。まず、先に述べたように、配列の知られている全てのタンパク質について実測された立体構造を得ることは難しい。そこで我々は、実測の立体構造を AF で予測された立体構造に置き換えて予測モデルを構築することを試みた。しかしながら、実際の立体構造の情報をトレーニングに使った場合に比べて低下するという結果を得て、原因の考察を進めた。さらに新たなトポロジカル特徴の導入などを試みた。

【今後の方向】

新たなトポロジカル特徴量の構成法や、GBT モデルをニューラルネットワークベースのモデルに置き換える等をして更なる性能の向上を目指す。

<研究課題> 2

- (主 題) 臨床シーケンスへ向けたがん変異およびシステム変調情報の解釈・翻訳法の研究
- (副 題) RVINN (RNA-Velocity Informed Neural Network) による RNA-seq 時系列データからの情報抽出法の開発

<研究者氏名>

武藤 理、郭 中梁、山口 類

【目的・概要・進捗状況】

臨床がんゲノムパネル検査が 2019 年より保険適用となり、がんゲノム医療が本格化している。我々は、近未来の、全ゲノムシーケンスおよび複数オミックスデータの統合解析に基づく、がん臨床シーケンスの実現に向けた情報解析基盤技術の開発を進めている。臨床シーケンスにおいては、現在は DNA のシーケンスが主流であるが、今後 RNA 等の情報をも個々人のサンプルから得られることが予想される。また PDX モデルや、オルガノイドモデルからの薬剤反応性時系列データ等の取得も視野に入る。本研究では、時系列 RNA-seq データからの深い情報抽出を目指し、Physics Informed Neural Network (PINN) を活用した機械学習手法の開発を進めた。ここでは、RNA-seq データから得られる二種類の配列計測データ (リード) を利用する。一つは、遺伝子のエクソン領域の配列のみを含むリード、一方はイントロン領域の配列を含むリードである。前者は、成熟 mRNA の量を反映し、後者は新生 RNA の量を反映する。時系列 RNA-seq データからえられる各遺伝子の二種類のリードの情報から、転写、スプライシング、分解といった RNA のライフサイクルを司る量の推定を試みた。ここでは RNA ライフサイクルを表現する微分方程式モデルを利用する。既存の手法では、モデルに低まれる、転写率、スプライシング率、分解率といったパラメータが、定数として扱われている。しかしながら転写バーストや、振動する現象を、捉えることができない問題があった。我々は、その困難を克服するために上記のパラメータ群を事変パラメータとして扱い推定する方式を考案した。本方式ではニューラルネットワークモデルに対して PINN の枠組みで、RNA ライフサイクルモデルの情報を背景知識として教えこむことにより、柔軟かつ生物学的知識に矛盾しない解釈可能性の高い結果を得ることが期待される。本年度は、同手法を RVINN (RNA-Velocity Informed Neural Network) と命名し、シミュレーションデータおよび実データによる検証と、既存手法との比較を進めた。実データからは、転写リップル (さざ波) 効果がゲノムワイドに起きていることを可視化することに成功した。また転写バッファリングの検証においては、転写バッファリングが起きている遺伝子群を同定し、さらにそれらの遺伝子群には RNA 結合

性タンパク質の結合モチーフを持つ遺伝子が濃縮していることを見出した。これらの結果を論文にまとめ査読付き国際会議 ISMB 2024 に投稿した。

【今後の方向】

個々人の臨床シークエンスデータの背後にあるがん細胞のシステムに関わる情報を抽出するために、当手法を適用し、遺伝子制御ネットワークや動的制御モデルの推定につなげ、がん種ごとの制御機構の特徴発見や将来的な治療法選択につなげることを目指す。

腫瘍制御学分野

<研究課題> 1

(主題) がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用

(副題) mTORC2 を標的とした新規がん治療薬の開発

<研究者氏名>

小根山千歳、宮田眞美子、和田琴恵

<目的・概要・進捗状況>

最初に同定されたがん原遺伝子産物であるチロシンキナーゼ c-Src は、様々ながんにおいて発現や活性の亢進が認められる。しかし腫瘍組織においても src 遺伝子自体の変異はほとんど見られず正常型として発現している。即ち細胞には Src の恒常性を維持し、不要な Src シグナルの伝播を阻止する巧妙な分子メカニズムがあり、その破綻ががん進展に深く関わっていると示唆されるが、その詳細は未だ明らかとなっていない。私たちはこれまでに、がんにおける異常な Src シグナルによる miRNA を介した遺伝子発現ネットワークを明らかにしてきた。その結果、Src 活性化に伴い発現減少する miRNA 群を見出し、それらが協調して mTORC2 (mTOR 複合体 2) の構成因子の発現を制御していることを明らかにした。今年度は、mTORC2 の機能を阻害する薬剤を取得するため、構成因子の発現量や相互作用に着目した独自のスクリーニング法を構築し、至適化した。

<今後の方向>

構築した mTORC2 機能阻害剤スクリーニング系を用いて、mTORC2 機能阻害剤のハイスループットスクリーニングを行ない、さらに mTORC2 選択性や薬効など評価を行う。

<研究課題> 2-1

(主題) 細胞間コミュニケーションを介したがん進展メカニズムの解明

(副題) EV の形成制御とがん進展

<研究者氏名>

董 悦、安達晴喜¹⁾、和田琴恵、宮田眞美子、小根山千歳

<目的・概要・進捗状況>

エクソソームなど細胞外小胞 (EV) は、内部にタンパク質や RNA 分子を含む膜小胞で、細胞から能動的に分泌され、不要物の排出に関わる他、体内を循環して他の細胞に取り込まれることで、細胞間コミュニケーションを担うと考えられている。がん細胞においては、EV 形成・放出が亢進していることが知られており、ニッチ形成を介して転移やその臓器指向性にも関与するなど多様な機能が明らかとなりつつある。しかし、がん細胞における EV の形成や分泌の亢進メカニズムについてはほとんど明らかとなっていない。私たちはこれまでに、様々ながんで活性化している Src シグナルによって、内包される分子の量が変化することを見出した。今年度は、Src の活性化によって EV への内包が変化する miRNA に着目し、RNA 結合蛋白質を同定することで詳細な EV 内包メカニズムを解析した。その結果、がんシグナルによって RNA 結合蛋白質の miRNA とのアフィニティが強くなり、特異的な miRNA の EV への内包が亢進することを明らかとした。

<今後の方向>

がん特異的な RNA 結合蛋白質を介した EV 内包メカニズムを詳細に解析する。また RNA 結合蛋白質により内包 miRNA が変化した際の EV のがん形質に対する作用を解析し、がん微小環境の構築における機能を明らかにする。

¹⁾ 連携大学院生 (名古屋市立大学大学院薬学研究所)

<研究課題> 2-2

(主題) 細胞間コミュニケーションを介したがん進展メカニズムの解明

(副題) EV 分泌阻害剤の探索と作用機序解明

<研究者氏名>

董 悦、安達晴喜¹⁾、和田琴恵、宮田眞美子、小根山千歳

<目的・概要・進捗状況>

これまで EV マーカーをルシフェラーゼ標識することによって生じた発光 EV を検出する方法を開発し、それを発展させ EV 分泌阻害剤の探索系を構築した。そこで新規 EV 分泌阻害剤の同定を目指し、およそ 400 種の既存シグナル阻害剤のスクリーニングを行った。その結果、ある EV マーカーを選択的に抑制する EV 分泌阻害剤を見出した。詳細な作用機序解析の結果、本化合物は既存の標的分子でなく他の経路に作用することで EV 分泌を阻害することが明らかとなった。

<今後の方向>

引き続き他の新規 EV 分泌阻害剤の探索を行うと共に、作用機序解析を行うことでがん特異的な EV 分泌亢進メカニズムを明らかにする。

¹⁾ 連携大学院生 (名古屋市立大学大学院薬学研究所)

腫瘍免疫応答研究分野

<研究課題> 1

(主題) がん免疫の活性化制御機構の解明と賦活化法開発

<研究者氏名>

牧野友紀¹⁾、川口 洋¹⁾、鍋倉 宰

【目的・概要・進捗状況】

ナチュラルキラー（NK）細胞は、T細胞が認識できないMHCクラスIの発現が低下したがん細胞を、多様な活性化NK受容体で認識して活性化し、細胞傷害活性を示す。故に、NK細胞はがん免疫に必須であり、その賦活化法は、現行の免疫療法に治療抵抗性を示すがんの治療に有用であると考えられる。しかし現在、NK細胞のがん免疫応答を賦活化する方策は確立されていない。NK細胞は既存の免疫チェックポイント分子を高発現しないことから、NK細胞がん免疫を人為的に活性化する為には、創薬標的となる新規抑制分子の同定が必要である。

我々は、長らく未同定であったNK細胞がん免疫チェックポイント分子として、シグナル伝達足場タンパク質 Themis2を発見した（Nat Commun 2023）。Themis2は多様な活性化NK受容体シグナル伝達を抑制する事で、NK細胞がん免疫を抑制する事が明らかになった（J Immunol 2024）。従って、Themis2の阻害剤はNK細胞がん免疫を賦活化する革新的創薬になり得ると考え、Themis2阻害剤の探索に着手した。当該化合物を探索する目的で、公共データベースを用いた深層学習を通じ、タンパク質と化合物の結合を予測する人工知能を活用した。その結果、マウス Themis2、及びヒト Themis2に結合し得る低分子化合物を予測し、Themis2阻害剤候補となる承認薬を複数種類得た。これら承認薬がNK細胞活性を増強するか否かを検証する為、野生型マウスNK細胞を承認薬存在下で培養し、活性化NK受容体刺激後の細胞傷害活性を評価した。その結果、一つの承認薬については、濃度依存的にNK細胞の細胞傷害活性とインターフェロン γ 産生能を増強した。また、この機能増強効果はThemis2欠損マウスNK細胞で減弱した。更に、初代培養ヒト血液由来NK細胞を当該承認薬存在下で培養し、ヒト白血病細胞株、及びヒト肺癌細胞株と共培養した結果、当該承認薬は細胞傷害活性とインターフェロン γ 産生能を増強した。以上から、当該承認薬はThemis2による活性化NK受容体シグナル伝達の抑制機能を阻害する事で、NK細胞がん免疫の賦活化剤としてリポジショニングできる可能性が示された。

【今後の方向】

当該承認薬によるNK細胞がん免疫活性化の分子制御機構の解明を目指す。また、ヒト腫瘍細胞、及び患者由来腫瘍組織を移植した免疫不全マウスに対してNK細胞を輸注後、当該承認薬を投与する事で、NK細胞がん免疫増強効果を評価する。更に、がん患者の末梢血NK細胞を当該承認薬で刺激し、NK細胞機能が亢進するか否かを検証する。当該承認薬によるNK細胞がん免疫の増強効果を検証した後、分子動力学計算や構造活

性相関等によってNK細胞がん免疫増強効果が高い化合物を探索するなど、最適化を試みる。

¹⁾ 任意研修生

<研究課題> 2

(主題) 承認薬によるがん免疫制御機構の解明と応用

<研究者氏名>

楠本 茂、鍋倉 宰

【目的・概要・進捗状況】

がん免疫療法は治療選択として確立されたが、奏効率は未だ限定的である。現行の免疫療法はT細胞の賦活化法であるが、がん細胞はHLAクラスIの発現を低下させてT細胞から逃れ、治療抵抗性を獲得する。ナチュラルキラー（NK）細胞は、これらHLAクラスIが低下したがん細胞を、多様なNK受容体で認識して活性化して傷害する。故に、NK細胞はがん免疫に必要不可欠であり、その賦活化法は次世代の免疫療法の開発に有用である。しかし現在、NK細胞を賦活化する方策は確立されていない。従来は細胞毒性が強い抗がん剤による化学療法と異なり、一部のがん種に対する免疫調節薬による治療は、副作用を軽減して患者QOLを保ちつつ治療効果が高い治療法として注目されている。免疫調節薬を用いた治療における臨床的知見（副作用等）から、免疫調節薬がNK細胞の機能を調節する事が強く示唆される。しかし免疫調節薬がNK細胞に与える影響は明らかでない。

本研究では免疫調節薬がNK細胞の抗がん活性に与える影響を検証する事を目的とする。更に、免疫調節薬がNK細胞機能を増強する分子機序を解明し、NK細胞賦活化の新規創薬標的分子を同定し、免疫調節薬による次世代NK細胞療法の開発に向けた基盤的知見の獲得を目指す。現在までに、初代培養ヒト臍帯血由来NK細胞に対する免疫調節薬の処理により、白血病細胞株に対する細胞傷害活性とインターフェロン γ 産生能が上昇する事を示した。また、免疫調節薬によるNK細胞傷害活性とインターフェロン γ 産生能の増強効果は、Bリンパ腫細胞株、多発性骨髄腫細胞株、頭頸部扁平上皮癌細胞株に対しても観察された。更に、免疫調節薬がNK細胞の抑制性NK受容体の発現を低下させる事を見出し、上記NK細胞機能増強効果の一端を担う事が示唆された。一方で、免疫調節薬は、ヒト腫瘍細胞株の細胞培養における増殖や細胞死、並びに免疫不全マウスへの皮下移植後の増勢に殆ど影響を与えない事が確認された。以上から、臨床応用されている免疫調節薬はNK細胞に直接作用し、その抗がん活性を調節している可能性が強く示唆された。

【今後の方向】

NK細胞における免疫調節薬の影響を詳細に評価する目的で、初代培養ヒト血液由来NK細胞を免疫調節薬で処理し、NK受容体や細胞傷害エフェクター分子の発現・活性化状態・成熟段階・増殖能や細胞周期・生存因子の発現等の表現型を網羅的に評価する。また、ヒト腫瘍細胞、及び患者由来腫瘍組織を移植

した免疫不全マウスに対し、免疫調節薬で刺激したNK細胞を輸注する事で、がん治療効果を評価する。また、がん患者に対する免疫調節薬治療前後の末梢血NK細胞のオミックス解析から、免疫調節薬の標的候補分子を特定する。

腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

<研究課題> 1

- (主題) がん免疫編集のメカニズムの解明
(副題) 腫瘍免疫微小環境の評価

<研究者氏名>

岡本貴成¹⁾、野平翔太¹⁾、水田 亮²⁾、篠原周一³⁾、
孫 宇佳³⁾、松井琢哉¹⁾、岡村文子、村岡大輔、
山口 類、黒田浩章、大野真佐輔、松下博和

【目的・概要・進捗状況】

腫瘍免疫微小環境 (TIME) をより良く理解することが、その患者の予後や治療効果を予測するバイオマーカーの開発につながると考えられる。しかし、TIME を構成する様々な因子の相互作用を包括的に評価する方法はほとんどなかった。我々は、肺癌の RNA-seq と全エクソームシーケンスのデータを用いて、TIME を構成する因子に基づく新しいスコアリングシステム (TIME score) を開発した (Shinohara et al, J Immunother Cancer 2022)。

肺腺癌の solid subtype は、その他の subtype と比べて分子標的治療薬などの治療が奏功しにくく、予後が悪いことが知られている。そこで、Solid subtype の予後不良の原因を RNA-seq や全エクソームシーケンスのデータを用いて調べたところ、solid subtype は他の subtype に比べて IFN- γ の反応性が低下しており、それが予後不良に関わっていることを明らかにした (Shinohara et al, Transl Lung Cancer Res, in press)。

腫瘍免疫微小環境における三次リンパ様構造 (TLS) の存在と治療効果や予後との関連が様々ながん種で報告されている。膠芽腫、転移性脳腫瘍における TLS の存在を明らかにするために、抗 CD3, CD4, CD8, CD20 抗体等を用いて免疫染色を実施した。転移性脳腫瘍において、TLS の存在が予後良好因子となる可能性を示した (Nohira et al, Anticancer Res 2024)。また、膠芽腫 42 検体の RNA-seq を実施し、膠芽腫の遺伝子背景及び TIME に基づく予後因子を証明らことにした (Okamoto et al, J Neurooncol 2024; Okamoto et al, Cancer Genet. 2025)。さらに、膠芽腫で TLS を認めた症例において、Visium 解析 (空間的遺伝子発現解析) を実施し、TLS の形成機序について検討を行った (Mizuta et al, manuscript in preparation)。

【今後の方向】

バルクの RNA 発現による TIME の評価法をさらに発展させるために、腫瘍の免疫組織学的解析、T 細胞のシングルセル解析、Visium 解析等の詳細な検討を行っている。

¹⁾ 任意研修生、²⁾ リサーチレジデント、³⁾ 連携大学院生

<研究課題> 2

- (主題) 新生抗原 (ネオアンチゲン) の同定と免疫応答の解析

<研究者氏名>

石原宏政¹⁾、岡本貴成¹⁾、村岡大輔、岡村文子、
小野口和英²⁾、山下慶子²⁾、山口 類、田口 歩、
松下博和

【目的・概要・進捗状況】

免疫チェックポイント阻害剤を用いた治療において、がんが保有する変異抗原 (ネオアンチゲン) エピトープを認識する細胞傷害性 T リンパ球 (CTL) が、腫瘍細胞の排除に重要な役割を果たしていることが明らかになっている。がん細胞における変異は個々の患者において様々であり、ネオアンチゲンの探索も個別に行う必要がある。我々は、Single Cell RNA sequencing (scRNA-seq) および TCR sequencing (scTCR-seq) を活用して、Tex (exhausted T cell) クラスターの CD8⁺ 細胞と、日本電気株式会社 (NEC) の人工知能 (AI (グラフベース関係性学習)) で予測された抗原ペプチドとの反応性を検討し、複数の抗原と TCR のペアを同定した (Komuro et al, J Immunother Cancer 2023; Sugita et al, OncoImmunology 2024)。さらに、CD8⁺T 細胞 scRNA/TCR-seq による Tex-TCR の検出を、HPV 陽性中咽頭癌で試み、その TCR が HPV-16 由来の抗原を認識することを明らかにした (Ishihara et al, manuscript in preparation)。

【今後の方向】

肺癌でのアプローチを、脳腫瘍及び頭頸部癌にも応用して、抗原及び抗原特異的 T 細胞を同定する。

¹⁾ 任意研修生

²⁾ AI Drug Development Division, NEC Corporation

<研究課題> 3

- (主題) ネオアンチゲンを標的としたがん免疫療法の開発
(副題) TCR 遺伝子導入 T (TCR-T) 細胞治療の開発

<研究者氏名>

村岡大輔、Yizheng Wang¹⁾、岡村文子、小野口和英²⁾、
山下慶子²⁾、山口 類、松下博和

【目的・概要・進捗状況】

我々は、scRNA-seq および scTCR-seq を活用して、肺癌から腫瘍特異的 CD8⁺ 細胞集団を特定し、その集団内の T 細胞が認識する腫瘍抗原の同定を試みてきた。しかし、実際の腫瘍では、腫瘍特異的 T 細胞が腫瘍周辺に留まり腫瘍領域に到達することができず、腫瘍細胞の排除ができないことが知られており、T 細胞の腫瘍領域への浸潤を規定する機構の解明が喫緊の課題とされている。

我々は、空間的遺伝子発現解析情報に一細胞遺伝子発現解析

情報を紐づける独自の技術を確立し、腫瘍局所における腫瘍特異的 T 細胞の局在とこれらの T 細胞における詳細な遺伝子情報を明らかにすることに成功した。現在、この画期的な技術を用いて、腫瘍領域へと浸潤できる抗原特異的 T 細胞と浸潤できない抗原特異的 T 細胞の特徴を詳細に比較解析し、腫瘍特異的 T 細胞の腫瘍内浸潤を規定する因子を探索している。

また、TCR 遺伝子導入 T (TCR-T) 細胞治療の開発の加速するために、抗原と TCR の結合予測を AI のみで行うシステム開発を NEC と共同で進めた。

【今後の方向】

TCR-抗原ペア同定アルゴリズムと空間遺伝子発現解析を統合したシステムを、将来の固形がんに対する TCR 遺伝子導入 T (TCR-T) 細胞治療の開発に応用する。

¹⁾ リサーチレジデント、

²⁾ AI Drug Development Division, NEC Corporation

分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

<研究課題> 1

(主題) がんの診断・治療個別化に有用な血液バイオマーカーの探索

(副題) 大腸癌の早期診断を目指した血液バイオマーカーの探索同定

<研究者氏名>

田口 歩、磯村久徳¹⁾、小林信

【目的・概要・進捗状況】

我が国において、大腸癌の罹患者数は増加傾向で、約 15 万人と全がんの中で最多であり、また死亡者数も 5 万人超と肺癌について 2 番目に多い。大腸癌の 5 年相対生存率は、局所限局症例では 95% 以上と非常に良い一方で、局所限局症例の占める割合は全体の約 40% に過ぎず、その診断の遅れが問題となっている。大腸癌を早期発見するためのスクリーニングとして、免疫法便潜血検査が行われている。便潜血検査は、受診者の負担が低く、また大腸癌による死亡率を減少させることが証明されているが、疑陽性率が高く、その陽性的中率はわずか 5% 前後であること、また早期大腸癌に対する感度も約 50% と低いことから、より精度が高い早期診断法の開発が急務である。

血液バイオマーカーは、簡便かつ低侵襲、低コストで高スループットな診断法であり、癌の早期診断やスクリーニングにおいて有望である。本研究では、臨床上有用な診断精度を持つ、高リスク大腸腺腫・早期大腸癌の血液診断バイオマーカーの探索を目指して、高リスク大腸腺腫・早期大腸癌患者から採取された血漿検体を用いて、血中タンパク質と自己抗体の網羅的かつ高深度なプロファイリングを行う。

現在までに、4 つの血漿検体セットを用いて高深度血漿タンパク質解析を行った。3 つの施設（愛知県がんセンター、藤田医科大学消化管内科、滋賀医科大学消化器内科）から提供され

た血漿検体について、それぞれ施設、性別（男、女）、組織型（腺腫、腺癌）、発生部位（右側、左側）、遺伝子変異（KRAS、BRAF）などの臨床情報に基づいてサンプルをプールし、安定同位体標識を用いて標識したのち、サンプルを大規模に分画して、高深度かつ定量的な質量分析を nano-LC/MS/MS を用いて行った。各プロテオーム解析において、それぞれ 800 ~ 1,100 個の微量タンパク質が同定できた。そのうち、有望と考えられたバイオマーカー候補については、現在アッセイの確立と 150 例（正常対照、低リスク大腸ポリープ、高リスク大腸ポリープ、早期大腸癌、進行大腸癌それぞれ 30 例ずつ）の血漿検体を用いた初期検証を進めている。さらに既存の大腸がんバイオマーカー（CEA、CA19-9、p53 抗体、CYFRA21-1、LGALS3、TIMP-1）についても併せて検証を行っている。また、抗原-自己抗体高深度プロテオーム解析による自己抗体プロファイリングに基づいて、有望なバイオマーカー候補と考えられた自己抗体についても同様に初期検証を進めている。初期検証で有望と考えられたバイオマーカーを組み合わせるバイオマーカーパネルの構築を行ったところ、正常と大腸腫瘍性病変（低リスク大腸腺腫 + 高リスク大腸腺腫 + 早期大腸癌 + 進行大腸癌）、正常と大腸ポリープ（低リスク大腸腺腫 + 高リスク大腸腺腫）、正常と大腸癌（早期大腸癌 + 進行大腸癌）の比較において、バイオマーカーの組み合わせは AUC がそれぞれ 0.828、0.921、0.860 であり、CEA 単独の AUC である 0.584、0.530、0.637 を有意に上回った ($P < 0.001$, $P < 0.001$, $P = 0.003$)。また、プロテオゲノミクスパイプラインを新たに開発し、大腸癌特異的自己抗体結合ノンカノニカルタンパク質を同定、その検証にも成功した。

【今後の方向】

初期検証において有望と考えられたバイオマーカーについては、便潜血陽性症例 223 例（そのうち高リスク大腸ポリープから進行大腸癌 67 例を含む）、大腸癌と診断される前に収集された血液検体 130 例（+ 正常対照 130 例）を用いてさらに検証する。ノンカノニカルタンパク質に対する自己抗体の検証も並行して行う。

¹⁾ リサーチレジデント

<研究課題> 2

(主題) 網羅的分子プロファイリングによるがんの分子病態の解明と新規治療標的分子の探索

(副題) 大腸癌転移モデルのマルチオミクス解析による大腸癌転移機構の解明と制御法の開発

<研究者氏名>

田口 歩、磯村久徳¹⁾、小林 信、梶野泰祐

【目的・概要・進捗状況】

遠隔転移を有する Stage IV 大腸癌の 5 年生存率は約 20% と予後不良であり、大腸癌の生存率向上のためには、再発・転移巣の制御が極めて重要である。転移性大腸癌の分子生物学的な

知見は集積しつつあるものの、有効な治療法の開発には至っておらず、革新的なアプローチによって転移性大腸癌の克服に取り組む必要がある。

我々は、大腸癌転移モデルとして、マウス大腸癌細胞株 CT26 の in vivo selection を行い、肝転移 (CT26-L6)、リンパ節転移 (CT26-LN6)、腹膜転移 (CT26-P6) をそれぞれ高頻度起こす亜株と、転移を起こしにくい亜株 (CT26-N5) をそれぞれ樹立した。低転移性亜株に比べ、各高転移性亜株では高い遊走・浸潤能を獲得していた。各亜株において、RNA シーケンス解析と多層プロテオーム解析を行い、それぞれの分子プロファイルと比較したところ、特に転移関連分子 AVIL が、腹膜転移亜株で高発現していることを見出した。腹膜転移亜株において、siRNA を用いた AVIL のノックダウンにより、細胞の遊走浸潤能が著明に低下した。in vivo においても AVIL のノックダウンは、腹膜転移形成を抑制した。また、ヒト大腸癌細胞株においても AVIL のノックダウンによって、同様に遊走・浸潤能が有意に低下することが観察され、AVIL が大腸癌腹膜転移において重要な役割を果たしていることが示唆された。また、GSEA 解析から AVIL が JAK-STAT シグナル経路によって制御されていることが明らかになった。IP-MS によって AVIL の結合タンパク質を探索したところ、受容体型チロシンフォスファターゼ PTPRB が同定された。PTPRB のノックダウンによってヒト大腸癌細胞株の遊走・浸潤能が有意に低下したことから、AVIL が PTPRB の機能制御に関わっていることが示唆された。さらに、リン酸化タンパク質の解析から浸潤・転移に関連するタンパク質群のリン酸化が AVIL あるいは PTPRB のノックダウンで変化することを突き止めた。

現在高肝転移亜株、高リンパ節転移亜株においても同様に解析を進めており、本研究を通じて大腸癌転移に関わる分子機構を俯瞰的に解明し、大腸癌転移を制御するための新規分子標的治療法の開発を目指す。また、並行して大腸癌原発巣と肝転移巣の臨床検体から作成した患者腫瘍組織移植 (PDX) モデルについても、多層オミクス解析を行っており、さらなる新規転移関連分子の同定を目指している。

¹⁾ リサーチレジデント

がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

<研究課題> 1

(主題) 各種固形腫瘍に対する新規分子標的治療開発

<研究者氏名>

衣斐寛倫、田中伯享、梶野泰祐、桑 納¹⁾、北浦洋子、杉山チャヌポーン、山本隆正、早川 政²⁾、山口 類

【目的・概要・進捗状況】

大腸がんによる死亡者数は年間 5 万人程度で、男性のがん死亡の第 3 位、女性では第 1 位の原因である。大腸がんの術後再発メカニズムの解明および新規治療開発のため、切除可能大腸がんの手術検体よりオルガノイドの作成を行うとともに、腫瘍

検体の全エクソームシーケンス解析とそれに基づいて患者個別に設定された対象遺伝子の ctDNA 解析、腫瘍検体の RNA シーケンス解析のデータを統合解析し、新たな標的分子の同定と治療開発につなげる。本研究は、多施設共同臨床試験であり、当院のデータと試験全体のデータの統合解析を行っている。

【今後の方向】

ctDNA 解析結果と臨床病理学的背景の関わり、ctDNA 解析結果により判定される術後補助療法に対する感受性と発現プロファイルの相関などの解析により標的分子の選定を進める。

<研究課題> 2

(主題) 承認済み分子標的薬における初期・獲得耐性機序の解明・克服

<研究者氏名>

衣斐寛倫、田中伯享、梶野泰祐、桑 納¹⁾、北浦洋子、杉山チャヌポーン、山本隆正、早川 政²⁾

【目的・概要・進捗状況】

固形腫瘍において、KRAS 遺伝子は高頻度に変異を認めるが、有効な治療法が存在しないため新たな治療開発が急務である。KRAS 変異にはいくつかのホットスポットが存在し、そのうち 12 番目のアミノ酸であるグリシンがシステインに変異する KRAS G12C 変異は、肺がんの 4.5%、大腸がんの 2.3% に存在することが知られている。近年、KRAS G12C 変異タンパクを特異的に阻害する薬剤が開発され、2021 年末に薬事承認された。我々は、KRAS G12C 変異を有するがん細胞株の解析から、KRAS タンパクの発現が KRAS G12C 阻害薬の感受性に関与することを見出した。また、KRAS タンパクの発現は、腫瘍の上皮間葉移行状態に関連しており、腫瘍細胞が間葉系の性質を獲得することにより KRAS G12C 阻害薬に耐性となることや、上皮間葉移行が起きるメカニズムについて取り組み、候補分子を同定した (Clinical Cancer Res, 2020. Nature Cancer 2023)

【今後の方向】

KRAS の他の部位に対する特異的阻害薬も開発が進んでいることから、KRAS G12C 阻害薬は、今後の KRAS 変異腫瘍に対する治療のモデルケースとなることが考えられる。現在、上皮間葉移行状態以外の KRAS G12C 阻害薬の初期・獲得耐性機序や、上皮間葉移行状態が誘導されるメカニズムについても検討を進めており、これらの原因が明らかにされることにより、KRAS 阻害薬の効果が期待される患者の同定や、効果が期待できない患者に対する併用療法などの新たな治療選択の提示につなげたい。

¹⁾ リサーチレジデント、²⁾ 連携大学院生 (名古屋大学医学部)

第2章 研究発表関係

1. 学会等における研究発表テーマ調べ（総長）

総長

- 001 丹羽康正：抗血栓薬内服者に対する消化管内視鏡治療のマネジメント。第110回日本消化器病学会総会，2024，（徳島），[パネルディスカッション司会]
- 002 丹羽康正：消化器がん検診は早期発見から未病状態の特定へ。第63回日本消化器がん検診学会総会，2024，（名古屋），[会長講演司会]
- 003 丹羽康正：上部消化管がん検診の現状と革新的未来。第63回日本消化器がん検診学会総会，2024，（名古屋），[ワークショップ司会]
- 004 丹羽康正：消化器がん検診の現状と今後。第53回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会，2024，（富山），[特別講演]

2. 学会等における研究発表テーマ調べ（病院）

病院長

- 001 **Izutsu K, Kumode T, Yuda J, Nagai H, Mishima Y, Suehiro Y, Yamamoto K, Fujisaki T, Ishitsuka K, Ishizawa K, Ikezoe T, Nishikori M, Akahane D, Fujita J, Jafarinasabian P, Noguchi H, Buchbjerg JK, Favaro E, Fukuhara N** : *Epcoritamab in Japanese Patients With Relapsed/Refractory Diffuse Large B-Cell Lymphoma: EPCORE NHL-3 Longer-Term Data*. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集, 2025, (神戸), [口頭発表]
- 002 見目絵光, 楠本 茂, 加藤省一, 川口裕佳, 齋藤統子, 野中綾子, 細田和貴, 山本一仁: マントル細胞リンパ腫と T 細胞性前リンパ球性白血病の composite lymphoma. 第64回日本リンパ網内系学会学術集会, 2024, (東京), [ポスター]
- 003 川口裕佳, 楠本 茂, 見目絵光, 萩原真也, 齋藤統子, 加藤省一, 細田和貴, 山本一仁: 抗 PD-1 抗体後の自家末梢血幹細胞移植後にサイトカイン放出症候群を発症したホジキンリンパ腫の一例. 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口頭発表]
- 004 入山智沙子, 酒井リカ, 齋藤統子, 中村信彦, 松田安史, 笠原千嗣, 梶口智弘, 福原規子, 加藤丈晴, 小林宣彦, 鏡味良豊, 古川勝也, 岡田耕平, 澤 正史, 齋藤明子, 山本松雄, 木下朝博, 小椋美知則, 永井宏和, 山本一仁: 再発濾胞性リンパ腫に対するオピヌツズマブ+ベンダムスチン療法第II相試験の安全性評価(造血器腫瘍研究会) Safety Analysis of a Multicenter phase II Trial of Obinutuzumab+Bendamustine for Rituximab Sensitive Relapsed Follicular Lymphoma. 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口頭発表]

消化器内科部

- 001 **Hara K** : Precision Biliary Drainage. The 4th SILOAM ONCOLOGY SUMMIT, 2024, (Indonesia), [特別講演]
- 002 **Hara K** : EUS-guided approach: Tips and tricks for benign anastomotic stricture. The 4th SILOAM ONCOLOGY SUMMIT, 2024, (Indonesia), [特別講演]
- 003 **Hara K** : EUS LIVE DEMO. The 4th SILOAM ONCOLOGY SUMMIT, 2024, (Indonesia), [ワークショップ]
- 004 **Hara K** : Hands-on workshop. The4thSILOAM ONCOLOGY SUMMIT, 2024, (Indonesia), [ワークショップ]
- 005 **Hara K**: EUSを用いた消化器疾患への新たなチャレンジ. 第107回日本消化器内視鏡学会総会, 2024, (東京), [ワークショップ座長]
- 006 **Hara K** : LIVE DEMO. International digestive disease forum (IDDF) 2024, 2024, (香港), [ワークショップ]
- 007 **Hara K** : Usefulness of iEUS using FV-EUS. IDDF2024, 2024, (香港), [特別講演]
- 008 **Hara K** : EUS-guided hepaticogastrostomy and hepaticoduodenostomy for malignant hilar obstruction. IDDF2024, 2024, (香港), [特別講演]
- 009 **Hara K** : The Role of ERCP and EUS-BD in the Advancement of Cancer Treatment. Advanced biliopancreaticendoscopy course 4, 2024, (台北), [講演]
- 010 **Hara K** : The Role of ERCP and EUS-BD in Severe Hilar Block. 2024 復旦大学附属中山病院 EUS 症例討論会, 2024, (上海), [特別講演]
- 011 **Hara K** : EUS, EUS-FNA Hands-on Workshop. 2024 復旦大学附属中山病院 EUS 症例討論会, 2024, (上海), [ワークショップ]
- 012 **Hara K** : EUS-RV &antigrade stenting. WEO International School of EUS (WISE) 2024 Module IV, 2024, (韓国), [講演]
- 013 **Hara K** : Session I. EUS-guided Biliary Drainage. WEO International School of EUS (WISE) 2024 Module IV, 2024, (韓国), [座長]
- 014 **Hara K** : Endoscopic Live Demo. THE 9TH DIGESTIVE CONFERENCE in BACH MAI HOSPITAL, 2024, (ハノイ), [ワークショップ]
- 015 **Hara K** : Precision Biliary Drainage. THE 9TH DIGESTIVE CONFERENCE in BACH MAI HOSPITAL, 2024, (ハノイ), [講演]
- 016 **Hara K** : Endoscopic approaches: ERCP and EUS-guided drainage. SGI2024, 2024, (ソウル), [講演]
- 017 **Hara K** : Unforgettable and dangerous complications of EUS-BD. SGI2024, 2024, (ソウル), [講演]

- 018 **Hara K** : How to manage the complications by EUS=BD. AEG Korea Interventional EUS Workshop, 2024, (ソウル), [口演]
- 019 **Hara K** : Forward viewing EUS. EUS Summit 2024, 2024, (ソウル), [講演]
- 020 **Hara K** : Interventional Endoscopy for Biliary Drainage. 第17回新華消化器内視鏡フォーラム, 2024, (上海), [講演]
- 021 **Hara K** : ENDOSCOPY LIVE WORKSHOP. ESDE LIVE ENDOSCOPY, 2025, (EGYPT), [座長]
- 022 **Hara K** : AEG Workshop NAGOYA 2025 Day1. AEG Workshop NAGOYA 2025, 2025, (名古屋), [座長]
- 023 **Hara K** : AEG Hands-on Workshop NAGOYA 2025 Day2. AEG Workshop NAGOYA 2025, 2025, (名古屋), [座長]
- 024 **Kobayashi S, Ohba A, Ozaka M, Mizusawa J, Okusaka T, Yamashita T, Ikeda M, Yasuda I, Sugimori K, Sasahira N, Ikezawa K, Miki I, Okano N, Mizuno N, Furukawa M, Shirakawa H, Sano Y, Katayama H, Furuse J, Ueno M** : GnP vs mFOLFIRINOX or S-IROX in metastatic pancreatic cancer: 1-year follow-up updated data from the GENERATE (JCOG1611). ESMO 2024, 2024, (Spain), [ポスター]
- 025 **Okines AFC, Curigliano G, Mizuno N, Oh D-Y, Rorive A, Soliman HH, Takahashi S, Bekaii-Saab TS, Hamilton EP, Monk BJ, Nakamura Y, Nguyen D, O'Malley DM, Reck M, Yu EY, Ramos J, Tan S, Stinchcombe T, Pohlmann PR** : Tucatinib and trastuzumab for previously treated HER2 - mutated metastatic breast cancer (SGNTUC - 019) : A phase 2 basket study. ASCO 2024, 2024, (Chicago), [ポスター]
- 026 **Hijioka S, Honma Y, Machida N, Mizuno N, Hama-guchi T, Boku N, Sadachi R, Hiraoka N, Okusaka T, Hirano H, Boku S, Ikeda M, Takeuchi S, Fukushima N, Kojima M, Mitome N, Sano Y, Yoshikawa T, Kanemitsu Y, Ueno M** : A phase III study of combination therapy with everolimus plus lanreotide versus everolimus monotherapy for unresectable or recurrent gastroenteropancreatic neuroendocrine tumor (JCOG1901, STARTER-NET). 2025ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, 2025, (San Francisco), [口演]
- 027 **Hijioka S, Honma Y, Machida N, Mizuno N, Hama-guchi T, Boku N, Sadachi R, Ikeda M, Mitome N, Sano Y, Yoshikawa T, Kanemitsu Y, Ueno M** : The efficacy of first-line combination therapy with everolimus plus lanreotide for gastroenteropancreatic neuroendocrine tumour with a poor prognostic factor: Updated and subgroup analysis of the phase III study, STARTER-NET (JCOG1901). ENETS 2025, 2025, (Poland), [口演]
- 028 **Nakamura Y, Bekaii-Saab T, Hamilton E, Hayashi H, Mizuno N, Monk BJ, Nguyen D, Okines A, O'Malley DM, Pohlmann PR, Pothuri B, Reck M, Sudo K, Sunakawa Y, Takahashi S, Yu EY, Drees A, Tan S, Stinchcombe TE** : Tucatinib and Trastuzumab for Patients With Previously Treated, HER2- Altered Solid Tumors (SGNTUC-019) : A Phase 2 Basket Study. 36th EORTC-NCI-AACR Symposium on Molecular Targets and Cancer Therapeutics, 2024, (Spain), [Plenary Session]
- 029 **Haba S, Hara K, Okuno N** : Utility of Radial Incision and Cutting (RIC) for refractory Hepaticojejunostomy anastomotic stenosis. SGI 2024, 2024, (韓国), [ポスター]
- 030 **Okuno N, Hara K** : EUS-guided hepaticogastrostomy for preoperative patients undergoing pancreatoduodenectomy. SGI2024, 2024, (韓国), [Plenary free paper]
- 031 **Koda H, Hara K** : A case of Combined EUS-HGS and EUS-CJS for hepaticojejunostomy anastomotic stricture. AEG Round Table Train-the-Trainer EUS workshop in Hong Kong, 2024, (香港), [口演]
- 032 **Koda H** : EUS-FNB for Comprehensive Genomic Profiling. The United Conference of Hepatology Gastroenterology and Infectious Diseases Departments Al-Azhar Faculty of Medicine, 2024, (エジプト), [口演]
- 033 **Kondo T, Okuno N, Hara K** : EUS-guided vascular intervention for bile duct jejunal anastomosis variceal bleeding. SGI2024, 2024, (韓国), [ポスター]
- 034 **Yamamoto Y, Okuno N, Hara K** : Endoscopic ultrasound-guided drainage for mediastinal abscess: first report of bridge to surgery for esophageal cancer. IDDF2024, 2024, (Hong Kong), [e-Poster]
- 035 **Urata M, Hara K, Haba S, Okuno N** : Study of EUS-GBD Using the 19G Acquire Needle for Acute Cholecystitis. SGI2024, 2024, (韓国), [ポスター]
- 036 **原 和生** : 胆道癌に対する集学的アプローチ～TOPAZ-1の結果を踏まえて～. TOPAZ-1 Symposium in 愛知, 2024, (名古屋), [特別講演]
- 037 **原 和生** : 愛知県がんセンター消化器内科 施設紹介. 愛知県がんセンター消化器疾患懇話会, 2024, (名古屋), [講演]
- 038 **原 和生** : がん患者の疼痛コントロールと便秘のマネジメント～積極的な抗腫瘍療法と QOL 維持のために～. がんサポーターケアを考える会, 2024, (名古屋), [特別講演]
- 039 **原 和生** : 口演 睥癌 1. 第110回日本消化器病学会総会, 2024, (徳島), [座長]
- 040 **原 和生** : 免疫チェックポイント阻害薬導入における胆道がんの新たな治療戦略 ～1年間の使用経験からの学び～. AstraZeneca 胆道がん治療戦略シリーズ, 2024, (東京), [司会]
- 041 **原 和生** : PRRT 医療連携を考える. PRRT WEB SEMINAR, 2024, (名古屋), [座長]
- 042 **原 和生** : EUS-BD 初心者セミナー. 第4回 EUS-BD 初心者セミナー, 2024, (名古屋), [特別講演]

- 043 原 和生：EUS-BD の最前線仙台北内視鏡治療ライブセミナー。2024, (仙台), [特別講演]
- 044 原 和生：胆膵内視鏡の unmet medical needs を目指して。Juntendo Biliary and pancreatic Seminar, 2024, (東京), [特別講演]
- 045 原 和生：膵神経内分泌腫瘍の臨床。ノバルティス エリア勉強会, 2024, (名古屋), [特別講演]
- 046 原 和生：IPMN 悪性化 1. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024, (宇都宮), [座長]
- 047 原 和生：がんゲノム時代に胆膵内視鏡医が理解しておくべき膵胆道癌診療のトピックス。第 14 回肝胆膵フォーラム in Yamaguchi, 2024, (山口), [特別講演]
- 048 原 和生：Experience with TOPAZ-1 & Future Management Strategies for Cholangitis. Immunotherapy & Endoscopic Oncology Seminar 2024 in 中国四国, 2024, (岡山), [特別講演]
- 049 原 和生：第一部：EUS における秘訣とトラブルシューティング。第 22 回 FNA-Club, 2024, (東京), [座長]
- 050 原 和生：がん患者の疼痛コントロールと便秘のマネジメント。愛知県 OIC 病薬連携会, 2024, (名古屋), [特別講演]
- 051 原 和生：プレナリーセッション 2. 第 7 8 回日本消化器画像診断研究会, 2024, (横浜), [座長]
- 052 原 和生：PPC/WON 治療 Hot AXIOS が効果的な症例とは？。Endoscopy Professional On Air, 2024, (東京), [講演]
- 053 原 和生：一般演題 (口演) O26 「EUS-BD1」。第 60 回日本胆道学会学術集会, 2024, (名古屋), [座長]
- 054 原 和生：Interventional Endoscopy for Pancreato-biliary Diseases. 消化器疾患のこれから, 2024, (長野市), [特別講演]
- 055 原 和生：EUS-BD の Tips & Tricks. JDDW2024, 2024, (神戸), [シンポジウム]
- 056 原 和生：胆のう癌の術前化学療法中に DIC 傾向を呈した 1 例。愛知県がん診療セミナー：DIC を学ぶ, 2024, (名古屋), [司会]
- 057 原 和生：症例検討。愛知県がん診療セミナー：DIC を学ぶ, 2024, (名古屋), [座長]
- 058 原 和生：膵癌薬物療法 up to date ~最新エビデンスと治療戦略。The Cutting-edge Conference on Pancreatic Cancer in Winter, 2024, (名古屋), [司会]
- 059 原 和生：AXIOS の適切な使用方法について。AXIOS 講習会, 2024, (岐阜), [ワークショップ]
- 060 原 和生：膵・消化管神経内分泌腫瘍の内視鏡診断。膵・消化管神経内分泌腫瘍スキルアップセミナー, 2024, (東京), [講演]
- 061 原 和生：EUS-CDS の温故知新。FNA Masters, 2025, (東京), [講演]
- 062 原 和生：Precision Endoscopy for Pancreato-Biliary Disease. 第 208 回浜松胆膵疾患勉強会, 2025, (浜松), [特別講演]
- 063 原 和生：膵 NET の診断と治療の update。膵・消化管神経内分泌腫瘍 Update2025, 2025, (名古屋), [座長]
- 064 原 和生：Precision Biliary Drainage. 胆道がん薬物・内視鏡ゼミナール IN 九州, 2025, (小倉), [特別講演]
- 065 原 和生：これからの胆道癌診療。BTC Web シンポジウム, 2025, (大阪), [座長]
- 066 原 和生：胆道癌に対する集学的アプローチ。Immunotherapy & Endoscopic Oncology Seminar 2025, 2025, (仙台), [特別講演]
- 067 原 和生：腫瘍免疫から考える胆道癌に対する ICI 併用療法。Biliary Tract Cancer Symposium ~高齢者の最適な薬物治療を考える, 2025, (名古屋), [座長]
- 068 原 和生：ICI 時代の胆道疾患に対する Interventional Endoscopy. 胆道癌治療 Web セミナー, 2025, (福島), [特別講演]
- 069 原 和生：ICI 時代の Interventional Endoscopy. 消化器癌 Expert Seminar in 豊橋, 2025, (豊橋), [特別講演]
- 070 梶野泰祐, 阿部雄一, 細田和貴, 原 和生, 田口 歩：CRISPRi スクリーニングを用いた膵がんの新規治療標的 lncRNA の探索とその機能解析。第 8 3 回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [シンポジウム]
- 071 山重大樹, 脇岡 範, 原 和生, 金 俊文, 北野雅之, 正宗 淳, 越田真介, 花田敬士, 竹中 完, 山田玲子, 糸井隆夫, 植木敏晴, 清水泰博, 柳澤昭夫, 中村雅史：組織亜型からみた IPMN 切除後の残膵病変の発生リスクと長期予後の層別化。第 55 回日本膵臓学会大会, 2024, (宇都宮), [ワークショップ]
- 072 佐藤洋造, 下山理史, 水野伸匡：内臓神経ブロック中に誤嚥性肺炎をきたした事例報告。第 29 回日本緩和医療学会学術大会, 2024, (神戸), [一般演題 ポスター]
- 073 羽場 真, 原 和生, 清水泰博：膵癌早期診断の契機としての膵体尾部主膵管狭窄の臨床的意義。第 110 回日本消化器病学会総会, 2024, (徳島), [一般演題]
- 074 羽場 真, 原 和生, 清水泰博：膵癌早期診断のための診断・治療戦略 - 膵嚢胞外来と膵体尾部 MPD 狭窄に対する Lap-DP -。第 63 回日本消化器がん検診学会総会, 2024, (名古屋), [一般演題]
- 075 羽場 真, 原 和生, 清水泰博：膵癌早期診断を目的とした EUS と ERCP の診断能。第 107 回日本消化器内視鏡学会総会, 2024, (東京), [パネルディスカッション]
- 076 羽場 真, 原 和生, 清水泰博：主膵管狭窄に着目した膵癌早期診断のための膵管造影・膵液細胞診の成績。第 55 回日本膵臓学会大会, 2024, (宇都宮), [一般演題]
- 077 羽場 真, 原 和生, 清水泰博, 細田和貴, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 夏目誠治：膵尾部の限局性膵萎縮に対して膵体尾部切除術を行った膵上皮内癌の 1 例。第 78 回日本消化器画像診断研究会, 2024, (横浜), [口演]
- 078 羽場 真, 原 和生, 奥野のぞみ：良性胆管狭窄に対する超音波内視鏡下胆道ドレナージの成績。第 60 回日本胆道学会学術集会, 2024, (名古屋), [一般演題]
- 079 桑原崇通, 蘆田玲子, 原 和生：膵腫瘍に対する EUS-FNA における迅速細胞診 AI (ROSE-AI) の開発。第 110 回日本消化器病学会総会, 2024, (徳島), [シンポジウム]

- 080 桑原崇通, 原 和生: EUS 画像を用いた膵腫瘍鑑別 AI 開発. 第 107 回日本消化器内視鏡学会総会, 2024, (東京), [シンポジウム]
- 081 桑原崇通, 原 和生: Current status of artificial intelligence for the diagnosis of pancreatic diseases using EUS images. 第 107 回日本消化器内視鏡学会総会, 2024, (東京), [招待講演]
- 082 桑原崇通, 原 和生: 超音波内視鏡画像を用いた膵疾患診断 AI の現状と課題. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024, (宇都宮), [招待講演]
- 083 桑原崇通, 原 和生: 超音波 AI による膵疾患検診の可能性. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024, (宇都宮), [招待講演]
- 084 桑原崇通, 蘆田玲子, 原 和生: EUS-FNA 検体を用いた膵腫瘍に対する迅速細胞診診断 AI (ROSE-AI) の開発. 第 22 回日本デジタルパソロジー AI 研究会総会, 2024, (沖縄), [招待講演]
- 085 桑原崇通, 原 和生: マルチモーダル学習を用いた膵腫瘍鑑別 AI の開発. JDDW2024, 2024, (神戸), [ワークショップ]
- 086 桑原崇通: メディカル AI 開発現場における課題とその克服. 第 6 回日本メディカル AI 学会学術集会, 2024, (名古屋), [座長]
- 087 桑原崇通: Medical AI 開発と製品化への道のり. 第 6 回日本メディカル AI 学会学術集会, 2024, (名古屋), [シンポジウム]
- 088 桑原崇通, 原 和生, 羽場 真: 切除不能・再発胆道癌に対する GEM+ CDDP+Durvalumab の有効性・安全性評価と遺伝子変異評価. 第 60 回日本胆道学会学術集会, 2024, (名古屋), [シンポジウム]
- 089 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: 安全かつ容易な EUS-CDS をめざして. 第 110 回日本消化器病学会, 2024, (徳島), [パネルディスカッション]
- 090 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: The potential of primary EUS-guided hepaticogastrostomy for preoperative cases in pancreatoduodenectomy. 第 107 回日本消化器内視鏡学会総会, 2024, (東京), [Work shop]
- 091 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: 国境を越えた EUS 教育. 第 107 回日本消化器内視鏡学会総会, 2024, (東京), [ビデオワークショップ]
- 092 奥野のぞみ: 第 107 回日本消化器内視鏡学会総会, 2024, (東京), [ポスター座長]
- 093 奥野のぞみ, 原 和生, 清水泰博: 膵体尾部癌に対する術前 EUS-FNA. 第 55 回日本膵臓学会, 2024, (宇都宮), [パネルディスカッション]
- 094 奥野のぞみ: 胆道疾患の内視鏡診断と治療. 第 39 回日本消化器内視鏡学会東海セミナー, 2024, (名古屋), [講演]
- 095 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: Primary EUS-guided hepaticogastrostomy for preoperative cases in pancreatoduodenectomy. 第 60 回日本胆道学会, 2024, (名古屋), [International panel discussion]
- 096 奥野のぞみ: ポスター 25 EUS-BD2. 第 60 回日本胆道学会, 2024, (名古屋), [ポスター座長]
- 097 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: 安全かつ容易な EUS-HGS-22G 針と新型ドリルダイレーターを用いた EUS-HGS-. JDDW2024, 2024, (神戸), [ワークショップ]
- 098 奥野のぞみ: 安全な Interventional EUS. 第 40 回日本消化器内視鏡学会東海セミナー, 2025, (名古屋), [講演]
- 099 奥野のぞみ: Educational method of EUS-intervention in Aichi Cancer Center. AEG Interventional Workshop in NAGOYA, 2025, (名古屋), [講演]
- 100 奥野のぞみ: Optimizing the Roles of ERCP and EUS-BD. Endoscopic Forum Japan 2025, 2025, (東京), [講演]
- 101 近藤 高, 奥野のぞみ, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 福井淑崇, 山本嘉太郎, 浦田美菜子: 膵癌ゲノム医療における EUS-FNB と遺伝子パネル検査の有用性. 第 110 回日本消化器病学会総会, 2024, (徳島), [ワークショップ]
- 102 近藤 高, 奥野のぞみ, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 山本嘉太郎, 浦田美菜子: 膵癌ゲノム医療における EUS-FNB と遺伝子パネル検査の有用性. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024, (宇都宮), [ワークショップ]
- 103 近藤 高, 原 和生, 奥野のぞみ: The feasibility and safety of trans-colorectal EUS-FNA. 第 107 回日本内視鏡学会総会, 2024, (東京), [ポスター]
- 104 近藤 高, 奥野のぞみ, 原 和生: 胆嚢癌診断における EUS-FNA の有用性. 第 60 回日本胆道学会学術集会, 2024, (名古屋), [ワークショップ]
- 105 近藤 高, 奥野のぞみ, 原 和生: 当院における EUS 下エタノール局注療法 (EUS-EI) の安全性と有効性の評価. JDDW2024, 2024, (神戸), [デジタルポスター]
- 106 山本嘉太郎, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 近藤 高, 浦田美菜子: 胆道癌ゲノム医療の現状と展望. 第 110 回日本消化器病学会総会, 2024, (徳島), [ワークショップ]
- 107 山本嘉太郎, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 近藤 高, 浦田美菜子: B2 puncture may make EUS-guided hepaticogastrostomy safer and easier. 第 107 回日本消化器内視鏡学会総会, 2024, (東京), [Panel Discussion/International session/Core Session]
- 108 山本嘉太郎, 奥野のぞみ, 原 和生: 当院における膵神経内分泌腫瘍 (panNEN) に対する PRRT の治療成績. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024, (宇都宮), [パネルディスカッション]
- 109 山本嘉太郎, 原 和生, 桑原崇通: 当院における 75 歳以上の胆道癌の経過と治療成績. 第 60 回日本胆道学会学術集会, 2024, (名古屋), [パネルディスカッション]
- 110 山本嘉太郎, 奥野のぞみ, 原 和生: Efficacy and safety of EUS-guided hepaticogastrostomy for biliary drainage in hepatocellular carcinoma and cirrhosis. JDDW2024, 2024, (神戸), [Workshop/International session]
- 111 浦田美菜子, 奥野のぞみ, 原 和生: 膵胆道癌ゲノム医療の現状と課題. 第 107 回日本消化器内視鏡学会総会, 2024, (東京), [ワークショップ]

- 112 浦田美菜子, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇道, 奥野のぞみ, 近藤 高, 山本嘉太郎: 隣被包化壊死に対する経皮アプローチによる2台の内視鏡を用いたネクロセクトミーの2例. 第55回日本隣臓学会大会, 2024, (宇都宮), [一般口演]
- 113 浦田美菜子, 奥野のぞみ, 原 和生: 胆道癌ゲノム医療の現状と課題. 第60回日本胆道学会学術集会, 2024, (名古屋), [シンポジウム]
- 114 浦田美菜子, 奥野のぞみ, 原 和生: 隣胆道癌ゲノム医療の現状と課題. JDDW2024, 2024, (神戸), [ワークショップ]

内視鏡部

- 001 Ito N, Furukawa K, Kawashima H: 食道癌 local failure に対する医師主導型臨床試験の適応とならない病変に対するサルベージ光線力学療法の有効性と安全性の評価 (Evaluate the efficacy and safety of salvage photodynamic therapy for lesions beyond those indicated for investigator-initiated clinical trials for local failure Esophageal Cancer). JDDW2024, 2024, (神戸), [International Poster Session]
- 002 田近正洋: 上部消化管3. 第63回日本消化器がん検診学会総会, 2024, (名古屋), [座長]
- 003 田近正洋: 十二指腸腫瘍性病変の内視鏡診断と治療. 第39回日本消化器内視鏡学会東海セミナー, 2024, (名古屋), [司会]
- 004 田近正洋: irAE 肺臓炎克服への道筋. Esophageal cancer Collab Web Seminar, 2024, (名古屋), [司会]
- 005 田近正洋: 第608回東海胃腸疾患研究会, 2025, (名古屋), [司会]
- 006 田近正洋: 大腸腫瘍の診断と治療. 第40回日本消化器内視鏡学会東海セミナー, 2025, (名古屋), [司会]
- 007 田近正洋: RAS/BRAF 野生型右側大腸癌三次治療以降のレジメンに関する検討. 第101回大腸癌研究会学術集会, 2024, (名古屋), [ポスター]
- 008 田近正洋: cT1 食道癌の深達度診断における非拡大内視鏡所見別の拡大内視鏡とEUSの有用性の検討. 第78回日本食道学会学術集会, 2024, (名古屋), [一般演題]
- 009 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: H.pylori 陰性時代の上消化管疾患 API2-MALT1 陽性および H.pylori 除菌療法不応性胃 MALT リンパ腫の長期予後. 第110回日本消化器病学会総会, 2024, (徳島), [シンポジウム]
- 010 田中 努, 田近正洋, 田口 歩: 内視鏡が切り開く消化器疾患個別化医療への期待と課題 食道癌 PDX モデルのマルチオミクス解析に基づく化学療法効果予測. 第107回日本消化器内視鏡学会総会, 2024, (東京), [ワークショップ]
- 011 田中 努, 山田啓策, 田近正洋: 上部消化管がん検診の現状と革新的未来 名古屋市における胃がんリスク層別化検診の取り組み. 第63回がん検診学会総会, 2024, (名古屋), [ワークショップ]
- 012 田中 努: 食道表在癌の内視鏡診断と治療. 第39回日本消化器内視鏡学会東海セミナー, 2024, (名古屋), [講演]
- 013 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: ヘリコバクター・ピロリ陰性時代の上消化管診療の現状 API2-MALT 1 陽性および H.pylori 除菌療法不応性胃 MALT リンパ腫の長期予後. JDDW2024, 2024, (神戸), [シンポジウム]
- 014 山田啓策, 田近正洋, 田中 努: 大腸腫瘍に対する内視鏡診断と治療の現状と課題 大腸 ESD における multi loop traction device を用いた新たな牽引法の有用性. 第21回日本消化管学会総会学術集会, 2025, (東京), [シンポジウム]
- 015 山田啓策, 田近正洋, 田中 努, 伊藤信仁, 丹羽康正: 消化管内視鏡のリアルワールドデータ 大腸 ESD における multi loop traction device を用いた新たな牽引法の有用性. 第67回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2024, (名古屋), [シンポジウム]
- 016 山田啓策, 田近正洋, 田中 努, 伊藤信仁, 高木暁広, 丹羽康正: 胃体部~穹窿部大彎病変に対する病変外への糸つきクリップ装着による牽引下胃 ESD の有用性. 第110回日本消化器病学会総会, 2024, (徳島), [一般口演]
- 017 伊藤信仁, 藤吉俊尚, 古川和宏: 抗血栓薬内服者に対する消化管内視鏡治療のマネージメント 吐血を伴わない黒色便患者における内視鏡的止血処置予測スコア. 第110回日本消化器病学会総会, 2024, (徳島), [パネルディスカッション]
- 018 八田和久, 前川 聡, 後藤田卓志, 石原 立, 滝沢耕平, 小野裕之, 赤松拓司, 土肥 統, 伊藤信仁: 80歳以上の早期胃癌患者に対する生命予後・QoL 低下予測システムの開発と確証. 第110回日本消化器病学会総会, 2024, (徳島), [口演]
- 019 高木暁広, 田近正洋, 伊藤信仁, 山田啓策, 田中 努, 丹羽康正: 免疫チェックポイント阻害薬に伴う irAE 大腸炎の検討. 第107回日本消化器内視鏡学会総会, 2024, (東京), [ポスター]
- 020 高木暁広, 田近正洋, 伊藤信仁, 山田啓策, 田中 努, 伊東直哉, 細田和貴, 飯田 俊, 片野晴隆, 丹羽康正: 心窩部痛を契機に診断された胃梅毒の一例. 第255回日本内科学会東海地方会, 2025, (名古屋), [口演]
- 021 高木暁広, 田近正洋, 伊藤信仁, 山田啓策, 田中 努, 丹羽康正, 細田和貴, 井本逸勢: 当院での Li Fraumeni 症候群における大腸腫瘍の特徴とサーベイランス. 第101回大腸癌研究会, 2024, (名古屋), [ポスター]
- 022 高木暁広, 田近正洋, 伊藤信仁, 山田啓策, 田中 努, 丹羽康正: 当院で経験した irAE 胃炎の2例. 第67回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2024, (岐阜), [一般演題]

呼吸器内科部

- 001 **Fujiwara Y, Burns TF, Dragnev KH, Murciano-Goroff YR, Lee DH, Hollebecque A, Koyama T, Cassier PA, Italiano A, Heist RS, Han JY, Deming DA, Spira AI, Chisamore MJ, Fink AA, Chen A, Willard MD, Oxnard GR, Ammakkanavar NR** : Efficacy and safety of olomorasib (LY3537982), a second-generation KRAS G12C inhibitor (G12Ci), in combination with pembrolizumab in patients with KRAS G12C-mutant advanced NSCLC. 2024 ASCO Breakthrough, 2024, (横浜), [Oral]
- 002 **Fujiwara Y, Ammakkanavar NR, Hollebecque A, Murciano-Goroff YR, Lee DH, Burns TF, Cassier PA, Han JY, Italiano A, Koyama T, Shim BY, Heist RS, Sabari JK, Spira AI, Bodor J, Chu Q, Durm G, Singhal N, Chisamore MJ, Fink A, Chen A, Willard MD, Oxnard GR, Dragnev KH** : Efficacy and Safety of Olomorasib with Pembrolizumab + Chemotherapy as First-Line Treatment in Patients with KRAS G12C-Mutant Advanced NSCLC. WCLC, 2024, (SAN DIEGO), [Oral]
- 003 **Kurata T, Fujiwara Y, Naoki K, Viteri S, Inoue T, Hangai N, Wei L, Kawabata R, Wacheck V, Nishio M** : Phase 3 study of zipalertinib plus first-line (1L) platinum-based chemotherapy in patients (pts) with non-small cell lung cancer (NSCLC) harboring EGFR exon 20 insertion (ex20ins) mutations (REZILIENT3) : Safety lead-in results. ESMO Asia Congress, 2024, (SINGAPORE), [Poster]
- 004 **Sacher A, Villalona-CM, O'Neil B, Ahnert JR, Doi T, Postel-VS, Ghiringhelli F, Yamamoto N, Wahlroos S, Villaruz L, Helali A, Fujiwara Y, Addeo A, Lin CC, Fontana E, Chuang CH, Liu C, Eggert T, Penel N, Prenen H** : Phase 1 dose escalation and initial dose expansion results of AMG 193, an MTA-cooperative PRMT5 inhibitor, in patients (pts) with MTAP-deleted solid tumors. ESMO Congress, 2024, (BARCELONA), [Paper Session]
- 005 **Ohe Y, Yanagitani N, Sugawara S, Hayashi H, Fujiwara Y, Goto K, Takahashi T, Toyozawa R, Zhang X, Li S, Lai RK, Pennell NA, Pérol M, Bazhenova L, Seto T** : TRUST-II: Updated Efficacy and Safety of Taletrectinib in Patients with ROS1+ Non-Small Cell Lung Cancer. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [Oral]
- 006 **Fujiwara Yutaka, Ammakkanavar NR, Hollebecque A, Murciano-Goroff YR, Lee DH, Burns TF, Cassier P, Han JY, Antoine Italiano A, Koyama T, Shim BY, Heist RS, Sabari JK, Spira AI, Chisamore MJ, Fink A, Chen A, Willard MD, Oxnard GR, Dragnev KH** : Efficacy and Safety of Olomorasib with Pembrolizumab+ Chemotherapy: 1L Treatment in Patients with KRAS G12C-Mutant NSCLC. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [口演]
- 007 **Lakhani NJ, Melisi D, Subbiah V, Ammakkanavar NR, O'Reilly EM, Cassier PA, Wainberg ZA, Duffy AG, Patnaik A, Fujiwara Y, Oberstein PE, Carbonero RG, Wright J, Lin AK, Li J, Axelson MD, Laguna IG** : MOONRAY-01, a phase 1 study of LY3962673, a potent, orally bioavailable, and selective KRAS G12D inhibitor in KRAS G12D-mutant solid tumors. ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, 2025, (San Francisco), [Poster]
- 008 **清水淳市, 荒金尚子, 後藤功一, 阪本智宏, 里内美弥子, 枝園和彦, 須田健一, 宗 淳一, 朝重耕一, 畑中 豊, 松本慎吾, 三窪将史, 谷田部恭, 横内 浩, 豊岡伸一** : EGFR 遺伝子変異率を基にしたバイオマーカー検査の適正性に関するアンケート調査～2022年の検査状況より～. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [口演]
- 009 **藤原 豊** : 免疫チェックポイント阻害剤 (臨床試験). 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [座長]
- 010 **山口哲平, 松澤令子, 清水淳市, 渡辺尚宏, 堀尾芳嗣, 藤原 豊** : 非小細胞肺癌抗 PD-1 抗体単剤治療例におけるILD合併の有無が長期予後に与える影響について. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [口演]
- 011 **清水淳市** : EGFR 遺伝子変異陽性肺癌 (RWD). 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [口演]
- 012 **堀尾芳嗣** : 禁煙ワークショップ. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [座長]
- 013 **堀尾芳嗣** : ICI 応答性解析. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [座長]
- 014 **柴田和彦, 西尾誠人, 菊地英毅, 清水淳市, 宮内栄作, 吉野一郎, 三角俊裕, 菊池 創, 津田岳志, 立原素子, 近森研一, 黒木宏高, 杉本正道, 田中美早, 弦間昭彦** : J-TAIL-2 附随研究 網羅的血漿中タンパク質量解析によるアテゾリズマブ (ATZ) のバイオマーカー探索. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [口演]
- 015 **片上信之, 西尾誠人, 菊地英毅, 清水淳市, 宮内栄作, 吉野一郎, 三角俊裕, 杉尾賢二, 細川 忍, 沖塩協一, 藤本伸一, 堀池 篤, 芦村寿生, 田中美早, 弦間昭彦** : J-TAIL-2 最終報告 (ED-SCLC コホート) 切除不能な進行/再発の NSCLC 又は ED-SCLC に対する ATZ 併用療法の観察研究. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [口演]
- 016 **西尾誠人, 藤原 豊, 倉田宝保, 猶木克彦, 井上貴子, 大江裕一郎** : REZULIENT3 EGFR ex20ins 変異を有する NSCLC 患者の zipalertinib と化学療法併用の Ph3 研究. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [口演]
- 017 **坂田能彦, 坂田晋也, 山口哲平, 田宮基裕, 鈴木秀和, 柴木亮太, 岡田あすか, 横山俊秀, 松本啓孝, 大搦泰一郎, 佐藤悠城, 内田純二, 齋藤 合, 突田容子, 稲葉恵, 池田英樹, 荒井大輔, 丸山広高, 原 聡志, 津村真介, 坂上拓郎** : EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対する初回治療 Osimertinib の多施設実態調査 (OSI-FACT) OS update. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [口演]

- 018 松本啓孝, 藤本大智, 横山俊秀, 谷口善彦, 内田純二, 佐藤悠城, 田中寿志, 古屋直樹, 益田 武, 坂田能彦, 宮内栄作, 山口哲平, 駄賀晴子, 池田英樹, 坂田晋也, 山本信之, 赤松弘明: 進展型小細胞肺癌患者に対するカルボプラチン/エトポシド/アテゾリズマブの多施設前向き研究 3年 update. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [口演]
- 019 戸井之裕, 今井久雄, 山口哲平, 東 公一, 木島貴志, 岸 一馬, 渡部 聡, 齋藤春洋, 高島雄太, 丹保裕一, 安田浩之, 畑地 治, 岡田守人, 佐藤悠城, 青江啓介, 大杉友之, 飛嶋 雄, 堀之内秀仁, 大江裕一郎: NSCLCにおける1L nivolumab +ipilimumab 後の早期進行の解析 LIGHT-NING. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [口演]
- 020 岡田あすか, 坂田能彦, 坂田晋也, 山口哲平, 田宮基裕, 鈴木秀和, 柴木亮太, 横山俊秀, 松本啓孝, 大搦泰一郎, 佐藤悠城, 内田純二, 齋藤 合, 突田容子, 稲葉 恵, 池田英樹, 荒井大輔, 丸山広高, 原 聡志, 津村真介, 坂上拓郎: 初回治療 Osimertinib の多施設実態調査 (OSIFACT) における心毒性の検討 (会議録). 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [2024]
- 021 福井崇文, 古田 恵, 堀之内秀仁, 横田 勲, 山口哲平, 伊藤彰一, 岩島 明, 杉 淳, 三浦 雄, 田中寿志, 宮脇太一, 菊池 創, 菊池崇史, 芦沼宏典, 立石一成, 宇都宮利彰, 藤田昌樹, 小林国彦, 朝比奈肇: EGFR 遺伝子変異陽性 NSCLC 術後の局所再発における化学放射線療法後デュルバルマブ維持療法の有効性の検討 (会議録). 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [口演]
- 022 藤本大智, 柴木亮太, 仲地一郎, 宮内栄作, 坂田能彦, 木島貴志, 田宮基裕, 川名祥子, 原 聡志, 齋藤 合, 佐藤悠城, 坂田晋也, 松本啓孝, 山口哲平, 山本信之: 小細胞肺癌 治療 間質性肺炎合併小細胞肺癌に対するデュルバルマブ/エトポシド/カルボプラチン療法の多施設前向き介入試験 (DREAM 試験). 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [口演]
- 023 伊藤彰一, 古田 恵, 堀之内秀仁, 横田 勲, 山口哲平, 福井崇文, 岩島 明, 伊藤健太郎, 中村 慧, 小林国彦, 朝比奈肇: 局所進行非小細胞肺癌 NSCLC 術後局所再発における化学放射線療法後デュルバルマブ維持療法のPD-L1 発現別の有効性の検討 NEJ056 試験サブグループ解析. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [口演]
- 024 神田慎太郎, 水谷友紀, 仁保誠治, 谷口寛和, 東 公一, 戸井之裕, 豊澤 亮, 岩間映二, 駄賀晴子, 福原達朗, 横山俊秀, 横内 浩, 榊原 純, 細見幸生, 柳谷典子, 清水淳市, 神山潤二, 田宮基裕, 大江裕一郎: EGFR 遺伝子変異陽性肺癌の治療革新と未来展望 EGFR チロシンキナーゼ阻害剤とプラチナ製剤併用化学療法の併用 JCOG1404/WJOG8214L. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [口演]
- 025 佐治 久, 加藤晃史, 岡田守人, 池田徳彦, 高持一矢, 杉尾賢二, 堀尾芳嗣, 田中 啓, 西尾 渉, 武藤哲史, 堀之内秀仁, Wakelee H, Spicer J, Moishel L, Shugeng G, 韓 士榮, 森 智子, Keller S, Deng X, 坪井正博: 周術期治療の到達点と課題 早期 NSCLC に対する周術期 pembrolizumab (pembro) 投与 KEYNOTE-671 の日本人サブグループ. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [口演]
- 026 山口哲平, 今井久雄, 戸井之裕, 東 公一, 木島貴志, 岸 一馬, 渡部 聡, 齋藤春洋, 高島雄太, 丹保裕一, 安田浩之, 畑地 治, 岡田守人, 佐藤悠城, 青江啓介, 大杉友之, 飛嶋雄, 堀之内秀仁, 大江裕一郎: 免疫チェックポイント阻害剤 LIGHT-NING 第4回中間解析 日本における NSCLC に対する 1L nivolumab+ipilimumab +/- 化学療法. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [口演]
- 027 伊藤彰一, 古田 恵, 堀之内秀仁, 横田 勲, 山口哲平, 福井崇文, 岩島 明, 伊藤健太郎, 中村慧一, 小林国彦, 朝比奈肇: NSCLC 術後局所再発における化学放射線療法後デュルバルマブ維持療法のPD-L1 発現別の有効性の検討. 第64回日本呼吸器学会学術講演会, 2024, (横浜), [口演]
- 028 藤本大智, 柴木亮太, 仲地一郎, 宮内栄作, 坂田能彦, 木島貴志, 田宮基裕, 川名祥子, 原 聡志, 齋藤 合, 佐藤悠城, 坂田晋也, 松本啓孝, 山口哲平, 山本信之: 間質性肺炎合併小細胞肺癌に対するデュルバルマブ/エトポシド/カルボプラチン療法の多施設前向き介入試験 (DREAM 試験). 第64回日本呼吸器学会学術講演会, 2024, (横浜), [口演]
- 029 國本真由, 黒田浩章, 松下博和, 真砂勝泰, 堀尾芳嗣, 松谷啓行, 小林宏寿: 同時多発肺癌の手術成績と遺伝子学的特徴. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (常滑), [口演]
- 030 清水淳市, 松澤令子, 山口哲平, 渡辺尚宏, 堀尾芳嗣, 藤原 豊, 木村祐樹: 肺腫瘍血栓性微小血管症を契機として致死的な経過をたどった EGFR 遺伝子変異陽性肺腺癌の一例. 第125回日本呼吸器学会東海地方会, 2024, (名古屋), [口演]
- 031 松澤令子: 免疫チェックポイント阻害剤. 第125回日本呼吸器学会東海地方会, 2024, (名古屋), [座長]
- 032 松澤令子, 山口哲平, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 藤原 豊: KRAS G12C 変異陽性の肺扁平上皮癌に対してソトラシブを投与した1例. 第125回日本呼吸器学会東海地方会, 2024, (名古屋), [口演]
- 033 山口哲平: EGFR 遺伝子変異陽性既治療進行非小細胞肺癌に対する TT フィールド ニボルマブの単群第2相試験 (特定臨床研究). WJOG 呼吸器グループ会議, 2024, (大阪), [口演]
- 034 藤原 豊: 呼吸器2 (小細胞肺癌2). 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [座長]
- 035 堀尾芳嗣: 臓器横断プログラム1. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [座長]
- 036 松澤令子: NT255-48. 第255回日本内科学会東海地方会, 2025, (名古屋), [座長]

血液・細胞療法部

- 001 福島 健太郎, 福島 規子, 湯田 淳一郎, 末廣 陽子, 楠本 茂, 柴崎 裕子, *Chen X, Casadebaig M-L*, 鈴木和己, 伊豆津 宏二: 非ホジキンリンパ腫を有する日本人患者におけるタファシタマブの第1b相試験 (J-MIND 試験). 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口演]
- 002 森田彩巴, 岩崎 惇, 諫田淳也, 池 成基, 内藤知希, 細野菜穂子, 山内高弘, 福島 健太郎, 吉本五一, 吉満 誠, 楠本 茂, 高橋直人, 堺田恵美子, 白杵憲祐, 田中圭祐, 高折見史, 南 陽介: 造血幹細胞移植における意思決定のためのNGSに基づくリスク層別化: HM01 および HM02 コホートからの知見. 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口演]
- 003 上田智朗, 福島健太郎, 池 成基, 波江野 洋, 吉本五一, 新井宏典, 池田大輔, 市川幹, 高橋直人, 細野菜穂子, 山内高弘, 近藤 健, 楠本 茂, 黒田純也, 南 陽介: HM-SCREEN-Japan 02 試験におけるベネトクラクス併用療法のNGSプロファイルと数理予測モデル. 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口演]
- 004 川口裕佳, 楠本 茂, 見目絵美, 萩原真也, 齋藤統子, 加藤省一, 細田和貴, 山本一仁: 抗PD-1抗体後の自家末梢造血幹細胞移植後にサイトカイン放出症候群を発症したホジキンリンパ腫の一例. 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口演]
- 005 河合秋美, 白神一秀, 楠本 茂, 正木彩子, 伊藤 葉, 西垂水希美, 李 政樹, 飯田真介, 稲垣 淳: CD19-CAR-T療法後に節外性NK/T細胞リンパ腫を発症した1例. 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口演]
- 006 蒔田真一, 福島卓也, 塚崎邦弘, 町田龍之介, 丸山 大, 楠本 茂, 飯田真介, 徳永雅仁, 宮崎泰司, 吉満 満, 崔日承, 仲地佐和子, 宮崎香奈, 牧山純也, 野坂生郷, 勝屋弘雄, 河北敏郎, 柴田大朗, 福田治彦, 永井宏和: 未治療アグレッシブATLに対する upfront 同種移植の検証的単群第3相臨床試験: JCOG0907. 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口演]
- 007 今泉芳孝, 野坂生郷, 吉満 誠, 崔 日承, 楠本 茂, 下川元継, 石塚賢治: 再発難治成人T細胞白血病リンパ腫に対するモガムリズマブ併用レナリドミド療法. 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口演]
- 008 鈴木智貴, 横森 類, 三田貴臣, 矢野寛樹, 菊池隆希, 金森貴之, 稲垣 淳, 吉田 嵩, 粥川 哲, 大島佳子, 佐々木宏和, 木下史緒理, 成田朋子, 正木彩子, 李 政樹, 楠本 茂, 小松弘和, 稲垣 宏, 飯田真介: 中枢神経再発びまん性第細胞型B細胞リンパ腫の全エクソシーケンス解析. 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口演]
- 009 徳永良洋, 中邑幸伸, 山本 薫, 楠本 茂, 吉本五一, 加賀谷裕介, 池田大輔, 新井宏典, 宇津欣和, 池 成基, 南 陽介: HM-SCREEN-JAPAN-01,02:NGSによる治療関連AMLの遺伝子解析. 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口演]
- 010 今泉芳孝, 野坂生郷, 高 起良, 吉満 誠, 崔 日承, 楠本 茂, 下川元継, 石塚賢治: 再発難治性成人T細胞白血病リンパ腫に対するモガムリズマブ併用レナリドミド療法. 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口演]
- 011 萩原真也, 楠本 茂, 町田龍之介, 大間知 謙, 牧山純也, 棟方 理, 安藤 潔, 木下朝博, 塚崎邦弘, 永井宏和: DLBCL患者におけるHBV既往感染の予後への影響: JCOG0601 副次的解析. 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口演]
- 012 萩原真也, 李 政樹, 大島佳子, 海老名 徹, 丸茂義晃, 中村智幸, 平出賢太郎, 中島貴裕, 浅野有彩, 木下史緒理, 鈴木智孝, 成田朋子, 正木彩子, 三田貴臣, 小松弘和, 飯田真介: 骨髄腫細胞株由来細胞外小胞の免疫抑制効果. 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口演]
- 013 萩原真也, 楠本 茂, 町田龍之介, 大間知 謙, 牧山純也, 棟方 理, 安藤 潔, 木下朝博, 塚崎邦弘, 永井宏和: DLBCL患者におけるHBV既往感染の予後への影響: JCOG0601 副次的解析. 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口演]
- 014 中村智幸, 李 政樹, 海老名 徹, 丸茂 義, 大島佳子, 佐々木宏和, 萩原真也, 浅野有彩, 木下史緒理, 鈴木智貴, 成田朋子, 三田貴臣, 小松弘和, 井上靖道, 林 秀敏, 飯田真介: 強心配糖体である periplocin は骨髄腫細胞に対する抗体療法の効果を高める. 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口演]
- 015 海老名 徹, 李 政樹, 大島佳子, 中村智幸, 丸茂義晃, 萩原真也, 佐々木宏和, 浅野有彩, 木下史緒理, 鈴木智貴, 成田朋子, 正木彩子, 三田貴臣, 小松弘和, 飯田真介: ストローマ細胞におけるIDOの発現上昇は多発性骨髄腫の治療標的となりうる. 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口演]
- 016 入山智沙子, 酒井リカ, 齋藤統子, 中村信彦, 松田安史, 笠原千嗣, 樋口智弘, 福原規子, 加藤丈晴, 小林宣彦, 鏡味良豊, 古川勝也, 岡田耕平, 澤 正史, 齋藤明子, 山本松雄, 木下朝博, 小椋美知則, 永井宏和, 山本一仁: 再発濾胞性リンパ腫に対するオピヌツズマブ+ベンダムスチン療法第II相試験の安全性評価 (造血器腫瘍研究会). 第86回日本血液学会学術集会, 2024, (京都), [口演]
- 017 楠本 茂: 高齢者アグレッシブATLに対する治験戦略. 第64回日本リンパ網内系学会学術集会, 2024, (東京), [ランチョンセミナー]
- 018 徳升富美, 野中綾子, 楠本 茂, 渡邊佳奈, 岡田恭孝, 松田千秋, 東 直希, 尾関順子, 加藤省一, 細田和貴: マントル細胞リンパ腫の経過観察中にT細胞性前リンパ球性白血病を発症した一症例. 第25回日本検査血液学会学術集会, 2024, (広島), [口演]

薬物療法部

- 001 **Muro K, Feinstein T, Baranda JC, Bonta I, Kitazono S, Todd A, Gersten TA, Gandhi L, Kudo T, Kaplan J, Gorla SR, Shubin L, Wozniak M, Lee A, Patil T**: Enfortumab vedotin (EV) in non-squamous and squamous non-small cell lung cancer (NSCLC) cohorts of EV-202. ASCO, 2024, (Chicago), [Poster Session]
- 002 **Giordano A, Awan AAA, Bruce JY, Rugo HS, Robinson J, Novik Y, Baranda JC, Muro K, Ono M, Nanda R, Kaplan J, Gorla SR, Liu S, Wozniak M, Lee A, Traina TA**: Enfortumab vedotin (EV) in triple-negative breast cancer (TNBC) and HR+/HER2-breast cancer (BC) cohorts of EV-202. ASCO, 2024, (Chicago), [Oral Abstract Session]
- 003 **Kanemura H, Tanizaki J, Matsumoto K, Masuishi T, Isobe T, Kodama H, Shimizu T, Sunakawa Y, Chiba Y, Yamamoto N, Nakagawa K, Hayashi H**: Phase Ia/Ib trial on the safety and efficacy of mobocertinib in combination with TDM1 for patients with HER2-mutant solid tumors (WJOG16022M). ASCO, 2024, (Chicago), [Poster Session]
- 004 **Mizoguchi C, Okuma H, Muto M, Kinoshita I, Baba E, Takahashi M, Ando M, Hwoei FSH, Yusak S, Voon PJ, Ramachandran R, Thiagarajan M, Imasa MSB, Abdul Malik R, Choi W, Dao TV, Chen TW-W, Yonemori K, Nakamura K, Yamamoto N**: Clinical landscape of precision oncology for rare cancers among diverse Asian populations: Insights from the MASTER KEY registry. ASCO, 2024, (Chicago), [Poster Session]
- 005 **Hayashi R, Matsubara J, Mukai K, Yoshioka M, Kage H, Oda K, Ikeda S, Ebi H, Muro K, Kajjura S, Ashida R, Kitano M, Muto M**: Molecularly matched therapies identified by comprehensive genomic profiling before the first-line setting to provide alternative treatment outcomes in patients with solid tumors: 1-year follow-up of the prospective FIRST-Dx study. ASCO, 2024, (Chicago), [Poster Session]
- 006 **Nakamura Y, Wantanabe J, Hirata K, Akazawa N, Kataoka K, Yokota M, Yamazaki K, Kato K, Kotaka M, Kagawa Y, Yeh K-H, Aushev VN, Jurdi AA, Kotani D, Bando H, Taniguchi H, Takemasa I, Kato T, Oki E, Yoshino T**: Prognostic and predictive value of ctDNA-based MRD and actionable biomarkers in patients with resectable colorectal cancer: CIRCULATE-Japan GALAXY. ASCO, 2024, (Chicago), [Poster Session]
- 007 **Hashimoto T, Nakamura Y, Yang Y, Battaglin F, Innocenti F, Venook AP, Makiyama A, Boku S, Machida N, Takahashi N, Kadowaki S, Komatsu Y, Kudo T, Oki E, Kato T, Kagawa Y, Fujisawa T, Bando H, Lenz H-J, Yoshino T**: Prognostic impact of HER family expressions for metastatic colorectal cancer (mCRC): SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN-2 and CALGB/SWOG 80405 trial (Alliance) international collaboration. ASCO, 2024, (Chicago), [Poster Session]
- 008 **Imai M, Lim J, Iida N, Ebi H, Okamoto W, Kato T, Esaki T, Kato K, Komatsu Y, Yuki S, Masuishi T, Nishina T, Sato A, Yamashita R, Fujii S, Yoshino T, Park W-Y, Nakamura Y**: Deciphering tumor microenvironment dynamics in HER2-amplified refractory metastatic colorectal cancer in the TRIUMPH trial. ASCO, 2024, (Chicago), [Poster Session]
- 009 **Kotani D, Bando H, Taniguchi H, Masuishi T, Esaki T, Sunakawa Y, Komatsu Y, Shinozaki E, Satoh T, Nishina T, Nakamura Y, Mikamoto Y, Wakabayashi M, Sato A, Nomura S, Ebi H, Yoshino T**: Efficacy and safety of combination therapy with binimetinib, encorafenib, and cetuximab for BRAF non-V600E mutated metastatic colorectal cancer: Results from a phase 2 BIG BANG trial (EPOC1703). ASCO, 2024, (Chicago), [Poster Session]
- 010 **Uetake H, Yamashita R, Shitara K, Yoshino T, Watanabe J, Yasuin H, Ohori H, Shiozawa M, Muro K, Yamazaki K, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Soeda J, Yamamoto K, Akagi K, Ochiai A, Tsuchihara K**: Acquired gene alteration patterns and post-progression survival: PARADIGM study analysis. ASCO, 2024, (Chicago), [Oral Abstract Session]
- 011 **Kudo-Saito C, Boku N, Shoji H, Imazeki H, Nagashima K, Tsugaru K, Takahashi N, Kawakami T, Amanuma Y, Wakatsuki T, Okano N, Narita Y, Yamamoto Y, Kizawa R, Aoki K, Muro K**: IL33-ST2 axis as a diagnostic and therapeutic biomarker in nivolumab therapy for advanced gastric cancer. ASCO, 2024, (Chicago), [Poster Session]
- 012 **Muro K, Chin K, Maron SB, Braithe FS, Mitani S, Hara H, Kuboki Y, Mulcahy MF, Baranda JC, Gardner FP, Jin N, Hamauchi S, Kaplan J, Gorla SR, Liu S, Wozniak M, Meng C, Kondo S**: Enfortumab vedotin (EV) in previously treated gastric/esophageal cancers cohorts of EV-202. ASCO, 2024, (Chicago), [Poster Session]
- 013 **Ooki A, Muro K, Nishino K, Kawakami H, Ojima H, Kojima T, Tanaka Y, Koyanagi K, Machida N, Eguchi S, Suyama K, Watanabe Y, Izawa N, Iijima K, Hirai H, Chisamore MJ, Kato K**: Phase 1b study of futibatinib plus pembrolizumab with or without chemotherapy in patients with esophageal carcinoma: Updated results of antitumor activity. ASCO, 2024, (Chicago), [Poster Session]
- 014 **Swiecicki P, Rosenberg AJ, Hanna GJ, Bruce JY, Fujisawa T, Honma Y, Muro K, Kaplan J, Gorla SR, Liu S, Meng C, Geiger JL**: Enfortumab vedotin and pembrolizumab as first-line treatment in recurrent or metastatic head and neck squamous cell carcinoma: A cohort of the EV-202 trial. ASCO, 2024, (Chicago), [Poster Session]

- 015 **Jahanzeb M, Wu CY, Lim HJ, Muro K, Xu L, Somashekhar M, Somashekhar S.P., Zhang X, Qiu X, Fu Y, Pittirutir M:** An international expert consensus on improving the quality of care in patients with cancer by optimal central vascular access device selection. ASCO, 2024, (Chicago), [Poster Session]
- 016 **Taniguchi H:** Pioneering use of a decentralized clinical trial model leading to faster patient recruitment in a rare cancer study in Japan. DIA 2024 Global Annual Meeting, 2024, (San Diego), [Poster Session]
- 017 **Muro K:** Treatment of advanced oesophageal cancer in 2024. ESMO GI, 2024, (Munich), [Displaying One Session]
- 018 **Matsubara Y, Masuishi T, Hosoda W, Saori M, Hirano H, Furuta M, Kawasaki K, Shimura T, Murayama K, Minashi K, Komoda M, Otsuka T, Shinohara Y, Nishina S, Musha N, Kato K, Oze I, Muro K:** A multicenter retrospective study of ramucirumab-containing chemotherapy for gastrointestinal neuroendocrine carcinoma after platinum-based chemotherapy (WJOG13420G: RAM-NEC). ESMO GI, 2024, (Munich), [Poster Display session]
- 019 **Takahashi N, Hara H, Nagashima K, Hirata K, Masuishi T, Matsumoto T, Kawakami H, Yamazaki K, Hironaka S, Boku N, Muro K:** Randomized phase II trial of trifluridine/tipiracil plus ramucirumab versus trifluridine/tipiracil for pre-treated patients with advanced gastric or gastroesophageal junction adenocarcinoma (RETRIEVE study, WJOG15822G). ESMO GI, 2024, (Munich), [Poster Display session]
- 020 **Muro K (Chair):** Gastro-oesophageal junction cancer. ESMO GI, 2024, (Munich), [Multidisciplinary Tumour Board]
- 021 **Muro K:** Advances in Systemic Therapy for Esophageal and Gastric Cancer. The 10th Asia-Pacific Gastroesophageal Cancer Congress, 2024, (Singapore), [Plenary Lecture]
- 022 **Tsushima T, Yamamoto S, Kato K, Daiko H, Hara H, Kojima T, Abe T, Tsubosa Y, Kawakubo H, Yoshi T, Fujita T, Kadowaki S, Matsuda S, Nagashima K, Aoki K, Yachida S, Kitagawa Y:** Efficacy of Neoadjuvant CF or DCF, FLOT Plus Nivolumab for Resectable Locally Advanced Esophageal Squamous Cell Carcinoma (JCOG1804E: FRONTIER). ISDE, 2024, (Edinburgh), [poster session]
- 023 **Hashimoto T, Iida N, Kadowaki S, Makiyama A, Machida N, Boku S, Takahashi N, Ogata T, Oki E, Okano N, Ohtsubo K, Kawakami T, Shibuki T, Imai M, Fujisawa T, Nakamura Y, Bando H, Shitara K, Yoshino T:** Uncovering the prognostic potential of FGFR2c isoform expression in advanced gastroesophageal cancer through MONSTAR-SCREEN-2 analysis. ESMO MAP, 2024, (London), [poster session]
- 024 **Yamazaki K, Kito Y, Shoji H, Yamada T, Tsushima T, Mitani S, Shiraishi K, Yasui H, Hara H, Shimozaki K, Esaki T, Shinohara Y, Tsuzuki T, Kajiura S, Yoshimura K, Sakai K, Nishio K, Kawakami H, Hironaka S, Muro K:** Update analysis of the randomized phase II study comparing FOLFIRI plus ramucirumab (RAM) versus FOLFOX-IRI plus RAM as first-line treatment for patients with metastatic colorectal cancer: WJOG9216G (RECAST). ESMO, 2024, (Barcelona), [Mini Oral Session]
- 025 **Shiraishi K, Kito Y, Shoji H, Yamada T, Tsushima T, Mitani S, Yasui H, Hara H, Shimozaki K, Esaki T, Shinohara Y, Tsuzuki T, Kajiura S, Izawa N, Murata K, Yoshimura K, Kawakami H, Hironaka S, Yamazaki K, Muro K:** Impact of age and single heterozygous UGT1A1 on the safety and efficacy of first-line FOLFIRI or FOLFOXIRI in combination with ramucirumab (RAM) for metastatic colorectal cancer (mCRC): Subgroup analyses of WJOG9216G (RECAST). ESMO, 2024, (Barcelona), [Poster Session]
- 026 **Wakabayashi M, Taniguchi H, Yuki S, Takeda H, Mitani S, Okumura Y, Akazawa N, Makiyama A, Kudo T, Kudo C, Mori K, Muro K:** A phase II study of inpatient dose escalation of biweekly trifluridine/tipiracil plus bevacizumab for colorectal cancer (E-BiTS study). ESMO, 2024, (Barcelona), [Poster Session]
- 027 **Sakaida T, Masuishi T, Mitani S, Asayama M, Makiyama A, Shimura T, Takeda H, Suwa Y, Yomoda T, Mushiaka H, Okumura Y, Takano Y, Tajika M, Ando M, Muro K, Mishima A, Kudo C, Murotani K, Taniguchi H:** PRABI-TAS study: A pragmatic, randomized, phase III trial of biweekly vs. conventional use of trifluridine/tipiracil plus bevacizumab for refractory metastatic colorectal cancer. ESMO, 2024, (Barcelona), [Poster Session]
- 028 **Seguchi S, Fujisawa T, Ikeda S, Oyama Y, Kadowaki S, Morizane C, Ueno M, Oki E, Yamagami W, Yuki S, Nonomura N, Iwata H, Watari H, Okano S, Namikawa K, Bando H, Yoshino T, Nakamura Y:** Impact of MTAP loss on prognosis and efficacy of immune check point inhibitors across advanced solid tumors: SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN-1. ESMO, 2024, (Barcelona), [Poster Session]
- 029 **Kuwata T, Nakamura Y, Fujisawa T, Imai-Sumida M, Kadowaki S, Ueno M, Boku S, Nonomura N, Oki E, Radovich M, Aitani M, Tomozawa C, Hiraoka Y, Kimura K, Kosugi S, Imoto I, Hirata M, Yoshino T:** Germline pathogenic variants identified in tissue- and blood-based whole exome sequencing in advanced solid tumors. ESMO, 2024, (Barcelona), [Poster Session]
- 030 **Nagata J, Nakamura Y, Watanabe j, Akazawa N, Ikeda M, Yokota M, Kato K, Kotaka M, Yamazaki K, Kagawa Y, Yeh K-H, Laliotis G, Jurdi A, Kotani D, Bando H, Taniguchi H, Takemasa I, Kato T, Yoshino T, Oki E:** Association

of ctDNA-based MRD detection and MRD clearance with short-term overall survival in patients with resectable colorectal cancer: Updated analysis of CIRCULATE-Japan GALAXY. ESMO, 2024, (Barcelona), [Poster Session]

- 031 **Nakamura Y, Kildal W, Misumi T, Pradhan M, Watanabe J, Skrede O-J, Kotani D, De Raedt S, Bando H, Kalsnes J, Taniguchi H, Liestøl K, Takemasa I, Hveem TS, Kato T, Novelli M, Oki E, Kerr DJ, Yoshino T, Kleppe A**: Novel clinical decision support (CDS) system optimizing adjuvant chemotherapy (ACT) for colorectal cancer (CRC) by integrating deep learning and circulating tumor DNA (ctDNA) molecular residual disease (MRD) : GALAXY histotyping. ESMO, 2024, (Barcelona), [Poster Session]
- 032 **Kataoka K, Mori K, Nakamura Y, Watanabe J, Hirata K, Akazawa N, Yokota M, Kato K, Kotaka M, Yamazaki K, Kagawa Y, Sharma S, Jurdi A, Kotani D, Bando H, Taniguchi H, Takemasa I, Kato T, Yoshino T, Oki E**: Survival benefit of adjuvant chemotherapy based on molecular residual disease detection in resected colorectal liver metastases: Subgroup analysis from CIRCULATE-Japan GALAXY. ESMO, 2024, (Barcelona), [Poster Session]
- 033 **Siena S, Yamaguchi K, Ruffinelli Rodrigue JC, Corral de la Fuente E, Kuboki Y, Cremolini C, Victoria Ruiz I, Elez Fernandez ME, Strickler JH, Furqan M, Bashir B, Nduka C, Hippenmeyer J, Chan E, Xia C, Masuishi T**: Sotorasib (soto), panitumumab (pani) and FOLFIRI in the first-line (1L) setting for KRAS G12C-mutated metastatic colorectal cancer (mCRC) : Safety and efficacy analysis from the phase Ib CodeBreaK 101 study. ESMO, 2024, (Barcelona), [Oral Session]
- 034 **Kiyota N, Tahara M, Imai H, Takahashi S, Nishiyama A, Tamura S, Shimizu Y, Kadowaki S, Ito K, Toyoshima M, Hirashima Y, Ueno S, Hiraizumi K, Sugitani I**: Health-related quality of life analysis in a phase 2 study of encorafenib + binimetinib for patients with unresectable or metastatic BRAF V600-mutated thyroid cancer. ATA, 2024, (Chicago), [poster session]
- 035 **Narita Y**: Chemotherapy strategies for elderly patients with gastric cancer. Korea International Gastric Cancer Week, 2024, (Soul), [International Joint Symposium]
- 036 **Narita Y** (Chair) : MDT Case Session, Korea International Gastric Cancer Week, 2024, (Soul), [International Joint Symposium]
- 037 **Taniguchi H** (Speaker) : Current Status and Activation Strategies of DCT: Japan Perspectives. 2024 KoNECT-MOHW-MFDS International Conference, 2024, (Soul), [Oral Session]
- 038 **Masuishi T, Yamaguchi K, Jose C, Ruffinelli Rodriguez JC, Corral de la Fuente E, Kuboki Y, Cremolini C, Ruiz IV, Elez Fernandez ME, Strickler JH, Furqan M, Bashir B, Nduka C, Hippenmeyer J, Chan E, Xia C, Siena S**: Sotorasib (soto), panitumumab (pani), and FOLFIRI in first-line (1L) KRAS G12C-mutated metastatic colorectal cancer (mCRC) : Regional analysis of safety and efficacy from CodeBreaK 101. ESMO Asia, 2024, (Singapore), [Mini Oral session]
- 039 **Ushiyama S, Matsubara Y, Hashimoto T, Mishima S, Kadowaki S, Okano N, Ohtsubo K, Ueno M, Otsuka T, Sunakawa Y, Denda T, Makiyama A, Esaki T, Kagawa Y, Takahashi N, Boku S, Fujisawa T, Nakamura Y, Bando H, Yoshino T**: Molecular landscape of neuroendocrine neoplasms using tissue and blood-based genotyping in MONSTAR-SCREEN-2. ESMO Asia, 2024, (Singapore), [Poster session]
- 040 **Tsunoki T, Kadowaki S, Mizuno T, Ishizuka Y, Sakakida T, Narita Y, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Ando M, Muro K, Hanai N**: Impacts of time-of-day of nivolumab infusion on treatment efficacy for patients with head and neck squamous cell carcinoma. ESMO Asia, 2024, (Singapore), [Mini Oral session]
- 041 **Aderka D, Muro K, Yoshino T**: The crossover of the bevacizumab and panitumumab survival curves in the PARADIGM study: A clue to time-related effects of bevacizumab on the risk of tumor progression. ASCO GI, 2025, (San Francisco), [Poster session]
- 042 **Sunakawa Y, Inoue E, Kotani D, Denda T, Inagaki C, Kashiwada T, Horita Y, Sugaya A, Suwa Y, Ohta T, Kuramochi H, Oshima K, Shiozawa M, Yuki S, Tsuji A, Muro K, Ichikawa W, Fujii M**: Encorafenib and cetuximab with/without binimetinib therapies for patients with BRAF-mutated metastatic colorectal cancer with prognostic factors: The BEETS trial (JACCRO CC-18). ASCO GI, 2025, (San Francisco), [Poster session]
- 043 **Narita K, Higaki E, Abe T, Fujieda H, Hashimoto S, Kadowaki S, Tajika M, Kodaira T, Muro K, Shimizu Y**: Conversion from radical esophagectomy to definitive chemoradiotherapy after neoadjuvant chemotherapy for advanced esophageal squamous cell carcinoma: Treatment options based on chemotherapy response. ASCO GI, 2025, (San Francisco), [Poster session]
- 044 **Fukuoka S, Machida N, Mitani S, Yamamoto S, Matsuo-ka H, Matsubara H, Muro K, Sato T, Tamura T, Sasaki K, Yamamoto N, Doi T**: Zimberelimab platform study: Safety and efficacy of zimberelimab in combination with futibatinib and chemotherapy in patients with first-line advanced or metastatic esophageal carcinoma. ASCO GI, 2025, (San Francisco), [Poster session]
- 045 **Mizuno T, Narita Y, Ishizuka Y, Sakakida T, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K**: Relationship between PD-L1 expression and the number of biopsy specimens in advanced gastric cancer. ASCO GI, 2025, (San Francisco), [Poster session]

- 046 **Kawakami H, Uchino K, Hashimoto W, Muro K:** Real-world safety of trastuzumab deruxtecan with gastric cancer: All-patient post-marketing surveillance study in Japan. ASCO GI, 2025, (San Francisco), [Poster session]
- 047 **Yamamoto S, Matsuda S, Fukuoka S, Tsushima T, Watanabe A, Kadowaki S, Takeuchi H, Hosokawa A, Kubota Y, Yoshii T, Kato K, Osumi H, Niihara M, Abe T, Takemura R, Hirata K, Hamamoto Y, Kawakubo H, Kitagawa Y:** Phase II study of neoadjuvant chemotherapy with fluorouracil, leucovorin, oxaliplatin and docetaxel for resectable esophageal squamous cell carcinoma. ASCO GI, 2025, (San Francisco), [Poster session]
- 048 **Kadowaki S, Wakatsuki T, Yamamoto N, Ishizuka N, Hironaka S, Minashi K, Hirano H, Hirokazu Shoji H, Yamaguchi T, Chin K, Ogura M, Nakayama I, Osumi H, Ueki A, Kitano S, Boku N, Yamaguchi K, Takahari D:** Relationship in gene amplification between ERBB2 and other oncogenes: Implications for the therapeutic efficacy of trastuzumab (Tmab) -based chemotherapy (CTx) in HER2 positive gastric cancer. ASCO GI, 2025, (San Francisco), [Poster session]
- 049 **Matsuda S, Kawakubo H, Tsushima T, Hironaka S, Tsubosa Y, Sakanaka K, Oguma J, Kadowaki S, Tsunoda S, Hara H, Koyanagi K, Yamaguchi T, Harada K, Takahashi M, Minashi K, Baba E, Sasaki K, Machida R, Takeuchi H:** Safety and efficacy of conversion therapy for metastatic esophageal cancer: Exploratory analysis of JCOG1314. ASCO GI, 2025, (San Francisco), [Poster session]
- 050 **Bando H, Watanabe J, Kotaka M, Matsuhashi M, Oki E, Komatsu Y, Shiozawa M, Hirata K, Miyamoto Y, Yeh K-H, Aleshin A, Takemasa I, Kotani D, Sato A, Misumi T, Nakamura Y, Shi Q, Taniguchi H, Kato T, Yoshino T:** A randomized, double-blind, phase III study comparing trifluridine/tipiracil (FTD/TPI) versus placebo in patients with molecular residual disease following curative resection of colorectal cancer (CRC): The ALTAIR study. ASCO GI, 2025, (San Francisco), [Poster session]
- 051 **Kobayashi A, Nakamura Y, Hashimoto T, Taniguchi H, Komatsu Y, Esaki T, Sunakawa Y, Yamaguchi K, Kato T, Shiozawa M, Takahashi N, Ohta T, Denda T, Satake H, Nishina T, Yasui H, Bando H, Yoshino T:** Association between ctDNA levels, timing of blood collection, and overall survival in metastatic colorectal cancer. ASCO GI, 2025, (San Francisco), [Poster session]
- 052 **Miyashita Y, Bando H, Watanabe J, Suwa Y, Kagawa Y, Kato T, Hasegawa H, Komatsu Y, Yuki S, Asayama M, Nishina T, Inoue A, Oki E, Taniguchi T, Ohta T, Kotani D, Nakajima H, Yamamoto K, Yoshino T:** Clinical validation of plasma circulating-tumor DNA assay using highly sensitive Safe-SeqS technology for detecting RAS and BRAF V600E in metastatic colorectal cancer. ASCO GI, 2025, (San Francisco), [Poster session]
- 053 **Mishima S, Kawazoe A, Ohta T, Esaki T, Kato T, Shinozaki E, Taniguchi H, Komatsu Y, Fuse N, Wakabayashi M, Takakusa M, Matsuda S, Tamura H, Nomura S, Sato A, Fujii S, Nakamura Y, Yoshino T:** Phase I/II study of cabozantinib alone or in combination with panitumumab in patients with MET-amplified metastatic colorectal cancer. ASCO GI, 2025, (San Francisco), [Poster session]
- 054 **Kim TW, Price T, Grasselli J, Strickler JH, Masuishi T, Kwok GW, Yalcin S, Obiozor CC, Chan E, Gokani P, Sunakawa Y:** A phase 3 study of first-line sotorasib, panitumumab, and FOLFIRI versus FOLFIRI with or without bevacizumab-awwb for patients with KRAS G12C-mutated metastatic colorectal cancer (CodeBreak 301). ASCO GI, 2025, (San Francisco), [Trial in Progress Poster session]
- 055 **Starling N, Shitara K, Kiss I, Santoro A, Goetze TO, Chen EX, Masuishi T, McKean M, Wainberg ZA, Folprecht G, Kimura G, Jonasch E, Flesch C, Xu V, Bento Pereira da Silva A, Sareen R, Gregory J, Cutsem EV:** Phase Ib study of gevokizumab (GEVO) in combination with standard-of-care (SoC) anticancer therapies in patients (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC), metastatic gastroesophageal cancer (mGEC), and metastatic renal cell cancer (mRCC). ASCO GI, 2025, (San Francisco), [Poster session]
- 056 **Inamoto R, Hasegawa H, Sugiyama K, Izawa N, Mitani S, Kawakami T, Yuki S, Hirano H, Mishima S, Hamano T, Masuishi T:** A retrospective observational study to evaluate the efficacy of trifluridine/tipiracil ± bevacizumab in metastatic colorectal cancer with MSI-high/deficient MMR. ASCO GI, 2025, (San Francisco), [Poster session]
- 057 室 圭 (演者): 外科医が行うがん薬物療法—どこまで? いつまで? 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [口演]
- 058 小森康司, 安部哲也, 室 圭, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 外石俊樹, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 清水泰博: 消化管メラノーマ治療の現状と課題. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [ワークショップ]
- 059 中西香企, 石神浩徳, 大森 健, 小寺泰弘, 藪崎 裕, 深川剛生, 今野元博, 門脇重憲, 富田寿彦, 秀村晃生, 有上貴明, 廣野康夫, 天貝賢二, 森田 勝, 辻 靖, 楠本哲也, 文 正浩, 木下 淳, 山口博紀, 北山丈二: 胃癌腹膜播種に対する全身・腹腔内投与併用化学療法. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [サージカルフォーラム]
- 060 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 大内 晶, 佐藤雄介, 奥野正隆, 浅野智成, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 小森康司, 伊藤誠二, 門脇重憲, 清水泰博: 術前治療後に食道切除術を施行した進行食道癌に対し術後 Nivolumab を追加することの意義. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [ワークショップ]

- 061 谷口浩也, 緒方貴次, 舛石俊樹: 消化器がんゲノム医療出口拡大のためのリモート治験の取り組み. 第110回日本消化器病学会総会, 2024, (徳島), [シンポジウム]
- 062 友澤周子, 木村香里, 四十谷美樹, 平岡弓枝, 桑田 健, 小村 悠, 藤澤孝夫, 今井光穂, 坂東英明, 上野 誠, 高橋直樹, 稲垣千晶, 仁科智裕, 森實千種, 沖 英次, 砂川 優, 門脇重憲, 中村能章: 遺伝性腫瘍患者の第一度近親者に対する病的バリエーション保有者診断におけるマルチ遺伝子パネル検査の有用性~BRANCH血縁者診断コホートの中間報告. 第30回日本遺伝性腫瘍学会学術集会, 2024, (仙台), [要望演題, 口演]
- 063 石塚保亘, 成田有季哉, 室 圭: Impact on time-of-day nivolumab monotherapy infusion in patients with metastatic gastric cancer. 第110回日本消化器病学会総会, シンポジウム, 徳島, 2024.5月 S44
- 064 室 圭 (演者): 手術が要らなくなると言われた2000年前後の食道癌治療を振り返る-内科治療の光と影-. 第78回日本食道学会学術集会, 2024, (東京), [特別企画3]
- 065 谷口浩也: 進行再発大腸癌に対するPersonalized medicineの深化~腫瘍内科医の立場から-. 第79回日本消化器外科学会総会, 2024, (下関), [ランチョンセミナー]
- 066 安藤正志: 肉腫に対する内科的治療: 現状と今後の展望について. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024, (福井), [シンポジウム]
- 067 西山明宏, 田原 信, 清田尚臣, 今井 源, 高橋俊二, 田村真吾, 清水 康, 門脇重憲, 伊藤研一, 片山輝昭, 杉谷 巖: BRAF V600 変異陽性甲状腺癌に対するエンコラフェニブ+ピニメチニブの国内第2相試験における眼障害に関する追加解析. 第48回日本頭頸部癌学会, 2024, (浜松), [口演]
- 068 谷口浩也: 101回目に照らされる希望の光~大腸癌薬物療法への新提案~. 第101回大腸癌研究会, 2024, (名古屋), [ランチョンセミナー]
- 069 舛石俊樹: 大腸がん薬物療法 - 最新エビデンスとベストプラクティス-. 第101回大腸癌研究会, 2024, (名古屋), [モーニングセミナー]
- 070 舛石俊樹, Strickler JH, Machiels JP, Hong DS, Greil R, Chan E, Hippenmeyer J, Saportas Y, Cardona P, Xia C, 久保木恭利: KRAS G12C 変異陽性切除不能大腸癌患者に対するソトラシブ+パニツムマブ+ FOLFIRI 療法: CodeBreak 101 第1b 相試験 拡大コホート. 第101回大腸癌研究会, 2024, (名古屋), [口演]
- 071 谷口浩也 (座長): 大腸癌薬物療法における個別化治療の最前線. 第101回大腸癌研究会, 2024, (名古屋), [口演]
- 072 石塚保亘, 舛石俊樹, 水野太朗, 榎田智喜, 成田有季哉, 本多和典, 谷口浩也, 門脇重憲, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: RAS/BRAF 野生型右側大腸癌三次治療以降のレジメンに関する検討. 第101回大腸癌研究会, 2024, (名古屋), [示説]
- 073 原田一顕, 川上武志, 伏木邦博, 山崎健太郎, 舛石俊樹, 谷口浩也, 胡 慶江, 安藤幸磁, 沖 英次, 小松嘉人, 坂本直哉, 結城敏志: 転移性結腸直腸癌におけるレゴラフェニブ減量開始の有用性を検討する多施設共同後方視的解析. 第101回大腸癌研究会, 2024, (名古屋), [口演]
- 074 室 圭: 手術が要らなくなると言われた2000年前後の食道癌治療を振り返る-内科治療の光と影-. 第78回日本食道学会学術集会, 2024, (東京), [口演]
- 075 對馬隆浩, 廣中秀一, 坪佐恭宏, 加藤健, 門脇重憲, 野村基雄, 原 浩樹, 北川雄光, 町田龍之介, 佐々木啓太, 竹内裕也: JCOG1314: 切除不能食道癌に対するCF療法とbDCF療法のランダム化第III相比較試験報告. 第78回日本食道学会学術集会, 2024, (東京), [プレナリーセッション]
- 076 田辺裕子, 本多和典, 渡辺祥吾, 田中希世, 佐伯澄人, 北野敦子, 小谷はるる, 深田一平, 桜井なおみ, 梶本裕介, 五十嵐 中, 岩谷胤生, 多田 寛, 原文堅, 久芳さやか, 山内智香子, 相良安昭, 川端英孝, 岩田宏治, 大野真司: 乳癌治療における遺伝子検査の経済的負担の意識に関する研究. 第32回日本乳癌学会学術総会, 2024, (仙台), [ポスターディスカッション]
- 077 谷口浩也: 臨床研究/患者市民参画の基本~地域医療における臨床試験へのアクセスの課題とオンライン治験の現状に関して~. 第32回日本乳癌学会学術総会, 2024, (仙台), [ランチョンセミナー]
- 078 本多和典: がんの経済毒性・時間毒性. 第32回日本乳癌学会学術総会, 2024, (仙台), [ランチョンセミナー]
- 079 室 圭: がん領域の治験に携わる医師からみたCRCに期待すること. がんCRC学会第4回学術集会, 2024, (オンライン), [口演]
- 080 室 圭 (座長): 医療経済からがん治療を考える. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [会長特別企画]
- 081 本多和典 (演者): がんと経済毒性. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [会長特別企画]
- 082 渡邊 純, 三代雅明, 加藤健志, 中村能章, 三島沙織, 坂東英明, 由上博喜, 安藤幸滋, 大庭幸治, 谷口浩也, 小谷大輔, 沖 英次, 竹政伊知朗, 森 正樹, 吉野孝之: 局所切除後病理学的T1大腸癌のリンパ節転移と血中循環腫瘍DNAとの関連性. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [会長特別企画]
- 083 蘆田玲子, 松原淳一, 向井久美, 吉岡正博, 鹿毛秀宣, 織田克利, 池田貞勝, 衣斐寛倫, 室 圭, 梶浦新也, 林 龍二, 北野雅之, 武藤 学: 初回治療前の包括的ゲノム解析による個別化治療: FIRST-Dx 試験の1年間の追跡データ. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [領域横断シンポジウム]
- 084 成田有季哉: 胃癌腹膜播種に対する全身薬物療法の未来. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [領域横断シンポジウム]
- 085 渡辺見識, 島田英昭, 加藤 健, 土井俊彦, 大幸宏幸, 室 圭, 田邊俊介, 日月裕司, 伊藤芳紀, 浜本康夫, 武藤 学, 三梨桂子, 山本佳宣, 森田智祝, 浦田泰生: 食道癌高齢患者に対する腫瘍溶解性ウイルス治療: OBP101JP トップライン結果. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [臓器別シンポジウム]

- 086 古川健一朗, 水野太朗, 垣内慶彦: 日本における消化器外科医・腫瘍内科医の勤務実態と働き方改革への取り組み. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [U-40 企画シンポジウム]
- 087 朴 将源, 藤澤孝夫, 門脇重憲, 佐竹悠良, 安井久晃, 大坪公士郎, 清水 康, 大塚倫之, 久世文也, 中村能章, 坂東英明, 吉野孝之, 岡野 晋: DEK-AFF2 fusion carcinoma における pembrolizumab 耐性メカニズムに対する考察. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [日本癌治療学会× ICC] コラボレーション企画]
- 088 仁科慎一, 門脇重憲, 大塚倫之, 三梨桂子, 藪崎 裕, 稲垣千晶, 仁科智裕, 安井久晃, 松岡 宏, 町田 望, 津田政広, 君嶋悠矢, 眞野祐輔, 武藤 学, 室 圭: An Observational Study of Effectiveness and Safety of Nivolumab plus Chemotherapy for Untreated Advanced or Recurrent Gastric Cancer in Japanese Real-World Settings: 2nd interim analysis of G-KNIGHT. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [“Frontier” 1]
- 089 石黒 敦, 川上武志, 濱野鉄太郎, 千田彰彦, 三谷誠一郎, 安井久晃, 安藤孝将, 澤田憲太郎, 原田一顕, 高橋直樹, 山本紘司, 舩石俊樹, 結城敏志, 山崎健太郎, 沖 英次: Sequential treatment with regorafenib and trifluridine/tipiracil ± bevacizumab for metastatic colorectal Cancer. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [“Frontier” 4]
- 090 稲垣千晶, 傳田忠道, 小谷大輔, 井上永介, 柏田知美, 三原良明, 天貝賢二, 諏訪雄亮, 太田高志, 結城敏志, 塩澤学, 辻 晃仁, 室 圭, 市川 度, 砂川 優: An Observational Study of BRAF Inhibitor Combination Therapy for BRAF-mutated Metastatic Col-orectal Cancer Patients: Real-World Evidence from BEETS Trial (JACCRO CC-18). 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [“Frontier” 4]
- 091 川上尚人, 木藤陽介, 庄司広和, 山田武史, 對馬隆浩, 三谷誠一郎, 白石和寛, 安井久晃, 原 浩樹, 下崎啓太郎, 西尾和人, 吉村健一, 廣中秀一, 室 圭: 切除不能大腸癌に対する FOLFIRI/FOLFOXIRI+ ラムシルマブ: WJOG9216G 試験の最終解析. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [アンコールセッション]
- 092 角木拓朗, 門脇重憲, 水野太朗, 石塚保亘, 榊田智喜, 成田有季哉, 本多和典, 舩石俊樹, 谷口浩也, 安藤正志, 室 圭, 花井信広: 頭頸部扁平上皮癌において Nivolumab を投与開始した時刻と治療成績に関する検討. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [一般口演]
- 093 若林宗弘, 谷口浩也, 結城敏志, 武田弘幸, 三谷誠一郎, 奥村祐太, 赤澤直也, 牧山明資, 工藤敏啓, 工藤千穂, 盛 啓太, 室 圭: 大腸癌患者における FTD/TPI+BEV 療法 (隔週法) の患者内用量漸増試験 (E-BiTS 試験). 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [一般口演]
- 094 本多和典 (演者): がんと経済毒性. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [PAL セミナー]
- 095 室 圭 (演者): 新局面を迎えた胃癌治療 2024 ～一次治療の考え方～. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [学術セミナー]
- 096 舩石俊樹 (演者): 60分でわかる大腸がん個別化医療の最前線. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [イブニングセミナー]
- 097 室 圭 (座長): HER2 の今とこれから～検査・診断・精度管理そして治療～. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [スポンサードシンポジウム]
- 098 室 圭 (司会): 多様性の時代を迎える胃癌薬物療法 - CLDN18 検査/ゾルベツキシマブがもたらすもの -. JDDW, 2024, (神戸), [ブレックファーストセミナー]
- 099 谷口浩也 (演者): 新しい臨床試験のカタチ～分散化臨床試験とプラグマティック臨床試験～. 日本泌尿器腫瘍学会第10回学術集会, 2024, (福岡), [ノンスポンサードセッション]
- 100 谷口浩也: がん領域における DCT 導入を通じた日本の治療の在り方と治験エコシステム創出へ. 第21回 DIA 日本年, 2024, (東京), [パネルディスカッション]
- 101 谷口浩也 (演者): 今, 臨床試験現場で何が起きているか～責任医師の立場から～. 第21回 DIA 日本年, 2024, (東京), [DIAMOND Session]
- 102 飯田直子, 橋本直佳, 藤澤孝夫, 門脇重憲, 上野 誠, 朴 将源, 野々村祝夫, 沖 英次, 小松嘉人, 牧山明資, 森實千穂, 工藤敏啓, 高橋直樹, 澁木太郎, 今井光穂, 山下理宇, 中村能章, 坂東英明, 吉野孝之: トランスクリプトームシーケンシングによる進行癌における FGFR2-IIIb/IIIc アイソフォームスイッチングの解明. 第47回日本分子生物学会年會, 2024, (福岡), [ポスター]
- 103 谷口浩也 (演者): 患者のためのオンライン臨床試験・治験～研究者・医療者のメリットは?～. 第28回日本遠隔医療学会学術大会, 2024, (岡山), [分科会セッション]
- 104 川上武志, 砂川 優, 佐竹悠良, 松永拓真, 田村洋子, 金田洋和, 谷口浩也: eConsent を活用した遠隔治験スクリーニング体制の構築 Establishment of a remote screening system for clinical trials through the use of eConsent. 第28回日本遠隔医療学会学術大会, 2024, (岡山), [口演]
- 105 室 圭 (演者): 胃癌薬物療法におけるバイオマーカー検査の意義. 第28回日本外科病理学会学術集会, 2024, (東京), [ランチョンセミナー]
- 106 谷口浩也 (演者): 大腸癌に対する集学的治療戦略. 第102回大腸癌研究会学術集会, 2025, (別府), [口演]
- 107 谷口浩也 (演者): 必見! ガイドラインに基づいた実臨床での CRC シークエンスの考え方. 第102回大腸癌研究会学術集会, 2025, (別府), [ランチョンセミナー]
- 108 谷口浩也 (演者): 湯けむりの街でエルプラットを語り尽くす: 20年の歴史と今後. 第102回大腸癌研究会学術集会, 2025, (別府), [モーニングセミナー]
- 109 室 圭 (講師): バイオマーカーに基づいた胃癌・大腸癌薬物療法の実践. 第11回日本臨床外科学会宮城県支部総会, 2025, (仙台), [特別講演]

- 110 谷口浩也 (オーガナイザー): 患者始点の全員参加型臨床試験と治療開発～がん領域の取り組みから学ぶ～. 第16回日本臨床試験学会学術集会総会, 2025, (横浜), [公募セッション企画シンポジウム]
- 111 室 圭 (演者): 間違いだらけのHER2 陰性胃癌一次治療選び. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [メディカルセミナー]
- 112 田村和夫, 高山浩一, 古瀬純司, 土岐祐一郎, 小島 愛, 本田主税, 金又聡美, 室 圭: がん悪液質患者7,132例におけるアナモレリンのリアルワールドデータ: 特定使用成績調査の中間解析. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Oral Session]
- 113 室 圭 (座長): 大腸がんに対する新たな分子標的治療薬. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [会長企画シンポジウム]
- 114 室 圭 (座長): The role of biomarkers in gastric and colon cancer treatment and future prospects. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [メディカルセミナー]
- 115 室 圭 (座長): 腫瘍内科医と外科医が語り合う胃癌治療の現在地と将来. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [モーニングセミナー]
- 116 室 圭 (座長): がん患者の感染症予防を考える. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [モーニングセミナー]
- 117 室 圭 (座長): がん薬物療法における中心静脈デバイスの選択について. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [メディカルセミナー]
- 118 室 圭 (演者): 海外エビデンス. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [メディカルセミナー]
- 119 杉本直俊, 中西香企, 小寺泰弘, 川上尚人, 牧山明資, 小西博貴, 森田智視, 成田有季哉, 三梨桂子, 今野元博, 稲本 林, 仁科智裕, 川上武志, 萩原資久, 久米紘幹, 山口敬太, 橋本 航, 室 圭: HER2 陽性切除不能進行・再発胃癌患者におけるトラスツブマブデルクステカン治療の予後因子: EN-DEAVOR 研究サブ解析. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Mini Oral Session]
- 120 児玉紘幸, 山口敏史, 成田有季哉, 室 圭, 西川浩樹: 臨床試験での検体輸送において最適な輸送環境を目指した取り組み. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Mini Oral Session]
- 121 山田知里, 成田有季哉, 須田貴斗, 堀田枝里, 黒野純子, 倉石幸治, 水野太朗, 石塚保亘, 下村一景, 飯田優美, 近藤滉子, 戸崎加奈江, 小原真紀子, 高畑知帆子, 室 圭: ゴルベツキシマブ導入時における多職種連携～クリニカルパスの活用～. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Poster Session]
- 122 小塩英典, 大内 晶, 小森康司, 安部哲也, 室 圭, 花井信広, 鈴木史朗, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 舩石俊樹, 清水泰博: 粘膜メラノーマ治療の現状と課題. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Poster Session]
- 123 古田光寛, 岡本 渉, 松本俊彦, 稲垣千晶, 松原裕樹, 日野佳織, 平田賢郎, 門脇重憲, 新井裕之, 細川 歩, 杉本直俊, 安井久晃, 野津昭文, 室 圭: PROCEED 試験 (CyberOncology[®]) での Cy-berOncology[®] の利便性に関するアンケート調査. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Poster Session]
- 124 水野太朗, 成田有季哉, 石塚保亘, 柳田智喜, 本多和典, 舩石俊樹, 谷口浩也, 門脇重憲, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: 進行胃癌におけるPD-L1 の発現と生検検体数の関係についての後方視的検討. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Poster Session]
- 125 吉野孝之, 加藤健志, *Yuan Y*, 佐藤太郎, *Zhang J*, 小谷大輔, 山口研成, 高島淳生, 谷口浩也, 山崎健太郎, 原 浩樹, 陶山浩一, 宮本裕士, 坂本康寛, *Cela E, Chen T, Lei M, Jin L, Li J*: 高頻度マイクロサテライト不安定性・ミスマッチ修復機構欠損の進行大腸がんにおけるニボルマブ及びイピリムマブの併用療法 vs 化学療法: CheckMate 8HW アジア人サブ集団解析. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Oral Session]
- 126 成田有季哉 (演者): MSI-H 胃癌に対する治療戦略. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [シンポジウム]
- 127 *Toshiki M, Siena S, Yamaguchi K, Ruffinelli J, Corral E, Kuboki Y, Cremolini C, Victora I, Elez E, Strickler J, Furqan M, Bashir B, Nduka C, Hippenmeyer J, Chan E, Xia C*: KRAS G12C 変異を有する切除不能大腸癌に対するソトラシブ, パニツムマブ及びFOLFIRI を併用した一次治療の有効性及び安全性 (CodeBreaK101 試験). 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Oral Session]
- 128 舩石俊樹 (演者): 炎症性筋線維芽細胞腫瘍 (IMT) を含むALK 融合遺伝子陽性固形腫瘍に対するALK 阻害薬の開発. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [シンポジウム]
- 129 松本光史, 金村宙昌, 谷崎潤子, 舩石俊樹, 磯部大地, 児玉裕章, 清水俊雄, 砂川 優, 千葉康敬, 山本信之, 中川和彦, 林 秀敏: HER2 遺伝子変異を有する固形癌に対するMobocertinib+T-DM1 併用療法の安全性と有効性を検討する多施設共同第Ia/Ib 相バスケッ試験 (WJOG-16022M:HER2 Sand). 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Mini Oral Session]
- 130 舩石俊樹 (座長): 消化管7 (大腸2 臨床). 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Mini Oral Session]
- 131 谷口浩也, 坂東英明, 渡邊 純, 小高雅人, 松橋延壽, 沖 英次, 小松嘉人, 塩澤 学, 平田敬治, 宮本裕士, *Yeh K-H, Alexey A*, 竹政伊知朗, 小谷大輔, 佐藤暁洋, 三角俊裕, 中村能章, *Qian Shi*, 加藤健志, 吉野孝之: 血中循環腫瘍DNA 陽性の治療切除後結腸・直腸がん患者を対象としたFTD/TPI 療法とプラセボとを比較する無作為化二重盲検第III 相試験 (CIRCULATE-Japan ALTAIR/EPOC1905). 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Presidential Session]

- 132 谷口浩也 (演者): 徹底解説! バイオマーカーに基づく大腸癌個別化治療の最前線. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [イブニングセミナー]
- 133 吉野孝之, 加藤健志, *Yuan Y*, 佐藤太郎, *Zhang J*, 小谷大輔, 山口研成, 高島淳生, 谷口浩也, 山崎健太郎, 原 浩樹, 陶山浩一, 宮本裕士, 坂本康寛, *Cela E*, *Chen T*, *Lei M*, *Jin L*, *Li J*: 高頻度マイクロサテライト不安定性・ミスマッチ修復機構欠損の進行大腸がんにおけるニボルマブ及びイピリムマブの併用療法 vs 化学療法: CheckMate 8HW アジア人サブ集団解析. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Oral Session]
- 134 諏訪雄亮, 渡邊 純, 宮下 優, 坂東英明, 賀川義規, 加藤健志, 長谷川裕子, 小松嘉人, 結城敏志, 朝山雅子, 仁科智裕, 井上 彬, 沖 英次, 谷口浩也, 太田高志, 小谷大輔, 中島裕理, 山本絃司, 吉野孝之: 進行・再発大腸癌におけるRAS およびBRAF V600E 変異検出のためのSafe-SeqS 技術を用いたctDNA アッセイの臨床性能試験. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Poster Session]
- 135 深堀慎一郎, 榊田智喜, 工藤千穂, 小川明伸, 黒野純子, 堀田枝里, 前田章光, 松浦由紀子, 山口真由美, 山田知里, 安藤正志, 尾瀬 功, 谷口浩也: 5-FU 持続静注の投与経路としてのミッドラインカテーテルの有用性探索 (MLC-45FU 試験). 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Oral Session]
- 136 西田尚弘, 佐藤太郎, 門脇重憲, 砂川 優, 仁科智裕, 小松嘉人, 江崎泰斗, 小野宏美, 浅野雅俊, 平野奈美, 藤井誠志, 野村尚吾, 吉野孝之, 中村能章, 佐藤暁洋, 八木澤允貴, 谷口浩也: 血中遊離DNAによりHER2 遺伝子増幅が認められた固形がんに対するトラスツズマブデルクステカンの多施設共同臨床第II 相試験 (HERALD/EPOC1806 試験) データアップデート. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Presidential Session]
- 137 梅垣 翔, 山口真澄, 柴田典子, 佐藤 好, 上岡亜子, 細田和貴, 衣斐寛倫: 検査成功率の観点から考えた最適な包括的ゲノムプロファイリングテストを選択する戦略. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Poster Session]
- 138 梅垣 翔, 山口真澄, 柴田典子, 佐藤 好, 上岡亜子, 細田和貴, 衣斐寛倫: CGP 検査におけるサンプルの低品質と前立腺癌の関連性. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Poster Session]
- 139 衣斐寛倫, 梅垣 翔, 山口真澄, 佐藤 好, 上岡亜子: 自施設においてがん遺伝子プロファイリング検査ができない病院から紹介される症例におけるオンライン診療の必要性の検討. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Poster Session]
- 140 本多和典 (演者): がんの経済毒性・時間毒性. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [イブニングセミナー]
- 141 横山和樹, 本多和典, 松元和子, 安藤弥生, 伊藤宗洋, 新野祐樹, 下井辰徳, 鈴木達也, 吉岡貴史, 石木寛人: 本邦におけるがん患者の経済毒性に関連する社会経済的要因に関する前向き研究. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Oral Session]
- 142 平野秀和, 若槻 尊, 山本智理子, 石塚直樹, 廣中秀一, 三梨桂子, 門脇重憲, 庄司広和, 後藤昌弘, 山口敏史, 陳 勁松, 小倉真理子, 中山巖馬, 大隅寛木, 植木有紗, 北野滋久, 朴 成和, 山口研成, 高張大亮: SOX+ トラスツズマブ併用化学療法が施行されたHER2 陽性胃癌におけるERBB2 とERBB2 以外のがん遺伝子増幅の補完的関係の臨床的意義. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Mini Oral Session]
- 143 清田尚臣, 田原 信, 今井 源, 高橋俊二, 西山明宏, 田村真吾, 清水 康, 門脇重憲, 伊藤研一, 豊島優裕, 平島詳典, 上野真治, 緒方壮太, 杉谷 巖: BRAF V600 遺伝子変異を有する甲状腺がんに対するエンコラフェニブとビニメチニブの第II 相試験における健康関連QoL. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Mini Oral Session]
- 144 門脇重憲 (演者): 地域特有のがん治療法や予防法の開発へとつなげるための国際的な協力: 腫瘍内科医の立場から. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [海外合同シンポジウム]
- 145 牛山心平, 松原裕樹, 橋本直佳, 三島沙織, 門脇重憲, 岡野尚弘, 大坪公士郎, 上野 誠, 大塚倫之, 砂川 優, 傳田忠道, 牧山明資, 江崎泰斗, 賀川義規, 高橋直樹, 朴 将源, 藤澤孝夫, 中村能章, 坂東英明, 吉野孝之: MONSTAR-SCREEN-2 における組織および血液に基づく遺伝子解析を用いた神経内分泌腫瘍の分子学的特徴. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Oral Session]
- 146 久保田洋平, 上山俊介, 山田武史, 天沼裕介, 古田光寛, 佐藤 渉, 對馬隆浩, 羽田綾子, 久保田祐太郎, 門脇重憲, 田辺健一郎, 砂川 優: 未治療の切除不能または再発食道癌に対するmFOLFOX6+ ニボルマブ療法の第II 相試験. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Poster Session]
- 147 *Narita Y* (Discussant): Oral Session 2 O2 Gastrointestinal Cancer 1 消化管 1. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [Oral Session]
- 148 室 圭, 内納和浩, 橋本 航, 川上尚人: Post-marketing surveillance of all patients treated with T-DXd for advanced gastric cancer in Japan. 第97回日本胃癌学会総会, 2025, (名古屋), [シンポジウム]
- 149 會澤雅樹, 門脇重憲, 大塚倫之, 仁科慎一, 三梨桂子, 稲垣千晶, 仁科智裕, 安井久晃, 松岡 宏, 町田 望, 津田政広, 長島文夫, 保坂尚志, 松原淳一, 新井 裕之, 井田 智, 君嶋悠矢, 眞野祐輔, 武藤 学, 室 圭: Real-world Safety of Nivolumab plus Chemotherapy in Gastric Cancer: Interim Analysis of G-KNIGHT. 第97回日本胃癌学会総会, 2025, (名古屋), [Mini Oral]

- 150 須田貴斗, 成田有季哉, 山田知里, 下村一景, 飯田優美, 黒野純子, 堀田枝里, 倉石幸治, 高畑知帆子, 水野太朗, 石塚保亘, 室 圭: Importance of Multidisciplinary Collaboration and Information Sharing in the Clinical Implementation of Zolbetuximab. 第97回日本胃癌学会総会, 2025, (名古屋), [Poster]
- 151 室 圭 (演者): 胃癌治療におけるバイオマーカー検査の意義とそれに基づいた薬物療法の実践. 第97回日本胃癌学会総会, 2025, (名古屋), [Educational Seminar]
- 152 室 圭 (座長): 外来化学療法における看護師の適正配置に向けて. 第11回日本医療安全学会学術総会, 2025, (名古屋), [口演]

臨床検査部

- 001 徳升富美, 野中綾子, 楠本 茂, 渡邊佳奈, 岡田恭孝, 松田千秋, 東 直希, 尾関 順子, 加藤省一, 細田和貴: マントル細胞リンパ腫の経過観察中に T 細胞性前リンパ球性白血病を発症した一症例. 第25回日本検査血液学会広島大会, 2024, (広島), [口演]
- 002 渡邊佳奈, 野中綾子, 徳升富美, 松田千秋, 東 直希, 鍋田弥生: 当院における8時採血開始に向けての取り組みとその成果と課題. 第62回令和6年度日臨技中部圏支部医学検査学会, 2024, (名古屋), [口演]
- 003 黒柳京香, 小林雅子, 近藤吉起, 所 嘉朗, 田中由美恵, 大島康裕, 尾関順子, 細田和貴: 低異型度尿路上皮癌における尿細胞診の検討. 第44回日本臨床細胞学会東海連合会学術集会, 2025, (ハイブリッド), [口演]

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 藤田泰子: 実体顕微鏡下での簡便かつ安価な用手的マイクロダイセクション変法. 第113回病理学会総会, 2024, (名古屋), [ポスター]
- 002 小林翔太: 胆管腺腫に発生した高異型度上皮内腫瘍のゲノムプロファイリング. 第113回病理学会総会, 2024, (名古屋), [ポスター]
- 003 藤田泰子: 第38回～第40回勉強会. Salon de Taverna, 2024, (Web), [世話人, コメンテーター, 症例解説]
- 004 藤田泰子: 拡大内視鏡画像の検討および病理対比について その4 (病理解説). 第8回 京都拡大内視鏡研究会, 2024, (京都, ハイブリッド), [コメンテーター, 症例解説]
- 005 細田和貴: 症例検討 病理解説. 膵癌早期診断研究会, 2024, (Web), [世話人, コメンテーター, 症例解説]

頭頸部外科部

- 001 **Hanai N, Asakage T, Hayashi R**: Oral Cancer in East Asia: Treatment Outcomes and Prognosticators. 第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2024, (大阪), [International Symposium]
- 002 **Hanai N**: Oral cavity 2nd Joint Meeting of Tri-Head and Neck Society 2024, 2024, (大阪), [シンポジウム (モデレーター)]
- 003 **Nishikawa D**: Surgical management: Elderly patients and functional outcomes. 2nd Joint Meeting of Tri-Head and Neck Society 2024, 2024, (大阪), [パネルディスカッション]
- 004 **Kobayashi Y**: A case of anaplastic thyroid carcinoma treated with BRAF and MEK inhibitors via a nasogastric tube due to impaired transit due to postoperative cervical recurrence. APTS 2024, 2024, (タイ・バンコク), [シンポジウム]
- 005 **Tunoki T**: Impacts of time-of-day of nivolumab infusion on treatment efficacy for patients with head and neck squamous cell carcinoma. ESMO Asia Congress 2024, 2024, (シンガポール), [口演]
- 006 花井信広: 光免疫. 第4回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会総会・学術講演会, 2024, (枚方市), [座長]
- 007 岸川敏博, 寺田星乃, 別府慎太郎, 西川大輔, 鈴木秀典, 花井信広: 頭頸部アルミノックス治療における局所麻酔の有用性. 第4回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会総会・学術講演会, 2024, (枚方市), [口演]
- 008 寺田星乃: 頸部リンパ節の評価 甲状腺疾患の超音波検査. 第1回頸部リンパ節超音波研究会, 2024, (愛知), [ハンズオン]
- 009 花井信広: 頭頸部癌薬物療法. 第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2024, (大阪), [座長]
- 010 西川大輔: 頸部郭清術の基礎と応用. 第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2024, (大阪), [学術講演]
- 011 岸川敏博, 寺田星乃, 萩原純孝, 別府慎太郎, 西川大輔, 鈴木秀典, 花井信広: 進行舌癌におけるレベル IIB 対側頸部リンパ節転移の臨床病理学的検討. 第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2024, (大阪), [口演]
- 012 野島雄介, 鬼島菜摘, 佐野大佑, 西川大輔, 後藤聖也, 土田宏大, 加納里志, 有泉陽介, 森下洋平, 桑原 達, 向川卓志, 志賀清人, 朝蔭孝宏, 松浦一登, 折館伸彦, 本間明宏, 林 隆一, 花井信広: Stage I/II 舌癌における潜在的リンパ節転移の予測式の確立. 第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2024, (大阪), [口演]
- 013 寺田星乃: 唾液腺の超音波解剖と手術解剖. 日本超音波医学会第97回学術集会, 2024, (横浜), [ワークショップ]

- 014 鳥袋拓也, 西川大輔, 角木拓朗, 塚本康二, 吉澤宏一, 各務雅基, 岸川敏博, 寺田星乃, 別府慎太郎, 鈴木秀典, 花井信広: 頭頸部アルミノックス治療の有効性と安全性の検討. 第185回東海地方部会連合講演会, 2024. (名古屋), [口演]
- 015 花井信広: エキスパートから学ぶ! 頭頸部アルミノックス治療3年間で培った臨床経験. 治療開始3周年記念講演会, 2024. (東京), [座長]
- 016 西川大輔: ケースから学ぶ! 頭頸部アルミノックス治療の適応と治療プランニング (アナライザーを用いた全員参加型セッション). 治療開始3周年記念講演会, 2024. (東京), [セッション]
- 017 花井信広: 「JCOG1601/1912 からリンパ節の予防的照射 / 郭清の意義を考える」. 第48回日本頭頸部癌学会, 2024. (浜松), [シンポジウム]
- 018 花井信広: 頭頸部癌診療に役立つ頭頸部超音波 ハンズオンセミナー. 第48回日本頭頸部癌学会, 2024. (浜松), [司会]
- 019 寺田星乃: 頭頸部癌診療に役立つ頭頸部超音波. 第48回日本頭頸部癌学会, 2024. (浜松), [講師・インストラクター]
- 020 花井信広, 朝蔭孝宏, 林 隆一: 舌がんの予防的頸部郭清術を考える. 第48回日本頭頸部癌学会, 2024. (浜松), [シンポジウム]
- 021 西川大輔: 高難度症例における外科的治療の Tip & Traps. 第48回日本頭頸部癌学会, 2024. (浜松), [ランチョンセミナー]
- 022 鈴木秀典, 安部哲也, 佐々木英一, 檜垣栄治, 村嶋明大, 花井信広: 耳下腺転移を伴う食道悪性腫瘍に対する同時切除の症例報告. 第48回日本頭頸部癌学会, 2024. (浜松), [口演]
- 023 萩原純孝, 高成啓介, 鈴木秀典, 西川大輔, 別府慎太郎, 寺田星乃, 岸川敏博, 花井信広: 下顎区域切除に伴う咬合喪失を反映した新規下顎欠損分類の構築. 第48回日本頭頸部癌学会, 2024. (浜松), [口演]
- 024 茂木 厚, 野村基雄, 清田尚臣, 清水 康, 秋元哲夫, 向川卓志, 藤井 隆, 対馬那由多, 志賀清人, 小山泰司, 川北大介, 大越 明, 中平光彦, 花井信広, 室野重之, 上田 勉, 三谷浩樹, 本間明宏: 遠隔転移のない頭頸部粘膜悪性黒色腫を対象とした根治治療に関する観察研究 (RESUME 試験). 第48回日本頭頸部癌学会, 2024. (浜松), [口演]
- 025 安田耕一, 清田尚臣, 松浦一登, 斎藤 哲, 今村善宣, 田中 薫, 全田貞幹, 古平 毅, 花井信広, 岡野 晋, 酒井昭博, 伊藤薫樹, 山村悠大, 本間明宏: 高齢者局所進行頭頸部癌に対する化学放射線療法の適応について JCOG 頭頸部がんグループアンケート調査. 第48回日本頭頸部癌学会, 2024. (浜松), [口演]
- 026 川北大介, 安部哲也, 佐々木英一, 檜垣英治, 村嶋明大, 花井信広: 名古屋市立大学病院における再発転移唾液腺癌に対する抗 HER2 療法の現状. 第48回日本頭頸部癌学会, 2024. (浜松), [口演]
- 027 松塚 崇, 花井信広, 吉本世一, 大峽慎一, 塚原清彦, 近松一朗, 榎木祐一郎, 荒木幸仁, 篠崎 剛, 平川 仁, 長谷川泰久: 口腔がん亜部位別のセンチネルリンパ節と頸部転移の検出領域の分布 - SNNS 国内他施設共同研究結果から -. 第48回日本頭頸部癌学会, 2024. (浜松), [ポスター]
- 028 中村亮太, 高成啓介, 花井信広, 奥村誠子, 丸山陽子, 兵藤伊久夫: 上顎再建 愛知県がんセンターにおける遊離腹直筋皮弁による上顎再建. 第48回日本頭頸部癌学会, 2024. (浜松), [シンポジウム]
- 029 岩井美世子, 佐藤一樹, 中山衣代, 高津 淳, 花井信広: 喉頭摘出後のコミュニケーション手段の QOL・満足度の違いと関連要因の探索. 第48回日本頭頸部癌学会, 2024. (浜松), [ポスター]
- 030 岸川敏博, 寺田星乃, 別府慎太郎, 西川大輔, 鈴木秀典, 花井信広: 偽腫瘍を形成した IgG4 関連甲状腺炎の1例. 第86回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 2024. (福井), [口演]
- 031 角木拓朗, 別府慎太郎, 鳥袋拓也, 各務雅基, 鈴木秀典, 花井信広: 術後頸部再発による通過障害のため経鼻胃管で BRAF/MEK 阻害薬を投与し奏効を得た甲状腺未分化癌の1例. 第86回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 2024. (福井), [ポスター]
- 032 花井信広: 頭頸部 4. 第86回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 2024. (福井), [座長]
- 033 花井信広: 知っておきたい「口のがん」「くびのがん」の最新知識. 頭頸部外科月間あいち市民公開講座 2024, 2024. (名古屋), [講演]
- 034 寺田星乃: 知れば知るほど面白い頸部超音波. 日本超音波検査学会中部 第40回地方会学術集会, 2024. (名古屋), [講演]
- 035 青山寿昭, 深田順子, 八重樫裕, 花井信広, 米田雅彦: 化学放射線療法を受けた頭頸部がん患者における治療中から治療後9ヵ月までの摂食嚥下機能に関連する要因. 第30回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 2024. (福岡), [口演]
- 036 花井信広: 再発転移頭頸部癌薬物療法の最前線 ~標準治療から最新レジメンまで徹底解説!~. Erbitux HN Web Seminar, 2024. (Web開催), [座長]
- 037 寺田星乃: 免疫チェックポイント阻害剤による甲状腺機能異常. 日本超音波医学会頸部リンパ節超音波研究会, 2024. (Web開催), [講演]
- 038 花井信広: 明日から役立つ気管食道領域の超音波ハンズオンセミナー. 第75回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 2024. (仙台), [進行役 (インストラクター)]
- 039 花井信広: 再建. 第75回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 2024. (仙台), [座長]
- 040 寺田星乃: ほっておいてもよい腫瘍エコーと専門医にコンサルトすべき腫瘍エコー その他の頸部腫瘍. 第14回初歩から学ぶ POCUS WEB セミナー, 2024. (Web開催), [講演]

- 041 角木拓朗, 門脇重憲, 水野太朗, 石塚保亘, 榊田智喜, 成田有季哉, 本多和典, 舛石俊樹, 谷口浩也, 安藤正志, 室圭, 花井信広: 頭頸部扁平上皮癌において Nivolumab を投与開始した時刻と治療成績に関する検討. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [口演]
- 042 花井信広: 頭頸部 2. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [座長]
- 043 西川大輔: 頭頸部アルミノックス治療の有効性を高めるための考察と課題. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [ワークショップ]
- 044 寺田星乃: 初心者超音波ハンズオンセミナー「頭頸部領域」. 第 52 回日本乳癌甲状腺超音波医学会学術集会, 2024, (札幌), [講師・インストラクター]
- 045 高成啓介, 中村亮太, 鍋谷峻矢, 藤岡 麗, 小倉一真, 大島希実子, 奥村誠子, 萩原純孝, 花井信広: 下顎再建の整容性を追求する - CAD/CAM を用いた下顎再建のプランニング基準 -. 第 42 回日本頭蓋顔面外科学会学術集会, 2024, (東京), [パネルディスカッション]
- 046 西川大輔, 別府慎太郎, 鈴木秀典, 伊藤聡志, 花井信広: 経口のロボット手術における Rotating and Switching Technique による下咽頭癌切除. 第 25 回耳鼻咽喉科・頭頸部外科医療支援システム研究会, 2024, (名古屋), [口演]
- 047 別府慎太郎, 鈴木秀典, 西川大輔, 寺田星乃, 小林義明, 花井信広: 頬部を貫通し耳鏡を用いることでドリルによる安全な骨切りを可能とした新たな下顎辺縁切除方法. 第 25 回耳鼻咽喉科・頭頸部外科医療支援システム研究会, 2024, (名古屋), [口演]
- 048 藪田拓弥, 寺田星乃, 西川大輔, 別府慎太郎, 鈴木秀典, 小林義明, 各務雅基, 鳥袋拓也, 角木拓郎, 伊藤聡志, 花井信広: 頭頸部アルミノックス治療にナビゲーションシステムを使用した 1 例. 第 25 回耳鼻咽喉科・頭頸部外科医療支援システム研究会, 2024, (名古屋), [口演]
- 049 花井信広: 教育セミナー 4. 第 25 回耳鼻咽喉科・頭頸部外科医療支援システム研究会, 2024, (名古屋), [司会]
- 050 寺田星乃: 専門医実技講習【領域講習】超音波検査入門 (1). 第 38 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科秋季大会, 2024, (京都), [講師]
- 051 各務雅基, 萩原純孝, 高成啓介, 別府慎太郎, 寺田星乃, 西川大輔, 鈴木秀典, 花井信広: 下顎再建 (CAD/CAM) における導入化学療法の効果について. 第 186 回東海地方部会連合講演会, 2024, (名古屋), [口演]
- 052 花井信広: 難治性頭頸部癌の治療戦略 - 外科医の視点から集学的治療を考える -. 第 34 回日本頭頸部外科学会総会, 2025, (東京), [ランチョンセミナー]
- 053 寺田星乃: 4 年目の挑戦 - 実臨床のジレンマへに挑む頭頸部アルミノックス治療. 第 34 回日本頭頸部外科学会総会, 2025, (東京), [ランチョンセミナー]
- 054 花井信広: 頭頸部超音波研究会企画ハンズオンセミナー, 第 34 回日本頭頸部外科学会総会, 2025, (東京), [司会]
- 055 花井信広: 口腔 1. 第 34 回日本頭頸部外科学会総会, 2025, (東京), [座長]
- 056 寺田星乃: 頭頸部癌診療における超音波診断. 第 34 回日本頭頸部外科学会総会, 2025, (東京), [ハンズオンセミナー口演]
- 057 西川大輔, 別府慎太郎, 花井信広: 経口切除を行った p16 陽性中咽頭癌の再発形式と術後放射線治療の必要性の検討. 第 34 回日本頭頸部外科学会総会, 2025, (東京), [口演]
- 058 石原宏政, 西川大輔, 別府慎太郎, 寺田星乃, 柴田博史, 小川武則, 花井信広: 頭頸部癌における光免疫療法前後の血清 DAMPs およびサイトカイン/ケモカインの変化. 第 34 回日本頭頸部外科学会総会, 2025, (東京), [口演]
- 059 花井信広: 口腔 1. 第 34 回日本頭頸部外科学会総会, 2025, (東京), [座長]
- 060 鈴木秀典: 緩和・支持療法. 第 34 回日本頭頸部外科学会総会, 2025, (東京), [座長]
- 061 鈴木秀典, 西川大輔, 別府慎太郎, 寺田星乃, 花井信広: 小唾液腺における lymph node density. 第 34 回日本頭頸部外科学会総会, 2025, (東京), [口演]
- 062 各務雅基, 別府慎太郎, 小林義明, 寺田星乃, 西川大輔, 鈴木秀典, 高成啓介, 花井信広: 舌癌切除・再建手術における喉頭挙上術についての検討. 第 34 回日本頭頸部外科学会総会, 2025, (東京), [口演]
- 063 伊藤聡志, 西川大輔, 小林義明, 寺田星乃, 別府慎太郎, 鈴木秀典, 花井信広: 頭頸部癌再建術後の合併症が予後に与える影響. 第 34 回日本頭頸部外科学会総会, 2025, (東京), [口演]
- 064 篠崎 剛, 塚原清彰, 林 隆一, 四宮弘隆, 牧野琢丸, 今村 大, 田淵茉奈実, 花井信広: 頭頸部アルミノックス治療 (光免疫療法) の多施設共同観察研究における照射病変毎の有効性及び安全性の検討. 第 34 回日本頭頸部外科学会総会, 2025, (東京), [口演]
- 065 花井信広: 頭頸部癌治療の最新 ~ 頭頸部アルミノックス治療の最新リアルワールドデータ ~. メディア向け勉強会, 2025, (東京), [口演]
- 066 井口未貴, 八重樫裕, 戸田桂子, 花井信広: がん専門病院のジェネラリスト看護師による頭頸部外科病棟での摂食機能療法への取り組み. 第 48 回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会, 2025, (神戸), [口演]
- 067 寺田星乃: JCOG 試験における ePRO 導入の経験. JCOG PRO/QOL 研究委員会主催: ePRO セミナー, 2025, (Web), [口演]
- 068 長谷川令賀, 萩原純孝: 下顎頭を含む下顎欠損にコンピュータ支援手術を導入し下顎再建を行なった 2 例. 第 43 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 2025, (東京), [口演]
- 069 花井信広: 難治性頭頸部癌の治療戦略 - 外科医の視点から集学的治療を考える -. 頭頸部癌治療. Web Live Seminar, 2025, (Web), [口演]
- 070 別府慎太郎: 手術センスの磨き Don't think. Sense. 2024 年度頭部郭清講習会, 2025, (名古屋), [口演]
- 071 藪田拓弥, 鈴木秀典, 西川大輔, 別府慎太郎, 寺田星乃, 小林義明, 花井信広: 咽喉頭癌と甲状腺癌における術後甲状腺機能と副甲状腺機能. 第 37 回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 2025, (福島), [口演]

072 萩原純孝, 高成啓介, 鍋谷峻矢, 鈴木秀典, 西川大輔, 別府慎太郎, 寺田星乃, 小林義明, 各務雅基, 長谷川令賀, 花井信広: CAD/CAM システムから学んだ下顎再建術 = 愛知県がんセンターにおける下顎再建の工夫. 第 41 回東海頭頸部腫瘍研究会, 2025, (名古屋), [口演]

形成外科部

- 001 奥村誠子: 乳房再建 (人工物). 第 67 回日本形成外科学会総会・学術集会, 2024, (神戸), [教育講演]
- 002 奥村誠子: コントロールされている精神疾患のある乳癌患者に対する乳房再建の検討. 第 31 回乳癌学会学術総会, 2024, (仙台), [一般口演]
- 003 奥村誠子: 乳頭温存乳房全切除術 (NSM) の適応と実際 TE 留置のポイント. 乳癌学会 web セミナー, 2024, (web)
- 004 奥村誠子: レシピエントとしての内胸 AV は長い方がいいのか? 短い方がいいのか?. The 25th Kansai Inter-university Symposium on State-of-the-Art in PRS, 2024, (鳥取), [一般口演]
- 005 奥村誠子: 乳房再建術時入院期間中に精神疾患症状が増悪した症例の検討. 第 12 回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会, 2024, (金沢), [一般口演]
- 006 奥村誠子: ガイドライン委員会企画 乳房再建ガイドブック 人工物. 第 33 回日本形成外科学会基礎学術集会, 2024, (東京), [口演]
- 007 奥村誠子: 1 次 1 期乳房インプラント再建における工夫とピットフォール. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会 (宇都宮), 2024, (宇都宮) [ビデオパネルディスカッション]
- 008 藤岡 麗, 奥村誠子, 小倉一真, 鍋谷峻矢, 鈴木寛久, 大島希実子, 高成啓介: 塩化メチルロザニリン製剤と含有なし製剤における術前マーキングでの刺青痕の比較. 第 58 回中部形成外科学会学術集会, 2024, (津), [一般演題]
- 009 藤岡 麗, 鍋谷峻矢, 鈴木寛久, 小倉一真, 大島希実子, 奥村誠子, 高成啓介: 総頸動脈の損傷に対して外頸静脈のパッチグラフトで修復した 1 例. 第 51 回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2024, (奈良), [一般演題]
- 010 藤岡 麗, 鍋谷峻矢, 鈴木寛久, 小倉一真, 大島希実子, 奥村誠子, 高成啓介: 塩化メチルロザニリン製剤による術前マーキングの代替となる色素の検討. 第 30 回日本形成外科学会手術手技学会, 2025, (名古屋), [一般演題]
- 011 大島希実子, 奥村誠子, 鈴木寛久, 鍋谷峻也, 藤岡 麗, 小倉一真, 高成啓介, 丸山陽子: 拡大広背筋皮弁と脂肪注入付加広背筋皮弁の短期合併症の比較検討. 第 12 回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会, 2024, (金沢), [一般演題]
- 012 鍋谷峻矢, 奥村誠子, 小倉一真, 藤岡 麗, 丹羽準也, 大島希実子, 高成啓介: さまざまな方法による豊胸術後の乳癌に対する 1 次乳房再建の検討. 第 67 回日本形成外科学会総会・学術集会, 2024, (神戸), [一般演題]

- 013 鍋谷峻矢, 奥村誠子, 小倉一真, 藤岡 麗, 丹羽準也, 大島希実子, 高成啓介: 下顎区域切除後の遊離腓骨皮弁を用いた下顎骨再建後の腓骨萎縮の検討. 第 48 回日本頭頸部癌学会, 2024, (浜松), [一般演題]
- 014 鍋谷峻矢, 奥村誠子, 小倉一真, 藤岡 麗, 鈴木寛久, 大島希実子, 高成啓介, 片岡愛弓, 吉村章代, 澤木正孝: 乳頭乳輪温存 乳房切除術後の一次一期乳房再建における乳房切除量の予測の検討. 第 12 回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会, 2024, (金沢), [一般演題]
- 015 鍋谷峻矢, 奥村誠子, 小倉一真, 藤岡 麗, 鈴木寛久, 大島希実子, 高成啓介: 下顎区域切除後の遊離腓骨皮弁を用いた下顎再建後に腓骨萎縮を来し遊離腸骨皮弁で再再建を行った 1 例. 第 42 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 2024, (東京), [一般演題]
- 016 鍋谷峻矢, 高成啓介, 中村亮太, 鈴木寛久, 藤岡 麗, 小倉一真, 大島希実子, 奥村誠子, 萩原純孝, 花井信広: CAD/CAM を用いた下顎再建の 3 次元形態評価 conventional vs CAD/CAM. 第 41 回東海頭頸部腫瘍研究会, 2025, (名古屋), [一般演題]
- 017 鈴木寛久, 鍋谷峻矢, 藤岡 麗, 小倉一真, 大島希実子, 奥村誠子, 高成啓介: 上顎の硬組織再建において顔面の皮膚切開を置かず 3D 骨モデルを用いて腓骨配置を行った 1 例. 第 81 回東海形成外科学会, 2024, (名古屋), [一般口演]
- 018 鈴木寛久, 鍋谷峻矢, 藤岡 麗, 小倉一真, 大島希実子, 奥村誠子, 高成啓介: 下咽頭部分切除に対し足背皮弁を用いて再建を行った一例. 第 51 回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2024, (奈良), [一般口演]
- 019 鈴木寛久, 鍋谷峻矢, 藤岡 麗, 小倉一真, 大島希実子, 奥村誠子, 高成啓介, 中村亮太, 神山圭史: 上顎の硬組織再建において顔面の皮膚切開を置かず 3D 骨モデルを用いて腓骨配置を行った 1 例. 第 41 回東海頭頸部腫瘍研究会, 2025, (名古屋), [一般口演]

呼吸器外科部

- 001 Seto K, Masago K, Iwashimizu H, Noritake O, Matsui T, Sakakura N: Cancer evolution analysis for lung carcinomas with multiple driver mutations. World Conference on Lung Cancer, 2024 (San Diego), [e-poster]
- 002 坂倉範昭, 瀬戸克年, 松井琢哉, 則竹 統, 岩清水寿徳: 愛知県がんセンターにおける局所進行非小細胞肺癌に対するニボルマブ併用術前導入化学療法 + 切除の実臨床. 第 41 回日本呼吸器外科学会, 2024, (軽井沢), [ワークショップ]
- 003 坂倉範昭, 瀬戸克年, 松井琢哉, 則竹 統, 岩清水寿徳: 3 アーム 4 ポート・対面モニター開胸視野法によるロボット肺複雑区域切除. 第 41 回日本呼吸器外科学会, 2024, (軽井沢), [一般口演]

- 004 坂倉範昭：垂直腋窩開胸の2方法—VMSplitting/SparingT法とバリエーション。第41回日本呼吸器外科学会，2024，（軽井沢），[呼吸器外科セミナー]
- 005 坂倉範昭，岩清水寿徳，則竹 統，松井琢哉，瀬戸克年：巨大縦隔腫瘍摘出のための2つの手術アプローチ：拡大ヘミクラムシエル開胸法とリブクロス開胸法。第77回日本胸部外科学会定期学術集会，2024，（金沢），[ビデオワークショップ]
- 006 瀬戸克年，岩清水寿徳，則竹 統，松井琢哉，坂倉範昭：気管支断端R1切除後、放射線療法による局所制御率の検討。第41回日本呼吸器外科学会学術集会，2024，（軽井沢），[一般口演]
- 007 瀬戸克年，岩清水寿徳，則竹 統，松井琢哉，坂倉範昭：非小細胞癌に対して施行した区域切除例の再発形式の検討。第77回日本胸部外科学会学術集会，2024，（金沢），[ワークショップ]
- 008 松井琢哉，松下博和，山口 類，福嶋恭啓，杉田裕介，瀬戸克年，坂倉範昭，高野崇継，中村龍二，小田梨紗，立松 勉，横田圭右，奥田勝裕：非小細胞肺癌の術後再発リスク評価におけるヒト白血球型抗原遺伝子解析とネオ抗原予測の有用性。第124回日本外科学会定期学術集会，2024，（常滑），[一般演題]
- 009 松井琢哉，岩清水寿徳，則竹 統，瀬戸克年，坂倉範昭：不全分葉の存在は非小細胞肺癌に対する区域切除術の治療成績にどのような影響を与えるのか。第41回日本呼吸器外科学会学術集会，2024，（軽井沢），[一般演題]
- 010 松井琢哉，岩清水寿徳，則竹 統，瀬戸克年，坂倉範昭：肺結節に対するオーバーレイ技術を用いたインドシアニンググリーン蛍光イメージング術前CTガイド下マーキング。第37回日本内視鏡外科学会総会，2024，（福岡），[パネルディスカッション]
- 011 松井琢哉，岩清水寿徳，則竹 統，瀬戸克年，坂倉範昭：肺区域切除におけるトラブルシューティング：温存肺の拡張不全への対応。Tokai Thoracic Academy 2024，2024，（名古屋），[一般演題]
- 012 則竹 統，岩清水寿徳，松井琢哉，瀬戸克年，坂倉範昭：非小細胞肺癌切除症例における運動耐用能の術後合併症に対する影響。第41回日本呼吸器外科学会，2024（軽井沢），[一般口演]
- 013 則竹 統，岩清水寿徳，松井琢哉，瀬戸克年，坂倉範昭：非小細胞肺癌切除症例における運動耐用能の予後に対する影響。第77回日本胸部外科学会定期学術集会，2024（金沢），[Rapid Fire セッション]
- 014 則竹 統，岩清水寿徳，松井琢哉，瀬戸克年，坂倉範昭：非小細胞肺癌切除症例における早期経口摂取・早期離床と術後合併症の関連。第126回日本肺癌学会中部支部学術集会，2025（名古屋），[口演]
- 015 岩清水寿徳，瀬戸克年，松井琢哉，則竹 統，坂倉範昭：当院における肺腺扁平上皮癌手術症例の臨床病理学的検討。第41回日本呼吸器外科学会学術集会，2024，（軽井沢），[口演]
- 016 岩清水寿徳，則竹 統，松井琢哉，瀬戸克年，坂倉範昭：主病巣切除により病勢コントロールが得られている両側多発病変を有する肺類上皮血管内皮腫の1例。第125回日本肺癌学会中部支部学術集会，2024，開催中止，[誌上]
- 017 岩清水寿徳，則竹 統，松井琢哉，瀬戸克年，坂倉範昭：当院における気管支肺カルチノイド手術33症例の検討—術式と長期成績，肺腺癌手術例との比較—。第65回日本肺癌学会学術集会，2024，（横浜），[ワークショップ]
- 018 岩清水寿徳，則竹 統，松井琢哉，瀬戸克年，坂倉範昭：両側多発病変を有する肺類上皮血管内皮腫に対して主病巣切除を行い病勢コントロールが得られている1例。第126回日本肺癌学会中部支部学術集会，2025，（名古屋），[口演]

乳腺科部

- 001 Hattori M, Bardia A, Jhaveri K, Im S, Laurentiis M, Xu B, Pernas S, Borges G, Cescon D, Lu Y-S, Jañez N, Hamilton E, Wang S, Tsurutani J, Kalinsky K, Xu L, Khan S, Denduluri N, Rugo H, Pistilli B : Dato-DXd for patients with inoperable or metastatic HR+/HER2- BC: Results from TROPION-Breast01. 第32回日本乳癌学会学術総会，2024，（仙台），[口演]
- 002 Hattori M, Nagai S, Yoshinami T, Masuda H, Okamura T, Watanabe K, Nakayama T, Tsuneizumi M, Takabatake D, Harao M, Yoshino H, Mori N, Yasojima H, Oshir C, Iwase M, Yamaguchi M, Sangai T, Sasada S, Suehiro M, Masuda N: Real-world effectiveness of palbociclib (PAL) +endocrine therapy (ET) in HER2-low breast cancer in the first-line (1L) or second-line (2L) setting: A Japanese multicenter observational study (P-BRIDGE study). 19th St.Gallen International Breast Cancer Conference, 2025，（ウィーン），[eポスター]
- 003 Kusudo M, Yoshimura A, Hattori M, Kotani H, Kataoka A, Akita Y, Endo Y, Komaki R, Anto M, Nakazawa A, Ogawa R, Hara F : Evaluation of factors associated with non-pathological complete response in triple negative breast cancer treated with neoadjuvant KEYNOTE-522 chemoimmunotherapy. 19th St.Gallen International Breast Cancer Conference, 2025，（ウィーン），[eポスター]
- 004 小谷はるる，磯谷彩夏，中神 光，呉山菜梨，楠戸真帆，小牧里恵，遠藤由香，能澤一樹，片岡愛弓，吉村章代，服部正也，澤木正孝，岩田広治：アミノレブリン酸塩酸塩を用いた光力学的診断の乳がん術中診断への応用。第124回日本外科学会定期学術集会，2024，（愛知），[サージカルフォーラム]
- 005 服部正也：乳癌治療における抗TROP2抗体薬物複合体の現状と今後。第32回日本乳癌学会学術総会，2024，（仙台），[シンポジウム]

- 006 小牧里恵, 小谷はるる, 安東美の里, 小川莉佳子, 中澤 綾, 楠戸真帆, 遠藤由香, 片岡愛弓, 吉村章代, 服部正也, 澤木正孝, 原 文堅: 当院におけるペムプロリズマブ併用療法で免疫関連有害事象が出現した症例の検討. 第21回日本乳癌学会 中部地方会, 2024, (富山), [セミナー]
- 007 安東美の里, 小谷はるる, 小川莉佳子, 楠戸真帆, 中澤 綾, 小牧里恵, 遠藤由香, 片岡愛弓, 吉村章代, 服部正也, 澤木正孝, 原 文堅: 当院におけるフェスゴ導入後の在院時間の変化と評価～時間毒性を考える～. 第21回日本乳癌学会 中部地方会, 2024, (富山), [セミナー]
- 008 楠戸真帆, 片岡愛弓, 小川莉佳子, 中澤 綾, 安東美の里, 小牧里恵, 遠藤由香, 小谷はるる, 吉村章代, 服部正也, 澤木正孝, 原 文堅: 乳癌未発症のBRCA1 病的キャリアント保持者に対する当院1例目の自費診療BRRMについて. 第21回日本乳癌学会 中部地方会, 2024, (富山), [口演]
- 009 遠藤由香, 小谷はるる, 小川莉佳子, 中澤 綾, 安東美の里, 楠戸真帆, 小牧里恵, 片岡愛弓, 吉村章代, 服部正也, 澤木正孝, 原 文堅: トラスツマブとペルツマブのInfusion Related Reaction 発生後のトラスツマブ デルクステカンの使用経験例. 第21回日本乳癌学会 中部地方会, 2024, (富山), [口演]
- 010 小谷はるる, 吉村章代, 片岡愛弓, 服部正也, 澤木正孝, 遠藤由香, 小牧里恵, 楠戸真帆, 小川莉佳子, 安東美の里, 中澤 綾, 原 文堅: 乳癌を契機にCowden 症候群/PTEN 過誤腫症候群の診断に繋がった1例. 第21回日本乳癌学会 中部地方会, 2024, (富山), [ポスター]
- 011 澤木正孝: 乳がん診療における心毒性の特徴と Onco-Cardiology の重要性. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [シンポジウム]
- 012 服部正也, 永井成勲, 吉波哲大, 増田紘子, 岡村卓穂, 渡邊健一, 中山寛貴, 常泉道子, 高島大典, 原尾美智子, 吉野裕司, 森菜採子, 石田孝宣, 小坂展慶, 増田慎三: 実臨床における閉経前進行乳癌に対するパルボシクリブの使用実態と臨床の有用性. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [口演]
- 013 中澤 綾, 武内 大, 西川恵理, 中澤幸久, 池田耕介, 永田雅人, 岩井周作, 南 雄介: Heterologous mesenchymal differentiation を伴う化生乳癌の一例. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [ポスター]
- 014 原 文堅: 抗体薬物複合体の革新. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [シンポジウム]
- 015 原 文堅: 乳癌周期薬物療法. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [教育講習]
- 016 小牧里恵, 安東美の里, 小川莉佳子, 中澤 綾, 楠戸真帆, 遠藤由香, 片岡愛弓, 小谷はるる, 吉村章代, 服部正也, 澤木正孝, 原 文堅: トリプルネガティブ乳癌に対するペムプロリズマブ併用術前化学療法によるirAE 発現と非発現症例の違い. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [ポスター]

- 017 楠戸真帆, 能澤一樹, 小川莉佳子, 安東美の里, 中澤 綾, 小牧里恵, 遠藤由香, 片岡愛弓, 小谷はるる, 吉村章代, 服部正也, 原 文堅: ER 低発現 HER2 陰性早期乳癌に対する術前ペムプロリズマブ + 化学療法併用療法 (KN-522 レジメン) の有効性の検討. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [ミニオーラル]

消化器外科部

- 001 *Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Asano T, Okuno M, Fujieda H, Akaza S, Shimizu Y*: Oral and anal side stoma prolapse of loop colostomy with the stapled modified Altemeier method using indocyanine green fluorescence imaging. 第69回国際外科学会日本部会総会, 2024, (東京), [一般演題 口演]
- 002 *Okuno M, Shimizu Y, Natsume S, Asano T, Saito H, Narita K*: Usefulness of middle pancreatectomy on prevention of diabetes onset and worsening: comparison with distal pancreatectomy. 第36回日本肝胆膵外科学会, 2024, (広島), [ミニオーラル]
- 003 *Natsume S, Shimizu Y, Asano T, Okuno M*: Conversion surgery for unresectable pancreatic cancer. 第36回日本肝胆膵外科学会, 2024, (広島), [シンポジウム]
- 004 *Asano T, Natsume S, Okuno M, Shimizu Y*: Treatment outcomes of biological Borderline Resectable pancreatic cancer. 第36回日本肝胆膵外科学会, 2024, (広島), [ミニパネルディスカッション]
- 005 *Saito H, Natsume S, Okuno M, Asano T, Narita K*: Optimal number of drains placed after pancreatoduodenectomy. 第36回日本肝胆膵外科学会, 2024, (広島), [リクエストオーラル]
- 006 *Asano T, Natsume S, Okuno M, Ito S, Komori K, Abe T, Misawa K, Ito Y, Kinoshita T, Shimizu Y*: Treatment outcomes of biological Borderline Resectable pancreatic cancer Biological BR 膵癌の治療成績. 第79回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [シンポジウム]
- 007 *Sukphol N, Ouchi A, Saikaw T, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Malakorn S, Shimizu Y*: What Are the Risks for Local Re-recurrence after Salvage Surgery for Isolated Lateral Lymph Node Recurrence from Rectal Cancer?. JDDW2024, (神戸), [International Poster Session]
- 008 *Hanaoka M, Ouchi A, Mizusawa J, Kataoka K, Shimada Y, Inomata M, Hamaguchi T, Takii Y, Takayama Y, Ito M, Fujita S, Suwa Y, Ikenaga M, Souda H, Tanaka C, Sano Y, Tsukamoto S, Takashima A, Kanemitsu Y*: Risk of Peritoneal Recurrence Following Laparoscopic Versus Open Surgery for Stage II or III Colorectal Cancer (JCOG2310A): An Integrated Analysis of Three Phase III Randomized Controlled Trials. ASCO GI 2025, (San Francisco), [ポスターセッション]

- 009 Ito K, Takahashi K, Kataoka K, Ouchi A, Shiozawa M, Akiyoshi T, Yoshida T, Ikeda M, Shinto E, Takamizawa Y, Ajioka Y, Kobayashi H, Kanemitsu Y: Optimal Cut-off Value for Lymph Node Harvesting in Colon Cancer Based on Tumor Stage and Sidedness: A Retrospective Analysis of a Japanese Nationwide Cohort. ASCO GI 2025, (San Francisco), [ポスターセッション]
- 010 齋藤悠文, 夏目誠治, 奥野正隆, 浅野智成, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 赤座 賢, 成田 潔, 北原拓哉, 花澤隆明, 小塩英典, 禰宜田 真史, 清水泰博: 臓器にわたる4つの重複癌に対して二期的に根治切除術を行った高齢者の一例. 第305回東海科学会, 2024, (名古屋), [一般演題]
- 011 清水泰博: 司会. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [ポスターセッション]
- 012 伊藤誠二: 司会. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [サージカルフォーラム]
- 013 小森康司: 司会. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [ポスターセッション]
- 014 小森康司, 清水泰博, 井本逸勢, 長嵩寿矢, 植木有紗, 中島 健, 赤木 究, 山本 剛, 高雄美里, 夏目壮一郎, 山田真善, 牧口茉衣, 谷口文崇, 三宅英輝, 石田秀行, 千野晶子, 山口達郎, 田中屋宏爾, 富田尚裕, 味岡洋一: Lynch 症候群 (Lynch syndrome; LS) の時代別にみた臨床病理学的所見の変遷について. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [サージカルフォーラム]
- 015 三澤一成: 司会. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [ワークショップ]
- 016 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 大内 晶, 佐藤雄介, 藤枝裕倫, 奥野正隆, 浅野智成, 檜垣栄治, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 腹腔鏡下・ロボット支援胃全摘・噴門側胃切除における Circular Stapler を用いた食道空腸吻合再建. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [サージカルフォーラム]
- 017 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 大内 晶, 佐藤雄介, 藤枝裕倫, 奥野正隆, 浅野智成, 檜垣栄治, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 腹腔洗浄細胞診陽性胃癌切除症例の治療成績. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [サージカルフォーラム]
- 018 木下敬史: 司会. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [ポスターセッション]
- 019 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 大内 晶, 佐藤雄介, 奥野正隆, 浅野智成, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 小森康司, 伊藤誠二, 門脇重憲, 清水泰博: 術前治療後に食道切除術を施行した進行食道癌に対し術後 Nivolumab を追加することの意義. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [ワークショップ]
- 020 浅野智成, 夏目誠治, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: Biological BR 膵癌の治療成績. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [ポスターセッション]
- 021 奥野正隆, 清水泰博, 夏目誠治, 浅野智成, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶: 膵中央切除術による糖尿病発症・悪化予防効果の検討: 脾温存膵体尾部切除との比較. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [ポスターセッション]
- 022 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 低侵襲食道切除術における硬膜外麻酔の術後疼痛, 短期成績, 経腸栄養投与量への影響. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [ポスターセッション]
- 023 佐藤雄介, 木下敬史, 小森康司, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 下部直腸癌に対するロボット支援下側方リンパ 節郭清 (LD3) の短期成績腹腔鏡下手術との比較. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [ポスターセッション]
- 024 大内 晶, 小森康司, 安部哲也, 室 圭, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 舩石俊樹, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 清水泰博: 消化管メラノーマ治療の現状と課題. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [ワークショップ]
- 025 齋藤悠文, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 赤座 賢, 成田 潔, 北原拓哉, 花澤隆明, 小塩英典, 清水泰博: 膵頭十二指腸切除におけるドレーン留置本数の 検討. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [ポスターセッション]
- 026 北原拓哉, 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊東直哉, 清水泰博: 食道癌根治術後の気道内細菌叢が術後成績に与える影響. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [サージカルフォーラム]
- 027 成田 潔, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 赤座 賢, 齋藤悠文, 清水泰博: 大腸癌同時性肝転移に対する watchful waiting 中の肝転移個数変化と予後への影響. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [サージカルフォーラム]
- 028 花澤隆明, 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣英治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 直腸癌手術の一時的回腸人工肛門が術後補助化学療法に与える影響. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [ポスターセッション]

- 029 小塩英典, 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 胸部食道癌に対する 104 リンパ節郭清における頸部リンパ漏のリスク因子. 第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024, (愛知), [ポスターセッション]
- 030 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 赤座 賢, 斎藤悠文, 成田 潔, 清水 泰博: 片側および両側の人工肛門脱出に対する修復術. 第 110 回日本消化器病学会総会, 2024, (徳島), [ミニオーラル]
- 031 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 小塩英典, 小森康司, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 清水泰博: 胸骨後再建胃管癌に対する腹腔鏡下縦隔アプローチによる胃管全摘術. 第 78 回手術手技研究会, 2024, (福岡), [サージカルフォーラム]
- 032 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 清水泰博: ロボット支援下側方リンパ節郭清 LD3 の手術手技. 第 78 回手術手技研究会, 2024, (福岡), [サージカルフォーラム]
- 033 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 清水泰博: ロボット支援下食道切除術のセッティングにおける当院での工夫. 第 78 回手術手技研究会, 2024, (福岡), [サージカルフォーラム]
- 034 安部哲也: 座長. 第 67 回関西胸部外科学会学術集会, 2024, (大阪), [主題演題]
- 035 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 小塩英典, 清水泰博: 当院におけるロボット支援下食道切除術の安全性とその予後. 第 67 回関西胸部外科学会学術集会, 2024, (大阪), [主題演題]
- 036 小塩英典, 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 清水泰博: 112aoP リンパ節転移を有する胸部食道癌患者に対する手術成績. 第 67 回関西胸部外科学会学術集会, 2024, (大阪), [要望演題]
- 037 小森康司, 吉田雅博, 筑紫 聡, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 清水泰博: 恥坐骨合併切除根治手術をおこなった直腸癌頻回局所再発症例の 1 例. 第 33 回骨盤外科機能温存研究会, 2024, (東京), [一般演題]
- 038 清水泰博: 司会. 第 36 回日本肝胆膵外科学会, 2024, (広島), [ミニワークショップ]
- 039 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫: 予防的領域リンパ節郭清を伴うサルベージ胸腔鏡下食道切除術は安全に施行可能なのか?. 第 78 回日本食道学会学術集会, 2024, (東京), [パネルディスカッション]
- 040 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 清水泰博: 進行食道癌の術後再発に対する初回治療としての化学放射線療法的重要性. 第 78 回日本食道学会学術集会, 2024, (東京), [パネルディスカッション]
- 041 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 清水泰博: 蛍光法による食道癌術中胃管血流評価と縫合不全の risk 因子. 第 78 回日本食道学会学術集会, 2024, (東京), [要望演題]
- 042 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 安岡宏展, 花澤隆明, 小塩英典: 直腸癌側方郭清の今とこれから～Less is more?～第 101 回大腸癌研究会学術集会, 2024, (名古屋), [口演]
- 043 清水泰博: 座長. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 044 伊藤誠二: 座長. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 045 小森康司: 座長. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 046 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 清水泰博: 直腸癌局所再発で拡大手術は何回までチャレンジできるか?-骨切除を伴う直腸癌拡大手術術式について. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 047 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博: 縦隔 M1b リンパ節転移を伴う局所進行食道癌に対するコンバージョン手術の治療成績. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 048 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 浅野智成, 檜垣栄治, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: ロボット支援胃全摘・噴門側胃切除術における組織牽引用クリップ本を用いた術野展開の工夫と最適化. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 049 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 浅野智成, 檜垣栄治, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: ロボット支援胃全摘・噴門側胃切除術における Circular Stapler を用いた食道空腸吻合再建. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [要望演題ビデオ]
- 050 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 清水泰博: 当院における一時的回腸人工肛門造設・閉鎖の工夫. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [要望演題]
- 051 夏目誠治, 清水泰博, 浅野智成, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史: 切除不能膀胱癌に対する conversion surgery の現状. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [要望演題]
- 052 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 80 歳以上の胸部食道癌患者に対する予防的鎖骨上リンパ節郭清の功罪. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 053 奥野正隆, 清水泰博, 夏目誠治, 浅野智成, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史: 脾中央切除術後の残脾容量と糖尿病発症・悪化との関連性の検討. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]

- 054 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博: 食道癌に対する食道切除術後の発作性心房細動の risk 因子. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 055 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 清水泰博: 切除可能下部直腸癌における側方郭清の意義を考える. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 056 禰宜田真史, 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 木下敬史, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: ロボット支援胃切除術におけるポリプロピレン糸を用いた肝圧排法 Subphrenic Pulley (SP) 法の検討. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 057 小塩英典, 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 木下敬史, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 胃切除術後の体重変化と胃全摘術空腸パウチ再建の導入. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 058 成田 潔, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 大腸癌同時性肝転移に対する待機肝切除の意義. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [ワークショップ]
- 059 花澤隆明, 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 直腸癌手術の一時的回腸人工肛門が術後補助化学療法に与える影響. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 060 長尾拓哉, 横山幸浩, 安部哲也, 宮田一志, 杉田静紀, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 清水泰博, 江畑智希: 術前便中短鎖脂肪酸濃度と乳酸濃度の比は, 食道切除術後の手術部位感染症の予測因子となる. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 061 赤座 賢, 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 安部哲也, 清水泰博: 切除不能転移を有する直腸癌に対する緩和手術の検討. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 062 清水泰博: 座長. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024, (宇都宮) [一般演題]
- 063 夏目誠治, 清水泰博, 浅野智成, 奥野正隆: 切除不能膵癌に対する conversion surgery. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 064 奥野正隆, 清水泰博, 夏目誠治, 浅野智成: IPMN 術後残膵再発症例の検討. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 065 浅野智成, 夏目誠治, 奥野正隆, 清水泰博: Biological BR 膵癌の治療成績. 第 79 回日本消化器外科学会, 2024, (下関), [一般演題]
- 066 浅野智成, 夏目誠治, 奥野正隆, 清水泰博: 分枝型 IPMN の長期経過観察中の膵萎縮部位から発生した膵癌の 1 例. 第 24 回臨床消化器病研究会, 2024, (汐留), [一般演題]
- 067 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 奥野正隆, 浅野智成, 檜垣栄治, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 当院における胃癌 RPS の手技と成績, 今後の展望. 第 16 回単孔式内視鏡手術研究会, 2024, (金沢), [一般演題]
- 068 三澤一成: 座長. 第 16 回単孔式内視鏡手術研究会, 2024, (金沢), [口演]
- 069 清水泰博: 座長. 第 78 回日本消化器外科画像診断研究会, 2024, (横浜), [口演]
- 070 磯村久徳, 森 治樹, 周 爽, 梶野泰祐, 阿部雄一, 三宅 亨, 細田和貴, 小森康司, 谷 真至, 田口 歩: 大腸癌腹膜転移関連分子 Avil の同定とその機能解析 (Avil promotes peritoneal metastasis in colorectal cancer), 第 83 回日本癌学会学術集会, 2024, (福岡) [一般演題]
- 071 清水泰博: 座長. 第 60 回日本胆道学会学術集会, 2024, (名古屋), [一般演題 (口演)]
- 072 夏目誠治, 清水泰博, 浅野智成, 奥野正隆: 膵頭十二指腸切除術後胆管炎と膵液漏関連発熱の鑑別 血液培養の有用性, 2024. 第 60 回日本胆道学会学術集会, 2024, (名古屋) [一般演題 (口演)]
- 073 浅野智成, 夏目誠治, 奥野正隆, 清水泰博: 胆管非拡張型膵・胆管合流異常の治療成績, 2024. 第 60 回日本胆道学会学術集会, 2024, (名古屋), [一般演題 (口演)]
- 074 安部哲也: 座長. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡) [ポスター]
- 075 小森康司, 吉田雅博, 筑紫聡, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 清水泰博: 整形外科医と併に施行する恥坐骨合併局所再発直腸癌手術, 2024. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [ワークショップ]
- 076 清水泰博: 座長. JDDW2024, 2024, (神戸), [デジタルポスターセッション]
- 077 小森康司, 吉田雅博, 筑紫聡, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 赤座 賢, 斎藤悠文, 成田 潔, 清水泰博: 当科における恥坐骨合併切除を施行した骨盤内手術, JDDW2024, 2024, (神戸), [デジタルポスターセッション]
- 078 成田 潔, 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 小塩英典, 小森康司, 安部哲也, 木下敬史, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 斎藤悠文, 北原拓哉, 花澤隆明, 禰宜田真史, 清水泰博: 幽門側胃切除術後の胃内容物排泄遅延の要因と長期経過についての検討. JDDW2024, 2024, (神戸), [デジタルポスターセッション]
- 079 浅野智成, 夏目誠治, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: Biological BR 膵癌切除例に対する術前化学療法の意義. JDDW2024, 2024, (神戸), [デジタルポスターセッション]
- 080 安部哲也: 座長. 第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024, (金沢), [セッション]
- 081 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 清水泰博: 胸部食道扁平上皮癌リンパ節転移陽性例における食道癌取扱い規約第 12 版での位置づけ. 第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024, (金沢) [パネルディスカッション]

- 082 檜垣榮治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 清水泰博: 食道癌に対する根治的食道全摘後の肺炎とその予後: 術後肺炎を発生した患者はなぜ予後不良か. 第37回日本外科感染症学会総会学術集会, 2024, (金沢), [パネルディスカッション]
- 083 清水泰博: 座長. 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024, (宇都宮), [一般演題 (口演)]
- 084 小森康司: 座長. 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024, (宇都宮), [一般演題 (口演)]
- 085 小森康司, 小林宏寿, 岡武健二郎, 味岡洋一: 術中腹腔洗浄細胞診の有用性に関する多施設共同前向き研究-施設間における予後の検討-. 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024, (宇都宮), [一般演題 (口演)]
- 086 夏目誠治, 清水泰博, 浅野智成, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣榮治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶: 切除不能腺癌に対する conversion surgery. 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024, (宇都宮), [パネルディスカッション]
- 087 伊藤誠二: 司会. 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024, (宇都宮), [パネルディスカッション]
- 088 浅野智成, 夏目誠治, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣榮治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 膵頭十二指腸切除における HGS による術前胆道ドレナージの有用性. 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024, (宇都宮), [ワークショップ]
- 089 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣榮治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 直腸癌に対するロボット支援下側方リンパ節郭清の手術手技. 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024, (宇都宮), [要望演題ビデオ]
- 090 檜垣榮治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 大内 晶, 佐藤雄介, 奥野正隆, 浅野智成, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 食道癌に対する右縦隔リンパ節郭清において右反回神経を同定するためのコツ. 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024, (宇都宮), [要望演題・口演]
- 091 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣榮治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 直腸癌の予防的側方郭清は“どこまで”必要なのか?. 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024, (宇都宮), [パネルディスカッション]
- 092 成田 潔, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣榮治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 大腸癌同時性肝転移における待機肝切除の治療成績. 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024, (宇都宮), [パネルディスカッション]
- 093 禰宜田真史, 檜垣榮治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 肺切除を並施した胸部食道癌に対する食道全摘術の成績. 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024, (宇都宮), [一般演題・口演]
- 094 小森康司: 座長, 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024, (横浜), [一般演題・口演]
- 095 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: ロボット支援下側方リンパ節郭清の手技と工夫. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024, (横浜), [要望演題]
- 096 大内 晶, 岩堀祐之, 鈴木康介, 舟橋健司, 福井真二, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 清水泰博: 深層学習を用いた直腸癌の術前リンパ節転移診断能向上への挑戦. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024, (横浜), [パネルディスカッション]
- 097 佐藤雄介, 木下敬史, 大内 晶, 花澤隆明, 安岡宏展, 小森康司: 側横行結腸癌における中結腸動脈根部への安全なアプローチ手技. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024, (横浜), [一般演題・口演]
- 098 小塩英典, 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 安岡宏展, 花澤隆明: 直腸肛門部悪性黒色腫治療の現状と課題. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024, (横浜), [一般演題・ポスター]
- 099 安岡宏展, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 一時的回腸人工肛門造設後 Outlet obstruction の発症状況と当院の造設手技. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024, (横浜), [一般演題・口演]
- 100 安部哲也, 檜垣榮治, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶: 切除不能局所進行食道癌に対する Conversion surgery としての低侵襲食道切除術の治療成績. 第37回日本内視鏡外科学会, 2024, (福岡), [ミニオーラル]
- 101 大内 晶, 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣榮治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫: 横行結腸癌に対する腹腔鏡下横行結腸切除術 D3 郭清. 第37回日本内視鏡外科学会, 2024, (福岡), [ミニオーラル]
- 102 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣榮治, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶: 胸部食道癌 114 リンパ節転移に対する鏡視下手術. 第37回日本内視鏡外科学会, 2024, (福岡), [ミニオーラル]
- 103 檜垣榮治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 大内 晶, 佐藤雄介, 奥野正隆, 浅野智成, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 小森康司, 伊藤誠二: 食道癌に対する左縦隔リンパ節郭清における微細解剖の知見とそれを活かすための手術手技. 第37回日本内視鏡外科学会, 2024, (福岡), [一般演題]
- 104 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣榮治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶: 当科におけるロボット支援下膵体尾部切除術の導入. 第37回日本内視鏡外科学会, 2024, (福岡), [ミニオーラル]
- 105 奥野正隆, 夏目誠治, 浅野智成, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣榮治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶: 早期膵癌を疑う症例に対する低侵襲膵体尾部切除術の検討. 第37回日本内視鏡外科学会, 2024, (福岡), [ミニオーラル]

- 106 佐藤雄介, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫: 当院におけるロボット支援下直腸癌手術の中期成績. 第 37 回日本内視鏡外科学会, 2024, (福岡), [ミニオーラル]
- 107 三澤一成: 司会. 第 37 回日本内視鏡外科学会, 2024, (福岡), [一般演題]
- 108 花澤隆明, 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫: 腹腔鏡下・ロボット支援胃全摘・噴門側胃切除における Circular Stapler を用いた食道空腸吻合の手技と成績. 第 37 回日本内視鏡外科学会, 2024, (福岡) [一般演題]
- 109 花澤隆明, 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫: 腹腔鏡下結腸右半切除術における D3 郭清. 第 37 回日本内視鏡外科学会, 2024, (福岡), [ミニオーラル]
- 110 小塩英典, 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫: 腸回転異常症を伴う左側大腸癌に対する腹腔鏡手術を施行した 2 例. 第 37 回日本内視鏡外科学会, 2024, (福岡), [ミニオーラル]
- 111 安岡宏展, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶: 腹腔鏡下大腸手術におけるエネルギーデバイス. 第 37 回日本内視鏡外科学会, 2024, (福岡), [一般演題]
- 112 三澤一成: 座長. 第 33 回日本コンピューター外科学会大会, 2024, (東京), [一般演題]
- 113 三澤一成: 座長. 第 33 回日本コンピューター外科学会大会, 2024, (東京), [教育シンポジウム]
- 114 北原拓哉, 佐藤雄介, 安岡宏展, 大内 晶, 木下敬史, 小森康司: 肥満患者に対する腹腔鏡下直腸切除術における手技の工夫と短期成績. 第 102 回大腸癌研究会学術集会, 2025, (別府), [パネルディスカッション]
- 115 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 安形真由美, 佐々木照美, 小島 瞳: 骨盤内臓器全摘術後の開腹手術における尿管および回腸導管の視認触診への工夫. 第 42 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会, 2025, (福島), [口演]
- 116 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 骨盤内臓器全摘術後の開腹手術の短期成績. 第 21 回日本消化管学会総会学術集会, 2025, (東京), [一般演題]
- 117 花澤隆明, 禰宜田真史, 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 木下敬史, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: ロボット支援胃切除術におけるポリプロピレン糸を用いた肝圧排法 Subphrenic Pulley (SP) 法の検討. 第 28 回愛知内視鏡外科研究会, 2025, (愛知), [一般演題]
- 118 小塩英典, 大内 晶, 小森康司, 安部哲也, 花井信広, 鈴木史朗, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 舩石俊樹, 清水泰博: 粘膜メラノーマ治療の現状と課題. 第 22 回日本臨床腫瘍学会, 2025, (神戸), [ポスターセッション]
- 119 三澤一成, 伊藤友一, 禰宜田真史, 伊藤誠二, 木下敬史, 清水泰博: 腹腔鏡下・ロボット胃全摘/噴門側胃切除における Circular stapler を用いた食道空腸端々吻合の手技と成績. 第 97 回日本胃癌学会総会, 2025, (名古屋), [ミニオーラル]
- 120 禰宜田真史, 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 清水泰博: ロボット支援胃切除術における曲針付き 2-0 ポリプロピレン糸及び糸出し器具を用いた肝圧排法の検討. 第 97 回日本胃癌学会総会, 2025, (名古屋), [ミニオーラル]
- 121 伊藤友一, 小塩英典, 三澤一成, 伊藤誠二, 清水泰博: 胃癌術後の体重変化と胃全摘後空腸パウチ再建の導入. 第 97 回日本胃癌学会総会, 2025, (名古屋), [ミニオーラル]
- 122 小森康司: 司会. 第 61 回日本腹部救急医学会, 2025, (名古屋), [シンポジウム]
- 123 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 直腸癌再発(頻回)手術後における腸管穿孔(合併症). 第 61 回日本腹部救急医学会, 2025, (名古屋), [主題演題]

整形外科部

- 001 筑紫 聡, 吉田雅博, 濱田俊介, 藤原那沙: 初診時原発不明転移性骨腫瘍に対する対応 初診時原発不明がん骨転移の臨床病理学的検討. 第 142 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 2024, (米子), [口演]
- 002 吉田雅博, 筑紫 聡, 濱田俊介, 藤原那沙: 膝関節内血腫で発症した膝関節滑膜炎の治療成績. 第 142 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 2024, (米子), [口演]
- 003 濱田俊介, 藤原那沙, 吉田雅博, 筑紫聡: 転移性骨腫瘍と誤診されやすい過形成骨髄に対する診断的アプローチ. 第 142 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 2024, (米子), [口演]
- 004 筑紫 聡, 吉田雅博, 濱田俊介, 安藤正志: 診療科横断的に血管肉腫を考える 整形外科医が扱う血管肉腫の臨床学的特徴. 第 40 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2024, (宮崎), [講演]
- 005 筑紫 聡: Surgical tips and pitfalls for modular endoprosthesis reconstruction. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024, (福岡), [招待口演]
- 006 筑紫 聡: 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024, (福岡), [座長]
- 007 濱田俊介, 灰本章一, 藤原那沙, 吉田雅博, 筑紫 聡: 骨転移診療を究める 脊椎転移に対する積極的手術介入—当院の変遷と現状—. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024, (福岡), [口演]

- 008 小森康司, 吉田雅博, 筑紫 聡, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 清水泰博: 恥坐骨合併切除根治手術をおこなった直腸癌頻回局所再発症例の1例. 第49回日本外科系連合学会, 2024, (東京), [口演]
- 009 小森康司, 吉田雅博, 筑紫 聡, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 頻回再発直腸癌に対し, 頻回手術は予後に貢献できるか? 恥骨合併切除の術式を含めて. 第79回日本大腸肛門病学会, 2024, (横浜), [口演]
- 010 筑紫 聡: 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024, (富山), [座長]
- 011 筑紫 聡, 吉田雅博, 濱田俊介, 西田佳弘, 生田国大, 酒井智久: 上腕骨悪性骨・軟部腫瘍に対する再建の工夫 上腕骨近位骨腫瘍切除後の clavícula pro humero 法. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024, (富山), [口演]
- 012 濱田俊介, 藤原那沙, 吉田雅博, 筑紫 聡: 骨・軟部肉腫に対する AI 療法の投与量と臨床的経過. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024, (富山), [口演]
- 013 吉田雅博, 筑紫 聡, 濱田俊介, 藤原那沙: がんロコモ: 患者の QOL を向上させる為にはほんとうに大切なこと 消化器がん高齢者患者における術前の2ステップ値に関連する因子について. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024, (富山), [口演]
- 014 西田佳弘, 酒井智久, 濱田俊介, 伊藤 鑑, 清水光樹, 浦川 浩, 生田国大, 小池宏, 藤戸健雄, 今釜史郎: デスマイト腫瘍難治症例の検討 単一施設におけるリアルワールド. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024, (富山), [口演]
- 015 小池 宏, 永野昭仁, 相羽久輝, 浅沼邦洋, 筑紫 聡, 小澤英史, 河南勝久, 生田国大, 西田佳弘, 今釜史郎: 膝関節周囲軟部肉腫術後の膝関節機能の検討. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024, (富山), [口演]
- 016 萩 智仁, 中村知樹, 浅沼邦洋, 筑紫 聡, 小池 宏, 木村浩明, 永野昭仁, 細野幸三, 紫藤洋二, 小澤英史, 河南勝久, 須藤啓広, 西田佳弘: 悪性軟部腫瘍の骨転移に対する治療成績 東海骨軟部腫瘍コンソーシアム共同研究. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024, (富山), [口演]
- 017 船内雄生, 筑紫 聡, 平賀博明, 川井 章, 町田龍之介, 佐野裕亮, 福田治彦, 小田義直, 尾崎敏文, 田仲和宏, JCOG Bone and Soft Tissue Tumor Study Group: 20年を総括し, これからの20年を展望する 軟部肉腫治療における手術と化学療法の最適化を目指して JCOG2102 の紹介. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024, (富山), [口演]
- 018 遠藤 誠, 藤原稔史, 高橋雅信, 筑紫 聡, 川井 章, 五木田茶舞, 中谷文彦, 若林将史, 関田哲也, 尾崎敏文, 田仲和宏: 20年を総括し, これからの20年を展望する ドキソルピシン治療後の進行軟部肉腫に対する二次治療におけるトラベクテジン, エリブリン, パゾパニブのランダム化第II相試験. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024, (富山), [口演]
- 019 田仲和宏, 町田龍之介, 川井 章, 中山ロバート, 筑紫 聡, 浅沼邦洋, 遠藤 誠, 平賀博明, 福田治彦, 尾崎敏文, 岩本幸英: 20年を総括し, これからの20年を展望する 高悪性度非円形細胞肉腫に対する AI 療法と GD 療法による周術期化学療法のランダム化第II/III相試験 JCOG1306. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024, (富山), [口演]
- 020 中村知樹, 酒井智久, 筑紫 聡, 木村浩明, 和佐潤志, 細野幸三, 出淵雄哉, 浅沼邦洋, 須藤啓広, 西田佳弘: 下肢軟部肉腫に対して切除後に腫瘍用人工関節で再建を行った治療成績 東海骨軟部腫瘍コンソーシアム共同研究. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024, (富山), [口演]
- 021 筑紫 聡: 成人四肢・体幹壁軟部腫瘍の臨床. 第18回診断病理サマーフェスト, 2024, (東京), [講演]
- 022 筑紫 聡: MTX 大量療法後に排泄遅延を呈した大腿骨遠位骨肉腫の1例—メグルダーゼの使用経験—. JSTAR Web セミナー 肉腫治療での HD-MTX 排泄遅延時の新たなアプローチ. 2024, (WEB), [講演]
- 023 筑紫 聡: ぜひ知ってほしい! 腫瘍用人工関節の手術手技と術後機能 ~がんロコモにおける骨粗鬆症介入の重要性~. 第24回関西医科大学整形外科秋期研修会, 2024, (大阪), [講演]
- 024 筑紫 聡: 悪性軟部腫瘍の治療戦略-効果予測因子からの考察-. サルコーマ カンファレンス in 東海~ QOL を意識した悪性軟部腫瘍の治療戦略~, 2024, (名古屋), [講演]
- 025 筑紫 聡: 東海地区軟部肉腫セミナー, 2024, (名古屋), [コメンテーター]
- 026 筑紫 聡, 吉田雅博, 濱田俊介, 藤原那沙: 後腹膜肉腫に対する治療戦略 後腹膜脂肪肉腫における手術治療とその役割. 第143回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 2024, [口演]
- 027 吉田雅博, 筑紫 聡, 濱田俊介: がんロコモ対策の現状と課題 下肢骨転移に対して人工骨頭置換術を行った症例における整形外科とリハビリテーション科の役割について. 第143回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 2024, (神戸), [口演]
- 028 小森康司, 吉田雅博, 筑紫 聡, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 清水泰博: 会陰部・肛門部腫瘍に対する領域横断の手術 整形外科医と併に施行する恥坐骨合併局所再発直腸癌手術. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [口演]
- 029 筑紫 聡: 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (福岡), [座長]
- 030 筑紫 聡: 第14回名古屋運動器腫瘍セミナー, 2024, (名古屋), [座長]

- 031 **筑紫 聡**: ぜひ知ってほしい! 腫瘍整形外科の世界 腫瘍用人工関節と骨転移治療戦略. 第9回脊椎腫瘍・骨粗鬆症研究会, 2025, (大阪), [講演]
- 032 **筑紫 聡**: 第12回日本骨盤手術手技研究会学術講演会, 2025, (Web), [座長]
- 033 **濱田俊介**: 転移性脊椎腫瘍に対する診療体制の構築: 当院の取り組み. 名古屋整形外科セミナー, 2025, (名古屋), [講演]
- 034 **筑紫 聡**: 2024年度御遺体を用いた整形外科手術手技研修会 (骨軟部腫瘍手術手技実習), 2025, (仙台), [講師]
- 035 **筑紫 聡**: MTX 大量療法後に排泄遅延を呈した大腿骨遠位骨肉腫の1例 —メグロダージェの使用経験—. 第8回日本サルコーマ治療研究会学術集会, 2025, (北海道), [ランチョンセミナー]
- 036 **筑紫 聡**: 腫瘍用人工関節再建の治療戦略 知識と経験の共有. KMLS セミナー, 2025, (名古屋), [講演]

リハビリテーション部

- 001 **吉田雅博**: がん患者における高度なレベルの転倒・転落事例. 第61回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2024, (東京), [口演]
- 002 **吉田雅博, 筑紫 聡, 濱田俊介**: がんロコモ対策の現状と課題 下肢骨転移に対して人工骨頭置換術を行った症例における整形外科とリハビリテーション科の役割について. 第143回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 2024, (神戸), [口演]
- 003 **高津 淳, 吉田雅博, 檜垣栄治, 安部哲也, 山本正彦, 清水泰博, 藤枝裕倫**: 食道癌術後反回神経麻痺患者の嚥下障害に関与する要因の解析. 第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 2024, (福岡), [口演]
- 004 **中嶋誠也, 楠本 茂, 吉田雅博**: 急性骨髄性白血病に対する同種造血幹細胞移植による関連合併症により介入に難渋したが, 身体機能の維持が図れた一症例. 第7回日本がん・リンパ浮腫理学療法学術大会, 2024, (函館), [口演]
- 005 **吉田雅博**: がんの運動器診療—がんロコモのマネジメント— (講演 高木辰哉先生). 第6回愛知がん・リハビリテーション医学研究会講演会, 2025, (名古屋), [座長]
- 006 **南島翔太**: AYA 世代がん患者の病期によるリハビリテーションの変化に対応した事例—本人・家族との共有—. 第6回愛知がん・リハビリテーション医学研究会講演会, 2025, (名古屋), [口演]
- 007 **山崎康司, 中嶋誠也, 清水泰博, 吉田雅博**: 75歳以上消化器がん患者の術前におけるサルコペニア調査. 第13回日本がんリハビリテーション研究会, 2025, (松山), [口演]

泌尿器科部

- 001 **北野剛士, 田中しおり, 加藤 学, 小島崇宏**: Initial experience and problems of Comprehensive genomic profiling for patients with urological cancer at Aichi Cancer Center. 第111回日本泌尿器科学会総会, 2024, (横浜), [ポスター口演]
- 002 **加藤 学, 田中しおり, 北野剛士, 小島崇宏**: Potential usefulness of robot-assisted radical cystectomy for difficult and complicated cases of bladder cancer: retrospective case study. 第111回日本泌尿器科学会総会, 2024, (横浜), [口演]
- 003 **小島崇宏, 筏井亮太, 北野剛士, 加藤 学, 小島 瞳**: ロボット支援下膀胱全摘術における完全後腹膜尿管皮膚ろう. 第42回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2024, (福島), [口演 ワークショップ]
- 004 **小島崇宏**: BRCA 検査と薬物療法について. Nagoya GU Conference ~ mCRPC の新たな治療選択肢~, 2024, (名古屋), [口演]
- 005 **小島崇宏**: 泌尿器腫瘍 Web Seminar, 2024, (Web), [座長]
- 006 **北野剛士**: 当院における腎がんの薬物治療について—非淡明型腎がんを中心に—. 泌尿器腫瘍 Web Seminar, 2024, (Web), [口演]
- 007 **小島崇宏**: 転移性尿路上皮癌の新展開. 尿路上皮癌治療 Up to date in Tochigi, 2024, (栃木), [口演]
- 008 **小島崇宏**: 尿路上皮がんについての実臨床エビデンス. 尿路上皮がん臨床セミナー, 2024, (名古屋), [口演]
- 009 **小島崇宏**: 地域におけるがんゲノム医療の現状と課題 ~ BRCA 遺伝子変異検査を中心に ~. Pfizer Oncology Symposium Prostate Cancer 2024 in Aichi, 2024, (名古屋), [口演]
- 010 **小島崇宏**: 進行性前立腺癌の薬物治療. 泌尿器科診療アップデート~最新の知見と症例から学ぶ治療の実際~イベントセミナー, 2024, (名古屋), [口演]
- 011 **小島崇宏**: aRCC に対する Nivo+IPI の使いどころ~術後再発 RCC に対する治療戦略~. IO-IO RCC Web Live Seminar, 2025, (Web), [口演]
- 012 **小島崇宏**: 進行性尿路上皮癌の薬物治療における新展開—一次治療から逐次治療まで—. 第298回日本泌尿器科学会東海地方会ランチョンセミナー, 2025, (名古屋), [口演]
- 013 **小島崇宏**: 尿路上皮癌に対する周術期補助療法の現在地. GU Web Live Seminar in Aichi, 2025, (名古屋), [座長]
- 014 **小島崇宏**: LENVIMA-RCC Web Seminar, 2025, (Web), [座長]
- 015 **小島崇宏**: Nagoya Urothelial Carcinoma Premier Seminar, 2025, (名古屋), [座長]

婦人科部

- 001 **Xiang Y, Hasegawa K, Zhu H, Zhou Q, Zhang X, Lee J-Y, Usami T, Zhao W, Tharavichitkul E, Suzuki S, Chang T-C, Zhang G.N, Chang C-L, Lertkhachonsuk A-A, Kim B-G, Li K, Yamada K.U, Toker S, Lorusso D** : 230 A randomized, phase III, double-blind study of chemoradiotherapy with or without pembrolizumab in patients with high-risk, locally advanced, cervical cancer (KEYNOTE-A18/ENGOT-cx11/GOG-3047) : Results for patients enrolled in Asia. ESMO GYN2024, 2024, (イタリア), [口演]
- 002 **Lee J-Y, Hasegawa K, Kim B.G, Corr B, Kondo S, Suzuki S, Yunokawa M, David S. M, Tamai T, Dutta L, O'Hara K, Sahara T, Makker V** : Global, Phase 1b Dose-Expansion Cohort of E7386 + Lenvatinib in Patients With Advanced Endometrial Cancer That Progressed on Platinum-Based Chemotherapy and an Anti-PD- (L) 1 Immunotherapy. ESMO2024, 2024, (スペイン), [ポスター]
- 003 **Hasegawa K, Shintani D, Suzuki S, Oda K, Yunokawa M, Yonemori K, Mori Masahiko, Kurosaki A, Mori Mayuyo, Kitano S, Ogasawara A, Saigusa Y, Matsushita H, Misumi T** : Efficacy and safety of pembrolizumab plus olaparib combination therapy in recurrent cervical cancer progressed on platinum-based chemotherapy: Results from the phase II trial of GOTIC-025. ESMO2024, 2024, (スペイン), [ポスター]
- 004 **Macchia G, Cerrotta A, Christiaens M, Lalondrelle M, Zhao W, Suzuki S, Reginacova K, Helpman L, Zagouri F, Aktas B, Bjorge L, Romano K, Vasquez M.A, Cruz F, Monarca P.R, Yamada K, Li K, Fields E, Lorusso D** : ENGOT-cx11/GOG-3047/KEYNOTE-A18 A Phase 3 Study of Pembrolizumab + Concurrent Chemoradiotherapy for High-Risk Locally Advanced Cervical Cancer: Safety Findings. ASTRO2024, 2024, (アメリカ), [口演]
- 005 **Xiang Y, Hasegawa K, Zhu H, Zhou Q, Zhang X, Lee J-Y, Usami T, Tharavichitkul E, Suzuki S, Chang T-C, Zhang G, Chang C-L, Lertkhachonsuk A, Kim B-G, Li K, Yamada K, Toker S, Lorusso D** : ENGOT-cx11/GOG-3047/KEYNOTE-A18: Pembrolizumab or Placebo With Chemoradiotherapy for Newly Diagnosed, High-Risk, Locally Advanced Cervical Cancer (LACC) : Results From Interim Analysis 2 for Patients Enrolled in Asia. ASGO2024, 2024, (インドネシア), [口演]
- 006 **Lee J-Y, Hasegawa K, Kim B.G, Corr B, Kondo S, Suzuki S, Yunokawa M, Miller D. S, Tamai T, Dutta L, McKenzie J, Sahara T, Makker V** : Global, Phase 1b Dose-Expansion Cohort of E7386 + Lenvatinib in Patients With Advanced Endometrial Cancer That Progressed on Platinum-Based Chemotherapy and an Anti-PD- (L) 1 Immunotherapy. ASGO2024, 2024, (インドネシア), [口演]
- 007 **水野 翔, 篠田真実, 小島龍司, 安井啓晃, 渡邊絵里, 森正彦, 鈴木史朗** : 当院における婦人科がん患者に対するがん遺伝子パネル検査の現状と課題. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024, (神奈川), [ポスター]
- 008 **鈴木史朗** : 高リスク局所進行子宮頸がん患者を対象とした KEYNOTE-A18 の日本人部分集団解析. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2024, (鹿児島), [口演]
- 009 **篠田真実** : プラチナ製剤抵抗性子宮頸癌の後方視的検討. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2024, (鹿児島), [ポスター]
- 010 **小島龍司, 篠田真実, 安井啓晃, 渡邊絵里, 森正彦, 鈴木史朗** : 腹式傍大動脈リンパ節郭清術における ERAS プロトコルを用いたクリニカルパス導入前後の比較検討. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2024, (鹿児島), [口演]
- 011 **鈴木史朗** : 婦人科がん支持医療を多面的・多角的に推る～制吐療法 Up-to-Date に重きを置きながら～. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会・ランチョンセミナー, 2024, (鹿児島), [口演]
- 012 **渡邊絵里** : 当院におけるセミプリマブの使用経験. Cervical Cancer Conference in 愛知, 2024, (愛知), [講演]
- 013 **渡邊絵里** : 症例から振り返る進行再発子宮頸癌における治療戦略. Gynecological cancer seminar based on cases, (愛知), [講演]
- 014 **北見和久** : R0 を目指した卵巣癌治療. 若手世代の婦人科腫瘍アカデミー, 2024, (WEB) [講演]
- 015 **鈴木史朗** : 婦人科がん支持療法, あれこれ～制吐剤 Up-to-Date とともに～. Gynecological cancer seminar in Kanagawa, 2024, (WEB), [講演]
- 016 **鈴木史朗** : 婦人科がん支持医療に萌ゆる秋の夜長～薬物療法と制吐療法の趨勢を中心に～. 滋賀県婦人科腫瘍研究会 2024, 2024, (WEB), [講演]
- 017 **鈴木史朗** : 子宮体がんに対する薬物療法 ～趨勢とペムプロリズマブエレンバチニブ療法の位置づけ～. 子宮体癌 Up to date, 2024, (愛知), [講演]
- 018 **鈴木史朗** : 子宮体がんに対する薬物療法 ～秋の夜長にペムプロリズマブエレンバチニブ療法の現況を鑑みながら～. Endometrial Cancer Seminar 2024, 2024, (京都) [講演]
- 019 **鈴木史朗** : 孟冬の候、子宮体がん薬物治療の過現未と、ペムプロリズマブエレンバチニブ療法と。 Endometrial Cancer Seminar 2024, 2024, (WEB), [講演]
- 020 **鈴木史朗** : 新時代を迎えた子宮体がん薬物治療におけるレンバチニブ+ペムプロリズマブ療法を顧慮する. 子宮体癌薬物治療セミナー in 備後, 2024, (広島), [講演]
- 021 **鈴木史朗** : 子宮体がんに対するペムプロリズマブエレンバチニブ療法の現在地と当院における運用状況. 子宮体癌 Meet The Expert, 2024, (Web), [講演]
- 022 **鈴木史朗** : 局所進行子宮頸がんの新たな治療選択肢 ～KEYNOTE-A18 試験を中心に～. 子宮頸癌 Web 講演会, 2024, (Web), [講演]

- 023 **鈴木史朗**：進行卵巣がん治療における手術療法～侵襲性と連携と～. 卵巣がん Expert Web Seminar, 2024, (WEB), [講演]
- 024 **鈴木史朗**：局所進行子宮頸がんの新たな治療選択肢～KEYNOTE-A18 試験を中心に～. 免疫放射線治療セミナー, 2024, (WEB), [講演]
- 025 **鈴木史朗**：子宮体癌における新たな選択肢～KEYNOTE868 試験を中心に～. 婦人科癌の新たな治療選択肢～子宮頸癌と子宮体癌～, 2024, (WEB), [講演]

脳神経外科部

- 001 **灰本章一, 筑紫 聡, 吉田雅博, 浜田俊介, 西村由介, 永島吉孝, 大野真佐輔**：後側方アプローチにて脊椎胸壁合併切除を行った肋骨原発性骨腫瘍の検討. 第10回日本脊椎前方側方進入手術学会, 2024, (名古屋), [一般演題 (ポスター)]
- 002 **灰本章一**：脊椎転移治療のパラダイムシフト. 第20回中部地区がん医療連携学術講演会, 2024, (名古屋), [その他]
- 003 **灰本章一**：胸腰椎後方について. 名古屋脊椎脊髄ナースセミナー, 2024, (名古屋), [その他]
- 004 **灰本章一**：脊椎転移手術におけるセメント注入型スクリーンの有用性. 第44回日本脳神経外科コンgres総会, 2024, (名古屋), [その他]
- 005 **灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 大野真佐輔**：転移性脊椎腫瘍に対する外科治療の現状と課題. 第39回日本脊髄外科学会, 2024, (大阪), [シンポジウム]
- 006 **灰本章一**：転移性脊椎腫瘍の診断と治療. 第39回日本脊髄外科学会教育セミナー, 2024, (大阪), [その他]
- 007 **灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 大野真佐輔**：脊椎転移術後の創部合併症：手術アプローチによる発生率とリスク因子. 第17回 Summer Forum for Practical Spinal Surgery, 2024, (姫路), [一般演題 (口頭)]
- 008 **灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 大野真佐輔**：脊椎転移による脊髄圧迫症に対する外科治療：改良 FRANKEL 分類を用いた機能予後評価. 日本脳神経外科学会第82回学術総会, 2024, (横浜), [一般演題 (口頭)]
- 009 **大野真佐輔, 藤田 貢, 倉光俊一郎, 山下公大, 長坂 暢, 灰本章一, 野平翔太, 松下博和, 齋藤竜太**：消化器癌由来脳転移における腫瘍浸潤 B 細胞と組織常在性メモリー T 細胞. 第42回日本脳腫瘍学会学術集会, 2024, (志摩), [一般演題 (ポスター)]
- 010 **大野真佐輔, 藤田 貢, 倉光俊一郎, 山下公大, 長坂 暢, 灰本章一, 野平翔太, 松下博和, 齋藤竜太**：消化器がん脳転移における予後因子としての腫瘍浸潤 B 細胞と TRM. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024, (博多), [一般演題 (口頭)]
- 011 **大野真佐輔, 山下公大, 倉光俊一郎, 長坂 暢, 灰本章一, 藤田 貢**：消化器悪性腫瘍の脳転移における腫瘍浸潤 B 細胞と組織常在性メモリー T 細胞の空間的分布と予後的価

値. 第83回日本癌学会学術総会, 2024, (博多), [一般演題 (ポスター)]

- 012 **大野真佐輔, 藤田 貢, 倉光俊一郎, 山下公大, 長坂 暢, 灰本章一, 野平翔太, 松下博和, 齋藤竜太**：消化器がん脳転移の予後と B 細胞・TRM の関連. 第24回日本分子脳神経外科学会, 2024, (佐賀), [一般演題 (口頭)]

放射線診断部・IVR 部

- 001 **Sato Y**：Clinical impact of TACE for HCC in systemic therapy era. APSCVIR Outreach Program and Bangladesh Society of Vascular & Interventional Radiology (BSVIR) Conference Bangladesh, 2024, (Dhaka, Bangladesh), [Oral presentation]
- 002 **Sato Y**：Radiofrequency ablation of lung tumors smaller than 1cm. Ablation Therapy and Mentoring Alliance (ATMA), 2024, (Henan, China), [Oral presentation]
- 003 **Irizato M, Sato Y, Ote H, Chatani S, Okuno N, Kuwahara T, Hara K, Inaba Y**：Percutaneous transsplenic obliteration of pancreaticojejunal varices due to left-sided portal hypertension after pancreaticoduodenectomy. The 17th Annual Meeting of Society of Gastrointestinal Intervention (SGI), 2024, (Seoul, Korea), [Poster]
- 004 **Sato Y**：Radiologic management of leakage and fistula. The 17th Annual Meeting of Society of Gastrointestinal Intervention (SGI), 2024, (Seoul, Korea), [Oral presentation]
- 005 **Sato Y**：Combination of transarterial therapies and systemic therapies. The 17th Annual Meeting of Society of Gastrointestinal Intervention (SGI), 2024, (Seoul, Korea), [Oral presentation]
- 006 **Hasegawa T, Sato Y, Yamaura H, Murata S, Inaba Y**：Changes in respiratory function over time after RFA for lung tumors. Society of Interventional Radiology (SIR), 2024, (Utah, USA), [Oral presentation]
- 007 **Sato Y**：Percutaneous biliary intervention for malignant biliary obstruction. 第83回日本医学放射線学会, 2024, (横浜), [講演]
- 008 **稲葉吉隆**：IVR 肝. 第83回日本医学放射線学会, 2024, (横浜), [座長]
- 009 **Irizato M, Minamiguchi K, Kunichika H, Taiji R, Nishiofuku H, Marugami N, Inaba Y, Tanaka T**：Predictive imaging findings of liver malignancies in the coming era of personalized therapy: What radiologists need to know. 第83回日本医学放射線学会, 2024, (横浜), [ポスター]
- 010 **入里真理子**：地域の違いも D & I 奈良医大バージョン若手の立場から. 第53回日本 IVR 学会, 2024, (和歌山), [口演]
- 011 **佐藤洋造**：術後感染症合併症を乗り越えるための IVR：何ができる?. 第53回日本 IVR 学会, 2024, (和歌山), [口演]

- 012 佐藤洋造：PTGBDとPTGBA: どう使い分ける？. 第53回日本IVR学会, 2024, (和歌山), [講演]
- 013 入里真理子, 村田慎一, 佐藤洋造, 山浦秀和, 女屋博昭, 加藤弥菜, 今峰倫平, 大手裕之, 稲葉吉隆：当院での肝細胞癌に対する薬物療法併用 TACE の安全性と有効性の検討. 第53回日本IVR学会, 2024, (和歌山), [口演]
- 014 佐藤洋造：Intermediate stage HCC の治療戦略. 第29回肝動脈塞栓療法研究会, 2024, (和歌山), [座長]
- 015 稲葉吉隆：肝細胞癌における集学的治療. 第53回日本IVR学会, 2024, (和歌山), [座長]
- 016 稲葉吉隆：肝臓3. 第53回日本IVR学会, 2024, (和歌山), [座長]
- 017 稲葉吉隆：アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法の理解と集学的治療・免疫療法時代の TACE. 第53回日本IVR学会, 2024, (和歌山), [座長]
- 018 村田慎一, 稲葉吉隆, 佐藤洋造, 山浦秀和, 女屋博昭, 加藤弥菜, 今峰倫平, 大手裕之, 入里真理子：肝細胞癌における LEN-TACE/TAI 症例の検討. 第53回日本IVR学会, 2024, (和歌山), [口演]
- 019 佐藤洋造, 入里真理子, 大手裕之, 中山敬太, 今峰倫平, 村田慎一, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆：当院における CVP 抜去術クリニカルパスの運用状況の検討. 第48回リザーバー&ポート研究会, 2024, (盛岡), [口演]
- 020 村田慎一, 大手裕之, 入里真理子, 中山敬太, 今峰倫平, 加藤弥菜, 女屋博昭, 佐藤洋造, 山浦秀和, 稲葉吉隆：中心静脈ポート抜去症例の検討. 第48回リザーバー&ポート研究会, 2024, (盛岡), [口演]
- 021 佐藤洋造：中心静脈ポート留置術に画像診断が必要？. 第48回リザーバー&ポート研究会, 2024, (盛岡), [口演]
- 022 入里真理子, 稲葉吉隆, 村田慎一, 山浦秀和, 中山敬太, 今峰倫平, 加藤弥菜, 女屋博昭：脳出血後の片麻痺を有する多発 HCC 患者に対して簡易リザーバーを用いた New FP 療法を行った1例. 第48回リザーバー&ポート研究会, 2024, (盛岡), [口演]
- 023 佐藤洋造：M & M. 第48回リザーバー&ポート研究会, 2024, (盛岡), [座長]
- 024 佐藤洋造：打率10割！超音波ガイド下の静脈穿刺を極める. 第48回リザーバー&ポート研究会, 2024, (盛岡), [講演]
- 025 佐藤洋造, 下山理史, 水野伸匡：内臓神経ブロック中に誤嚥性肺炎をきたした事例報告. 第29回日本緩和医療学会, 2024, (神戸), [ポスター]
- 026 稲葉吉隆：薬物療法時代の TACE の役割を再考する（併用療法・シナジー効果）. 第60回日本肝癌研究会, 2024, (姫路), [司会]
- 027 佐藤洋造, 松島 秀, 二宮一宙, 黒田ひとみ, 稲葉吉隆：RAS 遺伝子の有無が大腸がん肝転移の EOB-MRI 画像に与える影響. 第60回日本肝癌研究会, 2024, (姫路), [口演]
- 028 入里真理子, 佐藤洋造, 大手裕之, 村田慎一, 山浦秀和, 今峰倫平, 中山敬太, 加藤弥菜, 女屋博昭, 稲葉吉隆, 茶谷祥平：PD 術後の膵腸吻合部静脈瘤に対して経皮経脾の塞栓術を施行した3例. 第74回中部IVR研究会, 2024, (富山), [口演]
- 029 佐藤洋造, 大手裕之, 入里真理子, 中山敬太, 今峰倫平, 村田慎一, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆：胃静脈瘤に対して BRTO (GERTO + CARTO-II) にて治療した1例. 第74回中部IVR研究会, 2024, (富山), [口演]
- 030 入里真理子, 佐藤洋造, 村田慎一, 山浦秀和, 中山敬太, 加藤弥菜, 女屋博昭, 稲葉吉隆：Gangi-HydroGuard; coaxial needle を用いて CT ガイド下腫瘍ドレナージを行った2例. 第9回日本穿刺ドレナージ研究会, 2024, (東京), [口演]
- 031 佐藤洋造：穿刺・ドレナージ・RFA・その他. 第9回日本穿刺ドレナージ研究会, 2024, (東京), [座長]
- 032 入里真理子, 佐藤洋造, 中山敬太, 木村智政, 鈴木史郎, 下山理史, 稲葉吉隆：外陰癌局所再発による会陰部瘤に対して CT ガイド下で不對神経ブロックを施行し症状改善を得た1例. 第13回緩和IVR研究会, 2024, (奈良), [口演]
- 033 稲葉吉隆：難治性疼痛に対する局所治療の位置づけ. 第13回緩和IVR研究会, 2024, (奈良), [座長]
- 034 佐藤洋造：難治性疼痛に対する局所治療；IVR で何ができるの？. 第13回緩和IVR研究会, 2024, (奈良), [口演]
- 035 村田慎一, 入里真理子, 中山敬太, 今峰倫平, 加藤弥菜, 女屋博昭, 佐藤洋造, 山浦秀和, 稲葉吉隆：中心静脈ポート抜去症例の検討. 第60回日本医学放射線学会秋季大会, 2024, (福岡), [ポスター]
- 036 佐藤洋造：術後感染症合併症を乗り越えるためのIVR；何が出来る？ 第37回日本外科感染症学会, 2024, (東京), [口演]
- 037 佐藤洋造：がん性狭窄に対するIVR；血管系 第62回日本癌治療学会, 2024, (福岡), [口演]
- 038 佐藤洋造：肝細胞癌治療に対する集学的治療戦略～IVR科医の立場から～. 第3回日本アブレーション研究会, 2025, (金沢), [口演]
- 039 佐藤洋造：非血管. 第75回中部・第76回関西IVR合同研究会, 2025, (大阪), [コメンテーター]
- 040 村田慎一：門脈系. 第75回中部・第76回関西IVR合同研究会, 2025, (大阪), [座長]
- 041 入里真理子, 佐藤洋造, 松井琢也, 村田慎一, 山浦秀和, 中山敬太, 松尾耀平, 女屋博昭, 稲葉吉隆：ICG・リピオドール・リドカインゼリーを用いたCTガイド下術前肺マッピングの初期経験. 第75回中部・第76回関西IVR合同研究会, 2025, (大阪), [口演]
- 042 松尾耀平, 村田慎一, 稲葉吉隆, 入里真理子, 中山敬太, 女屋博昭, 山浦秀和, 佐藤洋造：肝性脳症に対して直接穿刺アプローチで coil in plug 法による門脈・大循環シャント塞栓術を施行した1例. 第75回中部・第76回関西IVR合同研究会, 2025, (大阪), [口演]
- 043 中山敬太, 佐藤洋造, 安井啓晃, 入里真理子, 松尾耀平, 村田慎一, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆：卵巣癌術後の難治性乳び腹水に対して経静脈的逆行性リンパ管塞栓術を施行した1例. 第75回中部・第76回関西IVR合同研究会, 2025, (大阪), [口演]

放射線治療部

- 001 **Koide T** : Optimal RT approach for intracranial metastases. Global Breast Cancer Conference, 2024, (ソウル), [シンポジウム演者].
- 002 **Nakamura S, Kodaira T, Machida R, Nakashima T, Ito Y, Nakamura N, Ishikura S, Toshiyasu T, Saito Y, Takahashi S, Ota I Y, Inada M, Murakami Y, Kubo N, Sekino Y, Fukuda H, Nishimura Y, Mizowaki T** : A single-arm confirmatory trial of IMRT alone for early-stage oropharyngeal cancer JCOG1208. ESTRO 2024, (イギリス), [ポスター]
- 003 **Shimizu H, Kodaira T, Kiyota N, Hayashi R, Nishino H, Asada Y, Mitani H, Hirayama Y, Onozawa Y, Nishio N, Hanai N, Ohkoshi A, Hara H, Monden N, Nagaoka M, Minami S, Fujii T, Tanaka K, Homma A, Sasaki K, Kitabayashi R, Ishikura S, Nishimura Y, Tahara M** : Secondary analysis of JCOG1008: Frequency and risk factors associated with the hypothyroidism. ESTRO 2024, (イギリス), [ポスター]
- 004 **Koide Y, Nagai N, Shindo Y, Kitagawa T, Aoyama T, Shimizu H, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : A single-center survey of 800 patients with newly diagnosed brain metastases from 2016 to 2021. ESTRO 2024, (イギリス), [ポスター]
- 005 **Koide Y, Haimoto S, Shimizu H, Aoyama T, Shindo Y, Nagai N, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : Re-irradiation of stereotactic body radiotherapy for metastatic epidural spinal cord compression. ESTRO 2024, (イギリス), [ポスター]
- 006 **Koide Y, Aoyama A, Tanaka H, Shindo Y, Nagai N, Kitagawa T, Shimizu H, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : Effect of reimbursement costs on the choice of modality for brain stereotactic radiosurgery in Japan. ESTRO 2024, (イギリス), [ポスター]
- 007 **Yokota T, Zenda S, Kodaira T, Kiyota N, Fujimoto Y, Wasano K, Takahashi R, Mizowaki T, Homma A, Sasaki K, Machida R, Sekino Y, Fukuda H** : Novel approach of prophylactic radiation to reduce toxicities comparing 2-step 40 Gy with 56 Gy simultaneous integrated boost intensity-modulated radiation therapy for locally advanced squamous cell carcinoma of the head and neck, a phase III trial (JCOG1912, NEW BRIDGE). 2024 ASCO annual meeting, (シカゴ), [ポスター]
- 008 **Koide Y, Shindo Y, Nagai N, Kitagawa T, Aoyama T, Shimizu H, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : Comparing Pain Response to Palliative Radiotherapy in Bone Metastases versus Non-Bone Lesions: A Secondary Analysis of a Prospective Observational Study. ASTRO 2024, (ワシントン), [ポスター]
- 009 **Koide Y, Nagai N, Ito M, Adachi S, Shindo Y, Aoyama T, Shimizu H, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : Impact of Concurrent Antibody-Drug Conjugates and Radiotherapy on Symptomatic Radiation Necrosis in Breast Cancer Patients with Brain Metastases: A Multicenter Retrospective Study. ASTRO 2024, (ワシントン), [ポスター]
- 010 **Shindo Y, Koide Y, Nagai N, Kitagawa T, Aoyama T, Shimizu H, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : Stereotactic Body Radiation Therapy for Oligometastatic Non-Spine Bone Metastases: A Retrospective Two-Center Study. ASTRO 2024, (ワシントン), [ポスター]
- 011 **Tahara M, Kiyota N, Fujii N, Asada Y, Mitani H, Hirayama Y, Nishio N, Onozawa Y, Hanai N, Ohkoshi A, Monden N, Nagaoka M, Minami S, Fujii T, Tanaka S, Yoshimoto K, Kodaira T, Mizusawa J, Nakamura K, Hayashi, R and the Head and Neck Cancer Study Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG-HNCSG)** : Final Analysis of a Phase II/III Trial of Post-operative Chemoradiotherapy Comparing 3-Weekly Cisplatin with Weekly Cisplatin in High-risk Patients with Squamous Cell Carcinoma of the Head and Neck (JCOG1008). ESMO 2024, (スペイン), [共同演者]
- 012 **Kodaira T** : Symposium 3 Altered Dose-fractionation in Head and Neck Cancer Hypofractionation in Early Glottic Cancer 20251128. 2nd International Conference of the Korean Society for Head and Neck Oncology, 2024, (プサン), [シンポジウム]
- 013 **Kodaira T** : Symposium 18 Timpor bpoard Panel Discussion. 2nd International Conference of the Korean Society for Head and Neck Oncology 2024, (プサン), [シンポジウム]
- 014 古平 毅 : 治療 泌尿器・骨盤2. 第83回日本医学放射線学会, 2024, (横浜), [座長]
- 015 青山貴洋, 清水秀年, 小出雄太郎, 北川智基, 岩田 徹, 古平 毅 : 厚生労働省医療施設静態調査の解析に基づく外部放射線治療施設の動向と分布. 第80回日本放射線技術学会総会学術大会, 2024, (横浜), [口演]
- 016 立花弘之 : 「がんの放射線治療」. 愛知県立大学看護学部, 2024, (名古屋), [講義]
- 017 立花弘之 : 「各施設のルタテラ治療体制と今後の取り組み」. PRRT Web Seminar ～ルタテラ治療の施設間連携を考える～, 2024, (WEB), [講演]
- 018 立花弘之 : 「適切なルタテラの運用と病院間連携について」. PRRT Web Seminar ～ルタテラ治療の施設間連携を考える～, 2024, (WEB), [パネルディスカッション]
- 019 小出雄太郎, 進藤由里香, 長井尚哉, 北川智基, 青山貴洋, 清水秀年, 橋本眞吾, 立花弘之, 古平 毅 : 日本における脳定位放射線治療の治療装置選択に及ぼす診療報酬の影響. 第29回日本緩和医療学会学術大会, 2024, (神戸), [ポスター]

- 020 小出雄太郎, 進藤由里香, 長井尚哉, 北川智基, 青山貴洋, 清水秀年, 橋本眞吾, 立花弘之, 古平 毅: 骨転移と非骨転移に対する疼痛緩和照射の比較. 第 29 回日本緩和医療学会学術大会, 2024, (神戸), [ポスター]
- 021 古平 毅, 藤本保志, 和佐野浩一郎, 全田貞幹, 横田知哉, 清田尚臣: 「JCOG1601/1912 からリンパ節の予防的照射 / 郭清の意義を考える」局所進行頭頸部癌の化学放射線療法における最適な予防領域照射とは?. 第 48 回日本頭頸部癌学会, 2024, (浜松), [シンポジウム]
- 022 古平 毅: 教育セッション頭頸部がんに対する放射線療法への役割と未来. 第 48 回日本頭頸部癌学会, 2024, (浜松), [座長]
- 023 中村聡明, 伊藤芳紀, 中村直樹, 齊藤吉弘, 高橋 聡, 太田陽介, 稲田正浩, 村上祐司, 西村恭昌, 古平 毅: T1-2N0M0 中咽頭癌に対する強度変調放射線治療 (IMRT) の施設共同単群検証的試験 (JCOG1208). 第 48 回日本頭頸部癌学会, 2024, (浜松), [共同演者]
- 024 立花弘之: 放射線治療医から見たガイドライン. 第 48 回日本頭頸部癌学会, 2024, (浜松), [演者]
- 025 北川智基: 標準計測法 12 に準じたリニアックの光子線出力評価 (実機を用いた実習型講習). 日本放射線治療専門放射線技師認定機構認定 2024 年度 東海地区講習会, 2024, (名古屋), [講師]
- 026 北川智基: 婦人科骨盤部領域に対する治療計画「Precision 編」. 第 6 回 放射線治療あすなろ会放射線治療計画セミナー, 2024, (名古屋), [講師]
- 027 古平 毅: Japanese clinical trials for head and neck cancer Past, Present and Future. The 9th Japan-Taiwan Radiation Oncology Symposium, 2024, (札幌), [口演]
- 028 立花弘之: がん薬物療法学特論「放射線腫瘍学」. 名城大学薬学部大学院, 2024, (名古屋), [講義]
- 029 立花弘之: 「放射線治療」. 令和 6 年度 がん看護ジェネラリスト研修, 2024, (名古屋), [講義]
- 030 立花弘之: 「上顎洞癌の化学放射線療法」. 第 232 回筑後地区レントゲンイベント特別講演会, 2024, (筑後), [講演]
- 031 古平 毅: 教育セッション放射線治療. 第 62 回癌治療学会, 2024, (福岡), [口演]
- 032 *Tachibana H, Matsuura K, Onimaru R, Ohkoshi A, Shinomiya H, Saito Y, Shiga K, Nakahira M, Yoshimoto S, Asakage T, Sekita T, Sasaki K, Mizusawa J, Fukuda H, Homma A*: Head and Neck Cancer Study Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG-HNCSG). 第 62 回癌治療学会, 2024, (福岡), [共同演者]
- 033 古平 毅: 指導者講習会. 第 36 回日本放射線腫瘍学会, 2024, (横浜), [講演]
- 034 古平 毅: パネルディスカッション 2 multidisciplinary approach 頭頸部がん, 肺癌. 第 36 回日本放射線腫瘍学会, 2024, (横浜), [座長]
- 035 小出雄太郎, 進藤由里香, 野口正宗, 北川智基, 青山貴洋, 清水秀年, 橋本眞吾, 立花弘之, 古平 毅: 前向き観察データを用いた疼痛緩和照射のクラス分類と QoL に関する研究. 第 36 回日本放射線腫瘍学会, 2024, (横浜), [共同演者]
- 036 小出雄太郎, 長井尚哉, 足達 崇, 伊藤正之, 川村麻里子, 伊藤 誠, 伊藤文隆, 進藤由里香, 青山貴洋, 清水秀年, 橋本眞吾, 立花弘之, 古平 毅: 乳がん脳転移に対する ADC 併用放射線治療と脳壊死に関する多施設後方視的研究. 第 36 回日本放射線腫瘍学会, 2024, (横浜), [共同演者]
- 037 青山貴洋, 小出雄太郎, 清水秀年, 北川智基, 橋本眞吾, 立花弘之, 古平 毅: 日本における放射線治療装置数と高精度照射実施施設割合の国際比較および適正値の推定. 第 36 回日本放射線腫瘍学会, 2024, (横浜), [共同演者]
- 038 小出雄太郎, 長井尚哉, 足達崇, 伊藤正之, 川村麻里子, 伊藤 誠, 伊藤文隆, 進藤由里香, 青山貴洋, 清水秀年, 橋本眞吾, 立花弘之, 古平 毅: 乳癌脳転移に対する ADC 併用放射線治療と脳壊死に関する多施設後方視的研究. 第 36 回日本放射線腫瘍学会, 2024, (横浜), [ポスター]
- 039 小出雄太郎, 進藤由里香, 野口正宗, 北川智基, 青山貴洋, 清水秀年, 橋本眞吾, 立花弘之, 古平 毅: 前向き観察データを用いた疼痛緩和照射のクラス分類システムと QoL に関する研究. 第 36 回日本放射線腫瘍学会, 2024, (横浜), [ポスター]
- 040 齊藤哲雄, 鹿間直人, 高橋健夫, 原田英幸, 中村直樹, 野津昭文, 白土博樹, 山田和成, 上蘭 玄, 小出雄太郎, 窪田 光, 山崎拓也, 平安名常一, 岡田幸法, 戸成綾子, 茂松直之: 骨転移への放射線治療後の疼痛奏効例と非奏効例での効用値: 26 施設の前向きデータ. 第 36 回日本放射線腫瘍学会, 2024, (横浜), [共同演者]
- 041 今野伸樹, 齊藤哲雄, 小杉 崇, 原田英幸, 鹿間直人, 高橋健夫, 小出雄太郎, 永倉久泰, 田中 修, 川本晃史, 関井修平, 和田優貴, 山田和成, 櫻井孝之, 平安名常一, 中村直樹: 「JROSG 23-2」. 第 36 回日本放射線腫瘍学会, 2024, (横浜), [共同演者]
- 042 進藤由里香, 小出雄太郎, 長井尚哉, 野口正宗, 北川智基, 青山貴洋, 清水秀年, 橋本眞吾, 立花弘之, 古平 毅: 非脊椎骨オリゴ転移に対する定位放射線療法. 第 36 回日本放射線腫瘍学会, 2024, (横浜), [ポスター]
- 043 青山貴洋, 小出雄太郎, 清水秀年, 瓜倉厚志, 北川智基, 橋本眞吾, 立花弘之, 古平 毅: CT、MRI、PET、マンモグラフィ、放射線治療の医療資源と利用状況に関する国際比較調査. 第 1 回日本放射線医療技術学術大会, 2024, (沖縄), [ポスター]

精神腫瘍科部

- 001 小森康永: ナラティブ・セラピーの詩学. 第 5 6 回東海相談学会, 2025, (名古屋), [講演]

看護部

- 001 井口未貴, 八重樫 裕, 戸田桂子, 花井信広: がん専門病院のジェネラリスト看護師による頭頸部外科病棟での摂食機能療法への取り組み. 第48回日本嚥下医学会学術講演会, 2025, (神戸), [口演]
- 002 八重樫 裕: 食道がん高位吻合術後の嚥下障害にバルーン法で完全経口摂取に至った一症例. 第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 2024, (福岡), [口演]
- 003 佐藤 好, 青木智子, 山口真澄, 衣斐寛倫: がん遺伝子パネル検査を受ける患者・家族への看護支援の実際と今後の課題. 第39回日本がん看護学会学術集会, 2025, (北海道), [示説]
- 004 大本美穂, 近藤ちえみ, 中尾亜由美, 柴田亜弥子: 外来がん薬物療法を受ける高齢患者への積極的体調確認の有効性. 第39回日本がん看護学会, 2025, (北海道), [口演]
- 005 深堀慎一郎, 小川明伸, 榊田智喜, 工藤千穂, 谷口浩也: ミッドラインカテーテルからのフルオロウラシル持続静注に対する患者および医療者による評価. 第39回日本がん看護学会学術集会, 2025, (北海道), [口演]
- 006 深堀慎一郎, 榊田智喜, 工藤千穂 3, 小川明伸, 黒野純子, 堀田枝里, 前田章光, 松浦由紀子, 山口真由美, 山田知里, 安藤正志, 尾瀬 功 4, 谷口浩也 :5-FU 持続静注の投与経路としてのミッドラインカテーテルの有用性探索 (MLC-45FU 試験). 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (兵庫), [口演]
- 007 倉石幸治, 成田有季哉, 福嶋敬子, 村井一輝, 長縄弥生, 室 圭: 多職種連携を取り入れた DCF 療法パスを導入した成果. 第24回日本クリニカルパス学会学術集会, 2024, (愛媛), [口演]
- 008 梅垣 翔, 山口真澄, 柴田典子, 佐藤 好, 上岡亜子, 細田和貴, 衣斐寛倫: 検査成功率の観点から考えた最適な包括的ゲノムプロファイリングテストを選択する戦略. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [示説]
- 009 衣斐寛倫, 梅垣 翔, 山口真澄, 佐藤 好, 上岡亜子: 自施設においてがん遺伝子プロファイリング検査ができない病院から紹介される症例におけるオンライン診療の必要性の検討. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (神戸), [示説]
- 010 藤田 恵, 下山理史: 難治性疼痛患者の在宅療養の希望を叶えるチームアプローチ〜くも膜下ポートを用いた脊髄持続鎮痛法〜, 第13回緩和 IVR 研究会, 2024, (奈良), [口演]
- 011 山田知里, 成田有季哉, 須田貴斗, 堀田枝里, 黒野純子, 倉石幸治, 水野太郎, 石塚保亘, 下村一景, 飯田優美, 近藤凜子, 戸崎加奈江, 小原真紀子, 高畑知帆子, 室 圭: ゴルベツキシマブ導入時における多職種連携〜クリニカルパスの活用〜. 日本臨床腫瘍学会, 2025, (兵庫), [ポスター]
- 012 向井未年子: がん患者の人生の最終段階における様々な意思決定支援. 2024年度日本がん看護学会地方分科会, 2024, (愛知), [講師]
- 013 向井未年子: シンポジウム「食の苦悩に寄り添う」. 日本緩和医療学会第6回東海・北陸支部学術大会, 2024, (愛知), [座長]
- 014 向井未年子: 高度看護実践者としてのキャリア開発を考える. 2024年度日本専門看護師協会がん看護分野セミナー, 2024, (Web), [講師]
- 015 井上さよ子: コンサルテーション論. 愛知医科大学大学院 看護学研究科, 2024, (愛知), [講師]
- 016 井上さよ子: コンサルテーション論. 日本赤十字豊田看護大学 大学院看護研究科, 2024, (愛知), [講師]
- 017 永田智子: 在宅医療病態論Ⅲ. 愛知県看護協会 訪問看護認定看護師教育課程, 2024, (愛知), [講師]
- 018 永田智子: がん看護1、2、3、4. 愛知県看護協会 訪問看護職員養成講習会, 2024, (愛知), [講師]
- 019 永田智子: 緩和ケア. 緩和ケアボランティア養成講座 (全10回), 一般社団法人 あした葉, 2024, (Web), [講師]
- 020 永田智子: 最新アップデート! 緩和ケア「その人らしい生き方を支える アドバンス・ケア・プランニング (ACP) を実践しよう」. がん看護ジェネラリスト研修緩和ケア2, 愛知県がんセンター, 2024, (愛知), [ファシリテーター]
- 021 吉川 恵: 都道府県指導者養成研修「フォローアップ研修」. 国立研究開発法人国立がん研究センター緩和ケアチーム研修企画, 2024, (Web), [講師]
- 022 吉川 恵: インフォームド・コンセントにおける看護師の役割. 公益社団法人愛知県看護協会, 2024, (愛知), [講師]
- 023 吉川 恵: がんリハビリテーション方法論. 愛知県立大学看護学研究科, 2024, (愛知), [講師]
- 024 吉川 恵: 成人・老年看護方法Ⅳ「緩和ケアの実際」. 三重県立看護大学, 2024, (三重), [講師]
- 025 久保 知: 頭頸部がんの放射線療法看護. 第40回がん放射線療法看護セミナー, 2024, (石川), [講師]
- 026 久保 知: 放射線療法を受ける患者の看護. 金城学院大学看護学部, 2024, (愛知), [講師]
- 027 戸崎加奈江: 日本医療安全学会看護部会+愛知県がん診療連携協議会 PDCA サイクル推進部会のコラボレーションシンポジウム「外来化学療法センターにおける看護師の適正配置に向けて」. 第11回日本医療安全学会学術総会, 2024, (愛知), [シンポジスト]
- 028 笹川良子: Scientific Exchange Meeting 2024 肝細胞癌治療における Diversity & Inclusion ～多様化する治療と患者ニーズ～. アストラゼネカ KK, 2024, (Web), [パネリスト]
- 029 山田健司: 成人急性期看護学. 愛知県立大学 看護学部, 2024, (愛知), [講師]
- 030 山田健司: 急性期看護学Ⅰ. 一宮研伸大学 看護学部, 2024, (愛知), [講師]
- 031 柴田亜弥子: 地域と病院をつなぐ退院支援における多職種の役割「地域と病院の連携事例を通して考えよう」. 千種区多職種研修会, 2024, (愛知), [講師]
- 032 柴田亜弥子: 家族と健康. 愛知県立大学大学院 家族支援 CNS コース科目, 2024, (愛知), [講師]

- 033 柴田亜弥子：最新医療と看護。愛知県立大学看護学部，2024，（愛知），[講師]
- 034 小川明伸：利用者さんの『いつもと違う』を感じるためのフィジカルアセスメント。大阪府訪問看護ステーション協会，2025，（大阪府），[ファシリテーター]
- 035 新田都子：レスキュー渡したら OK？ 痛みの評価とプラスのケアのヒント。岐阜緩和医療研究会，2024，（岐阜），[講師]
- 036 西尾里美：がん看護病態特論 造血器幹細胞移植。聖隷クリストファー大学大学院看護学研究科博士前期過程，2024，（静岡），[講師]
- 037 西尾里美：緩和ケア援助特論 手術療法。聖隷クリストファー大学大学院看護学研究科博士前期課程，2024，（静岡），[講師]
- 038 西尾里美：コンサルテーション論。愛知県立大学大学院看護学研究科，2024，（愛知），[講師]
- 039 青木智子：irAE マネジメントセミナー「多職種連携で取り組む、がん免疫療法・irAE 早期発見のために乳腺診療科での看護師の役割、支援と連携」。MSD 株式会社，2025，（愛知），[講師]
- 040 中山衣代：第 44 回東海消化器内視鏡技師会，2024，（愛知），[大会長]
- 041 中島貴子：疾病治療論Ⅳ放射線治療。愛知県立総合看護専門学校，2024，（愛知），[講師]
- 042 山口真澄：がん看護論「オンコロジックエマージェンシー」。名古屋市立大学看護学研究科 2024，（愛知），[講師]
- 043 山田知里：乳がん化学療法と FN マネジメント。乳腺 web カンファレンス，2024，（Web），[演者]
- 044 山田知里：がん薬物療法における外来サポータティブケアの実践～看護師の立場から～。第 22 回 HEMCO，2024，（Web），[演者]
- 004 橋本直弥：乳がん薬物療法について。日本臨床腫瘍薬学会ブラッシュアップセミナー 2024，2024，（WEB），[オンデマンドセミナー]
- 005 前田章光，松尾恵太郎，安藤 仁，盛重純一，室 圭，内田幸作，田近正洋：パクリタキセルによる治療早期の重篤な好中球減少に対する ABCB1 遺伝子バリエーションの及ぼす影響。第 45 回日本臨床薬理学会学術総会，2024，（大宮），[口頭]
- 006 前田章光：新たな制吐療法：ガイドライン改訂後の最新エビデンス。第 34 回日本医療薬学会。第 34 回日本医療薬学会年会，2024，（幕張），[シンポジウム講演]
- 007 前田章光：医療者が知っておくべき抗がん薬曝露の発生源と患者説明のすゝめ～愛知県がんセンター 2011 年からのデータを基に～。第 14 回日本臨床腫瘍薬学会学術大会，2024，（横浜），[シンポジウム講演]
- 008 前田章光：薬剤師のための画像読影の基礎知識～適切ながん薬物療法と服薬指導のために～，TAKATA Academic Café for Oncology Pharmacists Vol.1，2024，（WEB），[示説]
- 009 前田章光：抗がん剤の支持療法について最新の話。ベッドサイドの臨床薬理学～ワークショップ 2024～，2024，（WEB），[示説]
- 010 前田章光：がん専門薬剤師の Next ステップ！～研究立案と論文執筆スキル～。New Generation Cancer Seminar in 東海，2024，（WEB），[示説]
- 011 前田章光：医療従事者が知っておくべき抗がん薬曝露の発生源と患者説明～東和エチケットブックのすゝめ～。TOWA 東海オンコロジーセミナー，2024，（WEB），[示説]
- 012 佐藤祥暁，前田章光，下村一景，今井暁南，高井奈美，内田幸作：外来処方における S-1 の用量逸脱処方の実態調査。第 57 回東海薬剤師学術大会，2024，（岐阜），[口頭]
- 013 堀 恭子，山本扇里，飯原大稔，土屋雅美，早崎 容，熊倉康郎，渡邊大地，境 秀樹，中川 慧，工藤明子，大石元，角 暢浩，郷真貴子，真島宏太，内田 敬，安江萌夏，前田章光，西野公博，松本光史，佐藤慎也，上田 豊，冨尾賢介，林 克剛，坊本佳優，安部正和：卵巣がん患者における PARP 阻害薬の催吐性リスク分類評価に関する前向き観察研究（JASCC-CINV 2002）。第 34 回日本医療薬学会年会，2024，（幕張），[口頭]
- 014 西川和宏，川端良平，川瀬朋乃，川田純司，木村 豊，鹿島康薫，上田修吾，竹野 淳，下村一景，今村博司：胃癌一次化学療法症例においてエイコサペンタエン酸強化栄養剤補助により栄養指標やがん悪液質は改善するか～多施設共同第 II 相試験の結果から～。第 97 回日本胃癌学会総会，2025，（名古屋），[口頭]
- 015 西川和宏，川端良平，川瀬朋乃，川田純司，木村 豊，鹿島康薫，上田修吾，竹野 淳，下村一景，今村博司：がん悪液質を伴う進行胃癌の一次化学療法に対するエイコサペンタエン酸強化栄養剤の有用性に関する第 II 相試験。第 124 回日本外科学会定期学術集会，2024，（常滑），[口頭]

薬剤部・臨床薬剤部

- 001 Abe M, Yamamoto S, Tsuchiya M, Hayasaki Y, Hori K, Kumakura Y, Watanabe D, Sakai H, Nakagawa S, Kudoh A, Oishi H, Kado N, Go M, Mashima K, Uchida T, Yasue M, Maeda A, Nishino K, Matsumoto K, Sato S, Ueda Y, Tomio K, Hayashi K, Takenaka M, Iihara H. PARP inhibitors-induced nausea and vomiting in patients with gynecologic cancer (jascc-cinv 2002) : a prospective, observational, multicenter study. MASCC/AFSOS/ISOO 2024 Annual Meeting, 2024, (France), [poster]
- 002 橋本直弥：乳癌薬物療法における CINV マネージメントの展望。第 32 回日本乳癌学会総会，2024，（島根），[ランチョンセミナー]
- 003 橋本直弥：トロデルビ® のトリセツ。第 14 回日本臨床腫瘍薬学会学術集会 L/S，2024，（横浜），[ランチョンセミナー]

- 016 則武千波夜, 橋本直弥, 下村一景, 村田史子, 内田幸作:
メサドンの鎮痛換算比に関する検討. 第17回日本緩和医療薬学会, 2024, (東京), [口頭]

ゲノム医療センター

- 001 梅垣 翔, 山口真澄, 柴田典子, 佐藤 好, 上岡亜子, 細田和貴, 衣斐寛倫: 検査成功率の観点から考えた最適な包括的ゲノムプロファイリングテストを選択する戦略. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (兵庫), [ポスター]
- 002 衣斐寛倫, 梅垣 翔, 山口真澄, 佐藤 好, 上岡亜子: 自施設においてがん遺伝子プロファイリング検査ができない病院から紹介される症例における オンライン診療の必要性の検討. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (兵庫), [ポスター]
- 003 梅垣 翔, 山口真澄, 柴田典子, 佐藤 好, 上岡亜子, 細田和貴, 衣斐寛倫: CGP 検査におけるサンプルの低品質と前立腺癌の関連性. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025, (兵庫), [ポスター]
- 004 佐藤 好, 青木智子, 山口真澄, 衣斐寛倫: がん遺伝子パネル検査を受ける患者・家族への看護支援の実際と今後の課題. 日本がん看護学会学術集会, 2025, (札幌), [ポスター]

3. 学会等における研究発表テーマ調べ（研究所）

研究所長

- 001 **Hashimoto H, Tanaka Y, Ueno T, Kojima S, Yano S, Kakimi K, Imoto I, Yasuda H, Tsuboi M, Watanabe S, Shirai-shi K, Kohno T, Shiraiishi Y, Yatabe Y, Kaneko T, Mano H**: Whole genome landscape of small cell lung carcinoma and large cell neuroendocrine carcinoma of the lung. 第83回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [口演]
- 002 **井本逸勢**: ゲノム情報の医療での活用のための新たなナレッジベースの必要性. 第9回クリニカルバイオバンク学会シンポジウム, 2024, (仙台), [シンポジウム]
- 003 **井本逸勢**: A knowledge base for the use of genomic information in medical/health care management. 日本人類遺伝学会第69回大会, 2024, (札幌), [シンポジウム]
- 004 **高磯伸枝, 井本逸勢**: The role of certified genetic counselors for multidisciplinary collaboration in a cancer specialized medical institution. 日本人類遺伝学会第69回大会, 2024, (札幌), [パネルディスカッション]
- 005 **四十谷美樹, 松川愛未, 友澤周子, 木村香里, 平岡弓枝, 小村 悠, 今井光穂, 山下理宇, 藤澤孝夫, 平田真, 井本逸勢, 小杉真司, 吉野孝之, 中村能章, 桑田健**: The utility of multigene panels in germline profiling and the role of the germline board in MONSTAR-2 and BRANCH studies. 日本人類遺伝学会第69回大会, 2024, (札幌), [ポスター]

がん情報・対策研究分野

- 001 **Mojoo S D, Oze I, Ugai T, Hattori M, Sawaki M, Kotani H, Ishiguro J, Usui Y, Iwase M, Koyanagi YN, Kasugai Y, Ito H, Matsuo K**: Effect of genetic risk feedback on behavioral changes for breast cancer screening: A randomized controlled trial. 第83回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡) [English Oral Session]
- 002 **Yamamoto S, Koyanagi YN, Taniyama Y, Iwashita Y, Oze I, Ito H, Niimi A, Matsuo K**: Smoking behavior-related genetic variants and lung cancer risk in Japanese: an assessment of mediation analysis. 第83回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡) [ポスター]
- 003 **Mojoo S D, Oze I, Ugai T, Hattori M, Sawaki M, Kotani H, Ishiguro J, Usui Y, Iwase M, Koyanagi YN, Kasugai Y, Ito H, Matsuo K**: Effect of genetic risk feedback on modifiable lifestyle changes for breast cancer prevention: A randomized controlled trial. 第47回がん疫学・分子疫学研究会総会, 2024, (名古屋) [口演]
- 004 **Tsuge H, Koyanagi YN, Taniyama Y, Kawaura M, Oze I, Yamaguchi R, Matsuo K, Ito H**: Impact of smoking/drinking prevalence on association between areal-level

- socioeconomic status and cancer mortality in Japan: A nationwide cross-sectional ecological study. WCE 2024 CONFERENCE, 2024, (Cape Town) [ポスター]
- 005 **伊藤秀美**: 地域のがん生存率をがん医療に活かす. 日本がん登録協議会第33回学術集会 in 島根, 2024, (出雲), [講師]
- 006 **柘植博之, 谷山祐香里, 尾瀬 功, 小柳友理子, 松尾恵太郎, 伊藤秀美**: 愛知県がん登録データにみる、希少がん患者の集約状況と生存率の変化. 日本がん登録協議会第33回学術集会 in 島根, 2024, (出雲), [口演]
- 007 **小柳友理子, 川浦正規, 松尾恵太郎, 川勝雪乃, 谷山裕香里, 尾瀬 功, 高橋邦彦, 山口類, 中谷友樹, 伊藤秀美**: 空間的従属性を考慮したフルバイズモデルに基づくがん死亡リスクおよび地理的剥奪指標との関連度合いの臓器別・都市度別推定. 第47回がん疫学・分子疫学研究会総会, 2024, (名古屋) [ポスター]
- 008 **柘植博之, 谷山裕香里, 川浦正規, 尾瀬 功, 小柳友理子, 松尾恵太郎, 伊藤秀美**: 社会経済的格差が喫煙・飲酒を介してがん死亡に及ぼす影響についての媒介分析. 第47回がん疫学・分子疫学研究会総会, 2024, (名古屋) [ポスター]
- 009 **山本清花, 小柳友理子, 谷山祐香里, 岩下雄二, 尾瀬 功, 伊藤秀美, 新実彰男, 松尾恵太郎**: 喫煙行動関連遺伝子多型と肺がんリスク: 媒介分析による組織型別の検討. 第47回がん疫学・分子疫学研究会総会, 2024, (名古屋) [口演]
- 010 **川合紗世, 林 櫻松, 柘植博之, 伊藤秀美, 松尾恵太郎, 和田恵子, 永田知里, 成井信博, 北村哲久, 歌田真依, 坂田律, 木村尚史, 玉腰暁子, 菅原由美, 辻 一郎, 木誠太郎, 澤田典絵, 津金昌一郎, 溝上哲也, 尾瀬 功, 阿部サラ, 井上真奈美**: 肥満指数 (BMI) と肺がんリスク～日本の前向きコホート10研究の統合解析より～. 第47回がん疫学・分子疫学研究会総会, 2024, (名古屋) [口演]
- 011 **柘植博之, 小柳友理子, 川浦正規, 尾瀬 功, 松尾恵太郎, 伊藤秀美**: 地域の社会経済的格差が喫煙・飲酒を介してがんアウトカムに及ぼす影響についての媒介分析. 第35回日本疫学会学術総会, 2025, (高知) [ポスター]
- 012 **山本清花, 小柳友理子, 岩下雄二, 尾瀬 功, 伊藤秀美, 新実彰男, 松尾恵太郎**: 喫煙行動関連遺伝子多型と消化管がんリスク: 媒介分析による検討. 第35回日本疫学会学術総会, 2025, (高知) [ポスター]
- 013 **小嶋雅代, 石川博己, 前野 健, 松尾恵太郎, 伊藤秀美**: 名古屋市のエビデンスに基づくがん対策への試み. 第35回日本疫学会学術総会, 2025, (高知) [ポスター]

がん予防研究分野

- 001 **Koyanagi YN, Matsuo K**: Genome Consortium in Epidemiology: Insights from Genetic Diversity. 第83回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [English Oral Session]
- 002 **Iwashita Y, Kasugai Y, Shinmura K, Sugimura H, Matsuo K**: An adductome analysis for DNA damages induced by exposures of tobacco smoking and alcohol drinking. 第83回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡) [口演]
- 003 **Mojo S D, Oze I, Ugai T, Hattori M, Sawaki M, Kotani H, Ishiguro J, Usui Y, Iwase M, Koyanagi YN, Kasugai Y, Ito H, Matsuo K**: Effect of genetic risk feedback on behavioral changes for breast cancer screening: A randomized controlled trial. 第83回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [English Oral Session]
- 004 **Yamamoto S, Koyanagi YN, Taniyama Y, Iwashita Y, Oze I, Ito H, Niimi A, Matsuo K**: Smoking behavior-related genetic variants and lung cancer risk in Japanese: an assessment of mediation analysis. 第83回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡) [ポスター]
- 005 **Ueki M, Shiraishi K, Torasawa M, Goto A, Saito M, Honda T, Wakai K, Yamamoto M, Iwasaki Motoki, Matsuda K, Matsuda F, Matsuo K, Yatabe Y, Watanabe S, Hamamoto R, Kohno T**: Differential immunogenic contributions of HLA genotypes to the development of lung adenocarcinoma. 第83回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [ポスター]
- 006 **Mojo S D, Oze I, Ugai T, Hattori M, Sawaki M, Kotani H, Ishiguro J, Usui Y, Iwase M, Koyanagi YN, Kasugai Y, Ito H, Matsuo K**: Effect of genetic risk feedback on modifiable lifestyle changes for breast cancer prevention: A randomized controlled trial. 第47回がん疫学・分子疫学研究会総会, 2024, (名古屋), [口演]
- 007 **Tsuge H, Koyanagi YN, Taniyama Y, Kawaura M, Oze I, Yamaguchi R, Matsuo K, Ito H**: Impact of smoking/drinking prevalence on association between areal-level socioeconomic status and cancer mortality in Japan: A nationwide cross-sectional ecological study. WCE 2024 CONFERENCE, 2024, (Cape Town), [ポスター]
- 008 **Matsuo K**: Bridging mechanisms and prevention: Insights from interactions. 13th AACR-JCA Joint Conference, 2025, (Hawaii), [口演]
- 009 **Koyanagi YN**: Genetic architecture of alcohol consumption identified by a genotype-stratified GWAS, and impact on esophageal cancer risk in Japanese people. 第17回 NAGOYA グローバルリトリート (第6回 CIBoG リトリート), 2025, (愛知), [口演]
- 010 **Matsuo K**: Homologous recombination genes and gastric cancer. the International Symposium on Helicobacter and Upper Gastrointestinal Diseases (HUG 2025) & the 33rd Annual Meeting of the Korean College of Helicobacter and Upper Gastrointestinal Research & the 21st Korea-Japan Joint symposium on Helicobacter Infection, 2025, (Seoul), [口演]
- 011 柘植博之, 谷山祐香里, 尾瀬 功, 小柳友理子, 松尾恵太郎, 伊藤秀美: 愛知県がん登録データにみる、希少がん患者の集約状況と生存率の変化. 日本がん登録協議会第33回学術集会在 島根, 2024, (出雲), [口演]
- 012 松尾恵太郎: ALDH2 rs671 遺伝子層別の飲酒 GWAS - 疫学コンソーシアムを使った研究の実例. 第47回がん疫学・分子疫学研究会総会, 2024, (名古屋), [口演]
- 013 小柳友理子, 川浦正規, 松尾恵太郎, 川勝雪乃, 谷山裕香里, 尾瀬 功, 高橋邦彦, 山口 類, 中谷友樹, 伊藤秀美: 空間的従属性を考慮したフルベイズモデルに基づくがん死亡リスクおよび地理的剥奪指標との関連度合いの臓器別・都市度別推定. 第47回がん疫学・分子疫学研究会総会, 2024, (名古屋), [ポスター]
- 014 岩下雄二, 春日井由美子, 新村和也, 相村春彦, 松尾恵太郎: 喫煙や飲酒と関連する DNA 損傷分子・DNA 付加体の質量分析と分子疫学の統合. 第47回がん疫学・分子疫学研究会総会, 2024, (名古屋), [口演]
- 015 柘植博之, 谷山裕香里, 川浦正規, 尾瀬 功, 小柳友理子, 松尾恵太郎, 伊藤秀美: 社会経済的格差が喫煙・飲酒を介してがん死亡に及ぼす影響についての媒介分析. 第47回がん疫学・分子疫学研究会総会, 2024, (名古屋), [ポスター]
- 016 山本清花, 小柳友理子, 谷山祐香里, 岩下雄二, 尾瀬 功, 伊藤秀美, 新実彰男, 松尾恵太郎: 喫煙行動関連遺伝子多型と肺がんリスク: 媒介分析による組織型別の検討. 第47回がん疫学・分子疫学研究会総会, 2024, (名古屋), [口演]
- 017 笠原千夏, 田村高志, 若井建志, 玉田雄大, 加藤泰文, 久保陽子, 岡田理恵子, 永吉真子, 菱田朝陽, 今枝奈保美, 後藤千穂, 乙成 淳, 池崎裕昭, 西田裕一郎, 島ノ江千里, 尾瀬 功, 小柳友理子, 中村洋子, 日下部美帆, 西本大策, 下敷領一平, 鈴木貞夫, 渡邊美貴, 尾崎悦子, 大道智恵, 栗木清典, 高嶋直敬, 宮川尚子, 有澤隆吉, 釜野桜子, 竹内刑時, 松尾恵太郎: 日本人における小魚摂取と全死亡との関連: 日本多施設共同コホート研究. 第47回がん疫学・分子疫学研究会総会, 2024, (名古屋), [口演]
- 018 川合紗世, 林 櫻松, 柘植博之, 伊藤秀美, 松尾恵太郎, 和田恵子, 永田知里, 成井信博, 北村哲久, 歌田真依, 坂田律, 木村尚史, 玉腰暁子, 菅原由美, 辻 一郎, 木誠太郎, 澤田典絵, 津金昌一郎, 溝上哲也, 尾瀬 功, 阿部サラ, 井上真奈美: 肥満指数 (BMI) と肺がんリスク~日本の前向きコホート10研究の統合解析より~. 第47回がん疫学・分子疫学研究会総会, 2024, (名古屋), [口演]
- 019 松尾恵太郎: 日本の大規模コホート研究の歩みと展望: 日本多施設共同コホート研究 J-MICC Study. 第35回日本疫学会学術総会, 2025, (高知), [シンポジウム]
- 020 柘植博之, 小柳友理子, 川浦正規, 尾瀬 功, 松尾恵太郎, 伊藤秀美: 地域の社会経済的格差が喫煙・飲酒を介してがんアウトカムに及ぼす影響についての媒介分析. 第35回日本疫学会学術総会, 2025, (高知) [ポスター]

- 021 山本清花, 小柳友理子, 岩下雄二, 尾瀬 功, 伊藤秀美, 新実彰男, 松尾恵太郎: 喫煙行動関連遺伝子多型と消化管がんリスク: 媒介分析による検討. 第35回日本疫学会学術総会, 2025, (高知), [ポスター]
- 022 山本泰之, 大橋勇紀, 松尾恵太郎, 中枋昌弘: 日本多施設共同コーホート研究: 日本人集団における SNP アレイデータを用いたコピー数変異の検出. 第35回日本疫学会学術総会, 2025, (高知), [ポスター]
- 023 佐藤俊太郎, 藤井亮輔, 田村高志, 松尾恵太郎, *J-MICC Study Group*: 推定目標を考慮した生活習慣や臨床状況による損失生存時間の推定. 第35回日本疫学会学術総会, 2025, (高知), [ポスター]
- 024 松尾洋孝, *Major T, Takei R*, 白井雄也, 中山昌喜, 高田龍平, 中枋昌弘, 清水聖子, 河村優輔, 豊田 優, 中岡博史, 山本 健, 松尾恵太郎, 四ノ宮成祥, 市田公美, 岡田随象, *Li C, Merriman T*: 国際共同研究による痛風のゲノムワイドメタ解析: 377 遺伝子座の同定と分子病態解明のための基盤構築. 第35回日本疫学会学術総会, 2025, (高知), [ポスター]
- 025 笹土春樹, 中枋昌弘, 松尾恵太郎, 櫻井美佳, 林 櫻松, 日本膀胱がん研究コンソーシアム: 日本人集団における膀胱がんの遺伝的リスク予測スコアの検証. 第35回日本疫学会学術総会, 2025, (高知), [口演]
- 026 藤井亮輔, 永吉真子, 中枋昌弘, 坪井良樹, 鈴木康司, 田村高志, 松尾恵太郎, *J-MICC Study Group*: Multi-trait PRS と循環器死亡との関連: J-MICC STUDY. 第35回日本疫学会学術総会, 2025, (高知), [ポスター]
- 027 小嶋雅代, 石川博己, 前野 健, 松尾恵太郎, 伊藤秀美: 名古屋市のエビデンスに基づくがん対策への試み. 第35回日本疫学会学術総会, 2025, (高知), [ポスター]
- 006 三城恵美, 小島 康, 曾我朋義, 青木正博: がん悪液質の病態解明を目指したメタボローム・プロテオームの融合解析. 日本プロテオーム学会 2024 年大会, 2024, (青森), [口演]
- 007 青木正博, 曾我朋義, 小島 康: がん悪液質と NAD 代謝. 第10回がんと代謝研究会, 2024, (別府), [口演]
- 008 青木正博, 藤下晃章: 転移性大腸がん自然発症マウスモデルを用いた「がんのホールマーク」の解析. 第83回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [シンポジウム]
- 009 小島 康, 三城恵美, 藤下晃章, 梶野リエ, 武藤 誠, 曾我朋義, 青木正博: がん悪液質代謝変化における肝臓におけるビタミン B 群と関連酵素の化学量論的相互作用. 第83回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [ポスター]
- 010 向井智美, 佐藤龍洋, 三城恵美, 青木正博, 藪田紀一, 関戸好孝: O-GlcNAc 修飾が亢進したがんに対する核輸送阻害による治療の可能性. 第83回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [ポスター]
- 011 辻 愛理, 青木正博, 佐久間圭一郎: 大腸がん細胞の浸潤を促進する p120-カテニンアイソフォームのリーディングエッジ集積メカニズムの解明. 第83回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [ポスター]
- 012 青木正博, 曾我朋義, 小島 康: NAD 代謝と悪液質. 第97回日本生化学会大会, 2024, (横浜), [シンポジウム]
- 013 青木正博: Systemic Metabolic Alterations in Cancer Cachexia: Insights from Multi-Omics Analysis. 学際領域展開ハブ形成プログラム 第2回シンポジウム, 2025, (仙台), [シンポジウム]

分子腫瘍学分野

がん病態生理学分野

- 001 *Fujishita T, Taketo M.M, Aoki M*: Exploring signaling pathway essential for stemness and metastasis of colorectal cancer cells. AACR ANNUAL MEETING 2024, 2024, (San Diego), [ポスター]
- 002 *Aoki M, Fujishita T*: Deciphering Key Signaling Pathways Critical for Stemness and Metastasis in Colorectal Cancer Cells. The 8th JCA-AACR Special Joint Conference, 2024, (京都), [ポスター]
- 003 小島 康: がん悪液質の代謝学的特徴としての肝臓ビタミン B 関連酵素群の減少. 第11回日本サルコペニア・悪液質・消耗性疾患研究会, 2024, (横浜), [シンポジウム]
- 004 青木正博, 武藤 誠, 藤下晃章: TGF- β 経路は CSRP2 の発現を介してデスモイド腫瘍の形成を促進する. 第28回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2024, (東京), [ワークショップ]
- 005 青木正博, 三城恵美, 武藤 誠, 藤下晃章: RhoC は大腸がん細胞のスフェロイド形成能および転移能を促進する. 第33回日本がん転移学会学術集会, 2024, (奈良), [ポスター]
- 001 *Sekido Y*: Microbial Supernatant Library Screening Suggested That Induction of Ferroptosis is an Effective Therapeutic Strategy Against Mesothelioma. WCLC2024, 2024, (San Diego), [ポスター]
- 002 関戸好孝: 悪性中皮腫のフェロトーシス細胞死誘導に基づく治療標的探索. 第64回日本呼吸器学会学術講演会, 2024, (横浜), [特別企画口演]
- 003 稲見陽香, 鈴木浩也, 丹下将希, 三井田 孝, 村上浩士, 横溝岳彦, 関戸好孝, 村上(渡並)優子: BAP1 変異悪性中皮腫における CHK2 の役割. 2024 年度日本生化学会関東支部例会, 2024, (東京), [ポスター]
- 004 加納圭子, 佐藤伸哉, 佐藤龍洋, 三城恵美: プロテオミクスとメタボロミクスによる悪性中皮腫の包括的理解への取り組み. 日本プロテオーム学会 2024 年大会 第20回日本臨床プロテオゲノミクス学会合同大会, 2024, (青森), [口演]
- 005 鬼頭敏幸, 小山太一, 谷口拓人, 小幡 徹, 杉田好彦, 前田初彦, 鴻野愛斗, 老川典夫, 関戸好孝: 悪性中皮腫における L-アスパラギナーゼ感受性の予測: アスパラギン合成酵素の定量的解析. 第83回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [ポスター]

- 006 佐藤龍洋, 近藤 (井田) 梨沙, 赤尾 謙, 向井智美, 関戸好孝: TEAD 阻害剤 K-975 投与による中皮腫細胞の増殖抑制と耐性の分子機構. 第 83 回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [ポスター]
- 007 向井智美, 佐藤龍洋, 三城恵美, 青木正博, 藪田紀一, 関戸好孝: O-GlcNAc 修飾が亢進したがんに対する核輸送阻害による治療の可能性. 第 83 回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [ポスター]
- 008 向井智美, 佐藤龍洋, 亀井保博, 加藤 輝, 三城恵美, 青木正博, 藪田紀一, 廣島健三, 関戸好孝: 核輸送阻害剤は O-GlcNAc 修飾が亢進した中皮腫細胞に対して抗腫瘍効果を示す. 第 5 回日本石綿・中皮腫学会学術集会, 2024, (岡山), [口演]
- 009 近藤 (井田) 梨沙, 佐藤龍洋, 赤尾 謙, 関戸好孝: 悪性中皮腫細胞を用いた TEAD 阻害剤 K-975 の効果と耐性機序の解析. 第 5 回日本石綿・中皮腫学会学術集会, 2024, (岡山), [口演]
- 010 大手 聡, 坂口夏菜, 清田泰臣, 佐藤龍洋, 志鷹真由子, 大城太一: 真菌 Paramyothecium sp. BF-1049 株が生産する新規抗悪性中皮腫活性物質 myrothefuran 類に関する研究. 第 10 回食品薬学シンポジウム, 2024, (大阪), [口演]
- 011 関戸好孝: 中皮腫取扱い規約第 2 版の発刊に向けて. 第 65 回日本肺癌学会学術集会, 2024, (横浜), [口演]
- 012 鈴木浩也, 小林輝星, 三井田 孝, 村上浩士, 関戸好孝, 村上 (渡並) 優子: USP1 の発現抑制は BAP1 変異を有する悪性中皮腫の細胞増殖を抑制する. 第 97 回日本生化学会大会, 2024, (横浜), [ポスター]
- 013 稲見陽香, 鈴木浩也, 村上浩士, 関戸好孝, 村上 (渡並) 優子: 悪性中皮腫における Hippo 経路制御分子 LATS1 と分泌タンパク質 Dermokine の相乗的抗腫瘍効果. 第 97 回日本生化学会大会, 2024, (横浜), [ポスター]
- 014 向井智美, 佐藤龍洋, 亀井保博, 加藤 輝, 三城恵美, 青木正博, 藪田紀一, 廣島健三, 関戸好孝: がん細胞における核輸送動態と腫瘍進展機構の解析. 第 97 回日本生化学会大会, 2024, (横浜), [口演]
- 015 向井智美, 佐藤龍洋, 亀井保博, 加藤 輝, 三城恵美, 青木正博, 藪田紀一, 廣島健三, 関戸好孝: スクレオボリンの O-GlcNAc 修飾異常に伴う腫瘍進展機構の解明. 第 47 回分子生物学会年会, 2024, (福岡), [ポスター]
- 003 *Guo Z, Muto O, Yamaguchi R*: An integrated approach using sequential and structural features for precise prediction of protein-protein binding affinity. The 21st IUPAB Congress 2024, 2024, (京都), [ポスター]
- 004 *Muto O, Guo Z, Yamaguchi R*: RVINN: Inference of gene regulation dynamics in the mRNA life cycle using Physics-Informed Neural Networks. The 21st IUPAB Congress 2024, 2024, (京都), [ポスター]
- 005 *Kuwatsuka Y, Kasajima R, Yamaguchi R, Uchida N, Konuma T, Tanaka M, Shingai N, Miyakoshi S, Kozai Y, Uehara Y, Eto T, Toyosaki M, Nishida T, Ishimaru F, Kato K, Fukuda T, Imoto S, Atsuta Y, Takahashi S*: Machine Learning Prediction Model for Neutrophil Recovery after Unrelated Cord Blood Transplantation. EBMT 2024 Annual Meeting, 2024, (Glasgow), [ポスター]
- 006 *Yamaguchi K, Nakagawa S, Saku A, Isobe Y, Yamaguchi R, Sheridan P, Takane K, Ikenoue T, Zhu C, Miura M, Okawara Y, Nagatoishi S, Kozuka-Hata H, Oyama M, Aikou S, Ahiko Y, Shida D, Tsumoto K, Miyano S, Imoto S, Furukawa Y*: TIP60-independent mechanism of BRD8 is involved in colorectal tumorigenesis. AACR ANNUAL MEETING 2024, 2024, (San Diego), [ポスター]
- 007 郭 中樑: A Sequence and topological feature integration for accurate protein-protein binding affinity estimation. 第 6 回日本メディカル AI 学会 学術集会, 2024, (名古屋), [口頭発表]
- 008 武藤 理: 数理モデルと機械学習の融合による観測困難な遺伝子制御ダイナミクスおよび制御因子の推論. 第 6 回日本メディカル AI 学会 学術集会, 2024, (名古屋), [口頭発表]
- 009 山口 類: Physics-Informed Neural Network による mRNA ライフサイクルにおける転写及び転写後調節ダイナミクスの推論. 社会・自然現象におけるデータサイエンス手法とその統計数理, 2024, (東京), [招待講演]
- 010 山口 類: 進むデータ科学と医学・生命科学の融合. 第 44 回日本臨床細胞学会東海連合会学術集会, 2025, (愛知), [招待講演]
- 011 郭 中樑, 武藤 理, 福嶋恭啓, 岡村文子, 太田元規, 吉田 亮, 松下博和, 山口 類: 高精度なタンパク質間相互作用予測のためのマルチモーダル機械学習モデルの開発. 第 11 回 CBI 学会 個別化医療研究会, 2025, (岐阜), [口頭発表]
- 012 山口 類: 免疫受容体タンパク質デザインに向けたタンパク質結合能予測モデルの開発. 第 83 回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [招待講演]
- 013 笠島理加, 清水英悟, 廣島幸彦, 片山琴絵, 山口 類, 山口貴世志, 古川洋一, 宮野 悟, 井元清哉, 宮城洋平: ライブラリ作成可能 FFPE サンプルにおける質の悪い NGS データの評価と特徴. 第 83 回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [ポスター]
- 014 木曾田 暁, 山口 類, 衣斐寛倫: RAS 遺伝子の変異の種類によるがんの性質の変化, 第 83 回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [ポスター]

システム解析学分野

- 001 *Yamaguchi R*: Revealing dynamic systems behaviors behind personalized omics profiling data by Physics Informed Neural Network. Japan-US Research Collaboration Week 2024, 2024, (California), [招待講演]
- 002 *Yamaguchi R*: Inferring dynamic systems behind personalized omics profiling data using Physics Informed Neural Networks. NAGOYA x STANFORD International Collaboration Workshop, 2024, (名古屋), [招待講演]

- 015 田村友宏, 増田健太, 永井晋平, 今枝慶蓉, 山崎淳太郎, 杉原英志, 信末博行, 大槻雄士, 山口 類, 桜田一洋, 山上 亘, 佐谷秀行, 永野 修: 卵巣がん細胞の生存戦略における mTOR シグナルの動態. 第 83 回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [口頭]
- 016 周 爽, 阿部雄一, 梶野泰祐, 磯村久徳, 田中 都, 山口類, 菅波孝祥, 田口 歩: ゲノムワイド CRISPR-Cas9 スクリーニングを用いた肝細胞癌におけるレンパチニブ耐性の克服. 第 83 回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡), [口頭]

腫瘍制御学分野

- 001 小根山千歳: 多量体型チロシンキナーゼ Fer を標的とした阻害剤の開発. 第 28 回日本がん分子標的治療学会, 2024, (東京), [ワークショップ]
- 002 小根山千歳: がん細胞における細胞外小胞への microRNA 選択的内包メカニズム. 第 76 回日本細胞生物学会, 2024, (つくば), [シンポジウム]
- 003 安達晴喜, 小根山千歳: 細胞外小胞に内包された Src による細胞間がんシグナル伝達. 第 76 回日本細胞生物学会, 2024, (つくば), [ポスター]
- 004 小根山千歳: 多量体型チロシンキナーゼ Fer を標的としたがん治療法の開発. 第 83 回日本癌学会, 2024, (福岡), [ポスター]
- 005 安達晴喜, 小根山千歳: Src の細胞外小胞を介した細胞間がんシグナル伝達. 第 11 回日本細胞外小胞学会, 2024, (東京), [ポスター]
- 006 小根山千歳: 多量体型チロシンキナーゼ Fer を標的とした新規がん治療薬の創出. 日本がん分子標的治療学会第 2 回シーズ・ニーズワークショップ, 2025, (東京), [ワークショップ]
- 007 小根山千歳: がんの仕組みを追いかけて. お茶の水女子大学第 4 回フロントランナーセミナー, 2024, (東京), [シンポジウム]
- 008 小根山千歳: がんにおける細胞外小胞亢進メカニズム, 日本女性科学者の会第 15 回学術大会, 2024, (神戸), [シンポジウム]

腫瘍免疫応答研究分野

- 001 *Nabekura T*: Themis2 regulates natural killer cell memory function and formation. 第 53 回日本免疫学会学術集会, 2024, (長崎県), [シンポジウム]
- 002 *Nabekura T*: Themis2 impairs anti-tumor activity of natural killer cells. 愛知県がんセンター開設 60 周年記念 MD アンダーソンがんセンター合同シンポジウム, 2025, (愛知県), [シンポジウム]
- 003 鍋倉 宰: 記憶 NK 細胞の人為的分化誘導法の開発とその応用. 国立研究開発法人科学技術振興機構創発的研究支援事業第 3 回融合の場, 2024, (京都府), [ポスター]

- 004 鍋倉 宰: 記憶 NK 細胞の人為的分化誘導法の開発とその応用. 国立研究開発法人科学技術振興機構創発的研究支援事業第 4 回創発の場, 2024, (大阪府), [口頭]

腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 福嶋恭啓, 小室裕康, 矢田友紀, 杉田裕介, 松井琢哉, 岡村文子, 村岡大輔, 福山 隆, 坂倉範昭, 松下博和, 岩田尚: がん精巢抗原 KK-LC-1 に特異的な高親和性 T 細胞受容体の免疫応答の差異. 第 41 回日本呼吸器外科学会学術集, 2024, (軽井沢), [口頭]
- 002 福嶋恭啓, 小室裕康, 矢田友紀, 白橋幸洋, 篠原周一, 杉田裕介, 松井琢哉, 岡村文子, 村岡大輔, 福山 隆, 坂倉範昭, 松下博和, 岩田 尚: がん精巢抗原 KK-LC-1 に対する高親和性 T 細胞受容体の特定. 第 65 回日本肺癌学会学術集会, 2024 (横浜), [口頭]
- 003 水田 亮, 村岡大輔, 岡村文子, 岡本貴成, 大谷理浩, 石田穰治, 田中將太, 松下博和: 三次リンパ様構造 (TLS) に着目した膠芽腫の空間解析およびゲノム解析. 第 83 回日本脳神経外科学会学術総会, 2024, (横浜), [口頭]
- 004 水田 亮, 村岡大輔, 岡村文子, 岡本貴成, 大谷理浩, 石田穰治, 田中將太, 松下博和: 三次リンパ様構造 (TLS) を形成した膠芽腫に対するマルチオミクス解析. 第 42 回日本脳腫瘍学会学術集会, 2024, (志摩), [ポスター]
- 005 石原宏政, 西川大輔, 別府慎太郎, 寺田星乃, 柴田博史, 小川武則, 花井信広, 松下博和: 頭頸部癌における光免疫療法前後の血清 DAMPs およびサイトカイン/ケモカインの変化. 第 34 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2025, (東京), [口頭]

分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 田中 努, 田近正洋, 田口 歩: 食道癌 PDX モデルのマルチオミクス解析に基づく化学療法効果予測. 第 107 回日本内視鏡学会総会, 2024, (東京), [口頭]
- 002 田口 歩: 血液バイオマーカーを用いた大腸がんの早期診断. 第 63 回日本消化器がん検診学会総会, 2024, (名古屋), [口頭]
- 003 田口 歩: クリニカルプロテオミクスが拓くがん研究の近未来. 日本プロテオーム学会 2024 年大会, 2024, (青森), [口頭]
- 004 田口 歩: PDX モデルの統合的分子プロファイリングによる新規治療標的の探索. 第 83 回日本癌学会学術集会, 2024, (福岡), [口頭]
- 005 磯村久徳, 森 治樹, 周 爽, 梶野泰祐, 阿部雄一, 夏日誠治, 木下敬史, 大内 晶, 三宅 亨, 飯田洋也, 細田和貴, 小森康司, 清水泰博, 谷 眞至, 田口 歩: 大腸癌腹膜転移関連分子 Avil の同定とその機能解析. 第 83 回日本癌学会学術集会, 2024, (福岡), [ポスター]

- 006 小林 信, 阿部雄一, 岡村文子, 松下博和, 田口 歩:
プロテオゲノミクスを応用したHLAクラスIリガンド
ーム解析に基づく新規がん抗原同定法の開発, 第83回日本
癌学会学術集会, 2024, (福岡), [ポスター]
- 007 梶野泰祐, 阿部雄一, 細田和貴, 原 和生, 田口 歩:
CRISPRiスクリーニングを用いた膵がんの新規治療標的
lncRNAの探索とその機能解析, 第83回日本癌学会学術
集会, 2024, (福岡), [ポスター]
- 008 周 爽, 阿部雄一, 梶野泰祐, 磯村久徳, 田中 都, 山口 類,
菅波孝祥, 田口 歩: CRISPRiスクリーニングを用いた膵
がんの新規治療標的lncRNAの探索とその機能解析, 第
83回日本癌学会学術集会, 2024, (福岡), [ポスター]

がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 **Ebi H**: Strategies to Overcome Non-Genetic Mecha-
nisms of Therapeutic Resistance in Lung Cancer. Hot
Topic in Basic and Translational Science. International
Society of Lung Cancer, 2024, (Washington) [招請講演]
- 002 **Ebi H**: Targeted therapy for KRAS mutated cancers
and The relationship between circulating tumor DNA
and molecular phenotype in colorectal cancer. The
Eighth JCA-AAACR Special Joint Conference, 2024, (京
都), [招請講演]
- 003 **Ebi H**: Mechanisms of resistance to KRAS inhibitors. 金
沢国際生物学シンポジウム, 2024, (石川県), [招請講演]
- 004 衣斐寛倫: MAPK シグナルを標的とした薬剤の基礎知識,
東京がん化学療法研究会臨床腫瘍夏期セミナー, 2024,
(Web), [講演]
- 005 衣斐寛倫: 大規模臨床研究に付随したマルチオミクス解
析の実践トランスレーショナルリサーチを実装した臨床
試験の推進. 日本臨床腫瘍学会, 2024, (福岡県), [講演]
- 006 田中伯享, 衣斐寛倫: 腫瘍免疫微小環境に対する KRAS
阻害剤の影響. 第83回日本癌学会学術総会, 2024, (福岡
県), [口頭]
- 007 梶野泰祐, 阿部雄一, 細田和貴, 原 和生, 田口 歩: CRIS-
PRiスクリーニングを用いた膵がんの新規治療標的 lnc-
cRNAの探索とその機能解析. 第83回日本癌学会学術総
会, 2024, (福岡県), [ポスター]

4. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (病院)

病院長

- 001 **Pratz KW, Jonas BA, Pullarkat V, Thirman MJ, Garcia JS, Döhner H, Récher C, Fiedler W, Yamamoto K, Wang J, Yoon SS, Wolach O, Yeh SP, Leber B, Esteve J, Mayer J, Porkka K, Illés Á, Lemoli RM, Turgut M, Ku G, Miller C, Zhou Y, Zhang M, Chyla B, Potluri J, DiNardo CD** : Long-term follow-up of VIALE-A: Venetoclax and azacitidine in chemotherapy-ineligible untreated acute myeloid leukemia. *Am J Hematol*, 99 (4):615-624, 2024.
- 002 **Watanabe T, Matsuno Y, Wakabayashi M, Maruyama D, Yamamoto K, Kubota N, Shimada K, Asagoe K, Yamaguchi M, Ando K, Ogura M, Kuroda J, Suehiro Y, Tsukasaki K, Tobinai K, Nagai H** : Analyzing the risk factors for disease progression within 2 years and histological transformation in patients treated with rituximab plus cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine, and prednisone as first-line treatment: A 15-year follow-up of patients with advanced follicular lymphoma in JCOG0203. *Hematol Oncol*, 42 (3) : e3272, 2024.
- 003 **Iyama S, Chi S, Idogawa M, Ikezoe T, Fukushima K, Utsu Y, Kanda J, Yoshimoto G, Kobayashi T, Hosono N, Yamauchi T, Kondo T, Nakamura Y, Kojima K, Yoshida C, Gotoh A, Yamamoto K, Kuroda J, Ishitsuka K, Sakaida E, Horiguchi H, Takada K, Ohnishi H, Kobune M, Minami Y** : Prognostic impact of TET2 mutations in patients with acute myeloid leukemia: HM-SCREEN-Japan 01 and 02 study. *Ann Hematol*, 104 (1):275-284, 2024.
- 004 **前田章光、楠本 茂、安藤正志、内田幸作、山本一仁** : ダカルバジン供給停止が患者治療に及ぼした影響と、医薬品供給停止時の医薬品確保の課題への提言. *Jpn J Clin Pharmacol (臨床薬理)* 55 (4) : 209-216, 2024.

消化器内科部

- 001 **Sayama H, Hamada T, Fujisawa T, Fukasawa M, Hara K, Irisawa A, Ishii S, Ito K, Itoi T, Kanno Y, Katanuma A, Kato H, Kawakami H, Kawamoto H, Kitano M, Kogure H, Matsubara S, Mukai T, Naitoh I, Ogura T, Ryozaawa S, Sasaki T, Shimatani M, Shiomi H, Sugimori K, Takenaka M, Yasuda I, Nakai Y, Fujita N, Inui K ; Research Group of Evaluation Criteria for Endoscopic Biliary Drainage** : TOKYO criteria 2024 for the assessment of clinical outcomes of endoscopic biliary drainage. *Dig Endosc*, 36 (11) : 1195-1210, 2024.
- 002 **Matsumoto K, Kato H, Itoi T, Kitano M, Hara K, Kuwatani M, Takenaka M, Ashida R, Mukai S, Okuno N, Kawakubo K, Yamazaki T, Sakurai J, Nakatsuka Y, Yoshida M, Otsuka M** : Efficacy and safety of

- endoscopic ultrasonography-guided ethanol injections of small pancreatic neuroendocrine neoplasms: a prospective multicenter study. *Endoscopy*, 57 (4) : 321-329, 2024.
- 003 **Yamada R, Tanaka T, Shimada Y, Owa H, Nose K, Nakamura Y, Miwata T, Tsuboi J, Hara K, Hashigo S, Hashimoto A, Hijioka S, Okamoto K, Hirooka Y, Imai H, Inoue T, Iwata K, Kamada H, Kawaguchi S, Kawashima H, Kobayashi Y, Maruta A, Mukai T, Murabayashi T, Nakashima S, Naota H, Okumura F, Oya Y, Sato J, Sugimoto K, Hamaya Y, Tano S, Yoshinari M, Imai Y, Ogura T, Tamaru S, Nakagawa H** : 6-mm vs 10-mm diameter fully covered self-expandable metal stents in patients with unresectable malignant distal bile duct stricture (COSMIC UNISON) : study protocol for a multicenter, randomized controlled trial. *Trials*, 26 (1) : 56, 2025.
- 004 **Sadek A, Hara K, Okuno N, Haba S, Kuwahara T, Fukui T, Urata M, Kondo T, Yamamoto Y, Tachi K** : Safety and efficacy of endoscopic ultrasound-guided pancreatic duct drainage using a drill dilator: a retrospective study in Japan. *Clin Endosc*, 57 (5) : 666-674, 2024.
- 005 **Yamada M, Hara K, Haba S, Kuwahara T, Okuno N, Kuraishi Y, Yanaidani T, Ishikawa S, Yasuda T, Fukui T** : Hepatobiliary scintigraphy of bile excretion after endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy for malignant biliary obstruction: a retrospective study in Japan. *Clin Endosc*, 57 (6) : 798-806, 2024.
- 006 **Ogura T, Hijioka S, Hara K, Nishioka N, Okuda A, Ueno S, Nishikawa H, Yamada M, Nagashio Y, Hisada Y, Murashima Y, Takeshita K, Haba S, Kuwahara T, Okuno N** : Multicenter, randomized controlled trial of EUS-guided fine-needle biopsy using a fork-tip needle with macroscopic or rapid on-site evaluation for pancreatic lesions (H2O trial). *Endosc Ultrasound*, 13 (5) : 300-305, 2024.
- 007 **Sadek A, Hara K, Okuno N, Haba S, Kuwahara T** : Needle puncture fistulotomy: a new technique for needle-knife fistulotomy as a primary biliary access method for biliary cannulation. *Endoscopy*, 56 (S01) : E146-E147, 2024.
- 008 **Tawada K, Shimizu Y, Natsume S, Asano T, Okuno M, Ito S, Komori K, Abe T, Hara K, Hosoda W, Matsuhashi N** : Clinical impact of intraoperative pancreatic transection margin analysis and additional resection during pancreaticoduodenectomy for pancreatic ductal adenocarcinoma. *Pancreatology*, 24 (7) : 1174-1181, 2024.

- 009 **Tachi K, Hara K, Okuno N, Haba S, Kuwahara T, Fukui T, Sadek AM, Ibrahim HESM, Urata M, Kondo T, Yamamoto Y** : Efficacy and safety of endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy for biliary drainage in hypervascular hepatocellular carcinoma: a retrospective study from Japan. *Clin Endosc*, 58 (3) : 448-456, 2024.
- 010 **Sadek A, Hara K, Okuno N, Haba S, Kuwahara T, Fukui T, Urata M, Kondo T, Yamamoto Y, Tachi K** : Safety and efficacy of trans-afferent loop endoscopic ultrasound-guided pancreaticojejunostomy for post pancreaticoduodenectomy anastomotic stricture using the forward-viewing echoendoscope: a retrospective study from Japan. *Clin Endosc*, 58 (2) : 311-319, 2024.
- 011 **Shimomura K, Ogata T, Maeda A, Narita Y, Taniguchi H, Murotani K, Fujiwara Y, Tajika M, Hara K, Muro K, Uchida K** : Investigation of the association between therapeutic effectiveness of anamorelin and Glasgow prognostic score in patients with cancer cachexia: a competing risk analysis. *Invest New Drugs*, 43 (1) : 118-125, 2025.
- 012 **Okuno T, Morizane C, Mizusawa J, Yanagimoto H, Kobayashi S, Imaoka H, Terashima T, Kawakami H, Sano Y, Okusaka T, Ikeda M, Ozaka M, Miwa H, Todaka A, Shimizu S, Mizuno N, Sekimoto M, Sano K, Tobimatsu K, Katanuma A, Gotoh K, Yamaguchi H, Ishii H, Furuse J, Ueno M** : Influence of major hepatectomy on gemcitabine-based chemotherapy for recurrent biliary tract cancer after surgery: a subgroup analysis of JCOG1113. *Int J Clin Onco*, 30 (1) : 83-91, 2025.
- 013 **Okines AFC, Curigliano G, Mizuno N, Oh DY, Rorive A, Soliman H, Takahashi S, Bekaii-Saab T, Burkard ME, Chung KY, Debruyne PR, Fox JR, Gambardella V, Gil-Martín M, Hamilton EP, Monk BJ, Nakamura Y, Nguyen D, O'Malley DM, Olawaiye AB, Pothuri B, Reck M, Sudo K, Sunakawa Y, Van Marcke C, Yu EY, Ramos J, Tan S, Bieda M, Stinchcombe TE, Pohlmann PR** : Tucatinib and trastuzumab in HER2-mutated metastatic breast cancer: a phase 2 basket trial. *Nat Med*, 31 (3) : 909-916, 2025.
- 014 **Sudo K, Nakamura Y, Ueno M, Furukawa M, Mizuno N, Kawamoto Y, Okano N, Umemoto K, Asagi A, Ozaka M, Ohtsubo K, Shimizu S, Matsuhashi N, Itoh S, Matsumoto T, Satoh T, Okuyama H, Goto M, Hasegawa H, Yamamoto Y, Odegaard JI, Bando H, Yoshino T, Ikeda M, Morizane C** : Clinical utility of BRCA and ATM mutation status in circulating tumour DNA for treatment selection in advanced pancreatic cancer. *Br J Cancer*, 131 (7) : 1237-1245, 2024.
- 015 **Mitsunaga S, Ikeda M, Nomura S, Morizane C, Todaka A, Yamamoto N, Kamata K, Yanagibashi H, Mizuno N, Kawamoto Y, Gotoh K, Shirakawa H, Okano N, Nomura T, Tanaka K, Takahashi A, Yagi S, Ohta K, Takayama Y, Miwa H, Nagano H, Kojima Y, Hisano T, Tahara M, Sakuma Y, Arai H, Nakamura I, Katayama H, Konishi M, Ueno M** : 5-Fluorouracil metabolic pathway genes predict recurrence risk following adjuvant S-1 therapy: Results of an ancillary analysis from a phase III trial of resected biliary tract cancer (JCOG1202A1). *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 31 (12) : 886-896, 2024.
- 016 **Yachida S, Yoshinaga S, Shiba S, Urabe M, Tanaka H, Takeda Y, Shimizu A, Sakamoto Y, Hijioka S, Haba S, Ashida R, Kushiyama Y, Asano K, Kobayashi M, Murawaki Y, Onishi K, Yamashita T, Kimura H, Totoki Y, Kamada H, Isomoto H, Hattori S, Morizane C, Ohkawa K, Kitano M, Hara K, Ikezawa K, Hanada K, Matsumoto K** : KRAS Mutations in Duodenal Lavage Fluid after Secretin Stimulation for Detection of Pancreatic Cancer. *Ann Surg*, doi: 10.1097/SLA.0000000000006645, 2025.
- 017 **Onishi S, Kuwahara T, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Shimizu M, Niwa Y, Yamaguchi R** : Artificial intelligence for body composition assessment focusing on sarcopenia. *Sci Rep*, 15 (1) : 1324, 2025.
- 018 **Mitsunaga S, Ikeda M, Ueno M, Kobayashi S, Tsuda M, Miki I, Kuwahara T, Hara K, Takayama Y, Matsunaga Y, Hanada K, Shimizu A, Yoshida H, Nomoto T, Takahashi K, Iwamoto H, Iwama H, Hatano E, Nakata K, Nakamura M, Sudo H, Takizawa S, Ochiai A** : Robust circulating microRNA signature for the diagnosis and early detection of pancreatobiliary cancer. *BMC Med*, 23 (1) : 23, 2025.
- 019 **Okuno N, Hara K, Haba S, Kuwahara T, Urata M, Kondo T, Yamamoto Y** : Endoscopic ultrasound-guided vascular intervention for pancreaticojejunal variceal bleeding. *Endoscopy*, 56 (S01) : E329-E330, 2024.
- 020 **Okuno N, Hara K, Natsume S, Okuno M, Haba S, Asano T, Kuwahara T, Koda H, Shimizu Y** : Primary endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy for biliary drainage prior to pancreaticoduodenectomy: a retrospective study in Japan. *Clin Endosc*, DOI:10.5946/ce.2024.218, 2025.
- 021 **Okuno N, Hara K, Haba S, Kuwahara T, Fukui T, Urata M, Yamamoto Y, Kondo T** : interventional EUSにおけるFranseen針使用の新たな可能性 (The New Potential for Using Franseen Needles in Interventional EUS) (英語). *Internal Medicine*, 63 (20) : 2723-2727, 2024.
- 022 **Chong CC-N, Pittayanon R, Pausawasdi N, Bhatia V, Okuno N, Tang RS-Y, Cheng T-Y, Kuo Y-T, Oh D, Song TJ, Kim TH, Hara K, Chan AW-H, Leung HHW, Yang A, Jin Z, Xu C, Lakhtakia S, Wang H-P, Seo D-W, Teoh AY-B, Ho LK-Y, Kida M** : 超音波内視鏡下組織採取に関する合意声明 アジア超音波

- 内視鏡グループによるガイドライン (Consensus statements on endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition. Guidelines from the Asian Endoscopic Ultrasound Group). Digestive Endoscopy, 36 (8) : 871-883, 2024.
- 023 **Okuno N, Hara K** : 【EUS-FNA】の最先端 包括的ゲノムプロファイリングにおける超音波内視鏡下組織採取法 (【Cutting edge of EUS-FNA】 Endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition for comprehensive genomic profiling). Journal of Medical Ultrasonics, 51 (2) : 253-260, 2024.
- 024 **Yamamoto Y, Hara K, Okuno N, Mizuno N, Haba S, Kuwahara T, Fukui T, Kondo T, Urata M** : Endoscopic ultrasound-guided drainage for mediastinal abscess: first report of bridge to surgery for esophageal cancer. Clin J Gastroenterol, 17 (6) : 1009-1014, 2024.
- 025 **原 和生, 奥野のぞみ, 羽場 真** : EUS-guided biliary drainageの軌跡と今後の展望. 日本消化器病学会雑誌, 121 (4) : 287-295, 2024.
- 026 **中山久美, 小原真紀子, 谷口浩也, 水野伸匡, 安藤正志** : がんりモート試験の仕組みから考える戦略的な症例登録の促進. 薬理と治療, 52 (9) : 1009-1012, 2024.
- 027 **羽場 真** : 【エビデンスに基づく膵 IPMN 国際診療ガイドライン改訂版 (Kyoto guidelines) のポイント】悪性予測因子 悪性予測因子としての壁在結節のサイズ (悪性予測モデルも含めて). 胆と膵, 45 (4) : 373-376, 2024.
- 028 **羽場 真, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 福井淑崇, 浦田美菜子, 近藤 高, 山本嘉太郎, 細田和貴** : 【膵癌の早期発見・早期診断を目指して】膵癌早期診断を目的とした膵液細胞診の現状と課題. 消化器内視鏡, 36 (5) : 721-725, 2024.
- 029 **桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 孝田博輝** : 【希少領域, 治療困難例における膵・胆道癌の薬物療法】希少病理組織の膵・胆道癌の薬物療法 膵腺房細胞癌の化学療法の現状 (解説). 胆と膵, 45 (11) : 1595-1598, 2024.
- 030 **桑原崇通, 原 和生** : 胆膵領域 AI の現状と今後の展望. 日本消化器内視鏡学会雑誌, 66 (10) : 2349-2447, 2024.
- 031 **桑原崇通, 原 和生, 羽場 真, 奥野のぞみ, 孝田博輝** : 超音波内視鏡画像を用いた膵疾患診断 AI の現状と課題. 膵臓, 40 (1) : 18-24, 2025.
- 032 **桑原崇通** : 新型コロナウイルスの治療薬. 消化器ナーシング, 29 (10) : 955-956, 2024.
- 033 **桑原崇通** : 肝性脳症の治療薬. 消化器ナーシング, 29 (10) : 953-954, 2024.
- 034 **桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 孝田博輝** : 領域別超音波検査・診断・治療のトピックス 消化器領域における超音波診断技術の最新動向. INNERVISION, 39 (5) : 43-45, 2024.
- 035 **桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 清水泰博** : 膵癌早期発見を目的とした AI 診断の現状. 消化器内視鏡, 36 (5) : 779-782, 2024.
- 036 **奥野のぞみ, 原 和生** : 【ここまで進んだ interventional EUS】Interventional EUS の機器・処置具の進歩. 臨床消化器内科, 40 (2) : 142-148, 2025.
- 037 **奥野のぞみ, 原 和生** : 【胆膵 Interventional Endoscopy を極める】胆膵治療内視鏡テクニック 直視コンベックスによる EUS-BD 【動画付】. 胆と膵, 45 : 1279-1285, 2024.
- 038 **奥野のぞみ** : 【明日のケアに生きる”これだけ”必須知識 消化器病棟の薬剤 はやわかりガイド】抗真菌薬. 消化器ナーシング, 29 (10) : 966-968, 2024.
- 039 **奥野のぞみ** : 【明日のケアに生きる”これだけ”必須知識 消化器病棟の薬剤 はやわかりガイド】抗菌薬. 消化器ナーシング, 29 (10) : 963-965, 2024.
- 040 **孝田博輝, 奥野のぞみ, 羽場 真, 桑原崇通, 水野伸匡, 原 和生** : EUS-AS の手技とコツ (肝門部胆管狭窄を中心に) Techniques and tips for EUS-AS (focusing on hilar bile duct stricture). 消化器内視鏡, 37 (2) : 200-203, 2025.
- 041 **近藤 高** : 【明日のケアに生きる”これだけ”必須知識 消化器病棟の薬剤 はやわかりガイド】消化酵素製剤. 消化器ナーシング, 29 (10) : 915-916, 2024.
- 042 **近藤 高** : 【明日のケアに生きる”これだけ”必須知識 消化器病棟の薬剤 はやわかりガイド】胃酸分泌抑制薬. 消化器ナーシング, 29 (10) : 912-914, 2024.
- 043 **山本嘉太郎, 原 和生** : 【明日のケアに生きる”これだけ”必須知識 消化器病棟の薬剤 はやわかりガイド】止瀉薬, 制吐薬 (解説). メディカ出版, 29 (10) : 907-911, 2024.
- 044 **浦田美菜子** : 【明日のケアに生きる”これだけ”必須知識 消化器病棟の薬剤 はやわかりガイド】整腸薬. 消化器ナーシング, 29 (10) : 905-906, 2024.
- 045 **浦田美菜子** : 【明日のケアに生きる”これだけ”必須知識 消化器病棟の薬剤 はやわかりガイド】緩下剤. 消化器ナーシング, 29 (10) : 902-904, 2024.

内視鏡部

- 001 **Narita Y, Ogata T, Ishizuka Y, Sakakida T, Wakabayashi M, Kodama H, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K** : Trifluridine/tipiracil with and without ramucirumab for advanced gastric cancer: a comparative observational study. Sci Rep, 14 (1) : 12658, 2024.
- 002 **Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Inaba Y, Abe T, Muro K, Shimizu M, Niwa Y** : Prognostic impact of shift to low visceral fat mass after neoadjuvant chemotherapy in patients with esophageal cancer. Cancer Rep, 7 (8) : e2084, 2024.
- 003 **Morizane C, Ueno M, Ioka T, Tajika M, Ikeda M, Yamaguchi K, Hara H, Yabusaki H, Miyamoto A, Iwasa S, Muto M, Takashima T, Minashi K, Komatsu**

- Y, Nishina T, Nakajima TE, Takeno A, Moriwaki T, Furukawa M, Sahara T, Ikezawa H, Nomoto M, Takashima S, Uehara T, Funasaka S, Yashiro M, Furuse J* : Tasurgratinib in patients with cholangiocarcinoma or gastric cancer: Expansion part of the first-in-human phase I study. *Cancer Sci*, 116 (1) : 192-203, 2024.
- 004 *Maeda A, Matsuo K, Ando H, Morishige JI, Muro K, Uchida K, Tajika M* : Impact of ABCB1 single-nucleotide variants on early, extremely severe neutropenia induced by paclitaxel/nanoparticle albumin-bound paclitaxel in patients with gastric cancer. *Br J Clin Pharmacol*, 91 (4) : 1216-1222, 2024.
- 005 *Narita Y, Mizuno T, Ishizuka Y, Sakakida T, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Honda K, Ando M, Tajika M, Takahari D, Muro K* : Clinicopathological and prognostic significance of HER2-low expression in advanced gastric cancer: a retrospective observational study. *Oncologist*, doi: 10.1093/oncolo/oyae328, 2024.
- 006 *Onishi S, Kuwahara T, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Shimizu M, Niwa Y, Yamaguchi R* : Artificial intelligence for body composition assessment focusing on sarcopenia. *Sci Rep*, 15 (1) : 1324, 2025.
- 007 *Shimomura K, Ogata T, Maeda A, Narita Y, Taniguchi H, Murotani K, Fujiwara Y, Tajika M, Hara K, Muro K, Uchida K* : Investigation of the association between therapeutic effectiveness of anamorelin and Glasgow prognostic score in patients with cancer cachexia: a competing risk analysis. *Invest New Drugs*, 43 (1) : 118-125, 2025.
- 008 *Narita K, Higaki E, Abe T, Fujieda H, Hashimoto S, Kadowaki S, Tajika M, Kodaira T, Muro K, Shimizu Y* : Conversion from Radical Esophagectomy to Definitive Chemoradiotherapy After Neoadjuvant Chemotherapy for Advanced Esophageal Squamous Cell Carcinoma: Treatment Options Based on Chemotherapy Response. *Ann Surg Oncol*, 32 (5) : 3157-3166, 2025.
- 009 *Koyanagi YN, Nakatochi M, Namba S, Oze I, Charvat H, Narita A, Kawaguchi T, Ikezaki H, Hishida A, Hara M, Takezaki T, Koyama T, Nakamura Y, Suzuki S, Katsura-Kamano S, Kuriki K, Nakamura Y, Takeuchi K, Hozawa A, Kinoshita K, Sutoh Y, Tanno K, Shimizu A, Ito H, Kasugai Y, Kawakatsu Y, Taniyama Y, Tajika M, Shimizu Y, Suzuki E, Hosono Y, Imoto I, Tabara Y, Takahashi M, Setoh K ; BioBank Japan Project ; Matsuda K, Nakano S, Goto A, Katagiri R, Yamaji T, Sawada N, Tsugane S, Wakai K, Yamamoto M, Sasaki M, Matsuda F, Okada Y, Iwasaki M, Brennan P, Matsuo K* : Genetic architecture of alcohol consumption identified by a genotype-stratified GWAS and impact on esophageal cancer risk in Japanese people. *Sci Adv*, 10 (4) : eade2780, 2024.
- 010 *Ito S, Hotta K, Sekiguchi M, Takeuchi Y, Oka S, Yamamoto H, Shinmura K, Harada K, Uraoka T, Hisabe T, Sano Y, Kondo H, Horimatsu T, Kikuchi H, Kawamura T, Nagata S, Yamamoto K, Tajika M, Tsuji S, Kusaka T, Okuyama Y, Yoshida N, Moriyama T, Hasebe A, So S, Saito Y, Nakhira H, Ishikawa H, Matsuda T ; C-NET STUDY Group* : Short-term outcomes of endoscopic resection for colorectal neuroendocrine tumors: Japanese multicenter prospective C-NET STUDY. *Dig Endosc*, 36 (8) : 942-951, 2024.
- 011 *Ishihara R, Oyama T, Takeuchi M, Hirasawa D, Kanetaka K, Uesato M, Tsuji Y, Matsuura N, Abe S, Kadota T, Yoshio T, Tanaka T, Urabe Y, Suzuki Y, Muto M* : Multicenter retrospective analysis of complications and risk factors in endoscopic resection for esophageal cancer across Japan. *Esophagus*, 21 (4) : 430-437, 2024.
- 012 *Yamamoto Y, Ishihara R, Kawakubo H, Nishikawa M, Yamamoto S, Kadota T, Abe S, Yoshida M, Tanaka T, Nagano H, Nakanishi H, Yoshizaki T, Waki K, Takahashi A, Kitagawa Y, Mizuno K, Kawada K, Kono Y, Katada C, Hashimoto T, Nagami Y, Yoshio T, Shimokawa T, Nihei K, Koyanagi K, Kato K, Yano T, Muto M, Kitagawa Y* : Comparison of outcomes between surgery and chemoradiotherapy after endoscopic resection for pT1a-MM with lymphovascular invasion or pT1b esophageal squamous cell carcinoma: Japanese multicenter propensity score-matched study. *J Gastroenterol*, 60 (1) : 43-54, 2024.
- 013 *Yamada K, Tajika M, Tanaka T, Ito N, Takagi A, Niwa Y* : Modified anchor traction method allows safe colorectal endoscopic submucosal dissection: the T-shaped traction method. *Endoscopy*, 57 (S01) : E64-E65, 2025.
- 014 *Yamada K, Tajika M, Tanaka T, Ito N, Takagi A, Niwa Y* : A novel traction method using a multi-loop traction device in colorectal endoscopic submucosal dissection: Anchor traction method. *Endoscopy*, 56 (S01) : E780-E781, 2024.
- 015 *Yamada K, Tajika M, Tanaka T, Ito N, Takagi A, Niwa Y* : Efficacy of a novel traction method: outside-lesion clip-thread method for gastric endoscopic submucosal dissection of lesions of the greater curvature of the upper/middle stomach (with video). *Surg Endosc*, 38 (9) : 5464-5473, 2024.
- 016 *Yamada K, Tajika M, Niwa Y* : Suturing with muscle layer grasping and pulling technique for mucosal defect of colorectal endoscopic submucosal dissection. *Dig Endosc*, 36 (7) : 853-854, 2024.
- 017 *Ishihara R, Hikichi T, Iwaya Y, Iijima K, Imagawa A, Mabe K, Ito N, Suga T, Iizuka T, Nishida T, Furumoto Y, Muto M, Takeuchi H* : Evaluating the discrepancies between evidence-based and community standard

practices in the endoscopic diagnosis of esophageal squamous cell carcinoma: a survey study. *Esophagus*, 22(1): 47-58, 2024.

- 018 **Okuno M, Mukai T, Iwata K, Takagi A, Ito Y, Ohashi Y, Tezuka R, Iwasa Y, Iwata S, Tomita E**: A phase-I study of second-line S-IROX for unresectable pancreatic cancer after gemcitabine plus nab-paclitaxel failure. *Med Oncol*, 41 (8): 195, 2024.
- 019 **山田啓策**:【明日のケアに生きる”これだけ”必須知識 消化器病棟の薬剤 はやわかりガイド】ステロイド薬. *消化器ナーシング*, 29 (10): 960-962, 2024.
- 020 **山田啓策**:【明日のケアに生きる”これだけ”必須知識 消化器病棟の薬剤 はやわかりガイド】浮腫の治療薬. *消化器ナーシング*, 29 (10): 957-959, 2024.
- 021 **伊藤信仁**:【明日のケアに生きる”これだけ”必須知識 消化器病棟の薬剤 はやわかりガイド】降圧剤. *消化器ナーシング*, 29 (10): 950-952, 2024.
- 022 **伊藤信仁**:【明日のケアに生きる”これだけ”必須知識 消化器病棟の薬剤 はやわかりガイド】昇圧剤. *消化器ナーシング*, 29 (10): 948-949, 2024.
- 023 **高木暁広**:【明日のケアに生きる”これだけ”必須知識 消化器病棟の薬剤 はやわかりガイド】抗凝固薬. *消化器ナーシング*, 29 (10): 945-947, 2024.
- 024 **高木暁広**:【明日のケアに生きる”これだけ”必須知識 消化器病棟の薬剤 はやわかりガイド】抗血小板薬. *消化器ナーシング*, 29 (10): 942-944, 2024.

呼吸器内科部

- 001 **Yamaguchi T, Shimizu J, Shigematsu F, Watanabe N, Hasegawa T, Horio Y, Inaba Y, Fujiwara Y**: Atezolizumab and nintedanib in patients with non-small cell lung cancer and interstitial lung disease. *Journal of Thoracic Disease*, 16 (5):3371-3380, 2024.
- 002 **Fujiwara Y, Shimomura K, Yamaguchi T, Shimizu J, Watanabe N, Matsuzawa R, Murotani K, Horio Y**: The incidence of drug-induced interstitial lung disease caused by epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitors or immune checkpoint inhibitors in patients with non-small cell lung cancer in presence and absence of vascular endothelial growth factor inhibitors: A systematic review. *Frontiers in Oncology*, 14:1419256, 2024.
- 003 **Yamaguchi T, Shimizu J, Matsuzawa R, Watanabe N, Horio Y, Fujiwara Y**: Efficacy of chemotherapy plus immune checkpoint inhibitors in patients with non-small cell lung cancer who have rare oncogenic driver mutations: a retrospective analysis. *BMC Cancer*, 24(1):842, 2024.
- 004 **Kato T, Kawaguchi T, Funakoshi T, Fujiwara Y, Yasuda Y, Ando Y**: Efficacy of Magnesium Supplementation in

Cancer Patients Developing Hypomagnesemia Due to Anti-EGFR Antibody: A Systematic Review. *Cancer Diagn Progn*, 4 (4): 390-395, 2024.

- 005 **Yamamoto N, Satouchi M, Doi T, Fujiwara Y, Yanagitani N, Kawa Y, Yoh K, Leopold L, Munteanu M, Sawada T, Han S, Noguchi K, Nishio M**: KEYNOTE-434 part B: A phase I study evaluating the combination of epacadostat, pembrolizumab, and chemotherapy in Japanese patients with previously untreated advanced non-small-cell lung cancer. *Invest New Drugs*, 42 (3): 261-271, 2024.
- 006 **Imai H, Kijima T, Azuma K, Kishi K, Saito H, Yamaguchi T, Tanizaki J, Yoneshima Y, Fujita K, Watanabe S, Kitazono S, Fukuhara T, Hataji O, Toi Y, Mizutani H, Hamakawa Y, Maemondo M, Ohsugi T, Suzuki K, Horinouchi H, Ohe Y**: First-line nivolumab plus ipilimumab with or without chemotherapy for Japanese patients with non-small cell lung cancer: LIGHT-NING study. *Jpn J Clin Oncol*, 54 (4): 452-462, 2024.
- 007 **Sugita Y, Muraoka D, Demachi-Okamura A, Komuro H, Masago K, Sasaki E, Fukushima Y, Matsui T, Shinohara S, Takahashi Y, Nishida R, Takashima C, Yamaguchi T, Horio Y, Hashimoto K, Tanaka I, Onoue K, Onoguchi K, Yamashita Y, Stratford R, Clancy T, Yamaguchi R, Kuroda H, Ishibashi H, Okubo K, Matsushita H**: Candidate tumor-specific CD8+ T cell subsets identified in the malignant pleural effusion of advanced lung cancer patients by single-cell analysis. *Oncoimmunology*, 13(1): 2371556, 2024.
- 008 **Fujimoto D, Hayashi H, Murotani K, Toi Y, Yokoyama T, Kato T, Yamaguchi T, Tanaka K, Miura S, Tamiya M, Tachihara M, Shukuya T, Tsuchiya-Kawano Y, Sato Y, Ikeda S, Sakata S, Masuda T, Takemoto S, Otsubo K, Shibaki R, Makino M, Okamoto I, Yamamoto N**: Prediction of prognosis in lung cancer using machine learning with inter-institutional generalizability: A multicenter cohort study (WJOG15121L: REAL-WIND). *Lung Cancer*, 194:107896, 2024.
- 009 **Shiraishi Y, Nomura S, Sugawara S, Horinouchi H, Yoneshima Y, Hayashi H, Azuma K, Hara S, Niho S, Morita R, Yamaguchi M, Yokoyama T, Yoh K, Kurata T, Okamoto H, Okamoto M, Kijima T, Kasahara K, Fujiwara Y, Murakami S, Kanda S, Akamatsu H, Takemoto S, Kaneda H, Kozuki T, Ando M, Sekino Y, Fukuda H, Ohe Y, Okamoto I**: Comparison of platinum combination chemotherapy plus pembrolizumab versus platinum combination chemotherapy plus nivolumab-ipilimumab for treatment-naive advanced non-small-cell lung cancer in Japan (JCOG2007): an open-label, multicentre, randomised, phase 3 trial. *Lancet Respir Med*, 12 (11): 877-887, 2024.
- 010 **Kimura R, Adachi Y, Hirade K, Kisoda S, Yanase S, Shibata N, Ishii M, Fujiwara Y, Yamaguchi R, Fujita Y, Hosoda W, Ebi H**: ARAF Amplification in Small-Cell Lung

- Cancer-Transformed Tumors Following Resistance to Epidermal Growth Factor Receptor-Tyrosine Kinase Inhibitors. *Cancers (Basel)*, 16 (20):3501, 2024.
- 011 **Fujiwara Y, Masago K, Matsuzawa R, Yamaguchi T, Watanabe N, Shimizu J, Sasaki E, Horio Y**: Long-Term Response of Lorlatinib to Leptomeningeal Metastasis in Patients with Anaplastic Lymphoma Kinase Fusion Positive Non-Small Lung Cancer: A Case Report. *Case Rep Oncol*, 17 (1): 942-949, 2024.
- 012 **Furuta M, Horinouchi H, Yokota I, Yamaguchi T, Itoh S, Fukui T, Iwashima A, Sugisaka J, Miura Y, Tanaka H, Miyawaki T, Yokouchi H, Miura K, Saito R, Saito G, Kamoshida T, Uchinami Y, Kato T, Kobayashi K, Asahina H**: Durvalumab after chemoradiotherapy for locoregional recurrence of completely resected non-small-cell lung cancer (NEJ056). *Cancer Sci*, 115 (11): 3705-3717, 2024.
- 013 **Shibaki R, Fujimoto D, Miyauchi E, Tsukita Y, Nakachi I, Arai D, Sakata Y, Shingu N, Shimokawa T, Kijima T, Tamiya M, Sachiko, Kawana S, Hara S, Saito G, Sato Y, Yokoyama T, Sakata S, Taniguchi Y, Hata A, Matsumoto H, Yamaguchi T, Yamamoto N**: Durvalumab with etoposide and carboplatin for patients with extensive-stage small cell lung cancer and interstitial lung disease: A multicenter, open-label prospective trial. *Lung Cancer*, 196:107958, 2024.
- 014 **Hasegawa T, Okuyama T, Uemura T, Matsuda Y, Otani H, Shimizu J, Horio Y, Watanabe N, Yamaguchi T, Fukuda S, Oguri T, Maeno K, Inagaki Y, Nosaki K, Fukumitsu K, Akechi T**: Unrealistic expectations and disclosure of incurability in patients with non-small cell lung cancer. *Support Care Cancer*, 32 (7): 421, 2024.
- 015 **Masago K, Fujita S, Sasaki E, Horio Y**: Do germline genetic variants affect the efficacy of epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitors. *Transl Cancer Res*, 13 (12): 6599-6602, 2024.
- 016 **Okamoto T, Mizuta R, Takahashi Y, Otani Y, Sasaki E, Horio Y, Kuroda H, Matsushita H, Date I, Hashimoto N, Masago K**: Genomic landscape of glioblastoma without IDH somatic mutation in 42 cases: a comprehensive analysis using RNA sequencing data. *J Neurooncol*, 167 (3): 489-499, 2024.
- 017 **Masago K, Kuroda H, Sasaki E, Fujita Y, Fujita S, Horio Y, Endo M, Ishihara H, Hanai N, Matsushita H**: Novel gene fusions in human oropharyngeal carcinoma. *Cancer Genet*, 286-287: 29-34, 2024.
- 018 **Morioka H, Koizumi Y, Oka K, Okudaira M, Tomita Y, Kojima Y, Watariguchi T, Watamoto K, Mutoh Y, Tsuji T, Yokota M, Shimizu J, Hasegawa C, Susumu Iwata S, Nagaoka M, Ito Y, Kawasaki S, Kato H, Kitagawa Y, Goto T, Nozaki Y, Akita K, Shimizu S, Nozawa M, Kato M, Ishihara M, Ito K, Yagi T**: Healthcare-associated infections in Japanese hospitals: results from a large-scale multicenter point-prevalence survey in Aichi, 2020. *Infect Control Hosp Epidemiol*, 8:1-8, 2024.
- 019 **Miyauchi E, Nishio M, Ohashi K, Osoegawa A, Kikuchi E, Kimura H, Goto Y, Shimizu J, Yoshioka H, Yoshino I, Misumi T, Katakami N, Oki M, Kijima T, Chikamori K, Nishino K, Kobayashi Y, Miwa A, Tanaka M, Gemma A**: J-TAIL-2: A Prospective, Observational Study of Atezolizumab Combined With Carboplatin and Etoposide in Patients With Extensive-Stage SCLC in Japan. *JTO Clin Res Rep*, 6 (3): 100783, 2024.
- 020 **Watanabe K, Sasaki K, Machida R, Shimizu J, Yamane Y, Tamiya M, Saito S, Takada Y, Yoh K, Yoshioka H, Murakami H, Kitazono S, Goto Y, Horinouchi H, Ohe Y**: High-cost treatments for advanced lung cancer in Japan (Lung Cancer Study Group of the Japan Clinical Oncology Group). *Jpn J Clin Oncol*, 54 (10): 1084-1092, 2024.
- 021 **山口哲平**:【機序がだいたいわかる図解つき★\令和承認の薬剤からマストなくすりを厳選/分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬これだけ29】(Part 2) 非小細胞肺癌 一般名テボチニブ 商品名テプミトコ 一般名カプマチニブ 商品名タプレクタ (解説). *YORi-SOU がんナーシング*, 14 (6): 645, 2024.
- 022 **山口哲平**:【機序がだいたいわかる図解つき★\令和承認の薬剤からマストなくすりを厳選/分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬これだけ29】(Part 2) 非小細胞肺癌 一般名ネシツムマブ 商品名ポートラーザ (解説). *YORi-SOU がんナーシング*, 14 (6): 645, 2024.
- 023 **黒田浩章, 真砂勝泰, 佐々木英一, 松下博和, 篠原周一, 堀尾芳嗣**:【がんゲノム医療と外科医療】MET exon14 skipping 変異陽性小細胞肺癌切除例の遺伝子解析からみた臨床像と手術成績の検討 (原著論文), 2024.
- 024 **Kanda S, Niho S, Kurata T, Nomura S, Kawashima Y, Iwama E, Yokoyama T, Watanabe Y, Tanaka H, Fujiwara Y, Zenke Y, Azuma K, Taniguchi H, Toyozawa R, Hosomi Y, Murakami H, Hara S, Bessho A, Yamamoto N, Ohe Y**: Randomized Phase III Study of EGFR Tyrosine Kinase Inhibitor and Intercalated Platinum-doublet Chemotherapy for Non-small Cell Lung Cancer Harboring EGFR Mutation. *Clin Cancer Res*, 2025.
- 025 **Sugisaka J, Fujimoto D, Tamiya M, Hata A, Matsumoto H, Yokoyama T, Taniguchi Y, Uchida J, Sato Y, Kijima T, Tanaka H, Furuya N, Masuda T, Sakata Y, Miyachi E, Saito G, Miura S, Yamaguchi T, Daga H, Sakata S, Yamamoto N, Akamatsu H**: Long-term outcome of chemoimmunotherapy for extensive-stage small-cell lung cancer according to key clinical trial eligibility: 3-year outcomes from a prospective cohort study. *Lung Cancer*, 199:108056, 2025.
- 026 **Shimomura K, Ogata T, Maeda A, Narita Y, Taniguchi H, Murotani K, Fujiwara Y, Tajika M, Hara K, Muro**

- K, Uchida K** : Investigation of the association between therapeutic effectiveness of anamorelin and Glasgow prognostic score in patients with cancer cachexia: a competing risk analysis. *Invest New Drugs*, 43 (1) : 118-125, 2025.
- 027 **Besse B, Goto K, Wang Y, Lee SH, Marmarelis ME, Ohe Y, Bernabe Caro R, Kim DW, Lee JS, Cousin S, Ichihara E, Li Y, Paz-Ares L, Ono A, Sanborn RE, Watanabe N, de Miguel MJ, Helissey C, Shu CA, Spira AI, Tomasini P, Yang JC, Zhang Y, Filip E, Griesinger F, Waqar SN, Calles A, Neal JW, Baik CS, Jänne PA, Shreeve SM, Curtin JC, Patel B, Gormley M, Lyu X, Chen J, Chu PL, Mahoney J, Trani L, Bauml JM, Thayu M, Knoblauch RE, Cho BC** : Amivantamab Plus Lazertinib in Patients With EGFR-Mutant NSCLC After Progression on Osimertinib and Platinum-Based Chemotherapy: Results From CHRYSALIS-2 Cohort A. *J Thorac Oncol*, 20(5) : 651-664, 2025.
- 028 **Kinoshita F, Tanzawa S, Misumi T, Yoshioka H, Miyauchi E, Ninomiya K, Murata Y, Takeshita M, Yamaguchi M, Sugawara S, Kawashima Y, Hashimoto K, Mori M, Miyanaga A, Hayashi A, Tanaka H, Honda R, Nojiri M, Sato Y, Yamamoto K, Masuda K, Kozuki T, Kawamura T, Suzuki T, Yamaguchi T, Asada K, Tetsumoto S, Tanaka H, Watanabe S, Umeda Y, Yamaguchi K, Kuyama S, Tsuruno K, Misumi Y, Kuraishi H, Yoshihara K, Nakao A, Kubo A, Yokoyama T, Watanabe K, Seki N** : Skin disorder within 30 days is a favorable prognostic factor in patients with lung squamous cell carcinoma treated with necitumumab plus gemcitabine and cisplatin: a sub-analysis of the NINJA study. *Ther Adv Med Oncol*, 17 : 17588359241312503, 2025.
- 029 **Tanzawa S, Yoshioka H, Misumi T, Miyauchi E, Ninomiya K, Murata Y, Takeshita M, Kinoshita F, Fujishita T, Sugawara S, Kawashima Y, Hashimoto K, Mori M, Miyanaga A, Hayashi A, Tanaka H, Honda R, Nojiri M, Sato Y, Hata A, Ishikawa N, Kozuki T, Kawamura T, Saito G, Yamaguchi T, Asada K, Tetsumoto S, Tanaka H, Watanabe S, Umeda Y, Yamaguchi K, Nishii K, Tsuruno K, Misumi Y, Kuraishi H, Yoshihara K, Nakao A, Kubo A, Yokoyama T, Watanabe K, Seki N** : Clinical impact of hypomagnesemia induced by necitumumab plus cisplatin and gemcitabine treatment in patients with advanced lung squamous cell carcinoma: a subanalysis of the NINJA study. *Ther Adv Med Oncol*, 17 : 17588359251318850, 2025.
- 030 **Masago K, Ishihara H, Kuroda H, Sasaki E, Fujita Y, Fujita S, Horio Y, Sawabe M, Beppu S, Nishikawa D, Terada H, Kishikawa T, Suzuki H, Shibata H, Ogawa T, Hanai N, Matsushita H** : Biological landscape of human papilloma virus-related head and neck cancer according to virus genotype. *Cancer Genet*, 294-295 : 27-31, 2025.
- 031 **Sands J, Ahn MJ, Lisberg A, Cho BC, Blumenschein G Jr, Shum E, Pons Tostivint E, Goto Y, Yoh K, Heist R, Shimizu J, Lee JS, Baas P, David D, Pérol M, Felipe E, Su WC, Zebger-Gong H, Lan L, Liu C, Howarth P, Chiaverelli R, Paz-Ares L** : Datopotamab Deruxtecan in Advanced or Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer With Actionable Genomic Alterations: Results From the Phase II TROPION-Lung05 Study. *J Clin Oncol*, 43 (10) : 1254-1265, 2025.

血液・細胞療法部

- 001 **Ri M, Iida S, Saito K, Saito Y, Maruyama D, Asano A, Fukuhara S, Tsujimura H, Miyazaki K, Ota S, Fukuhara N, Negoro E, Kuroda J, Yoshida S, Ohtsuka E, Norifumi T, Tabayashi T, Takayama N, Saito T, Suzuki Y, Harada Y, Mizuno I, Yoshida I, Maruta M, Takamatsu Y, Katsuya H, Yoshimitsu M, Minami Y, Kanato K, Munakata W, Nagai H** : Lipidomic profiling of plasma from patients with multiple myeloma receiving bortezomib: an exploratory biomarker study of JCOG1105 (JCOG1105A1). *Cancer Chemotherapy and Pharmacology*, 95 : 29, 2025.
- 002 **Zinzani PL, Izutsu K, Mehta-Shah N, Barta SK, Ishitsuka K, Córdoba R, Kusumoto S, Bachy E, Cwynarski K, Gritti G, Prica A, Jacobsen E, Feldman T, Guillermin Y, Ennishi D, Yoon DH, Domenech ED, Zain J, Wang J, Kim JS, Poel MV, Jin J, Wu S, Chen Y, Moriyama T, Inoue A, Nakajima K, Horwitz SM** : Valemetostat for patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma (VALENTINE-PTCL01) : a multicentre, open-label, single-arm, phase 2 study. *Lancet Oncol*. 2024 Dec;25 (12):1602-1613. doi: 10.1016/S1470-2045 (24) 00503-5. Epub 2024 Oct 29. PMID: 39486433 *Clinical Trial*, 2024.
- 003 **Yoshimitsu M, Choi I, Kusumoto S, Shimokawa M, Utsunomiya A, Suehiro Y, Hidaka T, Nosaka K, Sasaki H, Rai S, Tamura S, Owatari S, Koh KR, Nakamura D, Tokunaga M, Sekine M, Sakamoto Y, Inagaki H, Ishida T, Ishitsuka K** : A phase 2 Trial of CHOP with Anti-CCR4 Antibody Mogamulizumab for older Patients with Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma. *Blood*. 2025 May 15:blood.2024027902. doi: 10.1182/blood.2024027902. Online ahead of print. PMID: 40373281, 2025.
- 004 **Maruyama D, Jacobsen E, Porcu P, Allen P, Ishitsuka K, Kusumoto S, Narita T, Tobinai K, Foss F, Tsukasaki K, Feldman T, Imaizumi Y, Izutsu K, Morishima S, Yamauchi N, Yuda J, Brammer JE, Kawamata T, Ruan J, Nosaka K, Utsunomiya A, Wang J, Zain J, Kakurai Y, Yamauchi H, Hizukuri Y, Biserna N, Tachibana M, Inoue A, Horwitz SM** : Valemetostat monotherapy in patients with relapsed or refractory non-Hodgkin lymphoma: a first-in-human, multicentre, open-label, single-arm, phase

- 1 study. *Lancet Oncol.* 2024 Dec;25 (12): 1589-1601. doi: 10.1016/S1470-2045 (24) 00502-3. Epub 2024 Oct 29. PMID: 39486432 *Clinical Trial*, 2024.
- 005 **Kusumoto S, Munakata W, Machida R, Terauchi T, Onaya H, Oguchi M, Iida S, Nosaka K, Suzuki Y, Harada Y, Miyazaki K, Maruta M, Fukuhara N, Toubai T, Kubota N, Ohmachi K, Saito T, Rai S, Mizuno I, Fukuhara S, Takeuchi M, Tateishi U, Maruyama D, Tsukasaki K, Nagai H:** Interim PET-guided ABVD or ABVD/escalated BEACOPP for newly diagnosed advanced-stage classic Hodgkin lymphoma (JCOG1305). *Cancer Sci.* 2024 Oct;115 (10): 3384-3393. doi: 10.1111/cas.16281. Epub 2024 Jul 22. PMID: 39034771, 2024.
- 006 **Shimada K, Yamaguchi M, Kuwatsuka Y, Matsue K, Sato K, Kusumoto S, Nagai H, Takizawa J, Fukuhara N, Nagafuji K, Miyazaki K, Ohtsuka E, Okamoto A, Sugita Y, Uchida T, Kayukawa S, Wake A, Ennishi D, Kondo Y, Meguro A, Kin Y, Minami Y, Hashimoto D, Nishiyama T, Shimada S, Masaki Y, Okamoto M, Atsuta Y, Kiyoi H, Suzuki R, Nakamura S, Kinoshita T:** Rituximab, cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine, and prednisolone combined with high-dose methotrexate plus intrathecal chemotherapy for newly diagnosed intravascular large B-cell lymphoma (PRIMEUR-IVL): long-term results of a multicentre, single-arm, phase 2 trial. *EClinicalMedicine.* 2025 Jan 31;80:103078. doi: 10.1016/j.eclinm.2025.103078. eCollection 2025 Feb. PMID: 39968389, 2025.
- 007 **Sakamoto Y, Ishida T, Masaki A, Murase T, Ohtsuka E, Takeshita M, Muto R, Choi I, Iwasaki H, Ito A, Kusumoto S, Nakano N, Tokunaga M, Yonekura K, Tashiro Y, Suehiro Y, Iida S, Utsunomiya A, Ueda R, Inagaki H:** Clinical significance of NOTCH1 and FBXW7 alterations in adult T-cell leukemia/lymphoma. *Int J Hematol.* 2025 Feb;121 (2): 206-221. doi: 10.1007/s12185-024-03880-3. Epub 2024 Nov 25. PMID: 39586983, 2025.
- 008 **Tachita T, Ri M, Aoki S, Asano A, Kanamori T, Totani H, Kinoshita S, Asao Y, Narita T, Masaki A, Ito A, Kusumoto S, Komatsu H, Iida S:** Comprehensive analysis of serum cytokines in patients with multiple myeloma before and after lenalidomide and dexamethasone. *Cancer Med.* 2024 Jul;13 (14): e70019. doi: 10.1002/cam4.70019. PMID: 39031503, 2024.
- 009 **Suzuki T, Tamori A, Matsuura K, Inoue T, Kusumoto S, Hagiwara S, Sagi H, Kaneko A, Murakami S, Kawamura H, Fujiwara K, Aoyagi K, Enomoto M, Kozuka R, Kataoka H, Tanaka Y:** Clinical usefulness of an ultra-high-sensitivity hepatitis B surface antigen assay to determine the cessation of treatment for HBV reactivation. *Ann Hepatol.* 2025 Jan-Jun;30 (1): 101764. doi: 10.1016/j.aohep.2024.101764. Epub 2024 Dec 3. PMID: 39638038, 2025.
- 010 **Fujii K, Inagaki A, Masaki A, Sugiura M, Suzuki T, Ishida T, Kusumoto S, Iida S, Inagaki H:** Nomogram for predicting survival of patients with diffuse large B-cell lymphoma. *Ann Hematol.* 2024 Jun;103 (6): 2041-2050. doi: 10.1007/s00277-024-05669-0. Epub 2024 Feb 27. PMID: 38411628, 2024.
- 011 **Hirade K, Kusumoto S, Hashimoto H, Shiraga K, Hagiwara S, Oiwa K, Suzuki T, Kinoshita S, Ri M, Komatsu H, Iida S:** Low-dose fluconazole as a useful and safe prophylactic option in patients receiving allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Cancer Med.* 2024 Feb;13 (3): e6815. doi: 10.1002/cam4.6815. Epub 2024 Jan 11. PMID: 38213090, 2024.
- 012 **Saito T, Kusumoto S, Yanada M, Kato S, Kagami Y, Kawaguchi Y, Taji H, Hagiwara S, Hosoda W, Yamamoto K:** RB and CHASER as induction therapy for transplant-eligible mantle cell lymphoma. *J Clin Exp Hematop.* 2025;65 (2): 158-161. doi: 10.3960/jslrt.25011. PMID: 40582840, 2025.
- 013 **Nakashima T, Kusumoto S, Ishida T, Kato C, Hagiwara S, Narita T, Masaki A, Ito A, Ri M, Komatsu H, Inagaki H, Tanaka Y, Iida S:** Fulminant hepatitis in a hepatitis B surface antigen-positive patient with adult T-cell leukemia-lymphoma after mogamulizumab monotherapy. *Hepatol Res.* 2024 Dec;54 (12): 1226-1233. doi: 10.1111/hepr.14057. Epub 2024 May 21. PMID: 38770705, 2024.
- 014 **Kemmoku E, Kusumoto S, Kato S, Kawaguchi Y, Hagiwara S, Saito T, Tokumasu F, Nonaka A, Yanada M, Kinoshita T, Hosoda W, Yamamoto K:** Composite mantle cell lymphoma and T-cell prolymphocytic leukemia: a case report. *J Clin Exp Hematop.* 2025 Jun 28;65 (2): 107-114. doi: 10.3960/jslrt.24065. Epub 2025 Apr 30. PMID: 40301077, 2025.
- 015 **Onozawa M, Kusumoto S, Najima Y, Hashimoto H, Okada K, Tamaki M, Tanaka M, Sato T, Takahashi T, Hatano K, Onodera K, Moriuchi Y, Yakushijin K, Kanda J, Nagafuji K, Ogata M, Nakano N, Tamori A, Mizokami M:** Outcomes of Cessation of Nucleos (t) ide Analog Administration on Hepatitis B Virus Reactivation after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation: A Nationwide Retrospective Study. *Transplant Cell Ther.* 2024 Mar;30 (3): 330.e1-330.e8. doi: 10.1016/j.jtct.2024.01.059. Epub 2024 Jan 17. PMID: 38242442, 2024.
- 016 **Matsunaga N, Suzuki T, Nishitarumizu N, Nakanishi Y, Kondo A, Kato Y, Ebina T, Marumo Y, Nakamura T, Nakashima T, Kinoshita S, Narita T, Ri M, Kusumoto S, Komatsu H, Iida S:** Clinical Significance of Cytomegalovirus Reactivation in Patients With Plasma Cell Dyscrasia Who Were Treated With Anti-CD38 Monoclonal Antibody: A Retrospective Analysis in a Single Institution. *Clin Lymphoma Myeloma Leuk.* 2024 Aug;24 (8): 531-536.e1. doi: 10.1016/j.clml.2024.03.012. Epub 2024 Mar 30. PMID: 38653670, 2024.

- 017 **Nakashima T, Matsunaga N, Tajiri S, Watanabe Y, Kondo A, Kikuchi T, Kanamori T, Kusumoto S, Inagaki A**: Two live births with low factor VIII by a patient with pregnancy-associated acquired hemophilia A managed with prednisolone. *Blood Vessel Thromb Hemost*. 2025 May 5;2 (3) :100072. doi: 10.1016/j.bvth.2025.100072. eCollection 2025 Aug.PMID: 40765915, 2025.
- 018 **中嶋誠也, 楠本 茂, 吉田雅博**: 急性骨髄性白血病に対する同種造血幹細胞移植による関連合併症により介入に難渋したが、身体機能の維持が図れた一症例. *日本がん・リンパ腫腫瘍学療法学会誌* (2759-0984) 2巻 Suppl.1 page36, 2025.
- 019 **楠本 茂**:【これだけは押さえておきたい がん薬物療法の薬 抗がん剤 ホルモン剤 分子標的薬 免疫チェックポイント阻害薬 はや調ベノート 2025 2026 年版】従来型 アルキル化薬 (そのほか) ダカルバジン. *YORISOU がんナーシング* (2433 - 7390) 2025 春期増刊, Page32, 2025.
- 020 **楠本 茂**:【これだけは押さえておきたい がん薬物療法の薬 抗がん剤 ホルモン剤 分子標的薬 免疫チェックポイント阻害薬 はや調ベノート 2025 2026 年版】従来型 アルキル化薬 (マスタード類) メルファラン. *YORISOU がんナーシング* (2433 - 7390) 2025 春期増刊, Page26, 2025.
- 021 **楠本 茂**:【これだけは押さえておきたい がん薬物療法の薬 抗がん剤 ホルモン剤 分子標的薬 免疫チェックポイント阻害薬 はや調ベノート 2025 2026 年版】従来型 アルキル化薬 (マスタード類) ブスルファン. *YORISOU がんナーシング* (2433 - 7390) 2025 春期増刊, Page25, 2025.
- 022 **楠本 茂**:【これだけは押さえておきたい がん薬物療法の薬 抗がん剤 ホルモン剤 分子標的薬 免疫チェックポイント阻害薬 はや調ベノート 2025 2026 年版】従来型 アルキル化薬 (マスタード類) シクロホスファミド. *YORISOU がんナーシング* (2433 - 7390) 2025 春期増刊, Page22-23, 2025.
- 023 **楠本 茂**:【白血病・リンパ腫 臨床現場で役立つ白血病・リンパ腫の最新の知識】さまざまな白血病・リンパ腫病理型における診療のポイント ホジキンリンパ腫の診断と治療. *Medical Practice* (0910-1551) 42巻 2号, Page244-250, 2025.
- 024 **前田章光, 楠本 茂, 安藤正志, 内田幸作, 山本一仁**: ダカルバジン供給停止が患者治療に及ぼした影響と, 医薬品供給停止時の医薬品確保の課題への提言. *臨床薬理* (0388-1601) 55巻 4号, Page209-216, 2024.
- 025 **楠本 茂**:【低悪性度非ホジキンリンパ腫のマネジメント】低悪性度リンパ腫治療における感染症管理. *血液内科* (2185-582X) 89巻 5号, Page517-524, 2024.
- 026 **楠本 茂**:【リンパ系腫瘍に対する治療開発動向と展望 2024】未治療ホジキンリンパ腫に対する治療開発動向と展望. *血液内科* (2185 - 582X) 88巻 4号, Page350-356, 2024.
- 027 **見目絵美, 楠本 茂**:【抗体医薬の現状と展望】血液がんに対するチェックポイント阻害薬の現状と展望, *BIO Clinica* (0919-8237) 39巻 8号, Page640-644, 2024.

薬物療法部

- 001 **Kawazoe A, Yamamoto N, Sugimoto N, Kawakami H, Oshima T, Yamaguchi K, Hino K, Hirao M, Kurokawa Y, Kawakami T, Tsuda M, Hara H, Kaname S, Matsuoka D, Otake Y, Yasuda K, Takase T, Takashima S, Semba T, Muro K**: Phase II Study of the Liposomal Formulation of Eribulin (E7389-LF) in Combination with Nivolumab: Results from the Gastric Cancer Cohort. *Clin Cancer Res*, 30 (7):1264-1272, 2024.
- 002 **Kato K, Kojima T, Hara H, Tsuji A, Yasui H, Muro K, Satoh T, Ogata T, Ishihara R, Goto M, Baba H, Nishina T, Han S, Iwakami K, Yatsuzuka N, Doi T**: First-line pembrolizumab plus chemotherapy for advanced/metastatic esophageal cancer: 1-year extended follow-up in the Japanese subgroup of the phase 3 KEYNOTE-590 study. *Esophagus*, 2024.
- 003 **Tahara M, Kiyota N, Imai H, Takahashi S, Nishiyama A, Tamura S, Shimizu Y, Kadowaki S, Ito KI, Toyoshima M, Hirashima Y, Ueno S, Sugitani I**: A Phase 2 Study of Encorafenib in Combination with Binimetinib in Patients with Metastatic BRAF-Mutated Thyroid Cancer in Japan. *Thyroid*, 34 (4):467-476, 2024.
- 004 **Kitagawa Y, Matsuda S, Gotoda T, Kato K, Wijnhoven B, Lordick F, Bhandari P, Kawakubo H, Kodera Y, Terashima M, Muro K, Takeuchi H, Mansfield PF, Kurokawa Y, So J, Mönig SP, Shitara K, Rha SY, Janjigian Y, Takahari D, Chau I, Sharma P, Ji J, de Manzoni G, Nilsson M, Kassab P, Hofstetter WL, Smyth EC, Lorenzen S, Doki Y, Law S, Oh DY, Ho KY, Koike T, Shen L, van Hillegerberg R, Kawakami H, Xu RH, Wainberg Z, Yahagi N, Lee YY, Singh R, Ryu MH, Ishihara R, Xiao Z, Kusano C, Grabsch HI, Hara H, Mukaisho KI, Makino T, Kanda M, Booka E, Suzuki S, Hatta W, Kato M, Maekawa A, Kawazoe A, Yamamoto S, Nakayama I, Narita Y, Yang HK, Yoshida M, Sano T**: Clinical practice guidelines for esophagogastric junction cancer: Upper GI Oncology Summit 2023. *Gastric Cancer*, 27 (3):401-425, 2024.
- 005 **Yoshino T, Hooda N, Younan D, Muro K, Shitara K, Heinemann V, O'neil BH, Herrero FR, Peeters M, Soeda J, Suh M, Reichert H, Mezzi K, Fryczek J, Chia V, Rehn M, Stintzing S**: A meta-analysis of efficacy and safety data from head-to-head first-line trials of epidermal growth factor receptor inhibitors versus bevacizumab in adult patients with RAS wild-type metastatic colorectal cancer by sidedness. *Eur J Cancer*, 202:113975, 2024.

- 006 **Takayama K, Kojima A, Honda C, Nakayama M, Kanemata S, Endo T, Muro K** : Real-world safety and effectiveness of anamorelin for cancer cachexia: Interim analysis of post-marketing surveillance in Japan. *Cancer Med*, 13 (9): e7170, 2024.
- 007 **Kimura G, Fujii Y, Honda K, Osawa T, Uchitomi Y, Kondo M, Otani A, Wako T, Kawai D, Mitsuda Y, Sakashita N, Shinohara N** : Financial Toxicity in Japanese Patients with Metastatic Renal Cell Carcinoma: A Cross-Sectional Study. *Cancers (Basel)*, 16 (10):1904, 2024.
- 008 **Iwaki S, Kadowaki S, Honda K, Narita Y, Masuishi T, Taniguchi H, Ando M, Muro K, Sawabe M, Suzuki H, Nishikawa D, Beppu S, Terada H, Kishikawa T, Kawakita D, Hanai N** : Survival impact of sequential chemotherapy following pembrolizumab for recurrent or metastatic head and neck squamous cell carcinoma. *Int J Clin Oncol*, 29 (6):764-770, 2024.
- 009 **Wakatsuki T, Ishizuka N, Hironaka S, Minashi K, Kadowaki S, Goto M, Shoji H, Hirano H, Nakayama I, Osumi H, Ogura M, Chin K, Yamaguchi K, Takahari D** : Exploratory analysis of serum HER2 extracellular domain for HER2 positive gastric cancer treated with SOX plus trastuzumab. *Int J Clin Oncol*, 29 (6):801-812, 2024.
- 010 **Kotani D, Takashima A, Kato T, Satoh T, Masuishi T, Komatsu Y, Shiozawa M, Esaki T, Izawa N, Takeuchi S, Bando H, Iwasa S, Hasegawa H, Yamaguchi T, Taniguchi H, Ushida Y, Oizaki T, Inoue C, Yoshino T** : Safety and Efficacy of Encorafenib, Binimetinib, and Cetuximab for BRAFV600E-Mutant Metastatic Colorectal Cancer: Results of the Japanese Expanded Access Program. *Clin Colorectal Cancer*, 23 (2): 174-182.e6, 2024.
- 011 **Yuki S, Yamazaki K, Sunakawa Y, Taniguchi H, Bando H, Shiozawa M, Nishina T, Yasui H, Kanazawa A, Ando K, Horita Y, Goto M, Okano N, Moriwaki T, Satoh T, Tsuji A, Yamashita K, Asano C, Abe Y, Nomura S, Yoshino T** : Plasma Angiogenic Factors as Predictors of the Efficacy of Second-line Chemotherapy Combined with Angiogenesis Inhibitors in Metastatic Colorectal Cancer: Results From the GI-SCREEN CRC-Ukit Study. *Clin Colorectal Cancer*, 23 (2): 147-159.e7, 2024.
- 012 **Narita Y, Ogata T, Ishizuka Y, Sakakida T, Wakabayashi M, Kodama H, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K** : Trifluridine/tipiracil with and without ramucirumab for advanced gastric cancer: a comparative observational study. *Sci Rep*, 14 (1): 12658, 2024.
- 013 **Komatsu Y, Muro K, Chosa M, Hirano K, Sunaya T, Ayukawa K, Hattori K, Nishida T** : Large-scale, prospective observational study of regorafenib in Japanese patients with advanced gastrointestinal stromal tumors in a real-world clinical setting. *Front Oncol*, 14:1412144, 2024.
- 014 **Kimura G, Fujii Y, Osawa T, Uchitomi Y, Honda K, Kondo M, Otani A, Wako T, Kawai D, Mitsuda Y, Sakashita N, Shinohara N** : Cross-sectional study of therapy-related expectations/concerns of patients with metastatic renal cell carcinoma and physicians in Japan. *Cancer Med*, 13 (11): e7196, 2024.
- 015 **Osumi H, Shinozaki E, Nakamura Y, Esaki T, Yasui H, Taniguchi H, Satake H, Sunakawa Y, Komatsu Y, Kagawa Y, Denda T, Shiozawa M, Satoh T, Nishina T, Goto M, Takahashi N, Kato T, Bando H, Yamaguchi K, Yoshino T** : Clinical features associated with NeoRAS wild-type metastatic colorectal cancer A SCRUM-Japan GOZILA substudy. *Nat Commun*, 15 (1):5885, 2024.
- 016 **Kato K, Kojima T, Hara H, Tsuji A, Yasui H, Muro K, Satoh T, Ogata T, Ishihara R, Goto M, Baba H, Nishina T, Han S, Iwakami K, Yatsuzuka N, Doi T** : First-line pembrolizumab plus chemotherapy for advanced/metastatic esophageal cancer: 1-year extended follow-up in the Japanese subgroup of the phase 3 KEYNOTE-590 study. *Esophagus*, 21 (3):306-318, 2024.
- 017 **Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Inaba Y, Abe T, Muro K, Shimizu M, Niwa Y** : Prognostic impact of shift to low visceral fat mass after neoadjuvant chemotherapy in patients with esophageal cancer. *Cancer Rep (Hoboken)*, 7 (8): e2084, 2024.
- 018 **Takayama K, Furuse J, Muro K** : Plain language summary of a clinical study: anamorelin for treatment of Japanese people with gastrointestinal cancer and cachexia. *Future Oncol*, 20 (25):1779-1788, 2024.
- 019 **Honma Y, Monden N, Yamazaki K, Kano S, Satake H, Kadowaki S, Utsumi Y, Nakatogawa T, Takano R, Fujii K, Koroki Y, Aoyama J, Ouchi S, Ogawa T, McCarthy S, Brookman-May SD, Mundle S, Li J, Thaper D, Nagao T, Tada Y** : Apalutamide and Goserelin for Androgen Receptor-Positive Salivary Gland Carcinoma: A Phase II Nonrandomized Clinical Trial, YATAGARASU. *Clin Cancer Res*, 30 (16):3416-3427, 2024.
- 020 **Kawazoe A, Xu RH, Garcia-Alfonso P, Passhak M, Teng HW, Shergill A, Gumus M, Qvortrup C, Stintzing S, Towns K, Kim TW, Shiu KK, Cundom J, Ananda S, Lebedinets A, Fu R, Jain R, Adelberg D, Heinemann V, Yoshino T, Elez E; LEAP-017 Investigators (Masuishi T)** : Lenvatinib Plus Pembrolizumab Versus Standard of Care for Previously Treated Metastatic Colorectal Cancer: Final Analysis of the Randomized, Open-Label, Phase III LEAP-017 Study. *J Clin Oncol*, 42 (24):2918-2927, 2024.
- 021 **Maeda S, Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Muro K, Taniguchi H, Masuishi T, Ito S, Abe T, Shimizu Y** : Risk factors affecting delay of initiating adjuvant chemotherapy for stage III colorectal cancer. *Int J Clin Oncol*, 29 (9): 1293-1301, 2024.

- 022 **Bando H, Kotani D, Satake H, Hamaguchi T, Shiozawa M, Kotaka M, Masuishi T, Yasui H, Kagawa Y, Komatsu Y, Oki E, Yamamoto Y, Kawakami H, Misumi T, Taniguchi H, Yamazaki K, Muro K, Yoshino T, Kato T, Tsuji A** : QUATRO-II randomized trial: CAPOXIRI+bevacizumab vs. FOLFOXIRI+bevacizumab as first-line treatment in patients with mCRC. *Med*, 5 (9):1164-1177.e3, 2024.
- 023 **Lordick F, Rha SY, Muro K, Yong WP, Lordick Obermannová R** : Systemic Therapy of Gastric Cancer-State of the Art and Future Perspectives. *Cancers (Basel)*, 16 (19):3337, 2024.
- 024 **Yamaguchi T, Kumagai K, Yagi S, Nomura T, Nagashima K, Watanabe M, Makuuchi R, Kawakami K, Matsushima T, Kadowaki S, Haruta S, Cho H, Kakihara N, Otsuka S, Yamada T, Imai Y, Boku N** : Efficacy of chemotherapy for patients with gastric cancer with early recurrence during or after adjuvant chemotherapy with S-1 alone: a multicenter retrospective study. *Sci Rep*, 14 (1):21854, 2024.
- 025 **Iida N, Imai M, Okamoto W, Kato T, Esaki T, Kato K, Komatsu Y, Yuki S, Masuishi T, Nishina T, Ebi H, Taniguchi H, Nonomura N, Sunakawa Y, Shiozawa M, Yamazaki K, Boku S, Bando H, Shiraiishi Y, Kobayashi M, Goto H, Sato A, Fujii S, Yoshino T, Nakamura Y** : Novel ERBB2 Variant Potentially Associated with Resistance against Anti-HER2 Monoclonal Antibody-Based Therapy in ERBB2-Amplified Metastatic Colorectal Cancer. *Clin Cancer Res*, 30 (18):4167-4178, 2024.
- 026 **Oshima T, Yamamoto S, Kawakami H, Makino T, Kawazoe A, Masuishi T, Tsushima T, Hirao M, Tsuda M, Hino K, Yamamoto N, Hara H, Kaname S, Matsuoka D, Otake Y, Yasuda K, Takase T, Takashima S, Semba T, Ooki A** : Phase 1b/2 study of the liposomal formulation of eribulin (E7389-LF) in combination with nivolumab: Results from the phase 2 esophageal cancer cohort. *BJC Rep*, 2 (1):66, 2024.
- 027 **Makino T, Miyata H, Yasuda T, Kitagawa Y, Muro K, Park JH, Hikichi T, Hasegawa T, Igarashi K, Iguchi M, Masaoka Y, Yano M, Doki Y** : A phase 3, randomized, double-blind, multicenter, placebo-controlled study of S-588410, a five-peptide cancer vaccine as an adjuvant therapy after curative resection in patients with esophageal squamous cell carcinoma. *Esophagus*, 21(4):447-455, 2024.
- 028 **Takashima A, Ishiguro M, Sasaki K, Machida R, Nagashima F, Imaizumi J, Hamaguchi T, Yamamoto Y, Masuishi T, Asayama M, Ueno H, Shinozaki K, Kudo T, Machida N, Matsuoka H, Ishida H, Yamaguchi T, Nogami H, Yamada T, Takegawa N, Kito Y, Tonoike Y, Sawada R, Tsukamoto S, Kanemitsu Y; Colorectal Cancer Study Group (CCSG) of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG)** : Real-world treatment costs of first-line treatment for metastatic colorectal cancer: a survey of the JCOG colorectal cancer study group. *Jpn J Clin Oncol*, 54 (10):1107-1114, 2024.
- 029 **Shoji H, Kudo-Saito C, Nagashima K, Imazeki H, Tsugaru K, Takahashi N, Kawakami T, Amanuma Y, Wakatsuki T, Okano N, Narita Y, Yamamoto Y, Kizawa R, Muro K, Aoki K, Boku N** : Myeloid subsets impede the efficacy of anti-PD1 therapy in patients with advanced gastric cancer (WJOG10417GTR study). *J Immunother Cancer*, 12 (11):e010174, 2024.
- 030 **Nishikawa T, Kakunaga S, Tamura K, Ando M, Ozaki T, Kawai A, Ueda T, Kawasaki M, Tomatsuri S, Okamura N, Kamikura M, Hamada A, Yoshida A, Hirakawa A, Shibata T, Nakamura K, Yonemori K** : Efficacy and safety of nivolumab monotherapy in patients with unresectable clear cell sarcoma and alveolar soft part sarcoma (OSCAR Trial/NCCH1510). *Cancer*, 130 (22):3836-3844, 2024.
- 031 **Hashimoto T, Nakamura Y, Fujisawa T, Imai M, Shibuki T, Iida N, Ozaki H, Nonomura N, Morizane C, Iwata H, Okano S, Yamagami W, Yamazaki N, Kadowaki S, Taniguchi H, Ueno M, Boku S, Oki E, Komatsu Y, Yuki S, Makiyama A, Otsuka T, Hara H, Okano N, Nishina T, Sakamoto Y, Miki I, Kobayashi S, Yuda J, Kageyama SI, Nagamine M, Sakashita S, Sakamoto N, Yamashita R, Koga Y, Bando H, Ishii G, Kuwata T, Park WY, Ohtsu A, Yoshino T** : The SCRUM-MONSTAR Cancer-Omics Ecosystem: Striving for a Quantum Leap in Precision Medicine. *Cancer Discov*, 14 (11):2243-2261, 2024.
- 032 **Boku N, Omori T, Shitara K, Sakuramoto S, Yamaguchi K, Kato K, Kadowaki S, Tsuji K, Ryu MH, Oh DY, Oh SC, Rha SY, Lee KW, Chung IJ, Sym SJ, Chen LT, Chen JS, Bai LY, Nakada T, Hagihara S, Makino R, Nishiyama E, Kang YK** : Nivolumab plus chemotherapy in patients with HER2-negative, previously untreated, unresectable, advanced, or recurrent gastric/gastroesophageal junction cancer: 3-year follow-up of the ATTRACTION-4 randomized, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. *Gastric Cancer*, 27 (6):1287-1301, 2024.
- 033 **Yagisawa M, Taniguchi H, Satoh T, Kadowaki S, Sunakawa Y, Nishina T, Komatsu Y, Esaki T, Sakai D, Doi A, Kajiwara T, Ono H, Asano M, Hirano N, Odegaard J, Fujii S, Nomura S, Bando H, Sato A, Yoshino T, Nakamura Y** : Trastuzumab Deruxtecan in Advanced Solid Tumors With Human Epidermal Growth Factor Receptor 2 Amplification Identified by Plasma Cell-Free DNA Testing: A Multicenter, Single-Arm, Phase II Basket Trial. *J Clin Oncol*, 42 (32):3817-3825, 2024.
- 034 **Nakamura Y, Watanabe J, Akazawa N, Hirata K, Kataoka K, Yokota M, Kato K, Kotaka M, Kagawa Y, Yeh KH, Mishima S, Yukami H, Ando K, Miyo M, Misumi T, Yamazaki K, Ebi H, Okita K, Hamabe A, Sokuoka H, Kobayashi S, Laliotis G, Aushev VN, Sharma S, Jurdi A,**

- Liu MC, Aleshin A, Rabinowitz M, Bando H, Taniguchi H, Takemasa I, Kato T, Kotani D, Mori M, Yoshino T, Oki E* : ctDNA-based molecular residual disease and survival in resectable colorectal cancer. *Nat Med*, 30 (11) :3272-3283, 2024.
- 035 *Takashima A, Hamaguchi T, Mizusawa J, Nagashima F, Ando M, Ojima H, Denda T, Watanabe J, Shinozaki K, Baba H, Asayama M, Hasegawa S, Masuishi T, Nakata K, Tsukamoto S, Katayama H, Nakamura K, Fukuda H, Kanemitsu Y, Shimada Y; Colorectal Cancer Study Group in Japan Clinical Oncology Group (JCOG)* : Oxaliplatin Added to Fluoropyrimidine/Bevacizumab as Initial Therapy for Unresectable Metastatic Colorectal Cancer in Older Patients: A Multicenter, Randomized, Open-Label Phase III Trial (JCOG1018). *J Clin Oncol*, 42 (33) :3967-3976, 2024.
- 036 *Siena S, Raghav K, Masuishi T, Yamaguchi K, Nishina T, Elez E, Rodriguez J, Chau I, Di Bartolomeo M, Kawakami H, Suto F, Koga M, Inaki K, Kuwahara Y, Takehara I, Barrios D, Kobayashi K, Grothey A, Yoshino T* : HER2-related biomarkers predict clinical outcomes with trastuzumab deruxtecan treatment in patients with HER2-expressing metastatic colorectal cancer: biomarker analyses of DESTINY-CRC01. *Nat Commun*, 15 (1) :10213, 2024.
- 037 *Muro K* : [Lower G. I. /Colon and Rectum Cancer Changes in the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) Guidelines 2024 for the Treatment of Colorectal Cancer]. *Gan To Kagaku Ryoho*, 51 (11) :1119, 2024.
- 038 *Andre T, Elez E, Van Cutsem E, Jensen LH, Bennouna J, Mendez G, Schenker M, de la Fouchardiere C, Limon ML, Yoshino T, Li J, Lenz HJ, Manzano Mozo JL, Tortora G, Garcia-Carbonero R, Dahan L, Chalabi M, Joshi R, Goekkurt E, Braghiroli MI, Cil T, Cela E, Chen T, Lei M, Dixon M, Abdullaev S, Lonardi S; CheckMate 8HW Investigators(Taniguchi H, Mashiishi T)* : Nivolumab plus Ipilimumab in Microsatellite-Instability-High Metastatic Colorectal Cancer. *N Engl J Med*, 391 (21) :2014-2026, 2024.
- 039 *Sakakida T, Kadowaki S* : Early switch maintenance in gastric cancer: who benefits most?. *Lancet Oncol*, 25 (12) :1508-1509, 2024.
- 040 *Kawakami H, Nakanishi K, Makiyama A, Konishi H, Morita S, Narita Y, Sugimoto N, Minashi K, Imano M, Inamoto R, Kodera Y, Kume H, Yamaguchi K, Hashimoto W, Muro K; EN-DEAVOR Study Group* : Real-world effectiveness and safety of trastuzumab-deruxtecan in Japanese patients with HER2-positive advanced gastric cancer (EN-DEAVOR study). *Gastric Cancer*, 28 (1) :51-61, 2025.
- 041 *Kawakami H, Nakanishi K, Makiyama A, Konishi H, Morita S, Narita Y, Sugimoto N, Minashi K, Imano M, Inamoto R, Kodera Y, Kume H, Yamaguchi K, Hashimoto W, Muro K; EN-DEAVOR Study Group* : Correction: Real-world effectiveness and safety of trastuzumab-deruxtecan in Japanese patients with HER2-positive advanced gastric cancer (EN-DEAVOR study). *Gastric Cancer*, 28 (1) :62, 2025.
- 042 *Nakamura Y, Ozaki H, Ueno M, Komatsu Y, Yuki S, Esaki T, Taniguchi H, Sunakawa Y, Yamaguchi K, Kato K, Denda T, Nishina T, Takahashi N, Satoh T, Yasui H, Satake H, Oki E, Kato T, Ohta T, Matsuhashi N, Goto M, Okano N, Ohtsubo K, Yamazaki K, Yamashita R, Iida N, Yuasa M, Bando H, Yoshino T* : Targeted therapy guided by circulating tumor DNA analysis in advanced gastrointestinal tumors. *Nat Med*, 31 (1) :165-175, 2025.
- 043 *Nakamura Y, Kaneva K, Lo C, Neems D, Freaney JE, Boulos H, Hyun SW, Islam F, Yamada-Hanff J, Driessen TM, Sonnenschein A, DeSantis DF, Kotani D, Watanabe J, Kotaka M, Mishima S, Bando H, Yamazaki K, Taniguchi H, Takemasa I, Kato T, Sangli C, Tell R, Blidner R, Yoshino T, Sasser K, Oki E, Nimeiri H* : A Tumor-Naïve ctDNA Assay Detects Minimal Residual Disease in Resected Stage II or III Colorectal Cancer and Predicts Recurrence: Subset Analysis from the GALAXY Study in CIRCULATE-Japan. *Clin Cancer Res*, 31 (2) :328-338, 2025.
- 044 *Taniguchi H, Uehara K, Ishikawa T, Okochi O, Akazawa N, Okuda H, Hasegawa H, Shiozawa M, Kataoka M, Satake H, Shimura T, Kondoh C, Kuramochi H, Matsumoto T, Takegawa N, Yamaguchi T, Nagase M, Nakamura M, Takano N, Fujita H, Watanabe T, Nishina T, Sakamoto Y, Moriwaki T, Ohori H, Nakanishi M, Kito Y, Utsunomiya S, Ishikawa T, Manaka D, Matsuoka H, Suto T, Arai T, Shinzaki S, Funakoshi T, Nakayama G, Negoro Y, Tsuji Y, Makiyama A, Takuma K, Arimoto A, Shinozaki K, Mishima A, Masuishi T* : BRAF V600E and Non-V600E Mutations in RAS Wild-Type Metastatic Colorectal Cancer: Prognostic and Therapeutic Insights from a Nationwide, Multicenter, Observational Study (J-BROS). *Cancers (Basel)*, 17 (3) :399, 2025.
- 045 *Imai M, Nakamura Y, Shin S, Okamoto W, Kato T, Esaki T, Kato K, Komatsu Y, Yuki S, Masuishi T, Nishina T, Sawada K, Sato A, Kuwata T, Yamashita R, Fujisawa T, Bando H, Ock CY, Fujii S, Yoshino T* : Artificial Intelligence-Powered Human Epidermal Growth Factor Receptor 2 and Tumor Microenvironment Analysis in Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-Amplified Metastatic Colorectal Cancer: Exploratory Analysis of Phase II TRIUMPH Trial. *JCO Precis Oncol*, 9 :e2400385, 2025.

- 046 **Siena S, Raghav K, Masuishi T, Yamaguchi K, Nishina T, Elez E, Rodriguez J, Chau I, Di Bartolomeo M, Kawakami H, Suto F, Koga M, Inaki K, Kuwahara Y, Takehara I, Barrios D, Kobayashi K, Grothey A, Yoshino T** : Publisher Correction: HER2-related biomarkers predict clinical outcomes with trastuzumab deruxtecan treatment in patients with HER2-expressing metastatic colorectal cancer: biomarker analyses of DESTINY-CRC01. *Nat Commun*, 16 (1):704, 2025.
- 047 **Shimomura K, Ogata T, Maeda A, Narita Y, Taniguchi H, Murotani K, Fujiwara Y, Tajika M, Hara K, Muro K, Uchida K** : Investigation of the association between therapeutic effectiveness of anamorelin and Glasgow prognostic score in patients with cancer cachexia: a competing risk analysis. *Invest New Drugs*, 43 (1): 118-125, 2025.
- 048 **Nakata A, Hashimoto N, Narita Y, Wakabayashi M, Kodama H, Ogata T, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Endo Y, Kotani H, Kataoka A, Hattori M, Yoshimura A, Sawaki M, Nozawa K, Oze I, Iwata H, Muro K** : Safety of a short-term infusion of fosnetupitant in patients with gastrointestinal and breast cancer: a prospective study. *Oncologist*, 30 (2): oyae223, 2025.
- 049 **Yamada Y, Seto Y, Yoshikawa T, Takeuchi H, Kitagawa Y, Kodera Y, Doki Y, Yoshida K, Muro K, Kabeya Y, Kamada A, Nagashima K, Kumamaru H, Tachimori H, Sasako M, Katai H, Konno H, Kakeji Y** : Postoperative adjuvant chemotherapy in patients with gastric cancer based on the Nationwide Gastric Cancer Registry in Japan. *Glob Health Med*, 7 (1): 13-27, 2025.
- 050 **Honda K, Kajimoto Y, Suzuki S, Mori M, Nakao K, Azuma A, Shibutani T, Nagao S, Koyanagi T, Kohara I, Tamaki S, Yabuki M, Teng L, Igarashi A** : Prospective changes in financial toxicity and health-related quality of life in patients with gynecologic cancer. *Int J Clin Oncol*, 30 (2): 380-388, 2025.
- 051 **Komori A, Hironaka S, Kadowaki S, Mitani S, Furuta M, Kawakami T, Makiyama A, Takegawa N, Sugiyama K, Hirano H, Ando T, Matsushima T, Chida A, Kashiwada T, Komoda M, Matsumoto T, Oda H, Yabusaki H, Kawakami H, Yamazaki K, Boku N, Hyodo I, Yoshimura K, Muro K; West Japan Oncology Group (WJOG)** : Prevalence and clinicopathological features of microsatellite instability-high metastatic or recurrent gastric and esophagogastric junction cancer: WJOG13320GPS. *Gastric Cancer*, 28 (2): 301-308, 2025.
- 052 **Kodama H, Kadowaki S, Ishizuka Y, Wakabayashi M, Sakakida T, Honda K, Masuishi T, Narita Y, Taniguchi H, Ando M, Kishikawa T, Terada H, Beppu S, Nishikawa D, Suzuki H, Hanai N, Muro K** : Paclitaxel plus cetuximab versus nivolumab for patients with platinum-refractory recurrent or metastatic head and neck squamous cell carcinoma: a retrospective analysis. *Int J Clin Oncol*, 30 (3): 480-488, 2025.
- 053 **Bando H, Kumagai S, Kotani D, Mishima S, Irie T, Itahashi K, Tanaka Y, Habu T, Fukaya S, Kondo M, Tsushima T, Hara H, Kadowaki S, Kato K, Chin K, Yamaguchi K, Kageyama SI, Hojo H, Nakamura M, Tachibana H, Wakabayashi M, Fukui M, Fuse N, Koyama S, Mano H, Nishikawa H, Shitara K, Yoshino T, Kojima T** : Atezolizumab following definitive chemoradiotherapy in patients with unresectable locally advanced esophageal squamous cell carcinoma - a multicenter phase 2 trial (EPOC1802). *Nat Cancer*, 6 (3): 445-459, 2025.
- 054 **Watanabe T, Oka H, Nagashima K, Nishi H, Kumai Y, Iijima H, Okami K, Shimizu Y, Kano S, Ito K, Yamazaki T, Takahashi H, Oridate N, Yokota T, Koyama T, Kiyota N, Sato Y, Takahashi S, Kato K, Kadowaki S, Honma Y** : Clinical outcomes of recurrent or metastatic head and neck cancer after failure of platinum and nivolumab: a multicenter retrospective study. *Oncologist*, 30 (3): oyaf018, 2025.
- 055 **Shiraishi K, Okada M, Yamamoto S, Matsubara Y, Masuishi T, Shimozaki K, Yamamoto Y, Hirose S, Sugiyama K, Furuta M, Machida N, Takahashi N, Yoshii T, Kito Y, Tsuzuki T, Boku S, Tsuchihashi K, Sugaya A, Takayama T, Komori A, Mitani S, Matsumoto T, Nishimura T, Hirata K** : The efficacy and safety of FOLFOX therapy for advanced esophageal squamous cell carcinoma. *Sci Rep*, 15 (1): 8031, 2025.
- 056 **Satoh T, Barthélémy P, Nogova L, Honda K, Hirano H, Lee KW, Rha SY, Ryu MH, Park JO, Doi T, Ajani J, Hangai N, Kremer J, Mina M, Liu M, Shitara K** : Phase 2 study of futibatinib in patients with gastric or gastroesophageal junction cancer harboring FGFR2 amplifications. *Eur J Cancer*, 218:115262, 2025.
- 057 室 圭 : がんゲノム医療の現状と展望 05 特集にあたって. *Pharma Medica* vol.41 No.2, 5, 2024.
- 058 室 圭 : がんゲノム医療の現状と展望 06 座談会 わが国における腫瘍内科の存在意義と今後の展望. *Pharma Medica* vol.41 No.2, 6-11, 2024.
- 059 榊田智喜, 谷口浩也 : がんゲノム医療の現状と展望 49 がん治療の新たな臨床試験-プラグマティック臨床試験-. *Pharma Medica* vol.41 No.2, 49-53, 2024.
- 060 若林宗弘, 室 圭 : Ⅷ食道癌の治療 4. 薬物療法 (1) 高齢者に対する化学療法の考え方. *日本臨増刊号 食道癌 2024-基礎・臨床の最新動向*, 399-406, 2024.
- 061 榊田智喜, 谷口浩也 : がん治療の新たな臨床試験-プラグマティック臨床試験-. *Pharma Medica* Vol.41 No.2, 115-119, 2024.
- 062 室 圭 : 編集 改訂第5版の序. *オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法 改訂5版*, v, 2024.
- 063 児玉紘幸, 谷口浩也 : 大腸癌に対する周術期補助化学療法. *臨床消化器内科* 第39巻第9号, 178-188, 2024.

- 064 若林宗弘, 谷口浩也: 特集 徹底解説 大腸癌治療ガイドライン 2024 切除不能大腸癌に対する導入薬物療法後の維持療法. 臨床外科 79 卷 9 号, 1016-1022, 2024.
- 065 児玉紘幸, 室 圭: N 抗 EGFR 抗体薬併用療法. 外科医のための大腸癌薬物療法ガイドブック, 125-132, 2024.
- 066 谷口浩也: Q エンコラフェニブ+セツキシマブ (+ ビニメチニブ) 療法 R エヌトレクチニブ, ラロトレクチニブ療法. 外科医のための大腸癌薬物療法ガイドブック, 148-149, 2024.
- 067 室 圭, 荒井保明: 第 4 回 腫瘍内科と IVR. Pharma Medica vol.41 No.4, 68-71, 2024.
- 068 水野太朗, 室 圭: 第 II 章レジメン別プロのコツ 1 胃がん 三次治療~② Nivolumab (Nivo). 第 3 版 消化器がん薬物療法 副作用マネジメント プロのコツ, 66-68, 2025.
- 069 谷口浩也: 第 II 章レジメン別プロのコツ 2 大腸がん 特殊③ [NTRK 融合遺伝子陽性] ENTR or LARO. 第 3 版 消化器がん薬物療法 副作用マネジメント プロのコツ, 143-145, 2025.
- 070 水野太朗, 舩石俊樹, 室 圭: 4 大腸癌に対する薬物療法. 消化器外科 2025-2 vol.48 No.2, 151-157, 2025.
- 071 室 圭: ガイドライン作成委員会. 胃癌治療ガイドライン 医師用 2025 年 3 月改訂【第 7 版】, 2025.
- 072 成田有季哉, 榊田智喜: システムティックレビュー委員. 胃癌治療ガイドライン 医師用 2025 年 3 月改訂【第 7 版】, 2025.
- 073 谷口浩也: がん最新の薬物療法 2025-2026, 2025.
- NA, David SN, Dupont WD, Plummer WD, Ferrer KT, Geromes A, Hsieh MS, Hernandez-Prera JC, Kuo YJ, Sasaki E, Shi Q, Truong T, Velez Torres JM, Lewis JS Jr.: DEK :: AFF2 Fusion Sinonasal and Skull Base Nonkeratinizing Squamous Cell Carcinoma: A Clinical Outcome Study Compared With Conventional Sinonasal Squamous Cell Carcinoma. Am J Surg Pathol, 1:49 (2):130-137, 2025.
- 004 Fujiwara Y, Masago K, Matsuzawa R, Yamaguchi T, Watanabe N, Shimizu J, Sasaki E, Horio Y: Long-Term Response of Lorlatinib to Leptomeningeal Metastasis in Patients with Anaplastic Lymphoma Kinase Fusion Positive Non-Small Lung Cancer: A Case Report. Case Rep Oncol, 27:17 (1):942-949, 2024.
- 005 Kimura R, Adachi Y, Hirade K, Kisoda S, Yanase S, Shibata N, Ishii M, Fujiwara Y, Yamaguchi R, Fujita Y, Hosoda W, Ebi H: ARAF Amplification in Small-Cell Lung Cancer-Transformed Tumors Following Resistance to Epidermal Growth Factor Receptor-Tyrosine Kinase Inhibitors. Cancers (Basel), 16:16 (20):3501, 2024.
- 006 Tawada K, Shimizu Y, Natsume S, Asano T, Okuno M, Ito S, Komori K, Abe T, Hara K, Hosoda W, Matsuhashi N: Clinical impact of intraoperative pancreatic transection margin analysis and additional resection during pancreaticoduodenectomy for pancreatic ductal adenocarcinoma. Pancreatology, 24 (7):1174-1181, 2024.
- 007 Endo Y, Kotani H, Tamura N, Tanaka K, Kudo C, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Kataoka A, Nozawa K, Ozaki Y, Isogai A, Komaki R, Nakakami A, Kureyama N, Kusudo M, Hosoda W, Kawabata H, Iwata H: Utility of a breast biopsy clip and a point marker system in tailored axillary surgery for patients with breast cancer after neoadjuvant chemotherapy. Breast Cancer, 31 (6):1130-1136, 2024.
- 008 Maeda K, Uehara T, Hosoda W, Kuraishi Y, Ota H: Expression profiles of cadherin 17 and claudin 18.2 in comparison with peptide hormonal expression in pancreatic neuroendocrine tumours: Implications for targeted immunotherapy. Pathol Res Pract, 262:155537, 2024.
- 009 Masago K, Kuroda H, Sasaki E, Fujita Y, Fujita S, Horio Y, Endo M, Ishihara H, Hanai N, Matsushita H: Novel gene fusions in human oropharyngeal carcinoma. Cancer Genet, 286-287:29-34, 2024.
- 010 Sugita Y, Muraoka D, Demachi-Okamura A, Komuro H, Masago K, Sasaki E, Fukushima Y, Matsui T, Shinohara S, Takahashi Y, Nishida R, Takashima C, Yamaguchi T, Horio Y, Hashimoto K, Tanaka I, Hamana H, Kishi H, Miura D, Tanaka Y, Onoue K, Onoguchi K, Yamashita Y, Stratford R, Clancy T, Yamaguchi R, Kuroda H, Ishibashi H, Okubo K, Matsushita H: Candidate tumor-specific CD8+ T cell subsets identified in the malignant pleural effusion of advanced lung cancer patients by single-cell analysis. Oncoimmunology, 28:13 (1):2371556, 2024.

臨床検査部

- 001 Kemmoku E, Kusumoto S, Kato S, Kawaguchi Y, Hagiwara S, Saito T, Tokumasu F, Nonaka A, Yanada M, Kinoshita T, Hosoda W, Yamamoto K: Composite Mantle Cell Lymphoma and T-cell Prolymphocytic Leukemia: A Case Report. Journal of Clinical and Experimental Hematopathology, 65 (2):107-114, 2025.

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 Masago K, Fujita S, Sasaki E, Horio Y: Do germline genetic variants affect the efficacy of epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitors?. Transl Cancer Res, 31:13 (12):6599-6602, 2024.
- 002 Sasaki E, Fujita Y, Masago K, Iwakoshi A, Hanai N, Matsushita H: S100-positive stroma in salivary gland basal cell adenomas: a neoplastic component with CTNBN1 mutations. Virchows Arch, 486 (5):1033-1038, 2025.
- 003 Hart SA, Hang JF, Chernock RD, Mikula MW, Rooper L, Amin SE, Saluja K, Bishop JA, Chen YH, Cipriani

- 011 **Toriyama K, Uehara T, Iwakoshi A, Kawashima H, Hosoda W** : HNF6 and HNF4 α expression in adenocarcinomas of the liver, pancreaticobiliary tract, and gastrointestinal tract: an immunohistochemical study of 480 adenocarcinomas of the digestive system. *Pathology*, 56 (6):804-813, 2024.
- 012 **Chiba Y, Doi T, Obayashi K, Sumida K, Nagasaka S, Wang KY, Yamasaki K, Masago K, Matsushita H, Kuroda H, Yatera K, Endo M** : Caspase-4 promotes metastasis and interferon- γ -induced pyroptosis in lung adenocarcinoma. *Commun Biol*, 7:7 (1):699, 2024.
- 013 **Ito K, Honma N, Ogata H, Yamada A, Miyashita M, Arai T, Sasaki E, Shibuya K, Mikami T, Sawaki M** : Clinicopathological importance of Bcl-2 and p53 in postmenopausal triple-negative breast carcinoma and association with age. *Pathol Int*, 74 (10):574-582, 2024.
- 014 **Okamoto T, Mizuta R, Takahashi Y, Otani Y, Sasaki E, Horio Y, Kuroda H, Matsushita H, Date I, Hashimoto N, Masago K** : Genomic landscape of glioblastoma without IDH somatic mutation in 42 cases: a comprehensive analysis using RNA sequencing data. *J Neurooncol*, 167 (3):489-499, 2024.
- 015 **Narita K, Okuno M, Natsume S, Asano T, Saito H, Negita M, Ito S, Komori K, Abe T, Hara K, Okuno N, Hosoda W, Shimizu Y** : A case of acinar cell carcinoma originating from the accessory papilla of the duodenum. *Surg Case Rep*, 16:10 (1):87, 2024.
- 016 **Sasaki E, Masago K, Matsushita H** : Are Solitary Fibrous Tumors of the Pancreas the Same Tumor as Pancreatic Hamartomas?. *Am J Surg Pathol*, 1:48 (8):1060, 2024.
- 017 **Hattori M, Honma N, Nagai S, Narui K, Shigechi T, Ozaki Y, Yoshida M, Sakatani T, Sasaki E, Tanabe Y, Tsurutani J, Takano T, Saji S, Masuda S, Horii R, Tsuda H, Yamaguchi R, Toyama T, Yamauchi C, Toi M, Yamamoto Y** : Trastuzumab deruxtecan for human epidermal growth factor receptor 2-low advanced or metastatic breast cancer: recommendations from the Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines. *Breast Cancer*, 31 (3):335-339, 2024.
- 018 **Kato S, Hamada M, Okamoto A, Yamashita D, Miyoshi H, Arai H, Satou A, Gion Y, Sato Y, Tsuyuki Y, Miyata-Takata T, Takata K, Asano N, Takahashi E, Ohshima K, Tomita A, Hosoda W, Nakamura S, Okuno Y** : EBV+ nodal T/NK-cell lymphoma associated with clonal hematopoiesis and structural variations of the viral genome. *Blood Adv*, 2024.
- 019 **Iwakoshi A, Kikui H, Nakashima R, Goto Y, Ichikawa D, Sasaki E, Sekimizu M, Hattori H, Maeda N** : CD30 expression in an emerging group of mesenchymal spindle cell neoplasms with ALK fusion detected by flow cytometry and immunohistochemistry. *Genes Chromosomes Cancer*, 63 (2):e23228, 2024.
- 020 **Sasaki E, Matsushita H, Masago K, Hanai N** : RAS Mutations in Esophageal Squamous Papilloma. *Int J Surg Pathol*, 32 (6):1232-1233, 2024.
- 021 **Ishihara H, Nishikawa D, Muraoka D, Masago K, Beppu S, Terada H, Matsushita H, Hanai N** : Changes in serum DAMPs and cytokines/chemokines during near-infrared photoimmunotherapy for patients with head and neck cancer. *Cancer Med*, 13 (1):e6863, 2024.
- 022 **Yamaguchi T, Masago K, Sasaki E, Kuroda H, Matsushita H, Horio Y** : EML4-ALK Variant 3a/b as a mechanism of osimertinib resistance in a patient with EGFR L858R positive NSCLC. *Cancer Genet*, 280-281:13-16, 2024.
- 023 **Horio Y, Kuroda H, Masago K, Matsushita H, Sasaki E, Fujiwara Y** : Current diagnosis and treatment of salivary gland-type tumors of the lung. *Jpn J Clin Oncol*, 9:54 (3):229-247, 2024.
- 024 **Sasaki E, Terada H, Oishi N, Iwakoshi A, Masago K, Matsushita H, Yamamoto H, Hanai N, Tateyama H** : Expression of CD5 in salivary gland tumors: an ancillary marker for carcinoma showing thymus-like differentiation (CASTLE) of the major salivary gland. *Virchows Arch*, 484 (6):945-950, 2024.
- 025 **Shiraishi K, Takahashi A, Momozawa Y, Daigo Y, Kaneko S, Kawaguchi T, Kunitoh H, Matsumoto S, Horinouchi H, Goto A, Honda T, Shimizu K, Torasawa M, Takayanagi D, Saito M, Saito A, Ohe Y, Watanabe SI, Goto K, Tsuboi M, Tsuchihara K, Takata S, Aoi T, Takano A, Kobayashi M, Miyagi Y, Tanaka K, Suzuki H, Maeda D, Yamaura T, Matsuda M, Shimada Y, Mizuno T, Sakamoto H, Yoshida T, Goto Y, Yoshida T, Yamaji T, Sonobe M, Toyooka S, Yoneda K, Masago K, Tanaka F, Hara M, Fuse N, Nishizuka SS, Motoi N, Sawada N, Nishida Y, Kumada K, Takeuchi K, Tanno K, Yatabe Y, Sunami K, Hishida T, Miyazaki Y, Ito H, Amemiya M, Totsuka H, Nakayama H, Yokose T, Ishigaki K, Nagashima T, Ohtaki Y, Imai K, Takasawa K, Minamiya Y, Kobayashi K, Okubo K, Wakai K, Shimizu A, Yamamoto M, Iwasaki M, Matsuda K, Inazawa J, Shiraishi Y, Nishikawa H, Murakami Y, Kubo M, Matsuda F, Kamatani Y, Hamamoto R, Matsuo K, Kohno T** : Identification of telomere maintenance gene variations related to lung adenocarcinoma risk by genome-wide association and whole genome sequencing analyses. *Cancer Commun (Lond)*, 44 (2):287-293, 2024.

頭頸部外科部

- 001 **Baliga S, Abou-Foul AK, Parente P, Szturz P, Thariat J, Shreenivas A, Nankivell P, Bertolini F, Biau J, Blakaj D, Brennan S, Brunet A, De Oliveira TB, Burtness B, Maseda AC, Chow VL, Chua ML, de Ridder M, Garikipati S, Hanai N, Ho FCH, Huang SH, Kiyota N, Klinghammer**

- K, Kowalski LP, Kwong DL, McDowell LJ, Merlano MC, Nair S, Economopoulou P, Overgaard J, Psyrris A, Tribius S, Waldron J, Yom SS, Mehanna H*: Essential data variables for a minimum dataset for head and neck cancer trials and clinical research: HNCIG consensus recommendations and database. *Eur J Cancer*, 203:114038, 2024.
- 002 *Iwaki S, Kadowaki S, Honda K, Narita Y, Masuishi T, Taniguchi H, Ando M, Muro K, Sawabe M, Suzuki H, Nishikawa D, Beppu S, Terada H, Kishikawa T, Kawakita D, Hanai N*: Survival impact of sequential chemotherapy following pembrolizumab for recurrent or metastatic head and neck squamous cell carcinoma. *Int J Clin Oncol*, 29 (6):764-770, 2024.
- 003 *Imamura Y, Kiyota N, Tahara M, Kodaira T, Hayashi R, Nishino H, Asada Y, Mitani H, Iwae S, Nishio N, Onozawa Y, Hanai N, Ohkoshi A, Hara H, Monden N, Nagaoka M, Minami S, Kitabayashi R, Sasaki K, Homma A*: Head, Neck Cancer Study Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG-HNCSSG) . Risk prediction model for cisplatin-induced acute kidney injury in patients with head and neck cancer receiving chemoradiotherapy: A re-analysis of a phase II/III JCOG1008 trial. *Oral Oncol*, 154:106868, 2024.
- 004 *Sasaki E, Terada H, Oishi N, Iwakoshi A, Masago K, Matsushita H, Yamamoto H, Hanai N, Tateyama H*: Expression of CD5 in salivary gland tumors: an ancillary marker for carcinoma showing thymus-like differentiation (CASTLE) of the major salivary gland. *Virchows Arch*, 484 (6) : 945-950, 2024.
- 005 *Masago K, Kuroda H, Sasaki E, Fujita Y, Fujita S, Horio Y, Endo M, Ishihara H, Hanai N, Matsushita H*: Novel gene fusions in human oropharyngeal carcinoma. *Cancer Genet*, 286-287:29-34, 2024.
- 006 *Ishihara H, Nishikawa D, Muraoka D, Masago K, Beppu S, Terada H, Matsushita H, Hanai N*: Changes in serum DAMPs and cytokines/chemokines during near-infrared photoimmunotherapy for patients with head and neck cancer. *Cancer Med*, 13 (1) :e6863, 2024.
- 007 *Iwaki S, Kadowaki S, Honda K, Narita Y, Masuishi T, Taniguchi H, Ando M, Muro K, Sawabe M, Suzuki H, Nishikawa D, Beppu S, Terada H, Kishikawa T, Kawakita D, Hanai N*: Survival impact of sequential chemotherapy following pembrolizumab for recurrent or metastatic head and neck squamous cell carcinoma. *Int J Clin Oncol*, 29 (6) :764-770, 2024.
- 008 *Sasaki E, Terada H, Hanai N*: Comment on ““Ectopic thymic carcinoma of the parotid gland””. *Int J Oral Maxillofac Surg*, 53 (7) : 626-627, 2024.
- 009 *Tsujiikawa T, Ohno K, Morita KI, Saburi S, Mitsuda J, Yoshimura K, Kimura A, Morimoto H, Ogi H, Shibata S, Akashi T, Kurata M, Imoto I, Shimizu Y, Kano S, Watanabe A, Yamazaki T, Asada Y, Hayashi R, Saito Y, Ozawa H, Tsukahara K, Oridate N, Sano D, Horii A, Ueki Y, Maruo T, Mukoyama N, Hanai N, Fukusumi T, Iwai H, Fujisawa T, Fujii T, Nibu KI, Iwae S, Ueda T, Chikuiie N, Yasumatsu R, Matsuo M, Umeno H, Ono T, Masuda M, Toh S, Itoh K, Hirano S, Asakage T*: Clinical, genomic and immune microenvironmental determinants of nivolumab response in head and neck squamous cell carcinoma. *Front Immunol*, 15:1390873, 2024.
- 010 *Shimizu H, Kodaira T, Kiyota N, Hayashi R, Nishino H, Asada Y, Mitani H, Hirayama Y, Onozawa Y, Nishio N, Hanai N, Ohkoshi A, Hara H, Monden N, Nagaoka M, Minami S, Fujii T, Tanaka K, Homma A, Yoshimoto S, Oridate N, Omori K, Ueda T, Okami K, Uemura H, Shiga K, Nakahira M, Asakage T, Saito Y, Sasaki K, Kitabayashi R, Ishikura S, Nishimura Y, Tahara M*: Incidence and risk factors associated with the development of hypothyroidism after postoperative chemoradiotherapy for head and neck cancer patients with high-risk features: Supplementary analysis of JCOG1008. *Oral Oncol*, 157:106976, 2024.
- 011 *Sasaki E, Matsushita H, Masago K, Hanai N*: RAS Mutations in Esophageal Squamous Papilloma. *Int J Surg Pathol*, 32 (6) :1232-1233, 2024.
- 012 *Imamura Y, Kiyota N, Tahara M, Kodaira T, Hayashi R, Nishino H, Asada Y, Mitani H, Iwae S, Nishio N, Onozawa Y, Hanai N, Ohkoshi A, Hara H, Monden N, Nagaoka M, Minami S, Kitabayashi R, Sasaki K, Homma A*; **Head and Neck Cancer Study Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG-HNCSSG)**: Effect of acute kidney injury and overall survival in patients with postoperative head and neck cancer who received chemoradiotherapy with cisplatin: A supplementary analysis of the phase II/ III trial of JCOG1008. *Cancer Med*, 13 (18) :e70235, 2024.
- 013 *Oyama A, Nakamura R, Nakakawaji M, Nishikawa D, Beppu S, Maruyama Y, Okumura S, Hanai N, Takanari K*: Reconstruction of the Infraorbital Nerve Using Bilayered Artificial Nerve Conduits after Partial Maxillectomy. *Plast Reconstr Surg Glob Open*, 12 (10) :e6214, 2024.
- 014 *Yokoyama K, Wasano K, Sasaki K, Machida R, Nakahira M, Kitamura K, Sakagami T, Takeshita N, Ohkoshi A, Suzuki M, Tateya I, Morishita Y, Sekimizu M, Nakayama M, Koyama T, Shibata H, Miyamaru S, Kiyota N, Hanai N, Homma A*: Frequency of use and cost in Japan of first-line palliative chemotherapies for recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck. *Jpn J Clin Oncol*, 54 (10) :1115-1122, 2024.
- 015 *Oridate N, Takahashi S, Tanaka K, Shimizu Y, Fujimoto Y, Matsumoto K, Yokota T, Yamazaki T, Takahashi M, Ueda T, Hanai N, Yamaguchi H, Hara H, Yoshizaki T, Yasumatsu R, Nakayama M, Shiga K, Fujii T, Mitsugi K, Takahashi K, Nohata N, Gumuscu B, Lerman N, Tahara M*: First-line pembrolizumab with or without chemotherapy for recurrent or metastatic head and neck squamous cell carcinoma: 5-year follow-up of the Japanese population of KEYNOTE-048. *Int J Clin Oncol*, 29 (12) :1825-1839, 2024.

- 016 **Goto S, Suzuki H, Beppu S, Nishikawa D, Sawabe M, Terada H, Hanai N, Sone M**: Lymph node density as prognostic factor in regional recurrent or residual head and neck cancer. *Acta Otolaryngol*, 145 (1):81-87, 2025.
- 017 **Yasuda K, Kiyota N, Matsuura K, Saito S, Honma Y, Imamura Y, Tanaka K, Zenda S, Onoe T, Kodaira T, Kobayashi S, Aoyama H, Hanai N, Homma A**: Indications for chemoradiotherapy in older patients with locally advanced head and neck cancer in Japan: a questionnaire survey in the JCOG head and neck cancer study group. *Front Oncol*, 14:1441056, 2025.
- 018 **Terada H**: Role of ultrasonography in the diagnosis of cervical lymph node metastasis from head and neck squamous cell carcinoma. *J Med Ultrason* (2001), 52 (1):1-3, 2025.
- 019 **Hagiwara S, Hyodo I, Nishikawa D, Ando M, Maeda N, Ozawa S, Hasegawa Y, Hanai N**: Segmental mandibular resection and reconstruction using a multidisciplinary approach in adolescent and young adult patients: A case of Ewing sarcoma with a eight-year follow-up. *J Oral Maxillofac Surg Med Pathol*, 37 (1):123-129, 2025.
- 020 **Sato K, Toh S, Murakami T, Nakano T, Hongo T, Matsuo M, Hashimoto K, Sugawara M, Yamazaki K, Ueki Y, Nakashima T, Uryu H, Ono T, Umeno H, Ueda T, Kano S, Tsukahara K, Watanabe A, Ota I, Monden N, Iwae S, Maruo T, Asada Y, Hanai N, Sano D, Ozawa H, Asakage T, Fukusumi T, Masuda M**: Nationwide multi-centric prospective study for the identification of biomarkers to predict the treatment responses of nivolumab through comprehensive analyses of pretreatment plasma exosome mRNAs from head and neck cancer patients (BI-ONEXT study). *Front Immunol*, 15:1464419, 2025.
- 021 **Nishikawa D, Shimabukuro T, Suzuki H, Beppu S, Terada H, Kobayashi Y, Hanai N**: Predictive Factors for the Efficacy of Head and Neck Photoimmunotherapy and Optimization of Treatment Schedules. *Cancer Diagn Progn*, 5 (2):179-188, 2025.
- 022 **Kodama H, Kadowaki S, Ishizuka Y, Wakabayashi M, Sakakida T, Honda K, Masuishi T, Narita Y, Taniguchi H, Ando M, Kishikawa T, Terada H, Beppu S, Nishikawa D, Suzuki H, Hanai N, Muro K**: Paclitaxel plus cetuximab versus nivolumab for patients with platinum-refractory recurrent or metastatic head and neck squamous cell carcinoma: a retrospective analysis. *Int J Clin Oncol*, 30 (3):480-488, 2025.
- 023 **Kishikawa T, Terada H, Sawabe M, Beppu S, Nishikawa D, Suzuki H, Hanai N**: Utilization of ultrasound in photoimmunotherapy for head and neck cancer: a case report. *J Ultrasound*, 28 (1):193-197, 2025.
- 024 **Masago K, Ishihara H, Kuroda H, Sasaki E, Fujita Y, Fujita S, Horio Y, Sawabe M, Beppu S, Nishikawa D, Terada H, Kishikawa T, Suzuki H, Shibata H, Ogawa T, Hanai N, Matsushita H**: Biological landscape of human papilloma virus-related head and neck cancer according to virus genotype. *Cancer Genet*, 294-295:27-31, 2025.
- 025 **岸川敏博, 花井信広**: 【ランドマークはこれだ! 局所解剖アトラス】 喉頭・下咽頭 外切開による喉頭部分切除術のための局所解剖. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科*, 96(5):224-229, 2024.
- 026 **塚本康二, 花井信広**: 【頭頸部がん診療の Controversy】 予防的頸部郭清術 本当に要る?. *早期舌がん*. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科*, 96 (4): 371-373, 2024.
- 027 **花井信広**: 頭頸部がん治療の最前線. *顎顔面補綴*, 47 (1):1-5, 2024.
- 028 **杉谷 巖, 伊藤康弘, 小野田尚佳, 絹谷清剛, 清田尚臣, 近藤哲夫, 杉野公則, 廣正 智, 堀内喜代美, 森谷季吉, 原 尚人, 尾身葉子, 吉田有策, 松津賢一, 友田智哲, 山崎春彦, 高野悠子, 伊藤勅子, 銭 真臣, 數阪広子, 松井満美, 小山泰司, 能田拓也, 戸田宗治, 石川久美, 川本晃史, 福原隆宏, 中山博貴, 菅沼伸康, 佐藤伸也, 森 祐輔, 進藤久和, 武信真佐夫, 安慶名信也, 西川 徹, 加藤 弘, 佐藤真実, 山崎知子, 手島直則, 和田哲郎, 田村温美, 三崎万理子, 宇野敦彦, 太田一郎, 野田 諭, 福島光浩, 金井敏晴, 竹内直人, 花井信広, 堀口和彦, 武内 大, 岩久建志, 中野賢英, 舛岡裕雄, 大場崇旦, 渡部直史, 松本佳子, 井口研子, 山下 智, 松尾知平, 日本内分泌外科学会甲状腺腫瘍診療ガイドライン作成委員会: 甲状腺腫瘍診療ガイドライン 2024. *日本内分泌外科学会雑誌*, 41 (2): 1-116, 2024.**
- 029 **飯田倫子, 深田順子, 花井信広**: 頭頸部がん患者におけるボディイメージの障害に関する患者報告アウトカム尺度 (IMAGE-HN) 日本語版の開発. *頭頸部癌*, 50 (3):254-260, 2024.

形成外科部

- 001 **Okumura S**: Secondary revision after breast reconstruction with free abdominal perforator flap : Flap liposuction and IMF reconstruction. *PRS Global Open*, 12:e6336, 2024.
- 002 **Oyama A**: Reconstruction of the Infraorbital Nerve Using Bilayered Artificial Nerve Conduits after Partial Maxillectomy. *PRS Global Open*, 12:e6214, 2024.

乳腺科部

- 001 **Horisawa N, Yoshimura A, Oze I, Sawaki M, Hattori M, Kotani H, Kataoka A, Ozaki Y, Nozawa K, Endo Y, Takatsuka D, Isogai A, Iwata H**: Supraclavicular irradiation induces lymphedema in breast cancer patients treated with axillary lymph node dissection and taxane-containing chemotherapy. *The Breast Journal*, Volume 2024, Issue 1, 2024.

- 002 **Iwata H, Xu B, Kim S-B, Chung W-P, Park YH, Kim MH, Tseng L-M, Chung C-F, Huang C-S, Kim JH, Wing J, Chiu Y, Yamashita T, Li W, Egorov A, Nishijima S, Nakatani S, Nishiyama Y, Sugihara M, Cortés J, Im S-A** : Trastuzumab deruxtecan versus trastuzumab emtansine in Asian patients with HER2-positive metastatic breast cancer. *Cancer Science*, Volume115, Issue9 (3079-3088), 2024.
- 003 **Isogai A, Nozawa K, Nakakami A, Komaki R, Ozaki Y, Endo Y, Kataoka A, Kotani H, Yoshimura A, Hattori M, Sawaki M, Iwata H** : Clinical benefit of post-trastuzumab deruxtecan treatment in patients with HER 2-positive unresectable or metastatic breast cancer: A single-institution retrospective observational study. *Breast Cancer Research and Treatment*, Volume 207 (253-261), 2024.
- 004 **Hattori M, Serelli-Lee V, Naito Y, Yamanaka T, Yasojima H, Nakamura R, Fujisawa T, Imai M, Nakamura Y, Bando H, Kawaguchi T, Yoshino T, Iwata H** : Genomic Landscape of Circulating Tumor DNA in Patients With Hormone Receptor-Positive/Human Epidermal Growth Factor Receptor-2-Negative Metastatic Breast Cancer Treated With Abemaciclib: Data From the SCRUM-Japan Cancer Genome Screening Project. *JCO Precision Oncology*, 8:e2300647.doi:10.1200/PO.23.00647, 2024.
- 005 **Endo Y, Kotani H, Tamura N, Tanaka K, Kudo C, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Kataoka A, Nozawa K, Ozaki Y, Isogai A, Komaki R, Nakakami A, Kureyama N, Kusudo M, Hosoda W, Kawabata H, Iwata H** : Utility of a breast biopsy clip and a point marker system in tailored axillary surgery for patients with breast cancer after neoadjuvant chemotherapy. *Breast Cancer*, Nov;31 (6): 1130-1136, 2024.
- 006 **Hattori M, Honma N, Nagai S, Narui K, Shigechi T, Ozaki Y, Yoshida M, Sakatani T, Sasaki E, Tanabe Y, Tsurutani J, Takano T, Saji S, Masuda S, Horii R, Tsuda H, Yamaguchi R, Toyama T, Yamauchi C, Toi M, Yamamoto Y** : Trastuzumab deruxtecan for human epidermal growth factor receptor 2-low advanced or metastatic breast cancer: recommendations from the Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines. *Breast Cancer*, 31 (3):335-339, 2024
- 007 **Hattori M** : Role of circulating tumor cells in breast cancer. *Breast Cancer*, 32 (1):26-32, 2025.
- 008 **Iwata H, Naito Y, Hattori M, Yoshimura A, Yonemori K, Aizawa M, Mori Y, Yoshimitsu J, Umeyama Y, Mukohara T** : Safety and pharmacokinetics of vepdegestrant in Japanese patients with ER+ advanced breast cancer: a phase 1 study. *Int J Clin Oncol*, 30 (1):72-82, 2025.

消化器外科部

- 001 **Abe T, Fujieda H, Higaki E, Komori K, Ito S, Shimizu Y** : Thoracoscopic salvage esophagectomy with prophylactic mediastinal lymph node dissection after definitive chemoradiotherapy for patients with esophageal cancer. *Surgical Endoscopy*, 38:4695-4703, 2024.
- 002 **Nakamura Y, Tsukada Y, Matsushashi N, Murano T, Shiozawa M, Takahashi Y, Oki E, Goto M, Kagawa Y, Kanazawa A, Ohta T, Ouchi A, Bando H, Uchigata H, Nodate C, Ikematsu H, Yoshino T** : Colorectal Cancer Recurrence Prediction Using a Tissue-Free Epigenomic Minimal Residual Disease Assay. *Clinical Cancer Research*, 30:4377-4387, 2024.
- 003 **Komori K, Yoshida M, Tsukushi S, Kinoshita T, Sato Y, Oichi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsune S, Higaki E, Asano T, Okuno M, Fujieda H, Saito H, Narita K, Kitahara T, Hanazawa T, Ojio H, Negita M, Yasuoka H, Shimizu Y** : Combined Pubic Arch and Ischial Bone Resection for Metachronous and Frequent Local Recurrences of Rectal Cancer. *Anticancer Research*, 44:3205-3211, 2024.
- 004 **Komori K, Yamada K, Ajioka Y, Sugihara K** : Significance of lateral lymph node dissection in squamous cell carcinoma of the anal canal: a retrospective cohort study. *Langenbeck's Archives of Surgery*, 409:157, 2024.
- 005 **Narita K, Okuno M, Natsume S, Asano T, Saito H, Negita M, Ito S, Komori K, Abe T, Hara K, Okuno N, Hosoda W, Shimizu Y** : A case of acinar cell carcinoma originating from the accessory papilla of the duodenum. *Surgical Case Reports*, 10:1186, 2024.
- 006 **Maeda S, Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Muro K, Taniguchi H, Masuishi T, Ito S, Abe T, Shimizu Y** : Risk factors affecting delay of initiating adjuvant chemotherapy for stage III colorectal cancer. *International Journal of Clinical Oncology*, 29:1293-1301, 2024.
- 007 **Ouchi A, Iwahori Y, Suzuki K, Funahashi K, Fukui S, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Shimizu Y** : Artificial Intelligence Imaging Diagnosis Using Super-Resolution and Three-Dimensional Shape for Lymph Node Metastasis of Low Rectal Cancer: A Pilot Study From a Single Center. *Diseases of the Colon & Rectum*, 67:1131-1138, 2024.
- 008 **Aritake T, Natsume S, Asano T, Okuno M, Itoh N, Matsuo K, Ito S, Komori K, Abe T, Shimizu Y** : Significance of blood culture testing after pancreatoduodenectomy. *Ann Gastroenterol Surg*, 8:888-895, 2024.
- 009 **Komori K, Takii Y, Mizusawa J, Ikeda S, Kobatake T, Kanemitsu Y, Shiozawa M, Ohue M, Hamaguchi T, Katayama H, Fukuda H** : Long-term follow-up of the conventional versus no-touch isolation technique for resection of primary colon cancer (JCOG1006) : randomized clinical trial. *BJS Open*, 8:133, 2024.

- 010 **Tawada K, Shimizu Y, Natsume S, Asano T, Okuno M, Ito S, Komori K, Abe T, Hara K, Hosoda W, Matsuhashi N** : Clinical impact of intraoperative pancreatic transection margin analysis and additional resection during pancreaticoduodenectomy for pancreatic ductal adenocarcinoma. *Pancreatology*, 124:1174-1181, 2024.
- 011 **Ouchi A, Tsukamoto S, Takashima A, Shimada Y, Hamaguchi T, Inomata M, Takii Y, Sadachi R, Kanemitsu Y** : Response to Comment on: "Prognostic Relevance of Primary Tumor Sidedness in Early-Stage Colorectal Cancer: An Integrated Analysis of 4 Randomized Controlled Trials. *Annals of Surgery Open*, 5:505, 2024.
- 012 **Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Malakorn S, Manomayangoon C, Ito S, Abe T, Shimizu Y** : Significance of Lateral Pelvic Lymph Node Dissection in Resectable Stage IV Low Rectal Cancer: Experience from a Single Center in Japan. *J Anus Rectum Colon*, 258:356-364, 2024.
- 013 **Takatsu J, Higaki E, Abe T, Fujieda H, Yoshida M, Yamamoto M, Shimizu Y** : Critical swallowing functions contributing to dysphagia in patients with recurrent laryngeal nerve paralysis after esophagectomy. *Esophagus*, 21:111-119, 2024.
- 014 **Oka S, Tanaka S, Kajiwara Y, Saito S, Fukunaga Y, Takamatsu M, Kawachi H, Hotta K, Ikematsu H, Kojima M, Saito Y, Yamada M, Kanemitsu Y, Sekine S, Nagata S, Yamada K, Kobayashi N, Ishihara S, Saitoh Y, Matsuda K, Togashi K, Komori K, Ishiguro M, Kuwai T, Okuyama T, Ohuchi A, Ohnuma S, Sakamoto K, Sugai T** : Treatment Decision for Locally Resected T1 Colorectal Carcinoma-Verification of the Japanese Guideline Criteria for Additional Surgery Based on Long-Term Clinical Outcomes. *American Journal of Gastroenterology*, 119:2019-2027, 2024.
- 015 **Yamashita K, Oka S, Yamada T, Mitsui K, Yamamoto H, Takahashi K, Shiomi A, Hotta K, Takeuchi Y, Kuwai T, Ishida F, Kudo SE, Saito S, Ueno M, Sunami E, Yamano T, Itabashi M, Ohtsuka K, Kinugasa Y, Matsumoto T, Sugai T, Uraoka T, Kurahara K, Yamaguchi S, Kato T, Okajima M, Kashida H, Akagi Y, Ikematsu H, Ito M, Esaki M, Kawai M, Yao T, Hamada M, Horimatsu T, Koda K, Fukai Y, Komori K, Saitoh Y, Kanemitsu Y, Takamaru H, Yamada K, Nozawa H, Takayama T, Togashi K, Shinto E, Torisu T, Toyoshima A, Ohmiya N, Kato T, Otsuji E, Nagata S, Hashiguchi Y, Sugihara K, Ajioka Y, Tanaka S** : Clinicopathological features and prognosis of primary small bowel adenocarcinoma: a large multicenter analysis of the JSCCR database in Japan. *Journal of Gastroenterology*, 59:376-388, 2024.
- 016 **Takaiso N, Imoto I, Yoshimura A, Ouchi A, Komori K, Iwata H, Shimizu Y** : BARD1 deletion in a patient with suspected hereditary colorectal cancer. *Human Genome Variation*, 11:11, 2024.
- 017 **Chikatani K, Ishida H, Mori Y, Nakajima T, Ueki A, Akagi K, Takao A, Yamada M, Taniguchi F, Komori K, Sasaki K, Sudo T, Miyakura Y, Chino A, Yamaguchi T, Tanakaya K, Tomita N, Ajioka Y** : Risk of metachronous colorectal cancer after surgical resection of index rectal cancer in Lynch syndrome: a multicenter retrospective study in Japan. *Surgery Today*, 54:1075-1083, 2024.
- 018 **Tamaru Y, Kuwai T, Kajiwara Y, Oka S, Saito S, Fukunaga Y, Kawachi H, Takamatsu M, Hotta K, Ikematsu H, Kojima M, Saito Y, Kanemitsu Y, Yamada M, Sekine S, Tanaka S, Nagata S, Nakamura T, Yamada K, Konno M, Ishihara S, Saitoh Y, Matsuda K, Togashi K, Komori K, Ishiguro M, Okuyama T, Ohuchi A, Ohnuma S, Sakamoto K, Sugai T, Katsumata K, Matsushita HO, Yamano HO, Nakai K, Uraoka T, Akimoto N, Kobayashi H, Ajioka Y, Sugihara K, Ueno H** : Long-Term Outcomes of Additional Surgery After Endoscopic Resection Versus Primary Surgery for T1 Colorectal Cancer. *American Journal of Gastroenterology*, 119:2418-2425, 2024.
- 019 **Ito S, Tsukamoto S, Kagawa H, Kanemitsu Y, Hiro J, Kawai K, Nozawa H, Takii Y, Yamaguchi T, Akagi Y, Suto T, Hirano Y, Ozawa H, Komori K, Ohue M, Toiyama Y, Shinji S, Minami K, Shimizu T, Sakamoto K, Uehara K, Sugihara K, Kinugasa Y, Ajioka Y** : Short- and long-term outcomes of surgical treatment for inguinal lymph node metastasis in rectal and anal canal adenocarcinoma. *Colorectal Disease*, 26:1378-1387, 2024.
- 020 **Chino A, Tanakaya K, Nakajima T, Akagi K, Takao A, Yamada M, Ishida H, Komori K, Sasaki K, Miguchi M, Hirata K, Sudo T, Miyakura Y, Ishikawa T, Yamaguchi T, Tomita N, Ajioka Y** : Colorectal cancer and advanced adenoma characteristics according to causative mismatch repair gene variant in Japanese colorectal surveillance for Lynch syndrome. *Journal of Gastroenterology*, 59:699-708, 2024.
- 021 **Ito S, Kinugasa Y, Yamauchi S, Sato H, Hirakawa A, Ishihara S, Shiomi A, Kanemitsu Y, Suto T, Takahashi H, Itabashi M, Shiozawa M, Hiyoshi M, Kobatake T, Komori K, Egi H, Ozawa H, Yamaguchi T, Inada R, Ito M, Hirano Y, Furutani A, Tanabe Y, Ueno H, Ohue M, Hida K, Kawai K, Sunami E, Ishida H, Uehara K, Watanabe J, Hotchi M, Ishibe A, Takii Y, Hiro J, Numata M, Takemasa I, Kato T, Kakeji Y, Hirata A, Ajioka Y** : Long-term Outcome After Surgical Resection of Para-aortic Lymph Node Metastasis of Colorectal Cancer: A Multicenter Retrospective Study. *Diseases of the Colon & Rectum*, 67:1423-1436, 2024.
- 022 **Oka S, Tanaka S, Kajiwara Y, Saito S, Fukunaga Y, Takamatsu M, Kawachi H, Hotta K, Ikematsu H, Kojima M, Saito Y, Yamada M, Kanemitsu Y, Sekine S, Nagata S, Yamada K, Kobayashi N, Ishihara S, Saitoh Y, Matsuda K, Togashi K, Komori K, Ishiguro M, Kuwai T, Okuyama T, Ohuchi A, Ohnuma S, Sakamoto K, Sugai T** : Correction

to: Treatment Decision for Locally Resected T1 Colorectal Carcinoma-Verification of the Japanese Guideline Criteria for Additional Surgery Based on Long-Term Clinical Outcomes. *American Journal of Gastroenterology*, 119:2352, 2024.

- 023 **Kobayashi H, Kotake K, Maeda K, Suto T, Kawasaki M, Ueno H, Komori K, Ozawa H, Koda K, Ohue M, Funahashi K, Takemasa I, Ishida H, Kazama S, Shimada Y, Morohashi H, Kinugasa Y, Kanemitsu Y, Ochiai H, Ishihara S, Itabashi M, Sugihara K, Ajioka Y** : Peritoneal lavage cytology in patients with curative resection for stage II and III colorectal cancer: A multi-institutional prospective study. *Annals of Gastroenterological Surgery*, 8:807-816, 2024.
- 024 **Kobayashi H, Asano M, Ishiguro M, Ishihara S, Inomata M, Kanemitsu Y, Komori K, Matsumoto H, Sugihara K, Ajioka Y** : Multi-institutional Registry of Large Bowel Cancer in Japan Conducted by the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum in 2023: Cases Treated in 2015. *Journal of the Anus, Rectum and Colon*, 8:265-270, 2024.
- 025 **Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Malakorn S, Manomayagoon C, Ito S, Abe T, Shimizu Y** : Significance of Lateral Pelvic Lymph Node Dissection in Resectable Stage IV Low Rectal Cancer: Experience from a Single Center in Japan. *Journal of the Anus, Rectum and Colon*, 8:356-364, 2024.
- 026 **Kanemitsu Y, Uotani T, Tsukamoto S, Ueno H, Ishiguro M, Ishihara S, Komori K, Sugihara K** : Nomograms Predicting Survival, Recurrence and Beneficiary Identification of Adjuvant Chemotherapy in Treatment-naïve Patients with Rectal Cancer who Underwent Upfront Curative Resection: A multi-institutional study. *Annals of Surgery Open*, 4:e508, 2024.
- 027 **Oshima T, Yoshikawa T, Miyagi Y, Morita S, Yamamoto M, Tanabe K, Nishikawa K, Ito Y, Matsui T, Kimura Y, Aoyama T, Ogata T, Cho H, Tsuburaya A, Sakamoto J** : Biomarker Study for Selecting Neoadjuvant Chemotherapy Regimens Based on Prognostic Prediction Using Gastric Cancer Biopsy Specimens from a Phase II Randomized Controlled Trial. *Anticancer Res*, 44:4951-4960, 2024.
- 028 **Ouchi A, Komori K, Ito S, Kinugasa Y, Ishihara S, Shiomi A, Kanemitsu Y, Suto T, Takahashi H, Ajioka Y** : Does surgical intervention contribute to survival for patients with para-aortic lymph node metastasis from colorectal cancer?. *AGSurg*, 2025.
- 029 **Negita M, Misawa K, Ito Y, Ito S, Abe T, Komori K, Shimizu Y** : A Novel Liver Retraction Method Using a Polypropylene Suture in Robotic Gastrectomy for Gastric Cancer: The Subphrenic Pulley Method. *Asian Journal of Endoscopic Surgery*, 18:e70047, 2025.

- 030 **Narita K, Higaki E, Abe T, Fujieda H, Hashimoto S, Kadowaki S, Tajika M, Kodaira T, Muro K, Shimizu Y** : Conversion from Radical Esophagectomy to Definitive Chemoradiotherapy After Neoadjuvant Chemotherapy for Advanced Esophageal Squamous Cell Carcinoma: Treatment Options Based on Chemotherapy Response. *Ann Surg Oncol*. 32:3157-3166, 2025.
- 031 **赤座 賢, 大内 晶, 國友愛奈, 佐藤雄介, 木下敬史, 小森康司** : 集学的治療時代における大腸癌大動脈周囲リンパ節転移に対する外科切除の意義. *日本大腸肛門病会誌*, 76:233, 2024.
- 032 **小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣榮治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 斎藤悠文, 成田 潔, 北原拓哉, 花澤隆明, 小塩英典, 禰亘田真史, 安岡宏展, 清水泰博** : 大腸癌における大動脈周囲リンパ節郭清に必要な解剖. *医学書院*, 79:906-913, 2024.
- 033 **安部哲也, 檜垣榮治, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 清水泰博** : 愛知県がんセンターの技と工夫. *医学書院*, 79:132-135, 2024.
- 034 **大内 晶, 小森康司, 安部哲也, 室 圭, 清水泰博** : 消化管メラノーマ治療の現状と課題. *癌の臨床*, 68:323-330, 2024.

整形外科部

- 001 **Takemori T, Hara H, Kawamoto T, Fukase N, Sawada R, Fujiwara S, Fujita I, Fujimoto T, Morishita M, Yahiro S, Miyamoto T, Saito M, Sugaya J, Hayashi K, Kawashima H, Torigoe T, Nakamura T, Kondo H, Wakamatsu T, Watanuki M, Kito M, Tsukushi S, Nagano A, Outani H, Toki S, Nishimura S, Kobayashi H, Watanabe I, Demizu Y, Sasaki R, Fukumoto T, Matsumoto T, Kuorda R, Akisue T** : Comparison of clinical outcome between surgical treatment and particle beam therapy for pelvic bone sarcomas: A retrospective multicenter study in Japan. *J Orthop Sci*, Jul 3:S0949-2658 (24) 00108-8, 2024.
- 002 **Tsukushi S, Tanaka K, Kunisada T, Machida R, Takenaka S, Kawai A, Katagiri H, Takeyama M, Endo M, Hayashi K, Nakayama R, Hatano H, Emori M, Yoshida S, Kojima T, Sakamoto A, Imanishi J, Kita R, Ozaki T, Iwamoto Y** : Clinicopathological background of local recurrence in high grade sarcoma of the extremity with preoperative chemotherapy: a supplementary analysis of JCOG0304. *Japanese Journal of Clinical Oncology*, 5:55 (6) : 603-609, 2025.
- 003 **Hiraga H, Machida R, Kawai A, Kunisada T, Yonemoto T, Endo M, Nishida Y, Nagano A, Ae K, Yoshida S, Asanuma K, Toguchida J, Furuta T, Nakayama R, Akisue T, Hiruma T, Morii T, Nishimura H, Hiraoka K, Takeyama M, Emori M, Tsukushi S, Hatano H, Kawashima H, Isu**

K, Tanaka K, Kataoka T, Fukuda H, Iwamoto Y, Ozaki T : Methotrexate, Doxorubicin, and Cisplatin Versus Methotrexate, Doxorubicin, and Cisplatin + Ifosfamide in Poor Responders to Preoperative Chemotherapy for Newly Diagnosed High-Grade Osteosarcoma (JCOG0905) :A Multicenter, Open-Label, Randomized Trial. J Clin Oncol, 43 (16): 1886-1897, 2025.

- 004 **村瀬史典, 中島浩敦, 濱田俊介, 筑紫 聡, 高津哲郎 :** 臨床室 診断に難渋し急速に多発骨転移をきたした足底発 生線維形成性黒色腫の1例. 整形外科, 75 (8), 831-835, 2024.
- 005 **筑紫 聡 :** 診療科横断的に血管肉腫を考える 整形外科医が扱う血管肉腫の臨床学的特徴. Skin Cancer, 39 (2) :136-140, 2024.
- 006 **藤原那沙, 濱田俊介, 吉田雅博, 筑紫 聡, 佐々木栄一, 細田和貴 :** 右足関節前面皮下腫瘍の1例. 東海骨軟部腫瘍, 30:29-30, 2024.
- 007 **濱田俊介, 藤原那沙, 吉田雅博, 筑紫 聡, 佐々木栄一, 細田和貴 :** 右大腿骨近位部骨腫瘍の1例. 東海骨軟部腫瘍, 30:21-22, 2024.
- 008 **濱田俊介, 藤原那沙, 吉田雅博, 筑紫 聡, 佐々木栄一, 羽根田正隆, 谷田部 恭 :** 右肩軟部腫瘍の1例. 東海骨軟部腫瘍, 30:1-2, 2024.

泌尿器科部

- 001 **Kitano G, Tanaka S, Kato M, Itoh N, Kojima T :** Successful treatment and remission of advanced testicular cancer after COVID-19 infection during induction chemotherapy. IJU Case Rep,7 (4): 289-292, 2024.
- 002 **Kitano G, Kojima T :** Optimal choice of first-line treatment for advanced renal cell carcinoma based on the results of extended follow-up data. Transl Androl Urol,13 (8): 1336-1340, 2024.
- 003 **Kato M :** Editorial Comment on "Efficacy of pembrolizumab plus lenvatinib as first-line treatment for metastatic renal cell carcinoma with multiple brain metastases". IJU Case Rep,8 (1): 9-10, 2024.
- 004 **Ryota I, Goshi K, Manabu K, Takahiro K :** Granulocyte colony-stimulating factor-associated aortitis in a man with advanced prostate cancer. IJU Case Rep,8 (3): 190-193, 2025.
- 005 **北野剛士, 小島崇宏 :** 臨床腎・泌尿器癌 (中) - 基礎・臨床研究の進歩 膀胱癌再発のメカニズム. 日本臨牀,82 卷 : 増刊号 9 号, 2024.
- 006 **筏井亮太, 北野剛士, 小島崇宏 :** 抗がん薬化学療法中の発熱・嘔吐. 臨床泌尿器科, 79 卷 :3 号, 2025.

婦人科部

- 001 **Uekusa R, Yokoi A, Watanabe E, Yoshida K, Yoshihara M, Tamauchi S, Shimizu Y, Ikeda Y, Yoshikawa N, Niimi K, Suzuki S, Kajiyama H :** Safety assessments and clinical features of PARP inhibitors from real-world data of Japanese patients with ovarian cancer. Sci Rep. 1;14 (1): 12595. doi: 10.1038/s41598-024-63600-z, 2024.
- 002 **Uekusa R, Yokoi A, Watanabe E, Yoshida K, Yoshihara M, Tamauchi S, Shimizu Y, Ikeda Y, Yoshikawa N, Niimi K, Suzuki S, Kajiyama H :** Real-world data of poly (ADP-ribose) polymerase inhibitor response in Japanese patients with ovarian cancer. Cancer Med. 13 (7):e7149. doi: 10.1002/cam4.7149, 2024.
- 003 **Nishio S, Ushijima K, Ishikawa M, Tokunaga H, Horie K, Yamaguchi S, Suzuki S, Yahata H, Tsuda H, Satoh T :** Diagnostic accuracy and prognostic factors of uterine serous carcinoma in Japanese women: a multi-center study. Japanese Clinical Oncology Group (JCOG) Gynecologic Cancer Study Group. J Gynecol Oncol. 2025 Mar 11. doi: 10.3802/jgo. 2025.36.e93. Online ahead of print., 2024.
- 004 **Honda K, Kajimoto Y, Suzuki S, Mori M, Nakao K, Azuma A, Shibutani T, Nagao S, Koyanagi T, Kohara I, Tamaki S, Yabuki M, Teng L, Igarashi A :** Prospective changes in financial toxicity and health-related quality of life in patients with gynecologic cancer. Int J Clin Oncol. 2025 Feb;30 (2): 380-388. doi: 10.1007/s10147-024-02668-z. Epub 2024.
- 005 **鈴木史朗 :** Paget 病. 産科婦人科疾患最新の治療 2025-2027, p187, 2024.

脳神経外科部

- 001 **Ohno M, Kuramitsu S, Yamashita K, Nagasaka T, Haimoto S, Fujita M :** Tumor-Infiltrating B Cells and Tissue-Resident Memory T Cells as Prognostic Indicators in Brain Metastases Derived from Gastrointestinal Cancers. Cancers, 3765, 2024.
- 002 **Nohira S, Kuramitsu S, Ohno M, Fujita M, Yamashita K, Nagasaka T, Haimoto S, Sakakura N, Matsushita H, Saito R :** Tertiary Lymphoid Structures in Brain Metastases of Lung Cancer: Prognostic Significance and Correlation With Clinical Outcomes. Anticancer research, 3615-3621, 2024.
- 003 **灰本章一 :** 転移性脊椎腫瘍に対する手術方針. 脳神経外科. 53:161-170, 2025.
- 004 **灰本章一 :** 脊椎脊髄ジャーナル: 転移性脊椎腫瘍治療大全: Separation surgery とは何か そのコンセプトと実際. 三輪書店. 37:841-847, 2024.

麻酔科部

- 001 **Nakai K, Hirate Y, Nakajima T, Doi A, Hiramatsu T, Higaki T, Nakai A** : Reliability and benefit of estimated continuous cardiac output measurement using shunt-side SpO₂ monitor in hemodialysis. Therapeutic Apheresis and Dialysis, Volume 29, Issue 1, pp. 61-69, 2024.

放射線診断部・IVR部

- 001 **Sato Y, Matsueda K, Inaba Y, Tsuchiya S, Yamamoto M, Abe T** : Lymphatic interventional radiology for postoperative lymphatic leakage. digestive disease interventions, 2024.
- 002 **Ikeda M, Yamashita T, Ogasawara S, Kudo M, Inaba Y, Morimoto M, Tsuchiya K, Shimizu S, Kojima Y, Hiraoka A, Nouso K, Akita H, Numata K, Sato T, Okusaka T, Furuse J** : Multicenter phase II trial of lenvatinib plus hepatic intra-arterial infusion chemotherapy with cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma:LEOPARD. Liver Cancer, 13;193-202, 2024.
- 003 **Irizato M, Sato Y, Murata S, Chatani S, Ouchi A, Kinoshita T, Yamaura H, Inaba Y** : Successful ureteral stent placement with rendezvous technique for ureteral obstruction after urinary diversion; A case report. Radiology Case Reports 19, 4908-4911, 2024.
- 004 **Sato Y, Matsueda K, Inaba Y** : Basic techniques and technical tips for ultrasound-guided needle puncture. Interventional Radiology, 9(3); 80-85, 2024.
- 005 **Hasegawa T, Shimizu H, Chatani S, Murata S, Hattori H, Inaba Y** : Effects of radioprotective equipment on radiation exposure to the operator's eye lens during computed tomography fluoroscopy-guided procedure. Journal of JART-English edition, 10:69-74, 2024.
- 006 **Yamaguchi T, Shimizu J, Shigematsu F, Watanabe N, Hasegawa T, Horio Y, Inaba Y** : Atezolizumab and nintedanib in patients with non-small cell lung cancer and interstitial lung disease. J Thorac Dis. 16(5): 3371-3380, 2024.
- 007 **Hasegawa T, Shimizu H, Asai T, Furuya Y, Hattori H, Inaba Y** : Effectiveness of attaching a lead drape to a radioprotective shield for CT Fluoroscopy-Guided procedures. J Vasc Interv Radiol. 35(6):936-938, 2024.
- 008 **Yamamoto A, Hiraki T, Ikeda O, Nishimura J, Yasumoto T, Hasegawa T, Tamura Y, Inaba Y, Iwasawa T, Uka M, Takaki H, Kodama H, Okuma T, Yamakado K** : Radiofrequency ablation in patients with interstitial lung disease and lung neoplasm:A retrospective multicenter study. J Vasc Interv Radiol. 35(9):1305-1312, 2024.

- 009 **Hasegawa T, Vroomen LGPH, Sivaraman A, Fujimori M, John NT, Coleman J, Mian BM, Srimathveeravalli G** : Effect transforming growth Factor- β inhibition on ureteral and renal scarring in a rat model of upper urinary tract ablation with Irreversible electroporation. Bioelectricity. 6(4): 272-279, 2024.
- 010 **Irizato M, Minamiguchi K, Uchiyama T, Kunichika H, Tachiiri T, Taiji R, Kitano A, Marugami N, Inaba Y, Tanaka T** : Hepatobiliary and pancreatic neoplasms:Essential predictive imaging features for personalized therapy. Gastrointestinal Imaging. 45(3), 1-19, 2025.
- 011 **Furuse J, Izumi N, Motomura K, Inaba Y, Katamura Y, Kondo Y, Yabushita K, Matsuoka T, Motoyoshi K, Kudo M** : Long-term survival of patients with unresectable hepatocellular carcinoma treated with lenvatinib in real-world clinical practice. Cancers 17, 479, 2-19, 2025.
- 012 **稲葉吉隆** : 術前準備とインフォームド・コンセント、リスクマネジメント. IVRマニュアル第3版, メジカルビュー社, 18-21, 2024.
- 013 **佐藤洋造** : 肝悪性腫瘍：転移性肝癌の肝動脈ビーズ塞栓術 (TAE). IVRマニュアル第3版, メジカルビュー社, 150-151, 2024.
- 014 **佐藤洋造** : 経皮経肝の胆嚢ドレナージ (PTGBD). IVRマニュアル第3版, メジカルビュー社, 289-291, 2024.
- 015 **稲葉吉隆** : 消化管ステント留置術. IVRマニュアル第3版, メジカルビュー社, 343-345, 2024.
- 016 **佐藤洋造** : 経皮的腎瘻造設術. IVRマニュアル第3版, メジカルビュー社, 346-348, 2024.
- 017 **佐藤洋造** : がん診療とIVR (根治的および緩和的). 腫瘍内科 33(3), 305-310, 2024.
- 018 **佐藤洋造** : IVR領域における治療効果判定 - 肝細胞癌を中心に -. 臨床画像 40(9), 1150-1156, 2024.
- 019 **佐藤洋造** : 肝転移に対するビーズTAE. 日本IVR学会誌, 39(3): 210-213, 2025.

放射線治療部

- 001 **Homma A, Ando M, Hanai N, Harada H, Honma Y, Kanda T, Kano S, Kawakita D, Kiyota N, Kizawa Y, Nakagawa M, Ogawa T, Shinomiya H, Shinozaki T, Suzuki M, Tsuji T, Yasuda K, Zenda S, Kodaira T, Kirita T, Nibu KI** : Summary of Japanese clinical practice guidelines for head and neck cancer - 2022 update edited by the Japan society for head and neck cancer. Auris Nasus Larynx, 51 (1) 174-188, 2024.
- 002 **Kodama H, Kadowaki S, Nakazawa T, Matsubara Y, Narita Y, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Ando M, Koide Y, Tachibana H, Kodaira T, Sawabe M, Terada H, Beppu S, Nishikawa D, Suzuki H, Hanai N, Muro K** : Safety and Efficacy of Gemcitabine Plus Cisplatin Against Recurrent/Metastatic Nasopharyngeal Carcinoma, A Retrospective Study. Anticancer Res, 44 (3) 1227-32, 2024.

- 003 **Koide Y, Nagai N, Adachi S, Ito M, Kawamura M, Ito M, Ito F, Shindo Y, Aoyama T, Shimizu H, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : Impact of Concurrent Antibody-Drug Conjugates and Radiotherapy on Symptomatic Radiation Necrosis in Breast Cancer Patients with Brain Metastases: A Multicenter Retrospective Study. *Journal of Neuro-Oncology*, 168:415-42, 2024.
- 004 **Koide Y, Shindo Y, Nagai N, Kitagawa T, Aoyama T, Shimizu H, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : Classification of patients with painful tumors to predict the response to palliative radiotherapy. *International Journal of Radiation Oncology, Biology, Physics*, 120:79-88, 2024.
- 005 **Koide Y, Haimoto S, Shimizu H, Aoyama T, Kitagawa T, Shindo Y, Nagai N, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : Re-Irradiation Spine Stereotactic Body Radiotherapy Following High-Dose Conventional Radiotherapy for Metastatic Epidural Spinal Cord Compression: A Retrospective Study. *Japanese Journal of Radiology*, 42 (6):662-72, 2024.
- 006 **Koide Y, Aoyama T, Tanaka H, Shindo Y, Nagai N, Kitagawa T, Shimizu H, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : Changing Trends in Gamma Knife Surgery to Linear Accelerator Brain Stereotactic Radiotherapy in Japan: A Survey Based on the Nationwide Claims Database. *Japanese Journal of Radiology*, 42 (4) :415-23, 2024.
- 007 **Aoyama T, Koide Y, Shimizu H, Kitagawa T, Iwata T, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : Trends and distribution of external radiation therapy facilities in Japan based on Survey of Medical Institutions from the Ministry of Health Labour and Welfare, JRR in press. *Japanese Journal of Radiology*, 42 (4) :415-23, 2024.
- 008 **Koide Y, Kodaira T** : Concurrent antibody-drug conjugates and radiotherapy: a new perspective on radiation necrosis in HER2-positive breast cancer brain metastases from the DESTINY-Breast03 and HER2CLIMB trials. *ESMO Open*, 9:103620, 2024.
- 009 **Nakajima K, Oguri M, Iwata H, Hattori Y, Hashimoto S, Nomura K, Hayashi K, Toshito T, Akita K, Baba F, Ogino H, Hiwatashi A** : Long-term survival outcomes and quality of life of image-guided proton therapy for operable stage I non-small cell lung cancer. A phase 2 study. *Radiation Oncology*, Jul;196:110276, 2024.
- 010 **Harada H, Shikama N, Notsu A, Shirato H, Yamada K, Uezono H, Koide Y, Kubota H, Yamazaki T, Ito K, Heianna J, Okada Y, Tonari A, Katoh N, Wada H, Ejima Y, Yoshida K, Kosugi T, Takahashi S, Komiyama T, Uchida N, Miwa M, Watanabe M, Nagakura H, Ikeda H, Saito T, Asakawa I, Takahashi T, Shigematsu N** : Multi-institutional prospective observational study of radiotherapy for metastatic bone tumor. *Journal of Radiation Research*, 65:701-11, 2024.
- 011 **Shindo Y, Koide Y, Nagai N, Kitagawa T, Aoyama T, Shimizu H, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : Palliative radiotherapy for painful non-bone lesions in patients with advanced cancer: A single center retrospective study. *Japanese Journal of Radiology*, 42 (6):656-61, 2024.
- 012 **Noguchi M, Shindo Y, Koide Y** : In Regard to Chen et al. *Int J Radiat Oncol Biol Phys*, 120:1193-4, 2024.
- 013 **Aoyama T, Shimizu H, Koide Y, Kamezawa H, Fukunaga J, Kitagawa T, Tachibana H, Suzuki K, Kodaira T** : Deep Learning-based Lung dose Prediction Using Chest X-ray Images in Non-small Cell Lung Cancer Radiotherapy. *J Med Phys*, Jan-Mar;49 (1):33-40, 2024.
- 014 **Watanabe Y, Koide Y, Shimizu H, Aoyama T, Shindo Y, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : Risk Stratification by Combination of Heart and Lung Dose in Locally Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer after Radiotherapy. *Cancers (Basel)*, 24:16 (19):3255, 2024.
- 015 **Shinomiya H, Matsuura K, Onimaru R, Ohkoshi A, Saito Y, Tachibana H, Shiga H, Ueda T, Asada Y, Uemura H, Beppu T, Seto A, Yasumatsu R, Nakahira M, Omura G, Asakage T, Minami S, Fujii T, Hirayama Y, Yoshida D, Nakamura K, Sasaki K, Mizusawa J, Fukuda J, Homma A** : Head and Neck Cancer Study Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG-HNCSG). *International Journal of Clinical Oncology*, 2025.
- 016 **Koide Y, Aoyama T, Noguchi M, Shindo Y, Kitagawa T, Shimizu H, Hashimoto S, Tachibana H, Kodaira T** : Trends in single-fraction palliative radiotherapy across the COVID-19 pandemic in Japan: a nationwide claims study. *Journal of Radiation Research*, 66:89-96, 2025.
- 017 **Utsumi N, Saito T, Shikama N, Takahashi T, Harada H, Nakamura N, Ueno S, Notsu A, Shirato H, Yamada K, Uezono H, Koide Y, Kubota H, Yamazaki T, Ito K, Heianna J, Okada Y, Tonari A, Katoh N, Wada H, Ejima Y, Yoshida K, Kosugi T, Takahashi S, Komiyama T, Uchida N, Miwa M, Watanabe M, Nagakura H, Ikeda H, Asakawa I, Shigematsu N** : Quality of life improvement after radiotherapy for bone metastases assessed using real-world data: a secondary analysis of a Nationwide Multicenter Cohort Study. *Jpn J Clin Oncol*, 55:140-7, 2025.
- 018 **Saito T, Shikama N, Takahashi T, Harada H, Nakamura N, Notsu A, Shirato H, Yamada K, Uezono H, Koide Y, Kubota H, Yamazaki T, Ito K, Heianna J, Okada Y, Tonari A, Katoh N, Wada H, Ejima Y, Yoshida K, Kosugi T, Takahashi S, Komiyama T, Uchida N, Miwa M, Watanabe M, Nagakura H, Ikeda H, Asakawa I, Shigematsu N** : Health utility of pain response versus nonresponse to palliative radiation therapy for symptomatic bone metastases: Analyses based on real-world data from 26 centers. *Journal of Palliative Medicine*, 28:42-9, 2025.

- 019 **Narita K, Higaki E, Abe T, Fujieda H, Hashimoto S, Kadowaki S, Tajika M, Kodaira T, Muro K, Shimizu Y**: Conversion from Radical Esophagectomy to Definitive Chemoradiotherapy After Neoadjuvant Chemotherapy for Advanced Esophageal Squamous Cell Carcinoma: Treatment Options Based on Chemotherapy Response. *AnnSurgOncol*. May, 32 (5):3157,3166.doi,101245/s10434-025-16955-0 Epub, Feb 14. PMID, 39953348, 2025.
- 020 **Noguchi M, Shindo Y, Wakabayashi K, Koide Y**: Significance of up-front stereotactic radiosurgery for non-small cell lung cancer patients with brain metastases in the era of new generation tyrosine kinase inhibitors. *J Clin Oncol*, 43:760-2, 2025.
- 021 **Takahashi, Y, Oshika, R, Tachibana, R, Shirai, K, Asakura, H, Miyazaki, M, Sagawa, T, Takahashi S, Kuwae, T, Kojima, H, Nishiyama S, Nemoto, H, Ishihara Y, Umeda M, Kijima K, Kobayashi D, Suzuki K, Nozawa Y, Hoshida, K, Kitagawa T, Endo H, Matsunaga Y, Itagaki H, Ishida M, Kanahara S, Horita R, Hori D, Tachibana H**: Spatial accuracy of dose delivery significantly impacts the planning target volume margin in linear accelerator-based intracranial stereotactic radiosurgery. *Sci Rep*, 15: 3608, 2025.
- 022 **古平 毅**: 頭頸部がん診療の Controversy 化学放射線療法どっちを選ぶ. *Triweekly CDDP-CRT 耳鼻咽喉科・頭頸部外科*, 96 (4):327-329, 2024.
- 023 **古平 毅**: 特集 頭頸部がんの術前・術後管理のコツ 術後 術後 (化学)放射線治療のコツ. *JOHNS*, 40 (7), 753-757, 2024.
- 004 **山口真澄, 深田順子, 鎌倉やよい, 渡邊直美, 西岡裕子, 宮谷美智子, 高津 淳, 前田明弘, 南谷志野, 安部哲也**: 食道がん患者における術前補助化学療法と手術療法に伴うサルコペニア関連指標の推移・単一施設の前向き観察研究. *日本看護科学会誌*, 44, P504-515, 2024.
- 005 **山口真由美**: 「特集 重症化を回避する! エキスパートの思考 症状・徴候×アセスメント・対処 【不整脈 (頻脈・徐脈を含む)】」. *重症集中ケア* 23 (4). P49-52, 2024.
- 006 **京 由紀子**: 侵襲の高い手術療法を受けた 80 代の患者さん. *YORi-SOU がんナーシング*, 14 (3), メディカ出版, P73-79, 2024.
- 007 **八重樫 裕**: 第 6 章 6 疾患・状態別 摂食嚥下障害看護食道癌. 摂食嚥下障害看護スタンダード, P276-283, 照林社, 2024.

薬剤部・臨床薬剤部

- 001 **Maeda A, Hori K, Sone Y, Hashimoto N, Uchida K**: Assessing floor contamination by antineoplastic agents in a Japanese medical institution specializing in cancer treatment. *J Oncol Pharm Pract*. 30 (5):880-883, 2024.
- 002 **Yamamoto S, Tsuchiya M, Iihara H, Hayasaki Y, Hori K, Kumakura Y, Watanabe D, Sakai H, Nakagawa S, Kudoh A, Oishi H, Kado N, Go M, Mashima K, Uchida T, Yasue M, Maeda A, Nishino K, Matsumoto K, Sato S, Ueda Y, Tomio K, Hayashi K, Takenaka M, Mori M, Kajiyama H, Bomoto Y, Suzuki S, Ishihara T, Suzuki A, Abe M**: Proposal for Classifying the Emetogenicity of Oral Anticancer Agents with a Focus on PARP Inhibitors: A Prospective, Observational, Multicenter Study (JAS-CC-CINV 2002). *J Cancer*, 15 (6):1487-1497, 2024.
- 003 **Fujii H, Tsuchiya M, Watanabe D, Otsuka R, Hirate D, Takahashi K, Go M, Kudo T, Shimomura K, Ando Y, Tani S, Takahashi T, Hayashi K, Chin M, Matsunami N, Takahashi M, Hasegawa A, Uchida T, Hashimoto H, Kubo A, Matsuhashi N, Suzuki A, Nishimura J, Inui N, Iihara H**: The emerging emetogenicity of trifluridine/tipiracil (TAS-102) from patient self-reporting: a multicenter, prospective, observational study. *Support Care Cancer*, 17:32 (5):291, 2024.
- 004 **Fujiwara Y, Shimomura K, Yamaguchi T, Shimizu J, Watanabe N, Matsuzawa R, Murotani K, Horio Y**: The incidence of drug-induced interstitial lung disease caused by epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitors or immune checkpoint inhibitors in patients with non-small cell lung cancer in presence and absence of vascular endothelial growth factor inhibitors: A systematic review. *Front Oncol*. 14:1419256, 2024.
- 005 **Usui R, Hamamoto Y, Imura M, Omori Y, Yamazaki Y, Kuwata H, Tatsuoka H, Shimomura K, Murotani K, Yamada Y, Seino Y**: Differential effects of imeglimin and

精神腫瘍科部

- 001 **小森康永**: ナラティヴの政治学 --- 隠喩と換喩. *N: ナラティヴとケア*, 16:84-88, 2025.
- 002 **小森康永**: ナラティヴ・メディスンでよき医療者を目指す. *作業療法ジャーナル*, 58 (4):316-321, 2024.
- 003 **小森康永**: 本邦におけるナラティヴ・セラピーの発展と課題: インサイダーウィットネス. *精神療法*, 50 (3):362-367, 2024.

看護部

- 001 **向井未年子**: がん看護と看護倫理 日常にある倫理的問題と実践. *へるす出版*, P138-143, 2025.
- 002 **久保 知**: 頭頸部癌術後の化学放射線療法の治療途中で入院された 70 代患者さん. *YORi-SO がんナーシング*, 14 (3), メディカ出版, P66-72, 2024.
- 003 **佐藤 好**: がん遺伝子パネル検査を受ける子宮体がん患者へのかかわり～心理サポートに焦点をあてて～. *がん看護* 30 (1) 1-2, 南江堂, P100-105, 2025.

metformin on insulin and incretin secretion—An exploratory randomized controlled trial. *Diabetes Obes Metab.* 27 (2):856-865, 2025.

- 006 **Shimomura K, Ogata T, Maeda A, Narita Y, Taniguchi H, Murotani K, Fujiwara Y, Tajika M, Hara K, Muro K, Uchida K** : Investigation of the association between therapeutic effectiveness of anamorelin and Glasgow prognostic Score in patients with cancer cachexia: A competing risk analysis. *Invest New Drugs*, 43 (1):118-125, 2025.
- 007 **Kawabata R, Nishikawa K, Kawase T, Kawada J, Kimura Y, Kashima Y, Ueda S, Takeno A, Shimomura K, Imamura H** : Multicenter phase II study on the efficacy of an oral nutritional supplement containing eicosapentaenoic acid in advanced gastric cancer patients with cachexia. *Gastric Cancer*. 28 (4):641-651, 2025.
- 008 前田章光, 楠本 茂, 安藤正志, 内田幸作, 山本一仁 : ダカルバジン供給停止が患者治療に及ぼした影響と, 医薬品供給停止時の医薬品確保の課題への提言. *臨床薬理* 55 (4):209-216, 2024.

ゲノム医療センター

- 001 **Bando H, Yamaguchi K, Mitani S, Sawada K, Mishima S, Komine K, Okugawa Y, Hosoda W, Ebi H** : Japanese Society of Medical Oncology clinical guidelines: Molecular testing for colorectal cancer treatment. 5th edition. *Cancer Sci*, 115 (3):1014-1021, 2024.

5. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (研究所)

研究所長

- 001 *Tsujikawa T, Ohno K, Morita KI, Saburi S, Mitsuda J, Yoshimura K, Kimura A, Morimoto H, Ogi H, Shibata S, Akashi T, Kurata M, Imoto I, Shimizu Y, Kano S, Watanabe A, Yamazaki T, Asada Y, Hayashi R, Saito Y, Ozawa H, Tsukahara K, Oridate N, Sano D, Horii A, Ueki Y, Maruo T, Mukoyama N, Hanai N, Fukusumi T, Iwai H, Fujisawa T, Fujii T, Nibu KI, Iwae S, Ueda T, Chikuie N, Yasumatsu R, Matsuo M, Umeno H, Ono T, Masuda M, Toh S, Itoh K, Hirano S, Asakage T*: Clinical, genomic and immune microenvironmental determinants of nivolumab response in head and neck squamous cell carcinoma. *Front Immunol*, 15:1390873, 2024.
- 002 *Takaiso N, Imoto I, Matsumoto T, Yoshimura A*: Novel *MLHI* nonsense variant in a patient with suspected Lynch syndrome. *Hum Genome Var*. 11:36, 2024.
- 003 井本逸勢, 高磯伸枝: 生殖細胞系列バリエーションの解釈とVUSの取り扱い. 婦人科腫瘍遺伝カウンセリングマニュアル 改訂2版, 38-42, 2024.
- 004 井本逸勢, 高磯伸枝: 遺伝学的検査の結果が病的意義不明のバリエーション (VUS) であった場合にどのように対処するべきか. 遺伝性乳癌卵巣癌 (HBOC) 診療ガイドライン 2024年版, 83-86, 2024.
- 005 井本逸勢: 臨床遺伝学とは? コアカリ準拠 臨床遺伝学テキストノート (改定第2版), 2-6, 2024.

がん情報・対策研究分野

- 001 *Chen Z, Guo X, Tao R, Huyghe J R, Law P J, Fernandez-Rozadilla C, Ping J, Jia G, Long J, Li C, Shen Q, Xie Y, Timofeeva M N, Thomas M, Schmit S L, Díez-Obrero V, Devall M, Moratalla-Navarro F, Fernandez-Tajes J, Palles C, Sherwood K, Briggs S E W, Svinti V, Donnelly K, Farrington S M, Blackmur J, Vaughan-Shaw P G, Shu X O, Lu Y, Broderick P, Studd J, Harrison T A, Conti D V, Schumacher F R, Melas M, Rennert G, Obón-Santacana M, Martín-Sánchez V, Oh J H, Kim J, Jee S H, Jung K J, Kweon S S, Shin M H, Shin A, Ahn Y O, Kim D H, Oze I, Wen W, Matsuo K, Matsuda K, Tanikawa C, Ren Z, Gao Y T, Jia W H, Hopper J L, Jenkins M A, Win A K, Pai R K, Figueiredo J C, Haile R W, Gallinger S, Woods M O, Newcomb P A, Duggan D, Cheadle J P, Kaplan R, Kerr R, Kerr D, Kirac I, Böhm J, Mecklin J P, Jousilahti P, Knekt P, Aaltonen L A, Rissanen H, Pukkala E, Eriksson J G, Cajuso T, Hänninen U, Kondelin J, Palin K, Tanskanen T, Renkonen-Sinisalo L, Männistö S, Albanes D, Weinstein S J, Ruiz-Narvaez E, Palmer J R, Buchanan D D, Platz*

E A, Visvanathan K, Ulrich C M, Siegel E, Brezina S, Gsur A, Campbell P T, Chang-Claude J, Hoffmeister M, Brenner H, Slattery M L, Potter J D, Tsilidis K K, Schulze M B, Gunter M J, Murphy N, Castells A, Castellvi-Bel S, Moreira L, Arndt V, Shcherbina A, Bishop D T, Giles G G, Southey M C, Idos G E, McDonnell K J, Abu-Ful Z, Greenson J K, Shulman K, Lejbkowitz F, Offit K, Su Y R, Steinfeld R, Keku T O, van Guelpen B, Hudson T J, Hampel H, Pearlman R, Berndt S I, Hayes R B, Martinez M E, Thomas S S, Pharoah P D P, Larsson S C, Yen Y, Lenz H J, White E, Li L, Doherty K F, Pugh E, Shelford T, Chan A T, Cruz-Correa M, Lindblom A, Hunter D J, Joshi A D, Schafmayer C, Scacheri P C, Kundaje A, Schoen R E, Hampe J, Stadler Z K, Vodicka P, Vodickova L, Vymetalkova V, Edlund C K, Gauderman W J, Shibata D, Toland A, Markowitz S, Kim A, Chanock S J, van Duijnoven F, Feskens E J M, Sakoda L C, Gago-Dominguez M, Wolk A, Pardini B, FitzGerald L M, Lee S C, Ogino S, Bien S A, Kooperberg C, Li C I, Lin Y, Prentice R, Qu C, Bézieau S, Yamaji T, Sawada N, Iwasaki M, Le Marchand L, Wu A H, Qu C, McNeil C E, Coetzee G, Hayward C, Deary I J, Harris S E, Theodoratou E, Reid S, Walker M, Ooi L Y, Lau K S, Zhao H, Hsu L, Cai Q, Dunlop M G, Gruber S B, Houlston R S, Moreno V, Casey G, Peters U, Tomlinson I and Zheng W: Fine-mapping analysis including over 254,000 East Asian and European descendants identifies 136 putative colorectal cancer susceptibility genes. *Nat Commun*, 15: 3557, 2024.

- 002 *De la Torre K, Song M, Abe S K, Rahman M S, Islam M R, Saito E, Min S, Huang D, Chen Y, Gupta P C, Sawada N, Tamakoshi A, Shu X O, Wen W, Sakata R, Kim J, Nagata C, Ito H, Park S K, Shin M H, Pednekar M S, Tsugane S, Kimura T, Gao Y T, Cai H, Wada K, Oze I, Shin A, Ahn Y O, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M and Kang D*: Diabetes and gastric cancer incidence and mortality in the Asia Cohort Consortium: A pooled analysis of more than a half million participants. *J Diabetes*, 16: e13561, 2024.
- 003 *Fujii R, Hishida A, Nakatochi M, Okumiyama H, Takashima N, Tsuboi Y, Suzuki K, Ikezaki H, Shimano E, Kato Y, Tamura T, Ito H, Michihata N, Tanoue S, Suzuki S, Kuriki K, Kadota A, Watanabe T, Momozawa Y, Wakai K and Matsuo K*: Polygenic risk score for blood pressure and lifestyle factors with overall and CVD mortality: a prospective cohort study in a Japanese population. *Hypertens Res*, 47: 2284-2294, 2024.
- 004 *Ho N T, Abe S K, Rahman M S, Islam R, Saito E, Gupta P C, Pednekar M S, Sawada N, Tsugane S, Tamakoshi A, Kimura T, Shu X O, Gao Y T, Koh W P, Cai H, Wen W,*

- Sakata R, Tsuji I, Malekzadeh R, Pourshams A, Kanemura S, Kim J, Chen Y, Ito H, Oze I, Nagata C, Wada K, Sugawara Y, Park S K, Shin A, Yuan J M, Wang R, Kweon S S, Shin M H, Poustchi H, Vardanjani H M, Ahsan H, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D and Boffetta P* : Diabetes is associated with increased liver cancer incidence and mortality in adults: A report from Asia Cohort Consortium. *Int J Cancer*, 155: 854-870, 2024.
- 005 *Ho P J, Loo C K Y, Goh M H, Abubakar M, Ahearn T U, Andrulis I L, Antonenkova N N, Aronson K J, Augustinsson A, Behrens S, Bodelon C, Bogdanova N V, Bolla M K, Brantley K, Brenner H, Byers H, Camp N J, Castela J E, Cessna M H, Chang-Claude J, Chanock S J, Chenevix-Trench G, Choi J Y, Colonna S V, Czene K, Daly M B, Derouane F, Dörk T, Eliassen A H, Engel C, Eriksson M, Evans D G, Fletcher O, Fritschi L, Gago-Dominguez M, Genkinger J M, Geurts-Giele W R R, Glendon G, Hall P, Hamann U, Ho C Y S, Ho W K, Hooning M J, Hoppe R, Howell A, Humphreys K, Ito H, Iwasaki M, Jakubowska A, Jernström H, John E M, Johnson N, Kang D, Kim S W, Kitahara C M, Ko Y D, Kraft P, Kwong A, Lambrechts D, Larsson S, Li S, Lindblom A, Linet M, Lissowska J, Lophatananon A, MacInnis R J, Mannermaa A, Manoukian S, Margolin S, Matsuo K, Michailidou K, Milne R L, Taib N A M, Muir K, Murphy R A, Newman W G, O'Brien K M, Obi N, Olopade O I, Panayiotidis M I, Park S K, Park-Simon T W, Patel A V, Peterlongo P, Plaseska-Karanfilska D, Pykäs K, Rashid M U, Rennert G, Rodriguez J, Saloustros E, Sandler D P, Sawyer E J, Scott C G, Shahi S, Shu X O, Shulman K, Simard J, Southey M C, Stone J, Taylor J A, Teo S H, Teras L R, Terry M B, Torres D, Vachon C M, Van Houdt M, Verhoeven J, Weinberg C R, Wolk A, Yamaji T, Yip C H, Zheng W, Hartman M and Li J* : Overlap of high-risk individuals across family history, genetic & non-genetic breast cancer risk models: Analysis of 180,398 women from European & Asian ancestries. medRxiv, 2025.
- 006 *Horisawa N, Yoshimura A, Oze I, Sawaki M, Hattori M, Kotani H, Kataoka A, Ozaki Y, Nozawa K, Endo Y, Takatsuka D, Isogai A and Iwata H* : Supraclavicular Irradiation Induces Lymphedema in Breast Cancer Patients Treated with Axillary Lymph Node Dissection and Taxane-Containing Chemotherapy. *Breast J*, 2024: 3250143, 2024.
- 007 *Huang D, Song M, Abe S K, Rahman M S, Islam M R, Saito E, De la Torre K, Sawada N, Tamakoshi A, Shu X O, Cai H, Hozawa A, Kanemura S, Kim J, Chen Y, Ito H, Sugawara Y, Park S K, Shin M H, Hirabayashi M, Kimura T, Gao Y T, Wen W, Oze I, Shin A, Ahn Y O, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M and Kang D* : Family history and gastric cancer incidence and mortality in Asia: a pooled analysis of more than half a million participants. *Gastric Cancer*, 27: 701-713, 2024.
- 008 *Iwase M, Taniyama Y, Koyanagi Y N, Kasugai Y, Oze I, Masuda N, Ito H and Matsuo K* : A Century of Change: Unraveling the Impact of Socioeconomic/Historical Milestones on Age at Menarche and Other Female Reproductive Factors in Japan. *J Epidemiol*, 34: 387-392, 2024.
- 009 *Jia G, Chen Z, Ping J, Cai Q, Tao R, Li C, Bauer J A, Xie Y, Ambis S, Barnard M E, Chen Y, Choi J Y, Gao Y T, Garcia-Closas M, Gu J, Hu J J, Iwasaki M, John E M, Kweon S S, Li C I, Matsuda K, Matsuo K, Nathanson K L, Nemesure B, Olopade O I, Pal T, Park S K, Park B, Press M F, Sanderson M, Sandler D P, Shen C Y, Troester M A, Yao S, Zheng Y, Ahearn T, Brewster A M, Falusi A, Hennis A J M, Ito H, Kubo M, Lee E S, Makumbi T, Ndom P, Noh D Y, O'Brien K M, Ojengbade O, Olshan A F, Park M H, Reid S, Yamaji T, Zirpoli G, Butler E N, Huang M, Low S K, Obafunwa J, Weinberg C R, Zhang H, Zhao H, Cote M L, Ambrosone C B, Huo D, Li B, Kang D, Palmer J R, Shu X O, Haiman C A, Guo X, Long J and Zheng W* : Refining breast cancer genetic risk and biology through multi-ancestry fine-mapping analyses of 192 risk regions. *Nat Genet*, 57: 80-87, 2025.
- 010 *Kasahara C, Tamura T, Wakai K, Tamada Y, Kato Y, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Hishida A, Imaeda N, Goto C, Otonari J, Ikezaki H, Nishida Y, Shimano C, Oze I, Koyanagi Y N, Nakamura Y, Kusakabe M, Nishimoto D, Shimoshikiryō I, Suzuki S, Watanabe M, Ozaki E, Omichi C, Kuriki K, Takashima N, Miyagawa N, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Takeuchi K and Matsuo K* : Association between consumption of small fish and all-cause mortality among Japanese: the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *Public Health Nutr*, 27: e135, 2024.
- 011 *Kasugai Y, Oze I, Koyanagi Y N, Taniyama Y, Ito H, Imoto I and Matsuo K* : Confounding in Epidemiological Studies on Assessment of the Impact of Genetic Factors on Disease Risk: The Problem of Redundant Adjustment. *J Epidemiol*, 34: 498-502, 2024.
- 012 *Kawai S, Lin Y, Tsuge H, Ito H, Matsuo K, Wada K, Nagata C, Nari N, Kitamura T, Utada M, Sakata R, Kimura T, Tamakoshi A, Sugawara Y, Tsuji I, Suzuki S, Sawada N, Tsugane S, Mizoue T, Oze I, Abe S K and Inoue M* : Body mass index and lung cancer risk: Pooled analysis of 10 prospective cohort studies in Japan. *Cancer Sci*, 115: 1346-1359, 2024.
- 013 *Kuwatsuka Y, Ito H, Tabuchi K, Konuma T, Uchida N, Inamoto Y, Inai K, Nishida T, Ikegame K, Eto T, Katayama Y, Kataoka K, Tanaka M, Takahashi S, Fukuda T, Ichinohe T, Kimura F, Kanda J, Atsuta Y and Matsuo K* : Trends in allogeneic hematopoietic cell transplantation survival

- using population-based descriptive epidemiology method: analysis of national transplant registry data. *Bone Marrow Transplant*, 59: 1295-1301, 2024.
- 014 **Miyagawa N, Takashima N, Harada A, Kadota A, Kondo K, Miura K, Imaeda N, Goto C, Otonari J, Ikezaki H, Tanaka K, Shimano C, Nagayoshi M, Tamura T, Kubo Y, Kato Y, Koyanagi Y N, Ito H, Michihata N, Nakamura Y, Tanoue S, Ibusuki R, Suzuki S, Nishiyama T, Ozaki E, Watanabe I, Kuriki K, Watanabe T, Ishizu M, Hishida A, Kita Y, Wakai K and Matsuo K** : Dairy Intake and All-Cause, Cancer, and Cardiovascular Disease Mortality Risk in A Large Japanese Population: A 12-Year Follow-Up of the J-MICC Study. *J Atheroscler Thromb*, 32: 596-607, 2025.
- 015 **Morita A, Ichihara E, Inoue K, Fujiwara K, Yokoyama T, Harada D, Ando C, Kano H, Oda N, Tamura T, Ochi N, Kawai H, Inoue M, Hara N, Fujimoto N, Ichikawa H, Oze I, Hotta K, Maeda Y and Kiura K** : Impacts of probiotics on the efficacies of immune checkpoint inhibitors with or without chemotherapy for patients with advanced non-small-cell lung cancer. *Int J Cancer*, 154: 1607-1615, 2024.
- 016 **Nakamura N, Makimoto G, Tanaka T, Kato Y, Oze I, Kozuki T, Yokoyama T, Ichikawa H, Kuyama S, Hara N, Maeda Y and Hotta K** : A randomized, open-label phase II study on the preventive effect of goshajinkigan against peripheral neuropathy induced by paclitaxel-containing chemotherapy: The OLCSG2101 study protocol. *Respir Investig*, 62: 897-900, 2024.
- 017 **Nakata A, Hashimoto N, Narita Y, Wakabayashi M, Kodama H, Ogata T, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Endo Y, Kotani H, Kataoka A, Hattori M, Yoshimura A, Sawaki M, Nozawa K, Oze I, Iwata H and Muro K** : Safety of a short-term infusion of fosnetupitant in patients with gastrointestinal and breast cancer: a prospective study. *Oncologist*, 30, 2025.
- 018 **Nishimoto D, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Shibuya K, Tanoue S, Koriyama C, Takezaki T, Oze I, Ito H, Hishida A, Tamura T, Kato Y, Tamada Y, Nishida Y, Shimano C, Suzuki S, Nishiyama T, Ozaki E, Tomida S, Kuriki K, Miyagawa N, Kondo K, Arisawa K, Watanabe T, Ikezaki H, Otonari J, Wakai K and Matsuo K** : Association Between Awareness of Limiting Food Intake and All-cause Mortality: A Cohort Study in Japan. *J Epidemiol*, 34: 286-294, 2024.
- 019 **Nomura M, Yamaguchi T, Chin K, Hato S, Kato K, Baba E, Matsubara H, Mukaida H, Yoshii T, Tsuda M, Tsubosa Y, Kitagawa Y, Oze I, Ishikawa H and Muto M** : Phase II Trial of Adjuvant S-1 Following Neoadjuvant Chemotherapy and Surgery in Patients with Locally Advanced Esophageal Squamous Cell Carcinoma: The PIECE Trial. *Ann Surg Oncol*, 32: 302-311, 2025.
- 020 **Oze I, Ito H, Koyanagi Y N, Abe S K, Rahman M S, Islam M R, Saito E, Gupta P C, Sawada N, Tamakoshi A, Shu X O, Sakata R, Malekzadeh R, Tsuji I, Kim J, Nagata C, You S L, Park S K, Yuan J M, Shin M H, Kweon S S, Pednekar M S, Tsugane S, Kimura T, Gao Y T, Cai H, Pourshams A, Lu Y, Kanemura S, Wada K, Sugawara Y, Chen C J, Chen Y, Shin A, Wang R, Ahn Y O, Shin M H, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D and Matsuo K** : Obesity is associated with biliary tract cancer mortality and incidence: A pooled analysis of 21 cohort studies in the Asia Cohort Consortium. *Int J Cancer*, 154: 1174-1190, 2024.
- 021 **Paragomi P, Zhang Z, Abe S K, Islam M R, Rahman M S, Saito E, Shu X O, Dabo B, Pham Y T, Chen Y, Gao Y T, Koh W P, Sawada N, Malekzadeh R, Sakata R, Hozawa A, Kim J, Kanemura S, Nagata C, You S L, Ito H, Park S K, Yuan J M, Pan W H, Wen W, Wang R, Cai H, Tsugane S, Pourshams A, Sugawara Y, Wada K, Chen C J, Oze I, Shin A, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D and Luu H N** : Body Mass Index and Risk of Colorectal Cancer Incidence and Mortality in Asia. *JAMA Netw Open*, 7: e2429494, 2024.
- 022 **Sibale Mojoo D, Oze I, Tsuge H, Taniyama Y, Koyanagi Y N, Yamamoto S, Hori M, Nakata K, Sugiyama H, Miyashiro I, Oki I, Nishino Y, Ito Y, Katanoda K, Shibata A, Matsuda T, Matsuo K and Ito H** : Comparative Net Survival Analysis of Men and Women With Breast Cancer in Japan: A Population-Based Study. *Cancer Sci*, 116: 1963-1971, 2025.
- 023 **Taoka M, Ichihara E, Yokoyama T, Inoue K, Tamura T, Sato A, Oda N, Kano H, Nakamura K, Kawai H, Inoue M, Ochi N, Fujimoto N, Ichikawa H, Ando C, Oze I, Kiura K, Maeda Y and Hotta K** : Frequency and Significance of Body Weight Loss During Immunochemotherapy in Patients with Advanced Non-Small Cell Lung Cancer. *Cancers (Basel)*, 16, 2024.
- 024 **Tsukamoto M, Hishida A, Tamura T, Nagayoshi M, Okada R, Kubo Y, Kato Y, Hamajima N, Nishida Y, Shimano C, Ibusuki R, Shibuya K, Takashima N, Nakamura Y, Kusakabe M, Nakamura Y, Koyanagi Y N, Oze I, Nishiyama T, Suzuki S, Watanabe I, Matsui D, Otonari J, Ikezaki H, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Kuriki K, Nakatochi M, Momozawa Y, Takeuchi K, Wakai K and Matsuo K** : GWAS of Folate Metabolism With Gene-environment Interaction Analysis Revealed the Possible Role of Lifestyles in the Control of Blood Folate Metabolites in Japanese: The J-MICC Study. *J Epidemiol*, 34: 228-237, 2024.
- 025 **Wada K, Kuboyama K, Abe S K, Rahman M S, Islam M R, Saito E, Nagata C, Sawada N, Tamakoshi A, Shu X O, Sakata R, Hozawa A, Kanemura S, Ito H, Sugawara Y, Park S K, Kweon S S, Ono A, Kimura T, Wen W, Oze I,**

Shin M H, Shin A, Kim J, Lee J E, Matsuo K, Rothman N, Qiao Y L, Zheng W, Boffetta P and Inoue M : Body mass index and breast cancer risk in premenopausal and postmenopausal East Asian women: a pooled analysis of 13 cohort studies. *Breast Cancer Res*, 26: 158, 2024.

- 026 *Wada K, Nagata C, Utada M, Sakata R, Kimura T, Tamakoshi A, Sugawara Y, Tsuji I, Sato R, Sawada N, Tsugane S, Oze I, Ito H, Kitamura T, Koyanagi Y N, Lin Y, Matsuo K, Abe S K and Inoue M* : Active and passive smoking and breast cancer in Japan: a pooled analysis of nine population-based cohort studies. *Int J Epidemiol*, 53, 2024.
- 027 *Watanabe T, Nguyen T V, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Ishizu M, Unohara T, Tanaka K, Shimano C, Nagayoshi M, Tamura T, Kubo Y, Kato Y, Oze I, Ito H, Michihata N, Nakamura Y, Tanoue S, Koriyama C, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Koyama T, Tomida S, Kuriki K, Takashima N, Harada A, Wakai K and Matsuo K* : The Significance of Comprehensive Metabolic Phenotypes in Cancer Risk: A Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *Cancer Res Commun*, 4: 2986-2997, 2024.

がん予防研究分野

- 001 *Abe S K, Nishio M, Huang H L, Leung C Y, Islam M R, Rahman M S, Saito E, Shin A, Merritt M A, Choi J Y, Katagiri R, Mohammadi Z, Shu X O, Wakai K, Sawada N, Ideno Y, Tamakoshi A, Seow W J, Koh W P, Sakata R, Hozawa A, Kim J, Nagata C, Sugawara Y, Park S K, Kweon S S, Azizi F, Malekzadeh R, Moy F M, Pourfarzi F, Gao Y T, Kubo Y, Hirabayashi M, Nagai K, Kimura T, Yuan J M, Kanemura S, Wada K, Kang D, Shin M H, Khalili D, Poustchi H, Rezaianzadeh A, Mansour-Ghanaei F, Najafi F, Mohebbi I, Boffetta P, Lee J E, Matsuo K, Rothman N, Qiao Y L, Zheng W and Inoue M* : Age at menarche by birth cohort: A pooled analysis of half a million women in Asia. *Public Health*, 237: 130-134, 2024.
- 002 *Aritake T, Natsume S, Asano T, Okuno M, Itoh N, Matsuo K, Ito S, Komori K, Abe T and Shimizu Y* : Significance of blood culture testing after pancreatoduodenectomy. *Ann Gastroenterol Surg*, 8: 888-895, 2024.
- 003 *Blechter B, Hsiung C A, Wang X, Zhang H, Seow W J, Shi J, Chatterjee N, Kim H N, Wong M P, Hong Y C, Wong J Y Y, Dai J, Hosgood H D, Wang Z, Chang I S, Choi J, Wang J, Song M, Hu W, Zheng W, Kim J H, Zhou B, Albanes D, Shin M H, Chung L P, An S J, Zheng H, Yatabe Y, Zhang X C, Kim Y T, Shu X O, Kim Y C, Vermeulen R C H, Bassig B A, Chang J, Man Ho J C, Ji B T, Kubo M, Daigo Y, Momozawa Y, Kamatani Y, Honda T, Kunitoh H, Watanabe S I, Miyagi Y, Nakayama H, Matsumoto S, Tsuboi M, Goto K, Yin Z, Takahashi A, Goto A, Minamiya Y, Shimizu K, Tanaka K, Wu T, Wei F, Su J, Kim Y H, Oh I*

J, Fun Lee V H, Su W C, Chen Y M, Chang G C, Chen K Y, Huang M S, Lin H C, Seow A, Park J Y, Kweon S S, Chen C J, Gao Y T, Wu C, Qian B, Lu D, Liu J, Jeon H S, Hsiao C F, Sung J S, Tsai Y H, Jung Y J, Guo H, Hu Z, Chen T Y, Burdett L, Yeager M, Hutchinson A, Berndt S I, Wu W, Wang J, Choi J E, Park K H, Sung S W, Liu L, Kang C H, Chen C H, Xu J, Guan P, Tan W, Wang C L, Loon Sihoe A D, Chen Y, Choi Y Y, Kim J S, Yoon H I, Cai Q, Park I K, Xu P, He Q, Chen C Y, Wu J, Lim W Y, Chen K C, Chan J K C, Li J, Chen H, Yu C J, Jin L, Fraumeni J F, Jr., Liu J, Landi M T, Yamaji T, Yang Y, Hicks B, Wyatt K, Li S A, Ma H, Song B, Wang Z, Cheng S, Li X, Ren Y, Iwasaki M, Zhu J, Jiang G, Fei K, Wu G, Chien L H, Tsai F Y, Yu J, Stevens V L, Yang P C, Lin D, Chen K, Wu Y L, Matsuo K, Rothman N, Shiraishi K, Shen H, Chanock S J, Kohno T and Lan Q : Polygenic Risk Score and Lung Adenocarcinoma Risk Among Never-Smokers by EGFR Mutation Status: A Brief Report. *J Thorac Oncol*, 20: 521-530, 2025.

004 *Blechter B, Wang X, Shi J, Shiraishi K, Choi J, Matsuo K, Chen T Y, Dai J, Hung R J, Chen K, Shu X O, Kim Y T, Choudhury P P, Williams J, Landi M T, Lin D, Zheng W, Yin Z, Zhou B, Wang J, Seow W J, Song L, Chang I S, Hu W, Chien L H, Cai Q, Hong Y C, Kim H N, Wu Y L, Wong M P, Richardson B D, Li S, Zhang T, Breeze C, Wang Z, Bassig B A, Kim J H, Albanes D, Wong J Y, Shin M H, Chung L P, Yang Y, An S J, Zheng H, Yatabe Y, Zhang X C, Kim Y C, Caporaso N E, Chang J, Man Ho J C, Kubo M, Daigo Y, Song M, Momozawa Y, Kamatani Y, Kobayashi M, Okubo K, Honda T, Hosgood H D, Kunitoh H, Watanabe S I, Miyagi Y, Nakayama H, Matsumoto S, Horinouchi H, Tsuboi M, Hamamoto R, Goto K, Ohe Y, Takahashi A, Goto A, Minamiya Y, Hara M, Nishida Y, Takeuchi K, Wakai K, Matsuda K, Murakami Y, Shimizu K, Suzuki H, Saito M, Ohtaki Y, Tanaka K, Wu T, Wei F, Dai H, Machiela M J, Su J, Kim Y H, Oh I J, Fun Lee V H, Chang G C, Tsai Y H, Che K Y, Huang M S, Su W C, Chen Y M, Seow A, Park J Y, Kweon S S, Chen K C, Gao Y T, Qian B, Wu C, Lu D, Liu J, Schwartz A G, Houlston R, Spitz M R, Gorlov I P, Wu X, Yang P, Lam S, Tardon A, Chen C, Bojesen S E, Johansson M, Risch A, Bickeböller H, Ji B T, Wichmann H E, Christiani D C, Rennert G, Arnold S, Brennan P, McKay J, Field J K, Davies M P A, Shete S S, Le Marchand L, Liu G, Andrew A, Kiemeny L A, Zienolddiny-Narui S, Grankvist K, Johansson M, Cox A, Taylor F, Yuan J M, Lazarus P, Schabath M B, Aldrich M C, Jeon H S, Jiang S S, Sung J S, Chen C H, Hsiao C F, Jung Y J, Guo H, Hu Z, Burdett L, Yeager M, Hutchinson A, Hicks B, Liu J, Zhu B, Berndt S I, Wu W, Wang J, Li Y, Choi J E, Park K H, Sung S W, Liu L, Kang C H, Wang W C, Xu J, Guan P, Tan W, Yu C J, Yang G, Loon Sihoe A D, Chen Y, Choi Y Y, Kim J S, Yoon H I, Park I K, Xu P, He Q, Wang C L, Hung H H, Vermeulen R C H, Cheng I, Wu*

- J, Lim W Y, Tsai F Y, Chan J K C, Li J, Chen H, Lin H C, Jin L, Liu J, Sawada N, Yamaji T, Wyatt K, Li S A, Ma H, Zhu M, Wang Z, Cheng S, Li X, Ren Y, Chao A, Iwasaki M, Zhu J, Jiang G, Fei K, Wu G, Chen C Y, Chen C J, Yang P C, Yu J, Stevens V L, Fraumeni J F, Chatterjee N, Gorlova O Y, Amos C I, Shen H, Hsiung C A, Chanock S J, Rothman N, Kohno T, Lan Q and Zhang H* : Stratifying Lung Adenocarcinoma Risk with Multi-ancestry Polygenic Risk Scores in East Asian Never-Smokers. medRxiv, 2024.
- 005 *Chen Z, Guo X, Tao R, Huyghe J R, Law P J, Fernandez-Rozadilla C, Ping J, Jia G, Long J, Li C, Shen Q, Xie Y, Timofeeva M N, Thomas M, Schmit S L, Díez-Obrero V, Devall M, Moratalla-Navarro F, Fernandez-Tajes J, Palles C, Sherwood K, Briggs S E W, Svinti V, Donnelly K, Farrington S M, Blackmur J, Vaughan-Shaw P G, Shu X O, Lu Y, Broderick P, Studd J, Harrison T A, Conti D V, Schumacher F R, Melas M, Rennert G, Obón-Santacana M, Martín-Sánchez V, Oh J H, Kim J, Jee S H, Jung K J, Kweon S S, Shin M H, Shin A, Ahn Y O, Kim D H, Oze I, Wen W, Matsuo K, Matsuda K, Tanikawa C, Ren Z, Gao Y T, Jia W H, Hopper J L, Jenkins M A, Win A K, Pai R K, Figueiredo J C, Haile R W, Gallinger S, Woods M O, Newcomb P A, Duggan D, Cheadle J P, Kaplan R, Kerr R, Kerr D, Kirac I, Böhm J, Mecklin J P, Jousilahti P, Knekt P, Aaltonen L A, Rissanen H, Pukkala E, Eriksson J G, Cajuso T, Hänninen U, Kondelin J, Palin K, Tanskanen T, Renkonen-Sinisalo L, Männistö S, Albanes D, Weinstein S J, Ruiz-Narvaez E, Palmer J R, Buchanan D D, Platz E A, Visvanathan K, Ulrich C M, Siegel E, Brezina S, Gsur A, Campbell P T, Chang-Claude J, Hoffmeister M, Brenner H, Slattery M L, Potter J D, Tsilidis K K, Schulze M B, Gunter M J, Murphy N, Castells A, Castellvi-Bel S, Moreira L, Arndt V, Shcherbina A, Bishop D T, Giles G G, Southey M C, Idos G E, McDonnell K J, Abu-Ful Z, Greenson J K, Shulman K, Lejbkowitz F, Offit K, Su Y R, Steinfeld R, Keku T O, van Guelpen B, Hudson T J, Hampel H, Pearlman R, Berndt S I, Hayes R B, Martinez M E, Thomas S S, Pharoah P D P, Larsson S C, Yen Y, Lenz H J, White E, Li L, Doheny K F, Pugh E, Shelford T, Chan A T, Cruz-Correa M, Lindblom A, Hunter D J, Joshi A D, Schafmayer C, Scacheri P C, Kundaje A, Schoen R E, Hampe J, Stadler Z K, Vodicka P, Vodickova L, Vymetalkova V, Edlund C K, Gauderman W J, Shibata D, Toland A, Markowitz S, Kim A, Chanock S J, van Duijnhoven F, Feskens E J M, Sakoda L C, Gago-Dominguez M, Wolk A, Pardini B, FitzGerald L M, Lee S C, Ogino S, Bien S A, Kooperberg C, Li C I, Lin Y, Prentice R, Qu C, Bézieau S, Yamaji T, Sawada N, Iwasaki M, Le Marchand L, Wu A H, Qu C, McNeil C E, Coetzee G, Hayward C, Deary I J, Harris S E, Theodoratou E, Reid S, Walker M, Ooi L Y, Lau K S, Zhao H, Hsu L, Cai Q, Dunlop M G, Gruber S B, Houlston R S, Moreno V, Casey G, Peters U, Tomlinson I and Zheng W* : Fine-mapping analysis including over 254,000 East Asian and European descendants identifies 136 putative colorectal cancer susceptibility genes. Nat Commun, 15: 3557, 2024.
- 006 *Dareng E O, Coetzee S G, Tyrer J P, Peng P C, Rosenow W, Chen S, Davis B D, Dezem F S, Seo J H, Nameki R, Reyes A L, Aben K K H, Anton-Culver H, Antonenkova N N, Aravantinos G, Bandera E V, Beane Freeman L E, Beckmann M W, Beeghly-Fadiel A, Benitez J, Bernardini M Q, Bjorge L, Black A, Bogdanova N V, Bolton K L, Brenton J D, Budzylowska A, Butzow R, Cai H, Campbell I, Cannioto R, Chang-Claude J, Chanock S J, Chen K, Chenevix-Trench G, Chiew Y E, Cook L S, DeFazio A, Dennis J, Doherty J A, Dörk T, du Bois A, Dürst M, Eccles D M, Ene G, Fasching P A, Flanagan J M, Fortner R T, Fostira F, Gentry-Maharaj A, Giles G G, Goodman M T, Gronwald J, Haiman C A, Håkansson N, Heitz F, Hildebrandt M A T, Hogdall E, Hogdall C K, Huang R Y, Jensen A, Jones M E, Kang D, Karlan B Y, Karnezis A N, Kelemen L E, Kennedy C J, Khusnutdinova E K, Kiemeny L A, Kjaer S K, Kupryjanczyk J, Labrie M, Lambrechts D, Larson M C, Le N D, Lester J, Li L, Lubiński J, Lush M, Marks J R, Matsuo K, May T, McLaughlin J R, McNeish I A, Menon U, Missmer S, Modugno F, Moffitt M, Monteiro A N, Moysich K B, Narod S A, Nguyen-Dumont T, Odunsi K, Olsson H, Onland-Moret N C, Park S K, Pejovic T, Permuth J B, Piskorz A, Prokofyeva D, Riggan M J, Risch H A, Rodriguez-Antona C, Rossing M A, Sandler D P, Setiawan V W, Shan K, Song H, Southey M C, Steed H, Sutphen R, Swerdlow A J, Teo S H, Terry K L, Thompson P J, Vestheim Thomsen L C, Titus L, Trabert B, Travis R, Tworoger S S, Valen E, Van Nieuwenhuysen E, Edwards D V, Vierkant R A, Webb P M, Weinberg C R, Weise R M, Wentzensen N, White E, Winham S J, Wolk A, Woo Y L, Wu A H, Yan L, Yannoukakos D, Zeinomar N, Zheng W, Ziogas A, Berchuck A, Goode E L, Huntsman D G, Pearce C L, Ramus S J, Sellers T A, Freedman M L, Lawrenson K, Schildkraut J M, Hazelett D, Plummer J T, Kar S, Jones M R, Pharoah P D P and Gayther S A* : Integrative multi-omics analyses to identify the genetic and functional mechanisms underlying ovarian cancer risk regions. Am J Hum Genet, 111: 1061-1083, 2024.
- 007 *De la Torre K, Song M, Abe S K, Rahman M S, Islam M R, Saito E, Min S, Huang D, Chen Y, Gupta P C, Sawada N, Tamakoshi A, Shu X O, Wen W, Sakata R, Kim J, Nagata C, Ito H, Park S K, Shin M H, Pednekar M S, Tsugane S, Kimura T, Gao Y T, Cai H, Wada K, Oze I, Shin A, Ahn Y O, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M and Kang D* : Diabetes and gastric cancer incidence and mortality in the Asia Cohort Consortium: A pooled analysis of more than a half million participants. J Diabetes, 16: e13561, 2024.

- 008 **Fujii R, Hishida A, Nakatochi M, Okumiyama H, Takashima N, Tsuboi Y, Suzuki K, Ikezaki H, Shimano C, Kato Y, Tamura T, Ito H, Michihata N, Tanoue S, Suzuki S, Kuriki K, Kadota A, Watanabe T, Momozawa Y, Wakai K and Matsuo K** : Polygenic risk score for blood pressure and lifestyle factors with overall and CVD mortality: a prospective cohort study in a Japanese population. *Hypertens Res*, 47: 2284-2294, 2024.
- 009 **Fujii R, Nagayoshi M, Nakatochi M, Sato S, Tsuboi Y, Suzuki K, Ikezaki H, Nishida Y, Kubo Y, Tanoue S, Suzuki S, Koyama T, Kuriki K, Takashima N, Katsuura-Kamano S, Momozawa Y, Wakai K and Matsuo K** : Multi-Trait Polygenic Risk Score, Nongenetic Determinants, and Cardiovascular Disease Death: A Cohort Study of 14086 Japanese Individuals. *J Am Heart Assoc*, 14: e038572, 2025.
- 010 **Hangai M, Kawaguchi T, Takagi M, Matsuo K, Jeon S, Chiang C W K, Dewan A T, De Smith A J, Imamura T, Okamoto Y, Saito A M, Deguchi T, Kubo M, Tanaka Y, Ayukawa Y, Hori T, Ohki K, Kiyokawa N, Inukai T, Arakawa Y, Mori M, Hasegawa D, Tomizawa D, Fukushima H, Yuza Y, Noguchi Y, Taneyama Y, Ota S, Goto H, Yanagimachi M, Keino D, Koike K, Toyama D, Nakazawa Y, Nakamura K, Moriwaki K, Sekinaka Y, Morita D, Hirabayashi S, Hosoya Y, Yoshimoto Y, Yoshihara H, Ozawa M, Kobayashi S, Morisaki N, Gyeltshen T, Takahashi O, Okada Y, Matsuda M, Tanaka T, Inazawa J, Takita J, Ishida Y, Ohara A, Metayer C, Wiemels J L, Ma X, Mizutani S, Koh K, Momozawa Y, Horibe K, Matsuda F, Kato M, Manabe A and Urayama K Y** : Genome-wide assessment of genetic risk loci for childhood acute lymphoblastic leukemia in Japanese patients. *Haematologica*, 109: 1247-1252, 2024.
- 011 **Hishida A, Nakatochi M, Sutoh Y, Nakano S, Momozawa Y, Narita A, Tanno K, Shimizu A, Hozawa A, Kinoshita K, Yamaji T, Goto A, Noda M, Sawada N, Ikezaki H, Nagayoshi M, Hara M, Suzuki S, Koyama T, Koriyama C, Katsuura-Kamano S, Kadota A, Kuriki K, Yamamoto M, Sasaki M, Iwasaki M, Matsuo K and Wakai K** : GWAS Meta-analysis of Kidney Function Traits in Japanese Populations. *J Epidemiol*, 34: 526-534, 2024.
- 012 **Ho N T, Abe S K, Rahman M S, Islam R, Saito E, Gupta P C, Pednekar M S, Sawada N, Tsugane S, Tamakoshi A, Kimura T, Shu X O, Gao Y T, Koh W P, Cai H, Wen W, Sakata R, Tsuji I, Malekzadeh R, Pourshams A, Kanemura S, Kim J, Chen Y, Ito H, Oze I, Nagata C, Wada K, Sugawara Y, Park S K, Shin A, Yuan J M, Wang R, Kweon S S, Shin M H, Poustchi H, Vardanjani H M, Ahsan H, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D and Boffetta P** : Diabetes is associated with increased liver cancer incidence and mortality in adults: A report from Asia Cohort Consortium. *Int J Cancer*, 155: 854-870, 2024.
- 013 **Ho P J, Loo C K Y, Goh M H, Abubakar M, Ahearn T U, Andrusis I L, Antonenkova N N, Aronson K J, Augustinsson A, Behrens S, Bodelon C, Bogdanova N V, Bolla M K, Brantley K, Brenner H, Byers H, Camp N J, Castela J E, Cessna M H, Chang-Claude J, Chanock S J, Chen-veix-Trench G, Choi J Y, Colonna S V, Czene K, Daly M B, Derouane F, Dörk T, Eliassen A H, Engel C, Eriksson M, Evans D G, Fletcher O, Fritschi L, Gago-Dominguez M, Genkinger J M, Geurts-Giele W R R, Glendon G, Hall P, Hamann U, Ho C Y S, Ho W K, Hooning M J, Hoppe R, Howell A, Humphreys K, Ito H, Iwasaki M, Jakubowska A, Jernström H, John E M, Johnson N, Kang D, Kim S W, Kitahara C M, Ko Y D, Kraft P, Kwong A, Lambrechts D, Larsson S, Li S, Lindblom A, Linet M, Lissowska J, Lophatananon A, MacInnis R J, Mannermaa A, Manoukian S, Margolin S, Matsuo K, Michailidou K, Milne R L, Taib N A M, Muir K, Murphy R A, Newman W G, O'Brien K M, Obi N, Olopade O I, Panayiotidis M I, Park S K, Park-Simon T W, Patel A V, Peterlongo P, Plaseska-Karanfilska D, Pylkäs K, Rashid M U, Rennert G, Rodriguez J, Sa-loustros E, Sandler D P, Sawyer E J, Scott C G, Shahi S, Shu X O, Shulman K, Simard J, Southey M C, Stone J, Taylor J A, Teo S H, Teras L R, Terry M B, Torres D, Vachon C M, Van Houdt M, Verhoeven J, Weinberg C R, Wolk A, Yamaji T, Yip C H, Zheng W, Hartman M and Li J** : Overlap of high-risk individuals across family history, genetic & non-genetic breast cancer risk models: Analysis of 180,398 women from European & Asian ancestries. *medRxiv*, 2025.
- 014 **Huang D, Song M, Abe S K, Rahman M S, Islam M R, Saito E, De la Torre K, Sawada N, Tamakoshi A, Shu X O, Cai H, Hozawa A, Kanemura S, Kim J, Chen Y, Ito H, Sugawara Y, Park S K, Shin M H, Hirabayashi M, Kimura T, Gao Y T, Wen W, Oze I, Shin A, Ahn Y O, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M and Kang D** : Family history and gastric cancer incidence and mortality in Asia: a pooled analysis of more than half a million participants. *Gastric Cancer*, 27: 701-713, 2024.
- 015 **Iwase M, Taniyama Y, Koyanagi Y N, Kasugai Y, Oze I, Masuda N, Ito H and Matsuo K** : A Century of Change: Unraveling the Impact of Socioeconomic/Historical Milestones on Age at Menarche and Other Female Reproductive Factors in Japan. *J Epidemiol*, 34: 387-392, 2024.
- 016 **Jia G, Chen Z, Ping J, Cai Q, Tao R, Li C, Bauer J A, Xie Y, Ambs S, Barnard M E, Chen Y, Choi J Y, Gao Y T, Garcia-Closas M, Gu J, Hu J J, Iwasaki M, John E M, Kweon S S, Li C I, Matsuda K, Matsuo K, Nathanson K L, Nemesure B, Olopade O I, Pal T, Park S K, Park B, Press M F, Sanderson M, Sandler D P, Shen C Y, Troester M A, Yao S, Zheng Y, Ahearn T, Brewster A M, Falusi A, Hennis A J M, Ito H, Kubo M, Lee E S, Makumbi T, Ndom P**

- Noh D Y, O'Brien K M, Ojengbede O, Olshan A F, Park M H, Reid S, Yamaji T, Zirpoli G, Butler E N, Huang M, Low S K, Obafunwa J, Weinberg C R, Zhang H, Zhao H, Cote M L, Ambrosone C B, Huo D, Li B, Kang D, Palmer J R, Shu X O, Haiman C A, Guo X, Long J and Zheng W* : Refining breast cancer genetic risk and biology through multi-ancestry fine-mapping analyses of 192 risk regions. *Nat Genet*, 57: 80-87, 2025.
- 017 *Kasahara C, Tamura T, Wakai K, Tamada Y, Kato Y, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Hishida A, Imaeda N, Goto C, Otonari J, Ikezaki H, Nishida Y, Shimano C, Oze I, Koyanagi Y N, Nakamura Y, Kusakabe M, Nishimoto D, Shimoshikiryō I, Suzuki S, Watanabe M, Ozaki E, Omichi C, Kuriki K, Takashima N, Miyagawa N, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Takeuchi K and Matsuo K* : Association between consumption of small fish and all-cause mortality among Japanese: the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *Public Health Nutr*, 27: e135, 2024.
- 018 *Kasugai Y, Oze I, Koyanagi Y N, Taniyama Y, Ito H, Imoto I and Matsuo K* : Confounding in Epidemiological Studies on Assessment of the Impact of Genetic Factors on Disease Risk: The Problem of Redundant Adjustment. *J Epidemiol*, 34: 498-502, 2024.
- 019 *Kawai S, Lin Y, Tsuge H, Ito H, Matsuo K, Wada K, Nagata C, Narii N, Kitamura T, Utada M, Sakata R, Kimura T, Tamakoshi A, Sugawara Y, Tsuji I, Suzuki S, Sawada N, Tsugane S, Mizoue T, Oze I, Abe S K and Inoue M* : Body mass index and lung cancer risk: Pooled analysis of 10 prospective cohort studies in Japan. *Cancer Sci*, 115: 1346-1359, 2024.
- 020 *Kawamura Y, Nakayama A, Nakatochi M, Aoki Y, Toyoda Y, Nakamura T, Shimizu S, Matsuo K, Shinomiya N and Matsuo H* : Identification of novel gout loci from trans-ethnic meta-analysis of serum urate level. *Hum Cell*, 38: 15, 2024.
- 021 *Kishida R, Yin X, Abe S K, Rahman M S, Saito E, Islam M R, Lan Q, Blechter B, Rothman N, Sawada N, Tamakoshi A, Shu X O, Hozawa A, Kanemura S, Kim J, Sugawara Y, Park S K, Kweon S S, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Zheng W, Inoue M, Kang D and Seow W J* : Association between family history with lung cancer incidence and mortality risk in the Asia Cohort Consortium. *Int J Cancer*, 156: 723-733, 2025.
- 022 *Kurosawa S, Fukuda T, Ichinohe T, Hashii Y, Kanda J, Goto H, Kato K, Ishimaru F, Yoshimitsu M, Hino M, Matsuo K, Ito Y, Yanagisawa A, Ohbiki M, Tabuchi K, Atsuta Y and Arai Y* : Center effect on outcomes of second allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for B-cell acute lymphoblastic leukemia: a nationwide retrospective study. *Cytotherapy*, 27: 733-743, 2025.
- 023 *Kurosawa S, Fukuda T, Ichinohe T, Hashii Y, Kanda J, Goto H, Kato K, Yoshimitsu M, Ishimaru F, Sato A, Onizuka M, Matsuo K, Ito Y, Yanagisawa A, Ohbiki M, Tabuchi K, Atsuta Y and Arai Y* : Center effect on allogeneic hematopoietic stem cell transplantation outcomes for B-cell acute lymphoblastic leukemia. *Cytotherapy*, 26: 1185-1192, 2024.
- 024 *Kuwatsuka Y, Ito H, Tabuchi K, Konuma T, Uchida N, Inamoto Y, Inai K, Nishida T, Ikegame K, Eto T, Katayama Y, Kataoka K, Tanaka M, Takahashi S, Fukuda T, Ichinohe T, Kimura F, Kanda J, Atsuta Y and Matsuo K* : Trends in allogeneic hematopoietic cell transplantation survival using population-based descriptive epidemiology method: analysis of national transplant registry data. *Bone Marrow Transplant*, 59: 1295-1301, 2024.
- 025 *Maeda A, Matsuo K, Ando H, Morishige J I, Muro K, Uchida K and Tajika M* : Impact of ABCB1 single-nucleotide variants on early, extremely severe neutropenia induced by paclitaxel/nanoparticle albumin-bound paclitaxel in patients with gastric cancer. *Br J Clin Pharmacol*, 91: 1216-1222, 2025.
- 026 *Major T J, Takei R, Matsuo H, Leask M P, Sumpter N A, Topless R K, Shirai Y, Wang W, Cadzow M J, Phipps-Green A J, Li Z, Ji A, Merriman M E, Morice E, Kelley E E, Wei W H, McCormick S P A, Bixley M J, Reynolds R J, Saag K G, Fadason T, Golovina E, O'Sullivan J M, Stamp L K, Dalbeth N, Abhishek A, Doherty M, Roddy E, Jacobsson L T H, Kapetanovic M C, Melander O, Andrés M, Pérez-Ruiz F, Torres R J, Radstake T, Jansen T L, Janssen M, Joosten L A B, Liu R, Gaal O I, Crişan T O, Rednic S, Kurreeman F, Huizinga T W J, Toes R, Lioté F, Richette P, Bardin T, Ea H K, Pascart T, McCarthy G M, Helbert L, Stibůrková B, Tausche A K, Uhlig T, Vitart V, Boutin T S, Hayward C, Riches P L, Ralston S H, Campbell A, MacDonald T M, Nakayama A, Takada T, Nakatochi M, Shimizu S, Kawamura Y, Toyoda Y, Nakaoka H, Yamamoto K, Matsuo K, Shinomiya N, Ichida K, Lee C, Bradbury L A, Brown M A, Robinson P C, Buchanan R R C, Hill C L, Lester S, Smith M D, Rischmueller M, Choi H K, Stahl E A, Miner J N, Solomon D H, Cui J, Giacomini K M, Brackman D J, Jorgenson E M, Liu H, Susztak K, Shringarpure S, So A, Okada Y, Li C, Shi Y and Merriman T R* : A genome-wide association analysis reveals new pathogenic pathways in gout. *Nat Genet*, 56: 2392-2406, 2024.
- 027 *Major T J, Takei R, Matsuo H, Leask M P, Sumpter N A, Topless R K, Shirai Y, Wang W, Cadzow M J, Phipps-Green A J, Li Z, Ji A, Merriman M E, Morice E, Kelley E E, Wei W H, McCormick S P A, Bixley M J, Reynolds R J, Saag K G, Fadason T, Golovina E, O'Sullivan J M, Stamp L K, Dalbeth N, Abhishek A, Doherty M, Roddy E, Jacobsson L T H, Kapetanovic M C, Melander O, Andrés*

- M, Pérez-Ruiz F, Torres R J, Radstake T, Jansen T L, Janssen M, Joosten L A B, Liu R, Gaal O I, Crişan T O, Rednic S, Kurreeman F, Huizinga T W J, Toes R, Lioté F, Richette P, Bardin T, Ea H K, Pascart T, McCarthy G M, Helbert L, Stibürkóvá B, Tausche A K, Uhlig T, Vitart V, Boutin T S, Hayward C, Riches P L, Ralston S H, Campbell A, MacDonald T M, Nakayama A, Takada T, Nakatochi M, Shimizu S, Kawamura Y, Toyoda Y, Nakaoka H, Yamamoto K, Matsuo K, Shinomiya N, Ichida K, Lee C, Bradbury L A, Brown M A, Robinson P C, Buchanan R R C, Hill C L, Lester S, Smith M D, Rischmueller M, Choi H K, Stahl E A, Miner J N, Solomon D H, Cui J, Giacomini K M, Brackman D J, Jorgenson E M, Liu H, Susztak K, Shringarpure S, So A, Okada Y, Li C, Shi Y and Merriman T R* : Publisher Correction: A genome-wide association analysis reveals new pathogenic pathways in gout. *Nat Genet*, 56: 2577, 2024.
- 028 *Matsunaga T, Wakai K, Imaeda N, Goto C, Tamada Y, Kato Y, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Tamura T, Hishida A, Ikezaki H, Otonari J, Takashima N, Miyagawa N and Matsuo K* : Food group intakes and high-sensitivity C-reactive protein among community-dwelling Japanese adults: a cross-sectional study. *Public Health Nutr*, 27: e212, 2024.
- 029 *Matsuo K, Watanabe M, Inamine S, Matsushima T, Kyuragi S, Maeda Y, Katsuki R, Ohgidani M, Yamasaki R, Isobe N, Nakao T and Kato T A* : The flow cytometric analysis of depression focusing on modern-type depression and hikikomori: Exploring the link between subtypes of depression and immunological imbalances. *Dialogues Clin Neurosci*, 27: 13-25, 2025.
- 030 *Merritt M A, Abe S K, Islam M R, Rahman M S, Saito E, Katagiri R, Shin A, Choi J Y, Le Marchand L, Killeen J L, Gao Y T, Tamakoshi A, Koh W P, Sakata R, Sawada N, Tsuji I, Sugawara Y, Kim J, Park S K, Kweon S S, Shu X O, Kimura T, Yuan J M, Tsugane S, Kanemura S, Lu Y, Shin M H, Wen W, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M and Kang D* : Reproductive factors and risk of epithelial ovarian cancer: results from the Asia Cohort Consortium. *Br J Cancer*, 132: 361-370, 2025.
- 031 *Miyagawa N, Takashima N, Harada A, Kadota A, Kondo K, Miura K, Imaeda N, Goto C, Otonari J, Ikezaki H, Tanaka K, Shimano C, Nagayoshi M, Tamura T, Kubo Y, Kato Y, Koyanagi Y N, Ito H, Michihata N, Nakamura Y, Tanoue S, Ibusuki R, Suzuki S, Nishiyama T, Ozaki E, Watanabe I, Kuriki K, Watanabe T, Ishizu M, Hishida A, Kita Y, Wakai K and Matsuo K* : Dairy Intake and All-Cause, Cancer, and Cardiovascular Disease Mortality Risk in A Large Japanese Population: A 12-Year Follow-Up of the J-MICC Study. *J Atheroscler Thromb*, 32: 596-607, 2025.
- 032 *Nakayama A, Kawamura Y, Nakatochi M, Toyoda Y, Nakajima M, Maehara K, Kirihaara M, Shimizu S, Matsuo K and Matsuo H* : Strong genetic effect on gout revealed by genetic risk score from meta-analysis of two genome-wide association studies. *Hum Cell*, 38: 16, 2024.
- 033 *Nishimoto D, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Shibuya K, Tanoue S, Koriyama C, Takezaki T, Oze I, Ito H, Hishida A, Tamura T, Kato Y, Tamada Y, Nishida Y, Shimano C, Suzuki S, Nishiyama T, Ozaki E, Tomida S, Kuriki K, Miyagawa N, Kondo K, Arisawa K, Watanabe T, Ikezaki H, Otonari J, Wakai K and Matsuo K* : Association Between Awareness of Limiting Food Intake and All-cause Mortality: A Cohort Study in Japan. *J Epidemiol*, 34: 286-294, 2024.
- 034 *Nzitakera A, Surwumwe J B, Ndoricimpaye E L, Uwamungu S, Uwamariya D, Manirakiza F, Ndayisaba M C, Ntakirutimana G, Seminega B, Dusabejamba V, Rutaganda E, Kamali P, Ngabonziza F, Ishikawa R, Rugwizangoga B, Iwashita Y, Yamada H, Yoshimura K, Sugimura H and Shinmura K* : Correction: The spectrum of TP53 mutations in Rwandan patients with gastric cancer. *Genes Environ*, 46: 9, 2024.
- 035 *Ogasawara A, Matsushita H, Tan T Z, Shintani D, Ye J, Nagao S, Demachi-Okamura A, Muraoka D, Kobayashi Y, Kakimi K, Yamaguchi R, Matsuo K, Yamamoto K, Fujiwara K, Huang R Y, Tan D S P and Hasegawa K* : Immunological impact of intraperitoneal and intravenous chemotherapy in ovarian cancer, translational analyses of the Phase 3 iPocc trial. *Gynecol Oncol*, 191: 124-131, 2024.
- 036 *Oze I, Ito H, Koyanagi Y N, Abe S K, Rahman M S, Islam M R, Saito E, Gupta P C, Sawada N, Tamakoshi A, Shu X O, Sakata R, Malekzadeh R, Tsuji I, Kim J, Nagata C, You S L, Park S K, Yuan J M, Shin M H, Kweon S S, Pednekar M S, Tsugane S, Kimura T, Gao Y T, Cai H, Pourshams A, Lu Y, Kanemura S, Wada K, Sugawara Y, Chen C J, Chen Y, Shin A, Wang R, Ahn Y O, Shin M H, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D and Matsuo K* : Obesity is associated with biliary tract cancer mortality and incidence: A pooled analysis of 21 cohort studies in the Asia Cohort Consortium. *Int J Cancer*, 154: 1174-1190, 2024.
- 037 *Paragomi P, Zhang Z, Abe S K, Islam M R, Rahman M S, Saito E, Shu X O, Dabo B, Pham Y T, Chen Y, Gao Y T, Koh W P, Sawada N, Malekzadeh R, Sakata R, Hozawa A, Kim J, Kanemura S, Nagata C, You S L, Ito H, Park S K, Yuan J M, Pan W H, Wen W, Wang R, Cai H, Tsugane S, Pourshams A, Sugawara Y, Wada K, Chen C J, Oze I, Shin A, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D and Lu H N* : Body Mass Index and Risk of Colorectal Cancer Incidence and Mortality in Asia. *JAMA Netw Open*, 7: e2429494, 2024.

- 038 *Shin A, Cho S, Abe S K, Islam M R, Rahman M S, Saito E, Kazmi S Z, Katagiri R, Merritt M, Choi J Y, Shu X O, Sawada N, Tamakoshi A, Koh W P, Sakata R, Hozawa A, Kim J, Park S K, Kweon S S, Wen W, Tsugane S, Kimura T, Yuan J M, Kanemura S, Sugawara Y, Shin M H, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M and Kang D* : Association of female reproductive and hormonal factors with gallbladder cancer risk in Asia: A pooled analysis of the Asia Cohort Consortium. *Int J Cancer*, 155: 240-250, 2024.
- 039 *Sibale Mojoo D, Oze I, Tsuge H, Taniyama Y, Koyanagi Y N, Yamamoto S, Hori M, Nakata K, Sugiyama H, Miyashiro I, Oki I, Nishino Y, Ito Y, Katanoda K, Shibata A, Matsuda T, Matsuo K and Ito H* : Comparative Net Survival Analysis of Men and Women With Breast Cancer in Japan: A Population-Based Study. *Cancer Sci*, 116: 1963-1971, 2025.
- 040 *Tsukamoto M, Hishida A, Tamura T, Nagayoshi M, Okada R, Kubo Y, Kato Y, Hamajima N, Nishida Y, Shimanoe C, Ibusuki R, Shibuya K, Takashima N, Nakamura Y, Kusakabe M, Nakamura Y, Koyanagi Y N, Oze I, Nishiyama T, Suzuki S, Watanabe I, Matsui D, Otonari J, Ikezaki H, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Kuriki K, Nakatochi M, Momozawa Y, Takeuchi K, Wakai K and Matsuo K* : GWAS of Folate Metabolism With Gene-environment Interaction Analysis Revealed the Possible Role of Lifestyles in the Control of Blood Folate Metabolites in Japanese: The J-MICC Study. *J Epidemiol*, 34: 228-237, 2024.
- 041 *Wada K, Kuboyama K, Abe S K, Rahman M S, Islam M R, Saito E, Nagata C, Sawada N, Tamakoshi A, Shu X O, Sakata R, Hozawa A, Kanemura S, Ito H, Sugawara Y, Park S K, Kweon S S, Ono A, Kimura T, Wen W, Oze I, Shin M H, Shin A, Kim J, Lee J E, Matsuo K, Rothman N, Qiao Y L, Zheng W, Boffetta P and Inoue M* : Body mass index and breast cancer risk in premenopausal and postmenopausal East Asian women: a pooled analysis of 13 cohort studies. *Breast Cancer Res*, 26: 158, 2024.
- 042 *Wada K, Nagata C, Utada M, Sakata R, Kimura T, Tamakoshi A, Sugawara Y, Tsuji I, Sato R, Sawada N, Tsugane S, Oze I, Ito H, Kitamura T, Koyanagi Y N, Lin Y, Matsuo K, Abe S K and Inoue M* : Active and passive smoking and breast cancer in Japan: a pooled analysis of nine population-based cohort studies. *Int J Epidemiol*, 53, 2024.
- 043 *Watanabe T, Nguyen T V, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Ishizu M, Unohara T, Tanaka K, Shimanoe C, Nagayoshi M, Tamura T, Kubo Y, Kato Y, Oze I, Ito H, Michihata N, Nakamura Y, Tanoue S, Koriyama C, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Koyama T, Tomida S, Kuriki K, Takashima N, Harada A, Wakai K and Matsuo K* : The Significance of Comprehensive Metabolic Phenotypes in Cancer Risk: A Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *Cancer Res Commun*, 4: 2986-2997, 2024.
- 044 *Yamamoto S, Yoshimoto Y S, Yoshii K, Shimizu R, Ohnishi R, Takahashi H and Kawakami T* : Development of a perceived nutrition care competencies scale for Japanese dietetic students: A cross-sectional survey. *J Hum Nutr Diet*, 38: e13409, 2025.
- 045 *Yanada M, Yano S, Kuwatsuka Y, Kawamura K, Fukuda T, Ichinohe T, Hashii Y, Goto H, Kato K, Ishimaru F, Sato A, Onizuka M, Matsuo K, Ito Y, Yanagisawa A, Ohbiki M, Tabuchi K, Atsuta Y, Kanda J and Konuma T* : The effect of center experience on allogeneic hematopoietic cell transplantation outcomes in acute myeloid leukemia. *Bone Marrow Transplant*, 59: 541-549, 2024.
- 046 *Yin X, Kishida R, Abe S K, Islam M R, Rahman M S, Saito E, Lan Q, Blechter B, Merritt M, Choi J Y, Shin A, Katagiri R, Shu X O, Sawada N, Tamakoshi A, Koh W P, Tsuji I, Nagata C, Park S K, Kweon S S, Gao Y T, Tsugane S, Kimura T, Yuan J M, Lu Y, Kanemura S, Sugawara Y, Wada K, Shin M H, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D and Seow W J* : Association between reproductive factors with lung cancer incidence and mortality: A pooled analysis of over 308,000 females in the Asia cohort consortium. *Int J Cancer*, 154: 2090-2105, 2024.

システム解析学分野

- 001 *Tamura T, Nagai S, Masuda K, Imaeda K, Sugihara E, Yamasaki J, Kawaida M, Otsuki Y, Suina K, Nobusue H, Akahane T, Chiyoda T, Kisu I, Kobayashi Y, Banno K, Sakurada K, Okita H, Yamaguchi R, Ahmed AA, Yamagami W, Saya H, Aoki D, Nagano O* : mTOR-mediated p62/SQSTM1 stabilization confers a robust survival mechanism for ovarian cancer. *Cancer Lett*, 616:217565, 2025.
- 002 *Onishi S, Kuwahara T, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Shimizu M, Niwa Y, Yamaguchi R* : Artificial intelligence for body composition assessment focusing on sarcopenia. *Sci Rep*, 15:1324, 2025.
- 003 *Okamoto T, Mizuta R, Demachi-Okamura A, Muraoka D, Sasaki E, Masago K, Yamaguchi R, Teramukai S, Otani Y, Date I, Tanaka S, Takahashi Y, Hashimoto N, Matsushita H* : Immune prognostic model for glioblastoma based on the ssGSEA enrichment score. *Cancer Genet*, 294-295:32-41, 2025.
- 004 *Imaeda K, Tamura T, Nagai S, Sugihara E, Yamasaki J, Otsuki Y, Nakamura K, Takeda T, Nakamura K, Nogami Y, Tsuji K, Chiyoda T, Kisu I, Kobayashi Y, Banno K, Yamaguchi R, Sakurada K, Saya H, Aoki D, Ahmed AA, Nagano O, Masuda K, Yamagami W* : LCN2-mediated ferroptosis resistance in tissue homeostasis and early-stage tumorigenesis of the fallopian tube epithelium. *iScience*, 28:112654, 2025.

- 005 **Yamamoto A, Kawashima A, Uemura T, Nakano K, Matsushita M, Ishizuya Y, Jingushi K, Hase H, Katayama K, Yamaguchi R, Sassi N, Motoyama Y, Nojima S, Mita M, Kimura T, Motooka D, Horibe Y, Okuda Y, Oka T, Yamamichi G, Tomiyama E, Koh Y, Yamamoto Y, Kato T, Hatano K, Uemura M, Imoto S, Wada H, Morii E, Tsujikawa K, Nonomura N** : A novel mouse model of upper tract urothelial carcinoma highlights the impact of dietary intervention on gut microbiota and carcinogenesis prevention despite carcinogen exposure. *Int J Cancer*, 2024.
- 006 **Sugita Y, Muraoka D, Demachi-Okamura A, Komuro H, Masago K, Sasaki E, Fukushima Y, Matsui T, Shinohara S, Takahashi Y, Nishida R, Takashima C, Yamaguchi T, Horio Y, Hashimoto K, Tanaka I, Hamana H, Kishi H, Miura D, Tanaka Y, Onoue K, Onoguchi K, Yamashita Y, Stratford R, Clancy T, Yamaguchi R, Kuroda H, Ishibashi H, Okubo K, Matsushita H** : Candidate tumor-specific CD8 (+) T cell subsets identified in the malignant pleural effusion of advanced lung cancer patients by single-cell analysis. *Oncoimmunology*, 13:2371556, 2024.
- 007 **Perez-Saldivar M, Nakamura Y, Kiyotani K, Imoto S, Katayama K, Yamaguchi R, Miyano S, Martinez-Barnette J, Godoy-Lozano EE, Ordonez G, Sotelo J, Gonzalez-Conchillos H, Martinez-Palomo A, Flores-Rivera J, Santos-Argumedo L, Sanchez-Salguero ES, Espinosa-Cantellano M** : Comparative analysis of the B cell receptor repertoire during relapse and remission in patients with multiple sclerosis. *Clin Immunol*, 269:110398, 2024.
- 008 **Ogasawara A, Matsushita H, Tan TZ, Shintani D, Ye J, Nagao S, Demachi-Okamura A, Muraoka D, Kobayashi Y, Kakimi K, Yamaguchi R, Matsuo K, Yamamoto K, Fujiwara K, Huang RY, Tan DSP, Hasegawa K** : Immunological impact of intraperitoneal and intravenous chemotherapy in ovarian cancer, translational analyses of the Phase 3 iPocc trial. *Gynecol Oncol*, 191:124-131, 2024.
- 009 **Noguchi R, Yamaguchi K, Yano H, Gohda Y, Kiyomatsu T, Ota Y, Igari T, Takahashi N, Ohsugi T, Takane K, Ikenoue T, Niida A, Shimizu E, Yamaguchi R, Miyano S, Imoto S, Furukawa Y** : Cell of origin and expression profiles of pseudomyxoma peritonei derived from the appendix. *Pathol Res Pract*, 266:155776, 2024.
- 010 **Muraoka D, Moi ML, Muto O, Nakatsukasa T, Deng S, Takashima C, Yamaguchi R, Sawada SI, Hayakawa H, Nguyen TTN, Haseda Y, Soga T, Matsushita H, Ikeda H, Akiyoshi K, Harada N** : Low-frequency CD8 (+) T cells induced by SIGN-R1 (+) macrophage-targeted vaccine confer SARS-CoV-2 clearance in mice. *NPJ Vaccines*, 9:173, 2024.
- 011 **Maeda-Minami A, Yoshino T, Katayama K, Horiba Y, Hikiami H, Shimada Y, Namiki T, Tahara E, Minamizawa K, Muramatsu SI, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, Mima H, Uneda K, Nogami T, Fukunaga K, Watanabe K** : Machine learning model for predicting the cold-heat pattern in Kampo medicine: a multicenter prospective observational study. *Front Pharmacol*, 15:1412593, 2024.
- 012 **Kuribayashi S, Fukuhara S, Kitakaze H, Tsujimura G, Imanaka T, Okada K, Ueda N, Takezawa K, Katayama K, Yamaguchi R, Matsuda K, Nonomura N** : KEAP1-NRF2 system regulates age-related spermatogenesis dysfunction. *Reprod Med Biol*, 23:e12595, 2024.
- 013 **Kitai H, Choi PH, Yang YC, Boyer JA, Whaley A, Pancholi P, Thant C, Reiter J, Chen K, Markov V, Taniguchi H, Yamaguchi R, Ebi H, Evans J, Jiang J, Lee B, Wildes D, de Stanchina E, Smith JAM, Singh M, Rosen N** : Combined inhibition of KRAS (G12C) and mTORC1 kinase is synergistic in non-small cell lung cancer. *Nat Commun*, 15:6076, 2024.
- 014 **Kimura R, Adachi Y, Hirade K, Kisoda S, Yanase S, Shibata N, Ishii M, Fujiwara Y, Yamaguchi R, Fujita Y, Hosoda W, Ebi H** : ARAF Amplification in Small-Cell Lung Cancer-Transformed Tumors Following Resistance to Epidermal Growth Factor Receptor-Tyrosine Kinase Inhibitors. *Cancers (Basel)*, 16:3501, 2024.

腫瘍制御学分野

- 001 **Kunitake K, Mizuno T, Hattori K, Oneyama C, Kamiya M, Ota S, Urano Y, Kojima R** : Barcoding of small extracellular vesicles with CRISPR-gRNA enables comprehensive, subpopulation-specific analysis of their biogenesis and release regulators. *Nat Commun*, 15, 9777, 2024.
- 002 **Ito Y, Kasuya H, Kataoka M, Nakamura N, Yoshikawa T, Nakashima T, Zhang H, Li Y, Matsukawa T, Inoue S, Oneyama C, Ohta S, Kagoya Y** : Plasma membrane-coated nanoparticles and membrane vesicles to orchestrate multimodal antitumor immunity. *J Immunother Cancer*, 13, e010005, 2025.
- 003 **Oneyama C** : Elucidation of the mechanisms that regulate the quantity and quality of exosomes in cancer. *Extracellular Fine Particles*, 53-66, 2025.

腫瘍免疫応答研究分野

- 001 **Nabekura T** : THEMIS2 Impairs Antitumor Activity of NK Cells by Suppressing Activating NK Receptor Signaling. *J Immunol*, 212 (1):1819-1828, 2024.
- 002 **Nabekura T** : Concanavalin A-induced acute liver injury in mice. *Curr Protoc*, 4 (8):e1117, 2024.
- 003 **Nabekura T** : CD96 enhances the anti-viral activity of natural killer cells by promoting Ly49H-mediated activation during mouse cytomegalovirus infection. *Mol Immunol*, 179:65-70, 2025.
- 004 **鍋倉 幸** : NK 細胞の免疫記憶. *臨床免疫・アレルギー科*, 82 (5):461-469, 2024.

腫瘍免疫制御トランスレシヨナルリサーチ分野

- 001 **Ogasawara A, Matsushita H, Tan TZ, Shintani D, Ye J, Nagao S, Demachi-Okamura A, Muraoka D, Kobayashi Y, Kakimi K, Yamaguchi R, Matsuo K, Yamamoto K, Fujiwara K, Huang RY, Tan DSP, Hasegawa K** : Immunological impact of intraperitoneal and intravenous chemotherapy in ovarian cancer, translational analyses of the Phase 3 iPoc trial. *Gynecol Oncol.* 191:124-131, 2024.
- 002 **Muraoka D, Moi ML, Muto O, Nakatsukasa T, Deng S, Takashima C, Yamaguchi R, Sawada SI, Hayakawa H, Nguyen TTN, Haseda Y, Soga T, Matsushita H, Ikeda H, Akiyoshi K, Harada N** : Low-frequency CD8⁺ T cells induced by SIGN-R1⁺ macrophage-targeted vaccine confer SARS-CoV-2 clearance in mice. *NPJ Vaccines.* 9 (1):173, 2024.
- 003 **Fujimoto T, Yamasaki O, Kanehira N, Matsushita H, Sakurai Y, Kenmotsu N, Mizuta R, Kondo N, Takata T, Kitamatsu M, Igawa K, Fujimura A, Otani Y, Shirakawa M, Shigeyasu K, Teraishi F, Togashi Y, Suzuki M, Fujiwara T, Michiue H** : Overcoming immunotherapy resistance and inducing abscopal effects with boron neutron immunotherapy (B-NIT) . *Cancer Sci.* 115 (10):3231-3247, 2024.
- 004 **Nohira S, Kuramitsu S, Ohno M, Fujita M, Yamashita K, Nagasaka T, Haimoto S, Sakakura N, Matsushita H, Saito R** : Tertiary Lymphoid Structures in Brain Metastases of Lung Cancer: Prognostic Significance and Correlation With Clinical Outcomes. *Anticancer Res.* 44 (8) :3615-3621, 2024.
- 005 **Masago K, Kuroda H, Sasaki E, Fujita Y, Fujita S, Horio Y, Endo M, Ishihara H, Hanai N, Matsushita H** : Novel gene fusions in human oropharyngeal carcinoma. *Cancer Genet.* 286-287:29-34, 2024.
- 006 **Sugita Y, Muraoka D, Demachi-Okamura A, Komuro H, Masago K, Sasaki E, Fukushima Y, Matsui T, Shinohara S, Takahashi Y, Nishida R, Takashima C, Yamaguchi T, Horio Y, Hashimoto K, Tanaka I, Hamana H, Kishi H, Miura D, Tanaka Y, Onoue K, Onoguchi K, Yamashita Y, Stratford R, Clancy T, Yamaguchi R, Kuroda H, Ishibashi H, Okubo K, Matsushita H** : Candidate tumor-specific CD8⁺ T cell subsets identified in the malignant pleural effusion of advanced lung cancer patients by single-cell analysis. *Oncoimmunology.* 13 (1):2371556, 2024.
- 007 **Chiba Y, Doi T, Obayashi K, Sumida K, Nagasaka S, Wang KY, Yamasaki K, Masago K, Matsushita H, Kuroda H, Yatera K, Endo M** : Caspase-4 promotes metastasis and interferon- γ -induced pyroptosis in lung adenocarcinoma. *Commun Biol.* 7 (1):699, 2024.
- 008 **Okamoto T, Mizuta R, Takahashi Y, Otani Y, Sasaki E, Horio Y, Kuroda H, Matsushita H, Date I, Hashimoto N, Masago K** : Genomic landscape of glioblastoma without IDH somatic mutation in 42 cases: a comprehensive analysis using RNA sequencing data. *J Neurooncol.* 167 (3):489-499, 2024.

- 009 **Sasaki E, Terada H, Oishi N, Iwakoshi A, Masago K, Matsushita H, Yamamoto H, Hanai N, Tateyama H** : Expression of CD5 in salivary gland tumors: an ancillary marker for carcinoma showing thymus-like differentiation (CASTLE) of the major salivary gland. *Virchows Arch.* 484 (6):945-950, 2024.

分子診断トランスレシヨナルリサーチ分野

- 001 **Okuda Y, Shimura T, Abe Y, Iwasaki H, Nishigaki R, Fukusada S, Sugimura N, Kitagawa M, Yamada T, Taguchi A, Kataoka H** : Urinary dipeptidase 1 and trefoil factor 1 are promising biomarkers for early diagnosis of colorectal cancer. *J Gastroenterol.* 59: 572-585, 2025.
- 002 **Du Y, Kajino T, Shimada Y, Takahashi T, Taguchi A** : 003 Mir-494-3p enhances aggressive phenotype of non-small cell lung cancer cells by regulating SET/I2PP2A. *Sci Rep.* 15: 15441, 2025.

がん標的治療トランスレシヨナルリサーチ分野

- 001 **Kimura R, Adachi Y, Hirade K, Kisoda S, Yanase S, Shibata N, Ishii M, Fujiwara Y, Yamaguchi R, Fujita Y, Hosoda W, Ebi H** : ARAF Amplification in Small-Cell Lung Cancer-Transformed Tumors Following Resistance to Epidermal Growth Factor Receptor-Tyrosine Kinase Inhibitors. *Cancers (Basel).* 16 (20):3501, 2024.
- 002 **Nakamura Y, Watanabe J, Akazawa N, Hirata K, Kataoka K, Yokota M, Kato K, Kotaka M, Kagawa Y, Yeh KH, Mishima S, Yukami H, Ando K, Miyo M, Misumi T, Yamazaki K, Ebi H, Okita K, Hamabe A, Sokuoka H, Kobayashi S, Laliotis G, Aushev VN, Sharma S, Jurdi A, Liu MC, Aleshin A, Rabinowitz M, Bando H, Taniguchi H, Takemasa I, Kato T, Kotani D, Mori M, Yoshino T, Oki E** : ctDNA-based molecular residual disease and survival in resectable colorectal cancer. *Nat Med.*30 (11):3272-3283, 2024.
- 003 **Iida N, Imai M, Okamoto W, Kato T, Esaki T, Kato K, Komatsu Y, Yuki S, Masuishi T, Nishina T, Ebi H, Taniguchi H, Nonomura N, Sunakawa Y, Shiozawa M, Yamazaki K, Boku S, Bando H, Shiraishi Y, Kobayashi M, Goto H, Sato A, Fujii S, Yoshino T, Nakamura Y** : Novel ERBB2 Variant Potentially Associated with Resistance against Anti-HER2 Monoclonal Antibody-Based Therapy in ERBB2-Amplified Metastatic Colorectal Cancer. *Clin Cancer Res.* 13:30 (18):4167-4178, 2024.
- 004 **Kitai H, Choi PH, Yang YC, Boyer JA, Whaley A, Pancholi P, Thant C, Reiter J, Chen K, Markov V, Taniguchi H, Yamaguchi R, Ebi H, Evans J, Jiang J, Lee B, Wildes D, de Stanchina E, Smith JAM, Singh M, Rosen N** : Com-

bined inhibition of KRASG12C and mTORC1 kinase is synergistic in non-small cell lung cancer. *Nat Commun*, 19;15 (1):6076, 2024.

005 **Kitai H, Ebi H** :Oncogene alterations in non-small cell lung cancer with *FGFR1* amplification-novel approach to stratify patients who benefit from FGFR inhibitors. *Transl Lung Cancer Res*, 29;13 (3):684-688, 2024.

006 **Bando H, Yamaguchi K, Mitani S, Sawada K, Mishima S, Komine K, Okugawa Y, Hosoda W, Ebi H** : Japanese Society of Medical Oncology clinical guidelines: Molecular testing for colorectal cancer treatment, 5th edition. *Cancer Sci*, 115 (3):1014-1021, 2024.